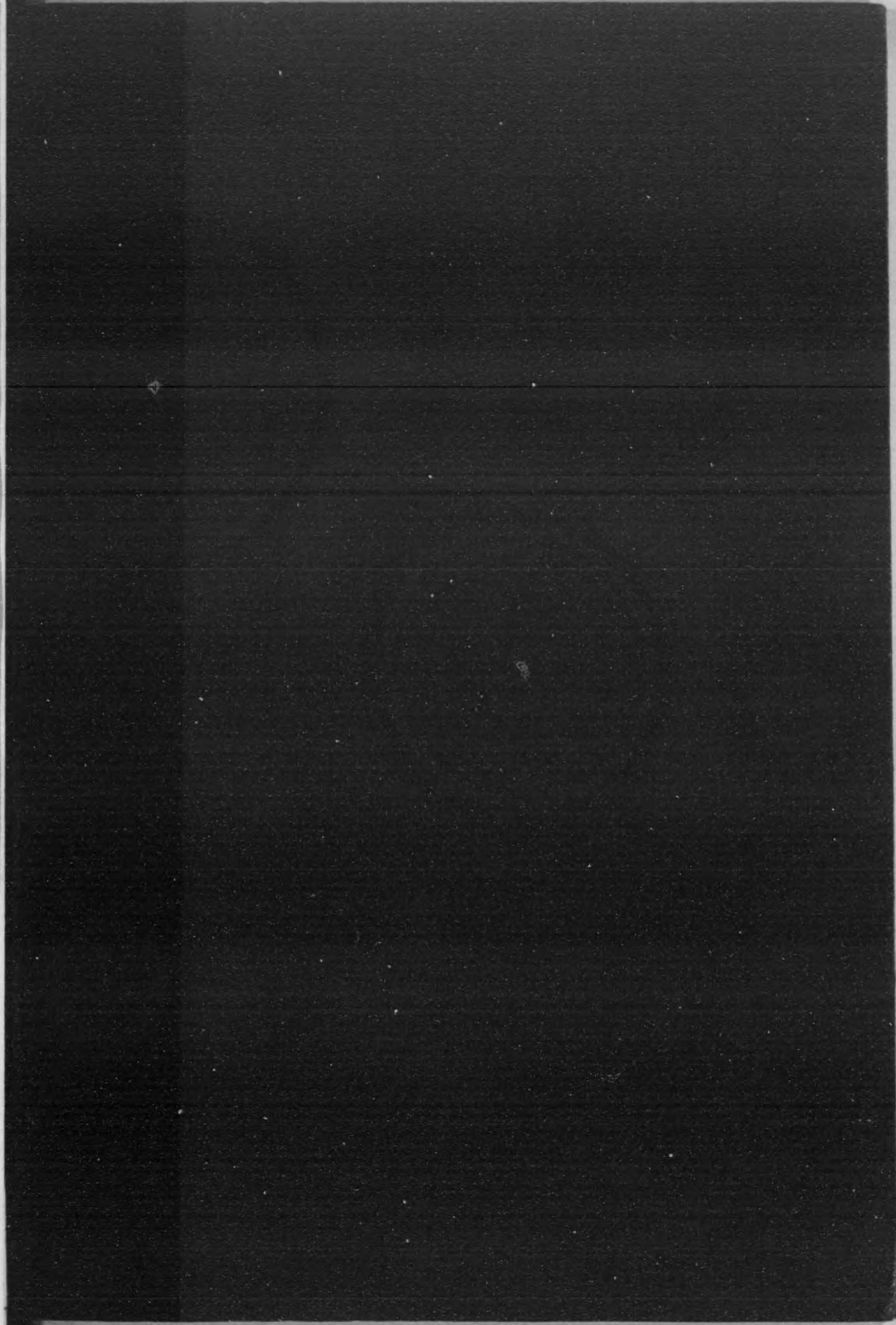


始



57

71

7606
/

皮膚科學概論



岩崎豊治著

岩崎豊治著
寄贈本

柳原書局發行
大正
15. 8. 23
寄贈

正 誤

頁	行數	正	誤
17	二	痘	痘
17	五	麻	癩
19	六	麻	癩
20	二五	麻	癩
24	五	癩	族
30	二一	伍	位
40	二一	メチーレンブラウ	メチーレンブラウ
53	二	疹	疹
76	一八	澱	癩
76	二〇	腹	被
87	一	液	渡
88	一	痘	症
100	二一	墨	器
101	一六	Locale	Loocale
101	一六	Gyanose	Gyanose
110	一二	Crustosum	Crustosun
119	二四	鉛	粉
149	一四	見	明
152	二六	疹	診
153	二五	Pityriasis	Pilyriasis
154	二四	融	隔
170	一九	角化	化角
190	一九	Necr-	Uecr-
202	四	Keratosis	Kerotosis
232	一二	Gangraena	Gongraena
250	一一	足蹠	足蹠
252	一一	散漫性ニ	散漫性ニリ
264	三	麻痺癩	麻痺癩
265	二三	胞	脆
280	一七	rase	rose
303	五	Zoster	Zaster
303	二〇	痘	瘡
321	一〇	汗	汁
345	九	際	除
347	一四	Ecthyma	Ecthyana
	附圖	結節性黄色腫	結節性黄色腫

序

予ノ 皮膚病花柳病學ヲ修メ 實地ニ開業シテ
 茲ニ二十有餘年 見聞攻索未ダ精ナラズト雖亦
 私ニ得ル所ナキニアラズ 然リト雖 大ニ其所信ヲ
 發揮シ 博ク古今東西ニ汎リテ旁搜反證斯學ノ
 爲メ力ヲ致ス能ハザルヲ憾ミトス
 本書ハ 繁忙ナル 業務ノ傍ラ 筆ヲ採リシヲ以テ
 誤謬 蓋シ尠カラザルベシ 幸ニ讀者是正ヲ賜ハラ
 ハ 幸甚

大正十五年七月

於羽衣豐籟園 識 著 者

AA 28

凡 例

一本書ハ總論ト各論ニ分チ、總論ニ於テハ皮膚科學一般ノ基礎的要項ヲ、各論ニ於テハ異名、意義、原因、症候、經過、部位、解剖、病理、診斷、鑑別、豫後、療法等ニ就キ概述セリ

一本書挿ム所ノ圖書ハ諸大家ノ所撰ヲ模寫シ、或ハ余ノ診療セル所ノモノヲ描寫セリ

一本書皮膚科學概論ハ恩師土肥氏皮膚病學ヲ改メ、皮膚ニ關スル解剖生理及ビ病理ノ一切ヲ講究スル學科ノ意義トサレタルニ復シ、乃チ之ヲ採リ題シテ皮膚科學概論トナス

一本書ハ可及的初學者ニ便ニシ、且ツ實地醫家ニ必要ナル點ヲ詳述シ、以テ座右ノ參考ニ供セン事ヲ期シタルモ、元ヨリ杜撰ノ責ヲ免レズ、然リト雖幸ニ讀者參考ノ一端トナラバ著者ノ幸榮トスル所ナリ

一本書ノ成ルヤ卷頭ノ皮膚科學概論ハ渡邊常庵氏ノ筆ヲ勞シ、其他數氏ノ力ニ俟ツ所多シ、茲ニ謹ンデ感謝ノ意ヲ表ス

大正十五年七月

識 著 者

皮膚科學概論

目 次

第一編 總 論

第一章 意 義

皮膚科學又ハ皮膚病學	Seite 1
------------	---------

第二章 解 剖

皮 膚	1
表 皮	2
種子層	2
顆粒層	2
透明層	2
角 層	2
眞 皮	2
血 管	3
淋 巴 管	4
神 經	4
皮膚ノ附屬器管	5
(一) 汗 腺	5
(二) 脂 腺	6
(三) 毛 髮	6
(四) 爪又爪甲	9

(五) 皮膚色素 10

第三章 生理

皮膚ノ分泌 11
 皮膚ノ呼吸 13
 皮膚ノ吸收 13
 皮膚ノ溫熱調節 14
 皮膚ノ掩護 15
 皮膚ノ知覺 15

第四章 病理

原因概論 16
 (一) 内因 16
 (二) 外因 17
 症候概論 18
 (一) 原發疹 19
 (二) 續發疹 22
 經過轉歸及豫後概論 23
 診斷概論 24
 豫防概論 25
 療法概論 25
 (一) 藥劑的療法 25
 (A) 治療材料 26
 (B) 外用藥劑ノ種別 28
 (二) 理學的療法 34
 (A) 按摩法 34
 (B) 機械的療法 35

(C) 電氣療法 35
 (D) 光線療法 35
 (E) レントゲン療法 35
 (F) ラジウム療法 37
 (G) 浴法 37
 皮膚寄生菌檢索法概論 38

第二編 各論

第一章 寄生性皮膚病

(甲) 動物寄生蟲 42
 疥癬 42
 毛囊虫 46
 囊虫又ハ胞虫 47
 虱 47
 (A) 頭虱 47
 (B) 陰毛虱 48
 (C) 衣服虱 49
 床虱 50
 蚤 51
 蚊 51
 牛蝨 51
 線狀蛆病 52
 (乙) 植物性寄生蟲 52
 白癬 52
 黃癬 58

紅色陰癬	62
頑癬	63
癩風	65
グルビー氏病	68
屋瓦狀チネア	68
ピエドラ	69
兒頭截髮病	69
彎曲瀰蔓性寄生皮膚症	70

第二章 皮膚血行障礙

蕁麻疹	71
色素性蕁麻疹	77
小兒蕁麻疹樣苔癬	78
急性限局性水腫	79
先天性表皮水泡症	80
紅斑	82
多形滲出性紅斑	84
滲出性中毒疹	88
藥疹	90
安知必林疹	92
臭素疹	93
水銀疹	94
沃度疹	95
規尼涅疹	95
拔爾撒謨疹	96
銀症	96
亞砒酸疹	97

蜀黍紅斑	98
流行性紅斑	99
赤色肢痛症	99
局處假死及對側性壞疽	100
紫斑	102
(A) 儂麻質斯性紫斑	103
(B) ウエルホヒー氏病	104
皮膚貧血	105
ライル氏死指	105
惡液質性多發皮膚壞疽	106
蛇行性水疱性壞疽	106
毒物性皮膚炎	107
膿毒性滲出性紅斑又轉移性滲出性紅斑	107

第三章 炎症性皮膚病

濕疹	108
頭部濕疹	111
顔面濕疹	111
乳房濕疹	112
臍濕疹	113
陰部會陰肛門濕疹	113
關節屈曲面濕疹	113
手足濕疹	114
下腿濕疹	114
間擦濕疹	114
爪甲濕疹	115
全身濕疹	115

各部位ノ特異療法	129
脂漏性濕疹	132
傳染性膿痂疹	133
ボツクハルト氏膿痂疹	136
尋常性深膿疱	136
壞疽性惡疫性深膿疱	137
連鎖狀球菌性膿痂疹	138
匍行疹様膿痂疹	139
大水疱性皮膚炎	141
癢痒性苔癬狀皮膚炎	142
デューリング氏疱疹狀皮膚炎又ハ匍行性皮膚炎	143
初生兒剝離性皮膚炎	144
頭部乳頭性皮膚炎	145
硬變性項部毛囊炎	147
妊娠再發性多形皮膚炎	147
ヘブラ氏紅色糠枇疹	148
急性剝脫性皮膚炎	150
剝脫性黒皮病	151
薔薇色秕糠疹	151
慢性苔癬狀秕糠疹	152
毛孔性紅色秕糠疹又ハデウエルジー氏毛孔性秕糠疹	153
尋常性鱗屑疹	155
苔癬又慢性單純性苔癬	161
腺病性苔癬	167
顔面及陰部疱疹	168
皮脂腺分泌障害及單純炎症	169
(A) 皮脂漏	174

(B) 面 皰	174
(C) 皮脂過少症又皮脂缺乏症	175
(D) 尋常性痤瘡	175
(E) 痘瘡狀痤瘡	180
壞疽性痤瘡	180
(F) 粟粒腫	181
(G) 酒 皰	182
(H) 人工的痤瘡	184
尋常性毛瘡	185
初生兒天疱瘡	188
急性天疱瘡	188
癬	189
瘍	192
火 傷	195
(附一) ラジウム皮膚炎	197
(附二) レントゲン皮膚炎	197
凍 傷	198
種痘様水泡症	200

第 四 章 皮膚進行性榮養障害

魚 鱗 癬	201
胼 胝 腫	205
鷄 眼	205
疣 贅	206
皮 角 症	207
色素性乾皮症	208
ダリエー氏病	209

黑變棘層病	210
色素增殖症	211
母斑	211
兒斑	213
雀斑又ハ雀卵斑	214
夏日斑	214
黃斑又肝斑	214
アヂソン氏病	217
汗腺口角層病	218
毛囊性角化症	219
象皮病	220

第五章 皮膚退行性營養障害

真皮萎縮	222
皮膚色素萎縮症	223
紅斑性痕瘡	226
鞏皮症	229
初生兒鞏皮症	231
壞疽又ハ脫疽	232

第六章 毛髮及爪甲ノ疾病

毛髮增生症又ハ贅毛症	233
結節性毛菌症	236
トリコモコージスパルメルリナ	236
毛髮萎縮症	237
(A) 先天性禿髮症	237
(B) 枇糠疹性禿髮症	237

(C) 生理的毛髮脫落症又ハ老年禿頭症	238
(D) 壯年禿髮症	238
(E) 症候的禿髮症	238
鬼舐頭又ハ禿斑	240
裂毛症	244
結節裂毛症	245
紡錘狀毛髮症	246
毛髮色素萎縮症又白髮	247
爪ノ肥大症	248
爪ノ萎縮症	249
爪甲白斑	249
爪甲炎	249
爪ノ梅毒	250

第七章 慢性傳染病

尋常性痕瘡	250
皮膚疣狀結核	256
死體結核	257
潰瘍性皮膚結核症	258
壞疽性瘰癧性結核疹	259
癩病	259
皮膚白血症	267
假性皮膚白血症	268
菌狀皮膚息症	268
鼻硬腫	270
風土病性瘤	272
放線菌病	272

硬結性紅斑	273
アレツボ瘡	274
マヅラ足	275
ペール疣贅	275
慢性進行性皮膚壞疽	276
覆盆子瘡	276
プラストミコージス	277
ボトリオミコージス	277
スコルプート	278

第八章 急性傳染病疹

丹毒	279
類丹毒	283
熱病疹	284
水痘	284
麻疹	288
風疹	290
猩紅熱	291
發疹室扶斯	292
馬鼻疽	294
脾脫疽	295
蜂窠織炎	296
水痛	297

第九章 神經性皮膚症

匍行疹又ハ疱疹	293
單純性疱疹	289

帶狀疱疹	299
(一) 顔面帶狀疱疹	301
(二) 後頭頸帶狀疱疹	301
(三) 頸椎鎖骨下帶狀疱疹	301
(四) 頸椎膊帶狀疱疹	302
(五) 背胸帶狀疱疹	302
(六) 背腹帶狀疱疹	302
(七) 腰股帶狀疱疹	302
(八) 薦坐帶狀疱疹	303
(九) 坐骨陰部帶狀疱疹	303
口唇匍行疹	304
陰部匍行疹	304
痒疹	305
皮膚瘙痒症	309
解痒劑	311
天疱瘡	313
(一) 尋常天疱瘡	313
(二) 葉狀天疱瘡	315
(三) 痒疹狀天疱瘡	315
(四) 增殖性或ハ乳嚙性天疱瘡	315
光澤皮膚症	317
穿足症	317
汗線分泌障害	318
汗分泌過多症	318
汁疱疹	321
粟粒疹	322
發汗缺乏症	323

異性發汗症	323
(一) 色汗症	323
(二) 血汗症	324
(三) 尿汗症	324
(四) 臭汗症	324

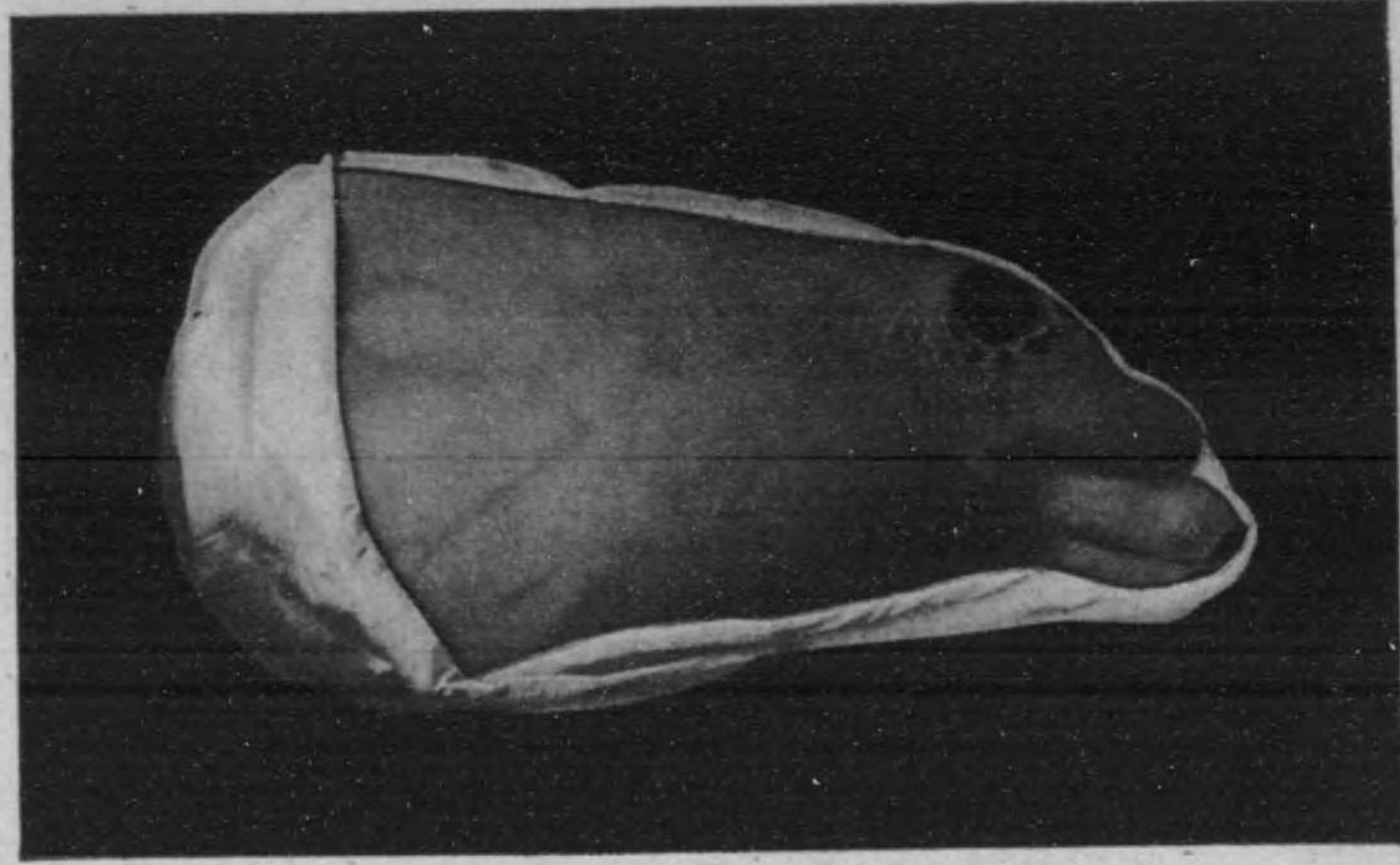
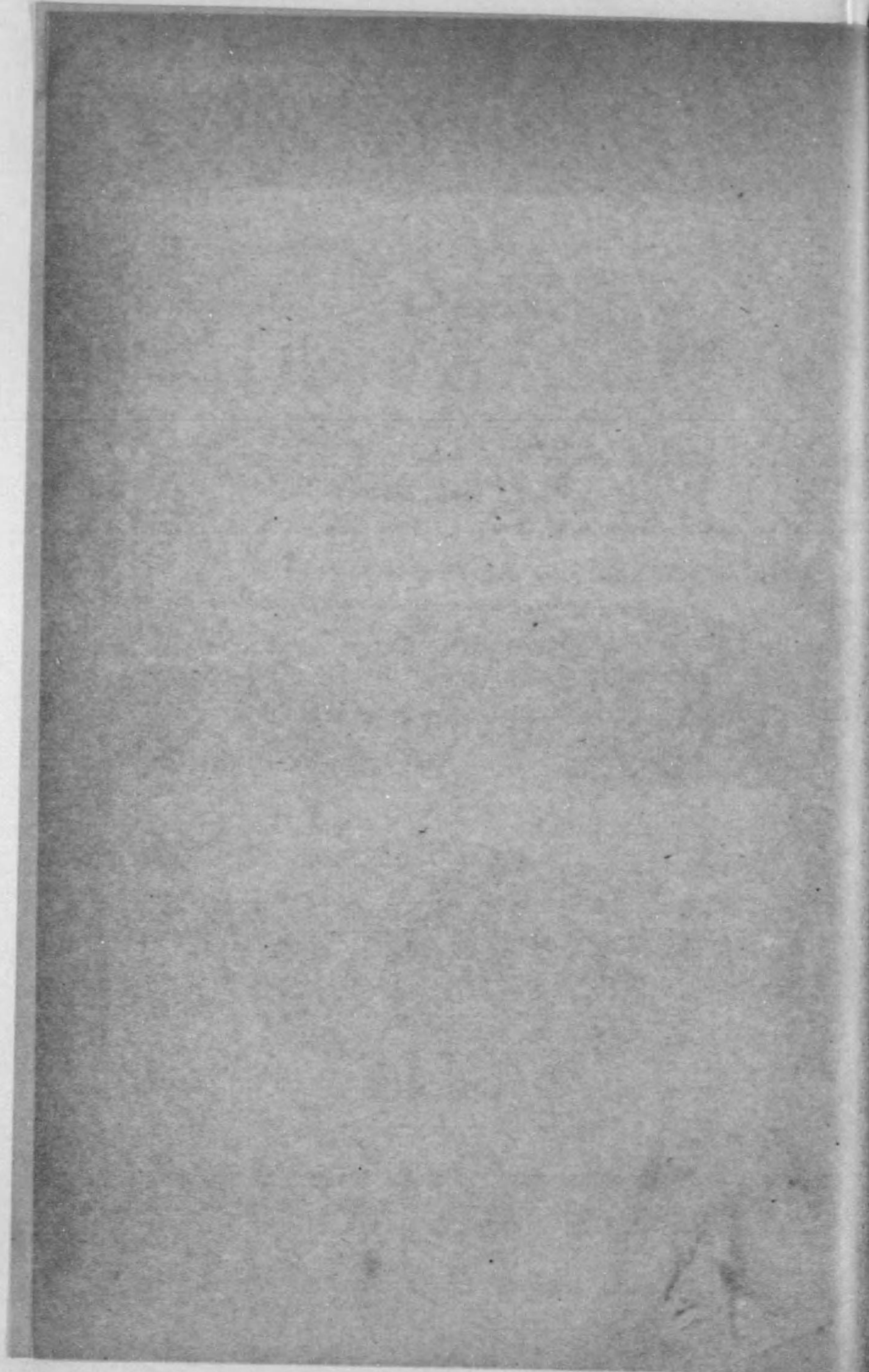
第十章 皮膚腫瘍

纖維腫	326
蟹足腫	327
乳嘴腫	328
筋腫	329
黃色腫	329
脂肪腫	331
腺腫	332
粉瘤	333
淋巴管腫	334
血管腫	334
被角血管腫	336
傳染性軟屬腫	336
肉腫	338
(一) 非色素性肉腫	338
(二) 黑色肉腫	338
(三) 特發多發性色素肉腫	338
內皮腫	339
癌腫	339
(一) 扁平皮膚癌或ハ癌潰瘍	340
(二) 結節及ピ乳嘴皮膚癌	340

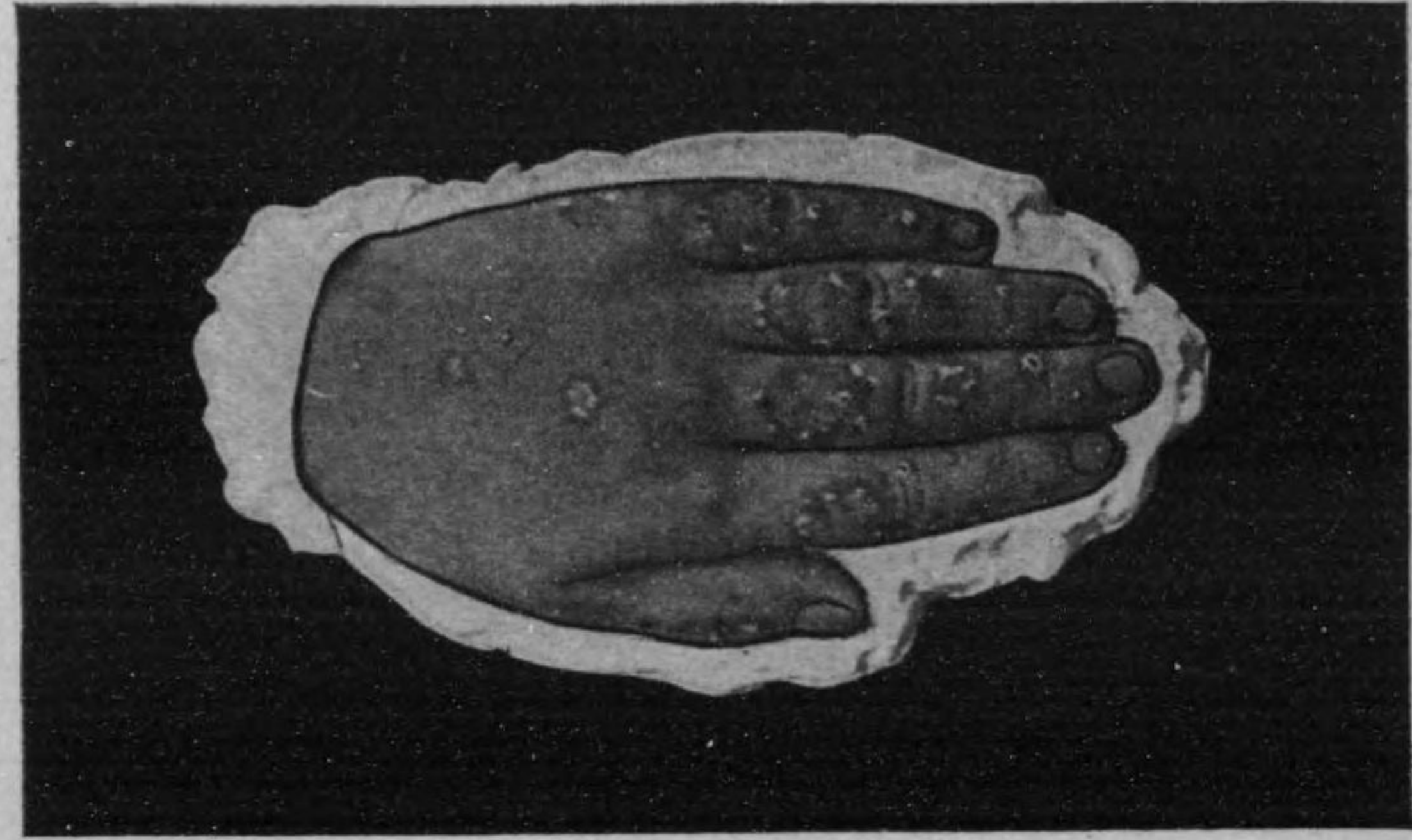
(三) バジエフト病又扁平浸潤癌	341
------------------	-----

第十一章 皮膚ノ梅毒或ハ梅毒疹

斑紋性梅毒疹或ハ梅毒蕨微疹	343
丘疹性梅毒疹	344
(A) 大丘疹性梅毒疹	344
(B) 小丘疹性梅毒疹又ハ梅毒性苔癬或ハ粟粒梅毒疹	344
手掌及足趾乾癬	345
扁平コンヂローム、乳白斑、濕潤性丘疹	346
膿疱性皮膚梅毒疹	347
(A) 大膿疱性梅毒疹或ハ梅毒性大膿疱疹及蝸殼疹	347
(B) 梅毒性痘瘡	348
(C) 小膿疱性梅毒疹	348
結節性皮膚梅毒疹或ハ護謨性梅毒	348
潰瘍性皮膚梅毒疹或ハ護謨腫或ハ梅毒性潰瘍又第三期梅毒	348
梅毒性白斑	350
梅毒性色素沈着症	351
梅毒性禿髮症	351
粘膜梅毒疹	352
梅毒病原體證明法	352
(A) 生活體證明法	352
暗視野證明法	352
メロスキー氏法	353
(B) 染色證明法	353
(C) 組織内證明法	354
血清診断	354
梅毒疹療法	356

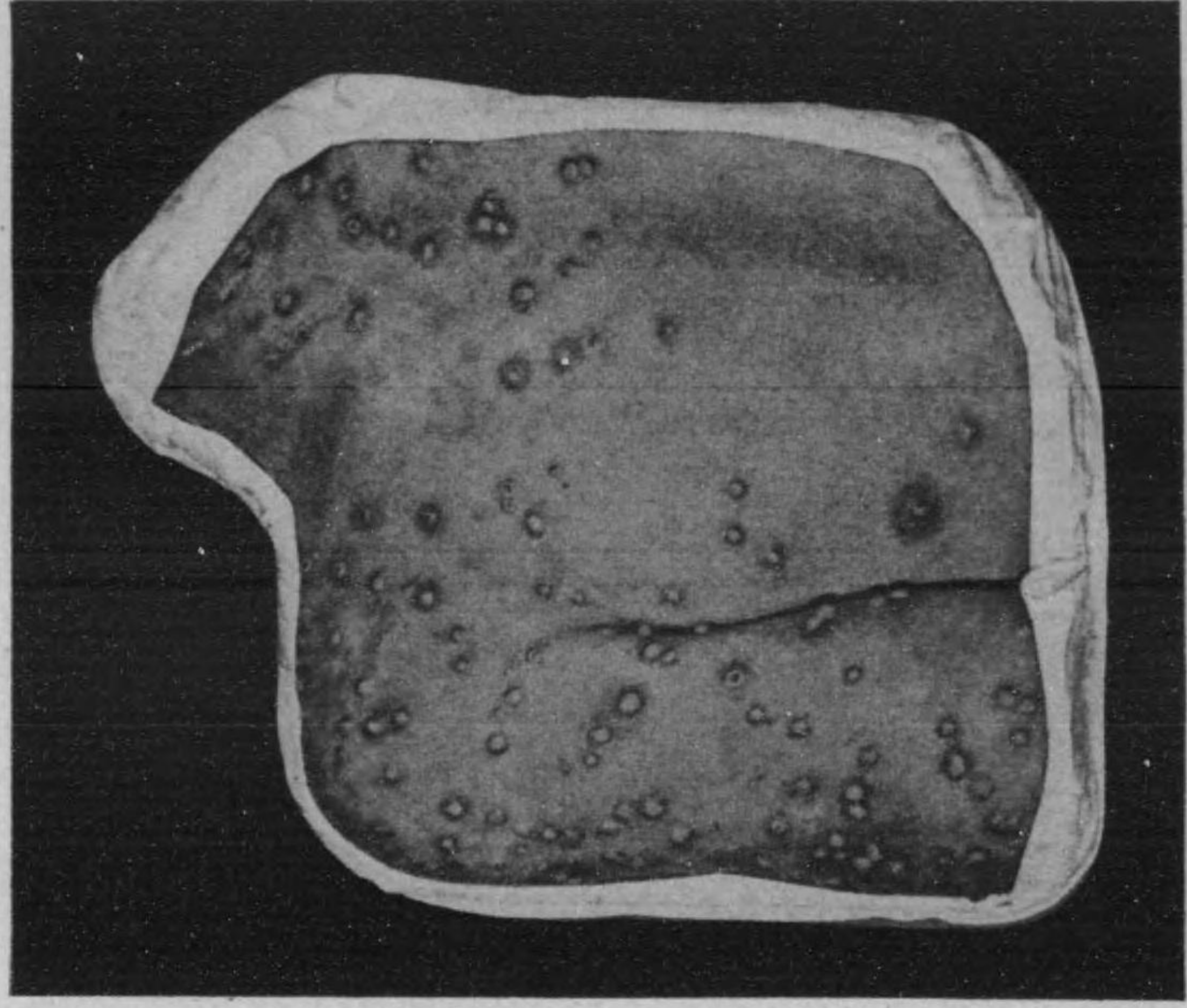
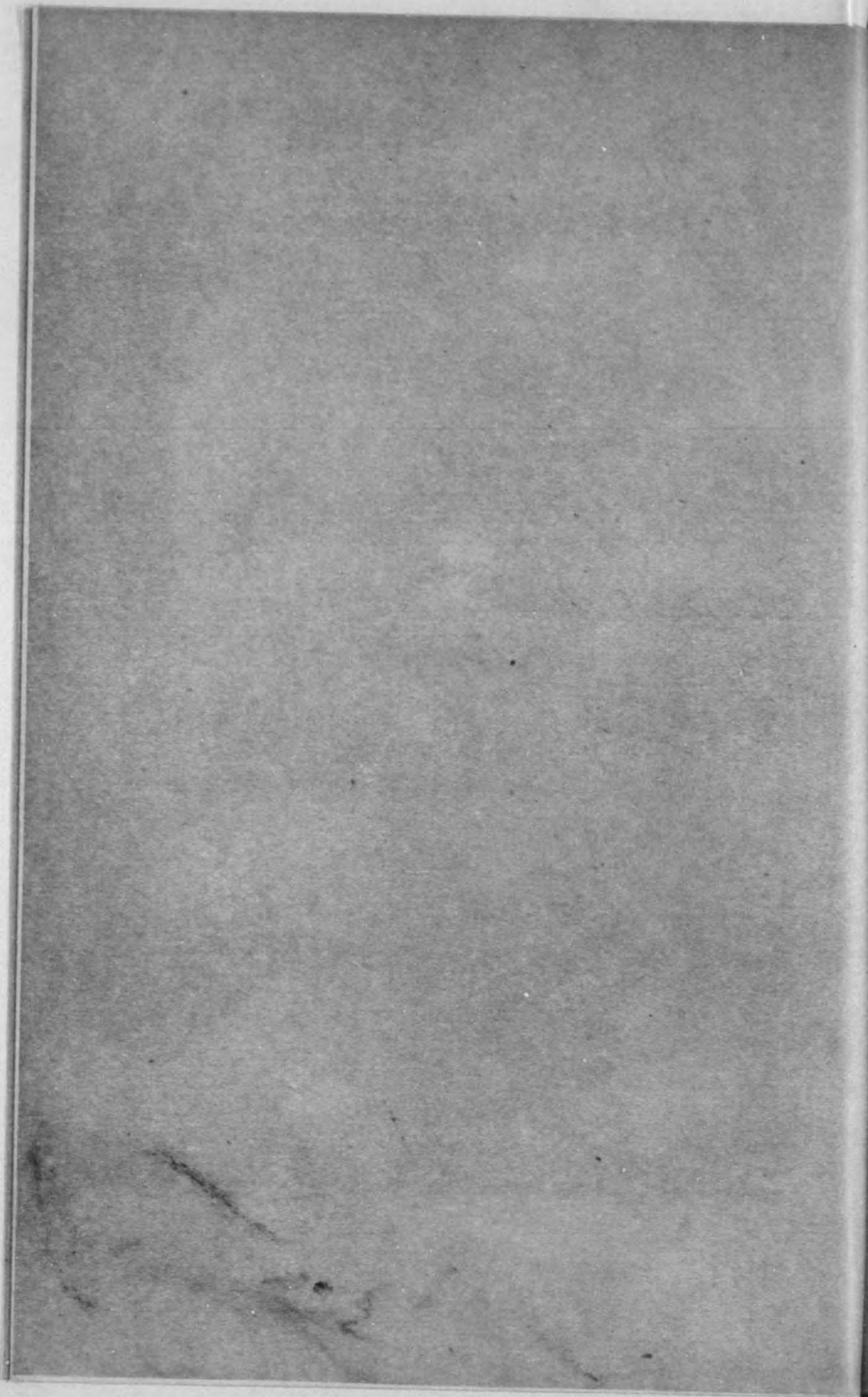


Gangraena diabetica
糖尿病性脫疽

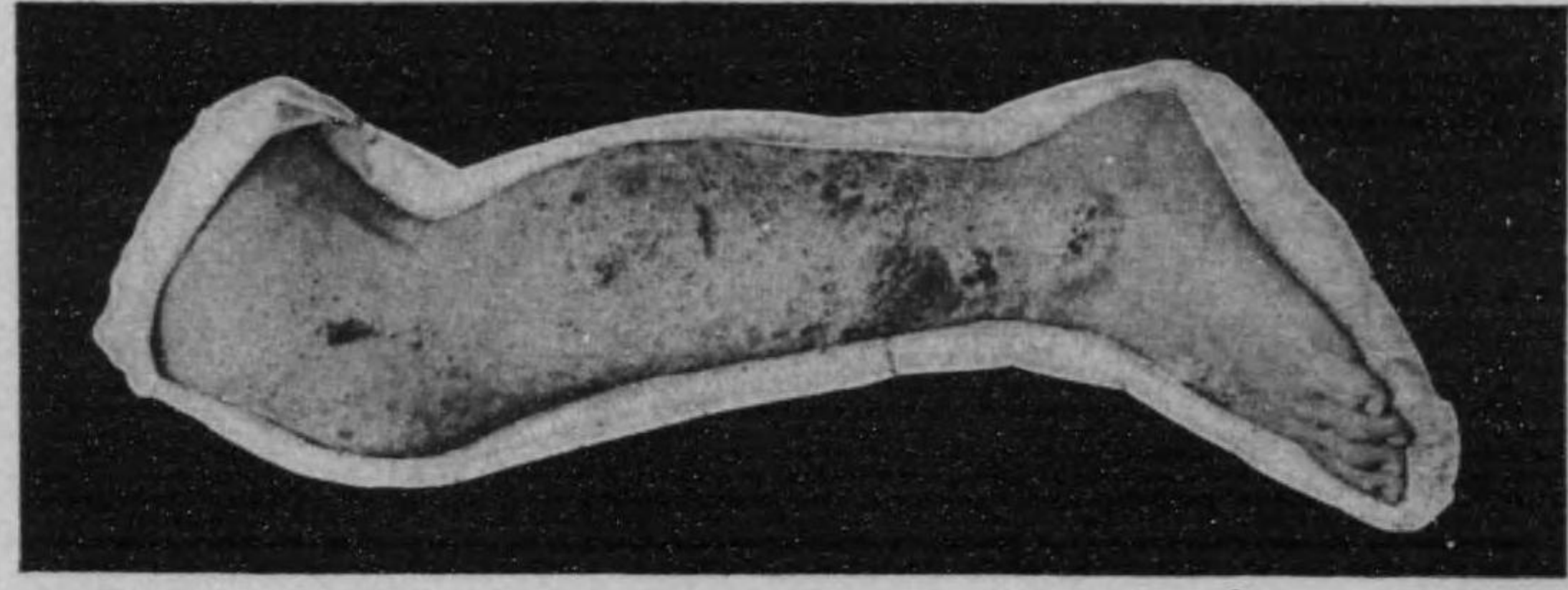


Lupus erythematosus
紅斑性狼瘡





Variola
痘 瘡



Eczema pruriginosum
痒 疹 性 濕 疹



皮膚科學概論

第一篇 總論

第一章 意義

皮膚科學又ハ皮膚病學 **Dermatologie** ハ皮膚ノ疾病ヲ研究シ兼ネテ他臟器若クハ全身トノ生理的及ビ病理的關係ヲ講究スルノ學科ニシテ、一般醫學ト關係深ク殊ニ生理學、醫化學、病理學、細菌學、寄性動物學等ノ基礎的醫學ノ素養ヲ充分ニシ皮膚ノ解剖組織及ビ生理ニ通曉シ其原因症候、經過診斷、豫後等ヲ明ニシ以テ治療方針ヲ示シ且ツ豫防法等ヲ知得セシムルノ學科ノ意ナリ

第二章 解剖

皮膚 **Cutis. die Haut.**

皮膚 ハ表面大小ノ皺襞及ビ凹溝ヨリ成リ皺襞ヲ皮丘、凹溝ヲ皮溝、ト名ケ微細ノ皮溝縱横ニ錯綜シテ或ハ菱形又ハ三角形ノ網眼ヲ作レリ

而シテ皮膚ノ全面積ハ平均1.5平方米ニシテ、其厚サ皮下組織ヲ除キ1—4耗ヲ算ス、勿論皮膚各層ノ厚薄ハ部位ニヨリ或ハ病的等ニヨリテ一定セザルモノトス

皮膚ノ組織的構造ハ表皮、真皮、及ビ皮下組織ノ三層ニ區別ス、而シテ表皮ハ胎生學上外胚葉ヨリ生ジ汗腺、脂腺、毛髮、爪甲等之ニ屬ス、又真皮ハ中胚葉ノ一部ヨリ出テ結締組織纖維ヲ成シ血管、淋巴管、神經及ビ其終末器等ヲ收ム、次ニ皮下組織ハ真皮下層ニ脂肪蓄積スルヨリ生ズルモノニシテ皮下脂肪組織ノ名アリ

表皮 Epidermis, oberhaut. ハ角層、透明層、顆粒層、種子層ニ分チ其底面ハ眞皮ト相出入シテ所謂表皮突起又網突起ヲ作レリ

種子層 ハ表皮發生ノ母地ニシテ之ヲ有棘層（又マルビギ氏網）ト基底層（基底細胞層又圓錐細胞層）ニ別テリ、基底層ハ眞皮ニ接シ單層圓錐細胞ヨリ成リ其細胞體上部ニ含メル色素ノ量ニヨリ黄、白、黒、等世界人種ノ差ヲ生ジ又其過不足ニ從テ幾多疾病ノ特徴ヲ來スモノトス

而シテ其基底細胞ハ常時變化シテ圓形トナリ漸次周圍ニ長短ノ棘ヲ生ジテ則チ有棘層ノ有棘細胞トナル、又此棘ハ細胞間橋ト稱シ各細胞間ヲ連絡セリ其橋下ニアル間溝ニハ淋巴液ヲ流通ス、尙ホ有棘細胞核ハ頗ル大ニシテ其原形質ハ染色ニ依リ蛛網組織ヲナシテ棘ト連続スルヲ認ムベシ、又基底層ニ於テハ此原形質纖維ハ縱ニ細胞體ヲ貫キテ眞皮結締組織ニ連絡スルヲ見ル、有棘細胞ハ四乃至五或ハ七乃至八層ニ疊積シ上層ニ至ルニ從テ細胞縮小シテ扁平トナリ棘ノ短縮細胞間溝ノ狹隘ヲ來シ終ニ顆粒層ニ移行ス

顆粒層 ハ細胞著シク扁平ニシテ棘短ク核小ニ且ツ細胞原形質中ニエレイヂンノ點滴細胞核ヲ繞リテ光澤強シ、所謂晶様色素ニシテ則チ角層ニ入りテ色素ニ變ズルナリ

透明層 ハ此エレイヂンノ融合ヨリ成リ肥厚セル皮膚例令ハ足趾、手掌ノ如キ部ニノミ存セリ

角層 ハ表皮ノ最外界ニシテ多數ノ扁平層ヨリ成リ無色又ハ帶黄色ヲ呈ス、且ツ透射性ヲ有シ其細胞ハ原形質顆粒及核ヲ失テ至細ノ色素網ヲ有シ細胞膜又上下ニ壓平セラレテ棘ノ殘缺ト共ニ硬固ノ角素膜ヲ成シ細胞間空隙ヲ餘サズ之ヲ角板又ハ表皮鱗層ト稱セリ、今之ガ片切ニ水化加里ヲ加フル時ハ膨大シテ明ニ其外膜ヲ認識シ、又角質中ノ脂肪滯留部ハオスミウム酸ヲ以テスレバ黒染スルヲ得ベシ

眞皮 Corium, Lederhaut, ハ膠様質ニシテ結締組織纖維相交錯密網ヲ作り弾力纖維之ヲ纏絡ス、而シテ眞皮組織ノ成分ハ胎生時ノ初メハ專ラ圓形及紡錐狀細胞ヨリ成リ、後チ細小ノ纖維ヲ其間ニ萌生シ漸次

増殖シテ細胞ヲ離隔ス、又細胞ハ成人ニ至リ有核扁平板ニ變ジ相連接シテ纖維束ヲ包裹ス、而シテ眞皮結締組織網眼中ノ罅隙ヲ淋巴腔ト稱ヘ茲ニ漿液停滯スレバ擴大スルモ常態ニ在テハ縮小シ又ハ閉塞セリ、今巴拉賓油ヲ眞皮ニ注射スレバ此淋巴腔ニ沿テ瀰漫スルヲ見ル、此理ニ由リ病的細菌又ハ病的細胞、病的產生物等ノ蔓延ヲ來スモノナリ

其他眞皮中ニハ滑平筋纖維ヲ有シ其方向ハ常ニ當該皮膚割線ト直角ヲナセリ、割線トハ眞皮結締組織束ノ方向ニ一致スルモノニシテ試ミニ銳錐ヲ皮膚ニ刺ス時ハ其跡圓孔ヲ穿タズシテ裂孔ヲ遺ス則チ之割線ナリ、蓋シ皮膚病ハ往々此割線方向ニ符合スベキヲ以テ留意スベシ、其他別ニ起毛筋アリ之レ亦滑平筋ノ束狀ヲナセルモノニシテ毛囊ノ下三分一ニ當リ毛根鈍角側ニ附着シ斜ニ上方乳頭層ニ向テ展開シ扇形ヲナセリ

眞皮ハ如斯皮膚ノ主成分ヲナスモノニシテ、茲ニ血管、淋巴管、神經、脂腺、汗腺、毛根等アリ然シテ眞皮ノ最大上層ヲ乳頭層ト稱シ、表皮ト犬牙相啣ミ乳嚙又ハ乳頭ヲナシテ生理及病理上最モ重要ノ位地ヲ占ムルモノナリ、又其胎生前半期ニハ眞皮ノ表面ハ扁平ニシテ表皮トノ境界ハ一直線ヲナスモ後半期ニ至リ漸次波線ヲナシ以テ乳頭ヲ作ルモノナリ、而シテ乳頭ノ作用ハ表皮眞皮トノ接觸面ヲ擴大スルト同時ニ皮膚ノ伸縮時ニ當リ兩者ヲ密着スルモノナリ、故ニ其形及大サハ常ニ一定セズシテ皮膚ノ緊縮時ニハ扁平トナリ更ニ強ク伸展スレバ一時全ク消失スルニ至ルベシ、然シテ其組織ハ眞皮ノ結締組織纖維細網ヲ成シテ之レニ入り弾力纖維ハ頗ル細ク其密網ハ乳頭頂點ニ至リテ細技ヲ表皮中ニ分岐ス、蓋シ乳頭層ノ生理的機能ハ血管ヲ有セザル表皮ノ榮養ヲ司ドリ且ツ表皮ノ新陳代謝物ヲ收容スルニアリテ、從ツテ皮膚疾病ト密接ナル關係ヲ有スルヲ知ルベシ

血管 ハ皮下血管網ヨリ起リ其動脈ハ斜ニ眞皮ヲ走リテ乳頭下血管網ニ達ス、夫レヨリ乳頭ニ入り毛細管縮ヲ作り出テ靜脈トナル、則チ乳頭下血管網ヨリ動脈ニ沿テ下行シ復ヒ皮下血管網ニ還ルナリ、然レ共眞皮自己トシテハ幾ド毛細管ヲ有セズ、之ニ反シ皮下組織ハ毛細管ニ富ミ毛乳頭及汗

腺、毛細管網ハ是ヨリ分岐スルモノナリ、但シ毛囊、汗腺、排泄管、及脂腺ノ毛細管網ハ乳頭下血管網ヨリ來ルト知ルベシ、然シテ皮膚炎症ヲ來ス時ハ乳頭下血管網、及乳頭毛細管縮擴張シテ充血ヲ來シ炎症更ニ加ハル時ハ乳頭層ニ滲液ヲ滲出シ尋テ白血球浸潤ヲ呈スルニ至ルモノナリ、左レバ該血管周圍ノ浸潤ニ依テ炎症ノ程度ヲ判知シ得ベシ

淋巴管 ハ亦乳頭層ニ於テハ乳頭下淋巴管網ヲ作り乳頭ニ入りテ淋巴毛細管網ヲナシ乳頭層組織間裂及表皮細胞間淋巴腔ト交通シテ眞皮ヲ貫キ皮下淋巴管網ニ連ルモノナリ、尙ホ毛囊脂腺及汗腺ハ各々別ニ毛細淋巴管網ヲ作レルコト血管ト同様ナリ

神經 ハ血管ニ沿テ乳頭層ニ達シ無髓神經纖維トナリ毛細管内皮細胞ニ終ル、又結締織ニ遊離シ或ハ數種ノ終末器中ニ入ルモノアリ

終末器ノ主要ナルモノハ マイスネル氏觸體、クラウゼ氏小體、フッテル、パチニール氏小體、ルフィニール氏小體等ニシテ、マイスネル氏觸體ハ指趾ノ腹面皮膚乳頭中ニ存シ橢圓形ニシテ長サ0.06—0.1耗ヲ有ス、クラウゼ氏小體ハ外陰部眼瞼縁及足趾皮膚或ハ數處ノ粘膜ニ存シ球形ニシテ二三層ノ同心性膜囊ヨリ成リ0.02—0.04耗ノ大サヲ有セリ、フッテル、パチニール氏小體ハ眞皮ノ下界ト皮下組織中ニ存シ手足ノ屈面ニ最も多ク卵形又ハ圓壙狀ニシテ數十層ノ膜囊相重疊シテ層膜間ニ蛋白液ヲ含ミ其大サ4.5耗ヲ算ス、ルフィニール氏小體ハマイスネル氏觸體ニ似テ手掌足趾ノ皮膚眞皮下及皮下組織中ニ存シ結締織ト彈力纖維ヨリ成リ其形橢圓ナリ、斯如各終末器ハ固有ノ結締織膜囊ヲ有シ概ネ神經纖維ノ一條ヲ收容ス、而シテ神經軸索ハ其中ニ於テ分裂シ細纖維トナリ密網ヲ形成スルナリ

其他皮膚血管ノ神經ハ身體他部ニ於ケルト同様ニシテ乳頭層ノ毛細管ハ無髓神經ニ纏絡セラル、又乳頭中ノ神經ハ專ラ無髓神經纖維ニシテ其末端ハ筆毛狀或ハ鉤狀ヲナセリ、毛囊ノ神經ハ脂腺開口部直下ニ於テ密網ヲナシ毛囊ヲ周リ更ニ毛根外鞘ニ分岐ス、而シテ又毛囊下端及毛乳頭ニ於テモ同一神經纖維網ヲ發見スベシ、汗腺ハ之ヲ纏絡スル無髓神經纖維分岐シテ

固有膜ヲ貫キ腺細胞ニ達シ桑實狀ヲ呈セリ

皮膚ノ附屬器官

Anhangsorgane der Haut.

皮膚ノ附屬器官ハ汗腺脂腺毛髮爪甲皮膚色素等ニシテ次ニ其概略ヲ記述スベシ

(一) 汗腺 Glandulae Sudoriferae.

汗腺ハ眞皮ノ深層又ハ皮下組織上層ニ位シ龜頭及包皮ノ内面ヲ除ク他ノ全身皮膚ニ存シ殊ニ手掌足趾ハ豊富ニシテ一平方寸中2736—2685ヲ算スベシ、而シテ其各腺間ノ距離ハ軀幹ノ背面最も遠シトス、形ハ長キ管狀ヲナシ大小アリテ其大ナルハ主トシテ腋窩、鼠蹊窩、肛圍乳暈外聽道ニ存シ小ナルハ眼瞼睫毛腺所謂モル氏腺等則チ之ナリ、而シテ汗腺ハ汗腺體又腺毬排泄管及汗孔ノ三ニ區別ス

汗腺體ハ圓形又ハ扁平ニシテ構造ハ單管迂曲シ絲毬狀ヲ成ス其管壁ハ單層方形細胞ニシテ細胞中ニ脂肪及色素顆粒ヲ含ミ其外ニ基礎膜アリ、大腺ニ有テハ基礎膜ト細胞間ニ滑平筋アリ、又結締織膜更ニ其方面ヨリ全腺ヲ被包ス

排泄管ハ腺毬中ヨリ僅ニ旋廻シツ、殆ド直線ニ眞皮ヲ貫キ乳頭間凹谷ヲ穿テ表皮ニ出テ皮丘ノ頂點ニ開口ス、而シテ管中ニハ二三層ノ方形細胞アリ又最も内層ノモノハ皮膜ヲ有セリ

汗孔ハ表皮中ニ存シ漏斗形ニシテ二乃至十六回轉ヲナス處ノ急螺旋狀ヲナセリ、管壁ハ角層細胞其内面ヲ被ヒ中間ニ顆粒細胞アリテ其外壁ハ有棘細胞ヨリ成リ固有腺上皮ヲ有ゼズ

其他汗腺ノ榮養ハ二個ノ異ナル血管網ニ依リ則チ其一ハ乳頭下血管網ヨリシ、毛細管網ヲナシテ排泄管ヲ纏絡シ他ノ一ハ皮下血管網ヨリ發シテ未ダ毛細管ヲ成サザルニ當リ腺體ヲ包裹榮養セリ

(二) 脂 腺

Glandulae Sebaceae, Talgdrusen,

脂腺ハ胞狀腺ニ屬シ、或ハ分岐シ又ハ然ラズシテ手掌ト足趾ヲ除ク全身ノ真皮中ニ存在シ硬毛ニ副ウテ毛囊中ニ開口ス故ニ毛囊腺ト稱スルモノアリ、其數4—6個ノ單腺環狀ニ圍繞セリ、又其毳毛ニ有テハ反テ腺體ニ附屬シ毛幹ハ腺ノ排泄管ヲ經テ表面ニ出テ其數一二個ナリトス、然シテ毛囊ヲ有セズシテ脂腺ノ存スルハ眼瞼、脣紅、鼻粘膜、直腸粘膜ト外皮ノ境界、頬粘膜、龜頭、包皮内膜、小陰唇、陰核、並ニ婦人乳房、乳暈等ニシテ、眼瞼ニ存スルマイボーム氏腺亦一種ノ皮脂腺ニ外ナラズ、又脂腺ノ大サハ1,2—2,2耗ニシテ幅廣ク其數一個ヨリ二十個ニ至ル差アリ

然シテ脂腺體造構ハ基礎膜上ニ低キ方形細胞ヲ有シ内腔ニ向テ圓形又ハ多角ノ大小不同細胞アリテ脂肪球ヲ含ム皮脂細胞ノ稱アリ、其細胞ハ脂肪變性ヲ呈シ融解シテ其中ノ脂肪ハ游離シテ腺腔ヲ充塞シ更ニ排泄管ヲ經テ腺口ニ至ル、又往々深ク基礎膜ニ達シ腺辦之ガ爲悉ク透明ノ脂化細胞トナルコトアリ、而シテ皮脂細胞核ハ脂肪ノ増加ト共ニ變性消失シ細胞膜殘片亦角化シテ皮脂ト共ニ皮膚表面ニ排泄セラルモノトス

次ニ排泄管ハ其構造二種アリ、硬毛部脂腺ハ毛囊外側上皮ノ延長ヨリ成リ疊積扁平上皮ヲ被ムリ徐々ニ薄層トナリテ遂ニ腺細胞上皮ニ移行ス、又毳毛部脂腺ハ直チニ表皮ノ陥没ニ因テ形成スルガ故ニ表面各層ニ一致シ内面ハ角細胞ヲ被ムリ最外層ハ種子層細胞ヨリナル、又角細胞ハ脂腺腔ニ進ムニ隨テ其角性ヲ失フニ至ルベシ

次ニ脂腺ノ營養ハ乳頭下血管網ヨリ發スル毛細管網ニ依テ營マルモノトス、其他皮脂中ノ蓄積脂肪ガ其頂點ニ於テ黑色素ヲ生ジ所謂面皰 Comedo ヲ形成シ又ハ罕ニ毛囊蟲ヲ藏スルコトアリ

(三) 毛 髮 Pili, Haare,

毛髮ハ表皮ヨリ分岐スルモノニシテ皮膚ノ保護トナリ又裝飾トナル、然

シテ僅ニ知覺作用アリ凡ソ手掌、足趾、指趾末節ノ掌面、脣紅、陰莖、陰核、龜頭及包皮内面ヲ除ク他ノ身體中ニ専ラ存在ス、而シテ毛髮ヲ硬毛ト毳毛ト二種トナシ、硬毛ニ長毛、短毛、粗毛ノ別アリテ、長毛ハ主トシテ頭髮、鬚髯、腋毛、陰毛、胸毛、肛圍毛等ニシテ長サ約0,5—1,5仙米、太サ0,007—0,17耗アリ、短毛ハ又眉毛、睫毛、鼻毛等ニシテ長サ0,5—1,3耗トス、毳毛ハ色薄キ纖毛ニシテ顔面、軀幹、四肢、小陰唇、淚阜等ニ來リ長サ十四耗ヲ超ユルコトナク人間特有ノモノニシテ他ノ哺乳動物ニ之ヲ見ズ

毛髮ハ又單生シ或ハ2—5個集生スルコトアリ頭髮ノ如キ之ナリ、而シテ頭髮ノ數ハ平均八萬本ヲ算シ、其他ノ身體硬毛ハ約二萬本ナリト云フ、ウイトネフ氏ニ從ヘバ婦人ノ頭髮重量約三百瓦ニシテ其數ハ黑毛十萬二千本黄金毛十四萬本、褐色毛十萬九千本、紅毛八萬八千本ニシテ之ヲ一平方仙米ニテ比較スレバ黑毛八十六ニ對シ褐色毛九十三黄金毛百七ヲ算スト云ヘリ蓋シ部位ニヨリ亦多少アリ

毛髮ノ形成ハ胎生第三ヶ月ノ終リニ顔面、肩部、口唇、頭部等ニ始マリ第五ヶ月ノ初メニ於テ軀幹及四肢ノ皮膚ニ及ブモノナリ、而シテ出生初期ニ於テ一旦脱落スルモノニシテ之ヲ「ウブケ」則チ初毛ト稱セリ、生後約三ヶ月ニ至レバ頭部幾ド無毛トナリ或ハ新毛尖ニヨリテ被ハル、而シテ續生毛ハ部位ニヨリ同一ナラザルモ早晚枯死脱落シテ新毛反復發生スルモノナリ、又一日ノ脱毛數ハ男女共ニ年齡十八乃至二十六歳ニ於テ三十本乃至百八本、二十乃至三十歳ニ於テ九十本、五十乃至六十歳ニ於テ百二十本以上ニ及ビ其一日間ニ發育スル全長ハ部位、體重、氣候、晝夜等ニ由テ等差ヲ有スト云フ

短毛ノ多クハ春思期ニ達シ始メテ露ハルヲ常トシ鼻孔口及外聽道ハ更ニ年齡成熟シテ始メテ發生スベシ、然レ共人ニヨリ腋毛、陰毛等終始毳毛ニ止マリ或ハ軀幹四肢等ノ壯年ニ及ビテ毳毛ノ一部硬毛ニ變ズル者アリ、殊ニ婦人更始期後ニ至リ鬚髯ヲ生ジ又ハ顔面四肢ノ毳毛ガ著ク發育シテ強大トナルコトアリ、又毛髮ノ方向ハ真皮中ヨリ斜ニ表皮ヲ貫キ抽出スルモノ

ニシテ、同一部位ニ有テハ各人同一方向線則チ毛線ヲ劃シテ概ネ皮膚割線
方向ニ一致シ左右半身相對セリ、又通身毛ノ方向ハ毛流ヲナシテ大顛門肩
胛等ニ於テハ毛渦アリ、通常單生ナルモ或ハ複生シ又ハ異狀部位ニ毛渦ヲ
見ルコトアリ、大人ノ眉毛及耳毛ハ鉛直ニ樹立シ人種ニ依リテハ頭髮亦直
立シ叢生スルコトアリ

其他毛髮ノ色澤ニ至テハ種々ニシテ色素發生ニ關シテ二説アリ、一ハ毛
球上皮ヨリ產生スト云ヒ、一ハ外方ヨリ來ルモノニシテ、其血液ヨリ直達
スルカ或ハ結締織細胞ヲ介シテ上皮細胞ニ入ルヤハ不明ナリトセリ、然レ
共要スルニ皮膚細胞中ニ微細ナル黒褐色顆粒ヲ認メ如モ皮膚細胞ハ此色素
顆粒ヲ含マザルニ往々淡黃乃至淡紅色ヲ帶ビ此皮膚細胞固有色ト其内ニ含
ム色素顆粒ハ主トシテ毛髮色澤ヲナシ以テ黒、紅、金、褐色毛等ノ差異ヲ
生ズルモノナリ、其他毛髮表面ノ状態空氣ノ含量等ハ大ニ關係ヲ有スルモ
ノニシテ、彼ノ老人ニ至リ白髮ヲ生ズル如キハ實ニ氣泡ノ柱狀ヲナシテ含
蓄セラル、ニ因ルモノトス

又毛髮ノ形狀ハ人種或ハ個人ニ依テ或ハ部位ニ依テ同一ナラザルモ、概
シテ單直則チ直毛ナルカ或ハ縮毛則チ縮縮セルモノナリ、而シテ其横断面
ハ直毛ハ圓形ナルモ縮毛ハ不正ニシテ橢圓、三角又ハ腎臟形等ヲ呈セリ

然シテ毛髮ノ構造ハ本來ノ毛ト毛囊ニ區別シ毛ノ皮膚面ニ游離スル部ヲ
毛幹ト云ヒ其末端ヲ毛尖ト云フ、毛幹ノ毛囊中ニ入レル部分ヲ毛根ト稱シ
其尾端ハ太シ之ヲ毛球ト云フ、其下ニ凹洞アリ毛囊結締織ヲ充填ス之レヲ
毛乳頭ト稱ス、又毛幹ヲ髓質皮質毛表皮ノ三ツニ分ツベシ

髓質ハ毛幹中軸ニ於テ直ニ毛球ヨリ毛尖ニ達シ二列ノ方形上皮細胞則チ
毛髓細胞ヨリ成ル、又細胞中ニハ顆粒ヲ有シ氣泡ヲ含ム所謂含氣上皮ヲナ
セリ、而シテ其核ハ乾枯ス又毛球部ノ毛髓細胞ハ空氣ヲ有セス「エレイヂ
ン」顆粒ヲ有セリ、但シ短毛ハ長毛ヨリ髓質太ク毳毛ハ通常之ヲ存セス

皮質ハ毛幹ニ於テハ長紡錘形角化細胞ヨリ成リ長核及色素顆粒ヲ有シ氣
泡ヲ含ム、又溶解色素ヲ含蓄スルコトアリ、其他上皮細胞間腔ニ空氣ヲ含

ムコトアリ、毛球ニ於テハ短圓ニシテ空氣ヲ含マズ其細胞間ニ星芒狀着色
體ヲ有ス、蓋シ毛中ニ色素ヲ輸入スル結締織細胞ナルベシト云フ

毛表皮ハ角化上皮細胞ノ單層核ヨリ成リ屋瓦狀ニ鱗次セリ

毛囊ハ結締織部ト上皮部ノ二ヨリ成リ結締織部ヲ狹義ノ所謂毛囊トナシ
上皮部ヲ毛根鞘トナス、而シテ毛囊ハ結締織膜二層ヲ有シ其外層結締織
維ハ毛幹ニ並行縱走スルモ内層纖維ハ輪走セリ、又其兩層細胞核ハ長形ニ
シテ各々纖維ノ方向ニ並行ス、輪走層内方ニ殆ド無紋ノ硝子膜アリ外輪走
層トノ境界明カナラズ、内ハ毛根外鞘ノ基底細胞ヨリスル原形質細絲ヲ收
容ス、而シテ此兩結締織維層ハ乳頭下血管網ヨリ來ル毛細管密網纏絡シ
且ツ有核神經纖維ノ分布ヲ見ルベシ

毛乳頭ハ眞皮乳頭ニ一致シ卵圓形圓錐形又ハ筈狀ヲナシ細莖ヲ以テ毛囊
根底部ニ連レリ、而シテ成長シツ、アル毛囊ニハ毛乳頭基底ニ狹窄部ヲ有
ス之ヲ乳頭頸部ト云フ、又毛乳頭中ニハ皮下血管網ヨリ分岐スル毛細管網
及僅少ノ神經ヲ包有スベシ、之レ毛髮給養ノ根源ナリトス

其他硝子膜ノ内方ニ毛囊上皮部則チ毛根鞘アリ内外不同ノ二層ヨリ成ル
其毛根外鞘ハ厚層ニシテ硝子膜ニ接シ表皮ノ種子層ニ一致シ5—12層ヨリ
成リ毛球部ニ在テハ常ニ核ノ分裂ヲ呈セリ、又毛根内鞘ハ毛囊部ニ在テハ
表皮角層ノ構造ト一致シ脂腺口以下ニ於テハ明カニ内外二層ニ別ル、外側
ヲヘンレー氏層ト稱シ低キ無核上皮細胞ノ單層或ハ二層ヨリ成ル、内側ハ
フックスレイ氏層ト名ケ有核細胞ノ單層ヨリ成ル、其他毛根鞘内方ニ毛表皮
ニ對嚮シ且ツ同一構造ヲナス所ノ鞘表皮アリ

(四) 爪又爪甲 Unguis, Nagel.

爪ハ指趾末節ノ背面ヲ被フ所ノ角板ニシテ保護自衛ノ具トナリ、亦器械
的ノ代用ヲナス、其前端ハ游離シ凸縁ヲナス後端ハ彎入襞ヲナシ側方ハ直
縁ニシテ共ニ皮膚皺襞ニ覆ハル、其側縁ヲ掩ヘル皺襞ヲ爪廓ト云ヒ、後方
爪根ノ挿入スル間溝ヲ爪溝ト稱シ、又爪甲ノ座スル眞皮面ヲ爪牀ト云ヒ、

爪牀前端指球トノ間ニアル狹溝ノ基底ヲ爪縁ト曰フ、而シテ爪甲ノ中部ヲ爪體トナシ、其前端ハ游離縁ヲナス、爪根ノ前方爪溝ヨリ白ク露出スル半月形ノ部ヲ爪半月ト稱ス、其他爪半月ノ前縁ハ最厚層ニシテ爪根及側縁ハ較々薄シトス、又爪牀表面ニ上皮ヲ被ムル隆線アリ縦ニ竝行シ爪縁ト半月部前端ニ在ルモノハ太ク其後方ニ在ルハ細ク且ツ其數多シ更ニ其前後ニ乳頭帶アリ

然シテ爪甲ハ人ノ知ル如ク絶ヘズ成長シ時々剪去セザレバ延長シテ五仙ニ達スルモノナリ、又爪甲細胞形成ハ上皮ノ角化ニ依ルモノニシテ爪牀ニ近キ部分ヨリハ爪甲細胞上層ヲ作り、半月部ヨリハ其下層ヲ構成ス、蓋シ爪甲細胞ハ純然タル角細胞ニシテ間々核ノ殘缺ヲ存シ、又細胞間腔ニ微細ノ氣泡ヲ含ミ爪甲ニ白點ヲ印スル事アリ

又爪牀ハ種子細胞ヨリ成ル其基部ニ在ルハ圓壩狀ヲナシ上層ニ到ルニ從テ圓形トナリ次デ扁平トナル、而シテ一種固有ノ光線屈折ヲナス所ノ細胞層ニ乃至十層アリ、則チ透射光線ニ褐色落射光線ニ白色ヲ呈ス、彼ノ爪甲板細胞ハ直チニ此細胞層ヨリ變化スルモノナリ

爪廓ト爪溝ハ表皮及真皮ヨリ成ル皮襞ニシテ、其角層ハ爪甲ニ緊著シ爪溝有棘層ハ直ニ爪牀表皮ニ移行スルモノナリ

而シテ爪牀ノ營養ハ其隆線下ニアル毛細管網ヨリスルモノニシテ、指趾末節ノ兩側ヲ過グル動脈ヨリ來ルモノナリ、又淋巴管ヲ證明シ神經ハ爪牀皮下組織中ニ小幹ヲ存シ、ウキタリ氏ハ無髓神經纖維ノ絲毬狀或ハ縮狀ヲナシテ游離セルモノ及諸種ノ終末器ヲ證明セリ

(五) 皮膚色素

皮膚ハ人種ニヨリ個人ニヨリ各々其着色ヲ異ニス、之色素含量ヲ異ニスルモノニシテ、此色素ハ表皮種子層殊ニ其基底細胞内ニ存セリ、真皮ニ於テハ色素細胞主トシテ上層ニ散在シ往々表皮有棘層胞間腔ニ侵入シ或ハ之ニ分枝ヲ送ル、彼ノベルツ氏ノ稱スル蒙古人斑則チ黄色人種初生兒ノ臀部

等ニ見ル淡青色大小不同ノ所謂小兒斑ノ如キハ全ク色素細胞ノ真皮上層深層及皮下組織中ニ集簇スルヨリ來ルモノナリト云フ、又身體ノ一定部位ハ他部ニ比シ着色濃厚ナル如キ、或ハ生理的狀態ニ於テ例之ハ妊婦ノ乳暈白線ノ著明ナル如キ皆同一ナリ

然シテ病的ニ色素ノ増減シ或ハ缺如スルコトアリ、或ハ日光紫外光線ノ作用ニ因テ皮膚ニ色素沈着ヲ來ス如キハ常ニ吾人ノ目撃スル所ナリ

此皮膚色素由來ニ就テハ表皮種子層ノ上皮細胞自ラ色素ヲ産出スルカ、或ハ結締織色素細胞ヲ介シテ單ニ之ヲ集拾スルモノナルヤ、或ハ上皮細胞自ラ色素ヲ作り結締織細胞ニ與フルモノナルカ未ダ確説ヲ聞カズ、要スルニ上皮細胞中ノ色素ハ概シテ自家ノ產生ニ依リ一分ハ分岐細胞ヨリ得ルモノナラント思考スベキ乎

第三章 生理

皮膚ハ構造複雑ニシテ其生理上主要ナル器管ニ屬スルモノナリ、則チ分泌及呼吸ニ由テ新陳代謝ヲ輔ケ温熱ノ調節具トナリ又器械的、温熱的、化學的外力ニ對シテ其保護ノ任ニ當ル等、其外五管器中ノ一トシテ重要ナル知覺ヲ司ル如キ亦以テ推知シ得ベキ乎

(一) 皮膚分泌

皮膚ノ分泌機能ハ汗腺ト脂腺ニ依テ營マレ皮膚ヲシテ常ニ滑澤ナラシム而シテ汗腺分泌ハ眞ノ分泌ニシテ九九%ノ水ト約一%ノ固形分ヨリ成リ、澄明ニシテ弱酸性ナルモ持續分泌ノ際ハ亞爾加里性トナル、之レ亞爾加里性腺分泌物ト酸性皮膚分泌物ノ混成スルガ爲ナリ、其固形分中無機物ハ食鹽ヲ主トシ僅微ノ硫酸鹽、磷酸鹽ヲ含ム、有機物ハ尿素ト少量ノ中性脂肪

「コレステアリン」揮發性脂肪酸類例之ハ蟻酸醋酸酪酸「プロピオン」酸「カベリール」酸等ヲ有ス、但シ汗水中ノ脂肪ハ主トシテ脂腺分泌ノ混入ニ依ルモ手掌ノ如キ之ヲ具備セザルモノニ於テモ中性脂肪ヲ證明スベシ、亦病的状態ニ在テハ汗中固形分ノ増加ヲ認メ發汗強度ノ際ハ皮膚面ニ砂粒様附着物ヲ見ル、之レ即チ尿素ニシテ其他藥物及細菌類カ往々汗腺分泌ニ依テ排外セララルヲ見ルベシ

而シテ汗腺ノ主要機能ハ多量ノ水分ヲ體外ニ排泄シ其蒸發ノ際皮膚及血液ノ温ヲ下降セシムルモノナリ、則チ體温上昇ニ依リ皮膚毛細管ノ充盈ノミニテハ體温ノ減少ヲ望ミ難キ時發汗作用ヲ起シ以テ體温ノ調節ヲナスナリ、然レドモ其分量ハ時ノ情況ニ依テ異ナルモノニシテ勞働時又高熱ノ際ハ汗水ノ量多ク場合ニ於テハ腎臟機能ノ一半ヲ代理スルコトアリ、即チ發汗著シキ時ニ尿量ノ減少シテ濃厚トナル如キハ常ニ吾人ノ經驗スル所ナリ

汗腺分泌作用ハ發汗神經ノ直接作用ニ期スベシト雖同時ニ血管神經作用ノ加ハルモノニシテ、即チ血管擴張神經作用ノ時ハ皮膚潮紅シ、又收縮神經亢奮スル時ハ皮膚蒼白ナルニ關ハラズ發汗ヲ見ルコトアリ、例之ハ瀕死發汗ノ如シ

汗腺分泌中樞ハ胸髓及頸髓ノ前角ニアリテ之ヨリ出ズル神經纖維ハ交感神經纖維ト共ニ走リテ多クハ知覺神經幹ニ混入ス、又此ノ中樞ノ興奮ハ直接或ハ反射的ニシテ時ニ精神興奮又ハ苦悶ノ如キ大脳ガ血管神經或ハ發汗神經ニ直接作用ヲ致スニ基クコトアリ、而シテ發汗ノ主中樞ハ延髓ニ存スルモノト思考セララル

次ニ脂腺分泌ハ脂腺細胞ノ間斷ナク脂肪變性ヲ營ムニ依ルモノニシテ鏡見上脂肪球、脂化腺細胞、及其殘片ヲ認メ化學上主トシテ偏利施林脂肪酸「コレステアリン」等ヲ含ム、而シテ此分泌ハ毛囊口ニ排泄セラレ次テ角層上ニ流溢シ皮膚及毛髮ヲ滑膩ナラシムルモノナリ、又其排泄量ハ年齢ニ依リ或ハ部位ニ依テ異ナルモノニシテ思春期ニ於テハ一定部位ノ脂腺及皮毛ノ肥大ヲ致シ皮脂分泌旺盛ニシテ殊ニ鼻翼前額ノ脂膩著明ナルハ吾人ノ經

驗スル所ノ如シ、又老年ニ於テ皮脂分泌ノ増加ヲ見ルニ至ル、之ハ爾餘ノ皮膚成分退行ニ伴フ機能増進ト看做スベク高齢者ノ毳毛發育ヲ來スト同様ナルベシ、而シテ脂腺分泌ノ初マルハ胎生時後半期ニ於テ已ニ之ヲ認ム即チ初生兒皮膚ノ脂衣之ナリ、又其生後初週ハ皮脂分泌幾ト認メザルモ爾後輕微ニ存積シ以テ思春期ニ至ル

然シテ皮脂ノ時トシテ排泄管中ニ蓄積シ白色膏様ノ塊ヲナスコトアリ之ヲ面皰ト云フ、又皮脂中ニ血液含有中ノ或ル種ノ物質例之ハ沃度臭素ノ如キヲ排泄シ來ルコトアリ、之レ脂腺ノ或種疾患ト原因的關係ノ存スルヲ證スルモノナリ

(二) 皮膚呼吸

皮膚呼吸ハ極メテ輕微ニシテ炭酸瓦斯ノ排泄量ハ肺ノ二百二十分ノ一ニ當リ酸素吸收量又其百八十分ノ一ニ過ギズ、然シテ食物消化ノ時或ハ皮膚充血肺呼吸障礙ノ際ハ多少皮膚呼吸ノ増加ヲ來ス、而シテ皮膚ヨリハ多量ノ水蒸氣ヲ出スモノニシテ肺呼吸ノ幾ト倍加即チ一日中ニ體温ノ六十七分ノ一ヲ消失スト云フ、之ヲ不知覺的皮膚呼吸ト稱シ主トシテ汗腺ニ由リ行ハレ一部ハ角層ニ由ルモノ、如シ

(三) 皮膚ノ吸收

皮膚ノ吸收力ハ人體ニ於テハ頗ル微弱ニシテ、殊ニ固形體ハ完全皮膚ヨリ決シテ吸收セラレズ、然リト雖モ加壓ニ由リ幾分其吸收ヲ見ルコトアリ、而シテ液動體ハ豫メ表皮角層ヲ膨脹セシムレバ水分中ノ溶存鹽類ノ如キモノヲ合併セテ多少吸收ス、左レド脂膩ニ被ハレタル角層ハ毫モ液體ヲ滲透スルコトナシ、獨リ瓦斯體ニ至テハ健全皮膚ヨリ往々體中ニ竄入ス、從テ體温ニテ瓦斯體ニ變化スル或種ノ藥物例之ハ水銀軟膏ノ如キハ容易ニ吸收セララル、モノトス、又脂肪及之ニ溶解セル物質モ能ク吸收スルモノナリ、此事實ハ吾人皮膚ニ取リテ最モ重要ナル事ニ屬ス、即チ硫黃、昇汞、沃度

等ハ皮脂及表皮脂肪ニ溶解スルヲ以テ角層ヲ通過シ得ベキモ食鹽醋酸鉛等ノ如キハ脂肪ニ溶解セザルヲ以テ脂油ヲ被ムル角層ヨリノ吸收ハ妨ゲラレモノナリ、故ニ湯水ニ溶解セル沃度鹽ハ吸收セラレザルモ軟膏ニ混和スル時ハ其塗擦ニヨリ吸收セララルヲ見ルベシ、然シテ鹽類水溶液ト雖モ膨脹表皮面ニ長ク作用セシムル時ハ幾分其吸收ヲ見ルコトアルモノトス

(四) 皮膚ノ温熱調節

皮膚ハ特殊ノ構造ニヨリ温ノ放散ヲ増減シ以テ體温ノ調節ヲ營ムモノナリ、即チ皮膚ハ血管分枝ニ富ミ眞皮ノ上下兩界ニ近ク血管網ヲ有スルヲ以テ寒冷ノ際ハ乳頭下血管網收縮シ血液ハ直チニ皮下血管網ニ流入シ温熱ノ際ハ乳頭下血管網擴張シ皮下血管網ノ血液走りテ之ヲ補充ス、故ニ當該血管網ニ屬スル毛細管ノ擴張或ハ收縮ヲ致ス、而シテスタイナハ氏ハ毛細管自己ニモ眞ノ伸縮力ヲ有スト云ヘリ、又滑平筋モ温度ニ對シ鋭敏ナルガ故ニ即チ寒冷ニヨリ收縮シ其際皮膚ハ上下四方ヨリ短縮シテ緻密トナリ以テ毛細管腔ヲ狹溢ナラシム、而シテ温熱ノ際ハ反對現象ヲ呈スナリ、斯ク皮膚血管收縮スレバ皮膚蒼白トナリ血液循環量減少シ體温放散ヲ制限ス、然ルニ血管擴張スレバ血液流注増加シテ皮膚潮紅シ體温ノ放散ヲ多大ナラシム然レ雖血管ニ由ル體温消失ハ限リアルヲ以テ外界氣温ノ上昇又ハ内臟産温増加等一定ノ度ヲ超ユル時ハ別ニ發汗作用ヲ致シ多量ノ體温ヲ放散セシムルモノナリ、ルブネル氏ハ八十疋ノ健康者ガ二十四時間中ニ失フ温量ヲ平均二千七百カロリートスレバ其中二千カロリニハ正シク皮膚ヨリ放散スト云ヘリ、故ニ皮膚發散温量ハ身體發散温量ノ八〇%ト計算スルモノアリ

其他角層ハ温熱ノ不良導體ナルヲ以テ外界高温熱ニ抵抗スルト共ニ過度ノ放散ヲ制禦スルノ作用ヲナセリ、故ニ角層ノ剝脱廣大ナル時ハ過度ニ體温ヲ消耗シ速ニ衰弱ヲ致スノ虞アリ、又毛衣ハ體温調節ニハ禽獸ニ比シ人類ハ被覆僅少ナルヲ以テ彼ノ如ク大ナル價值ヲ有セズト雖頭蓋毛髮ノ如ク密生部ハ放射温ニ對シ掩護ノ作用ヲナセリ

(五) 皮膚ノ掩護

皮膚ハ其機能ノ外筋骨ヲ被覆シ且ツ強韌弾力性ヲ有シテ外力ヲ防衛セルハ其例枚擧スルニ遑アラスト雖其一斑ヲ示スベシ、而シテ皮膚構成部分ニ依リ各々特長アリ相俟テ皮膚官能ノ任ヲ完フス

即チ皮下脂肪組織ハ打撲壓迫等ガ内部器管ニ及ボサマル様外力遮防ノ用ヲナシ、又結締組織及弾力纖維ヲ有スル眞皮ト共ニ骨格運動ガ往々程度以上ニ達スルモ其自由ヲ得セシム等、或ハ表皮ガ其重疊セル角層ニ依テ病因的細菌類ノ侵入ヲ防禦シ化學的外傷ニ抵抗シ又ハ流動體瓦斯體等ノ滲透制限ヲナシ、以テ皮膚ノ乾燥ヲ防ギ或ハ温熱及電氣ノ不良導體トシテ深層組織ニ及ボス侵害ヲ輕減スル等則チ之レチリ

(六) 皮膚ノ知覺

皮膚ハ從來五官ノ一トシテ各種刺戟ノ知覺ヲ説キタルモ決シテ然ラズ、ブリックス、ゴールドシャイデル、フライノ諸氏ハ皮膚ニハ各種ノ知覺ニ對シ專屬ノ神經纖維及神經終末器ヲ存シ觸覺、温覺、冷覺、痛覺ノ四器官ヲ區別ス、而シテ此レ等刺戟ハ毎ニ自己ノ知覺ノミヲ以テ反應シ、又或種刺戟ハ他種知覺器官ニ對シ其効力ヲ及ボサズ、且ツ是等諸種ノ終末器ハ到ル處ノ皮膚中ニ存在スルモノニ非ズシテ、或部位ニハ一種他ノ部位ニハ數種竝ビ存ス、而シテ同種知覺終末器ノ皮膚一平方米中ノ箇數ハ當該皮膚知覺ノ強弱ニ比例スト云フ

フライ氏ハ觸覺神經ハ有毛部ニテハ毛根鞘神經叢ニ不毛部ハマイスネル氏觸體ニ終リ、冷覺神經ハクラウゼ氏終末器ニ入り温覺神經ハルッフイニ氏小體ニ連リ、痛覺神經末端ハ表皮細胞間ニ游離スト云フ、即チ皮膚ノ四知覺點ヲ區別スベシ

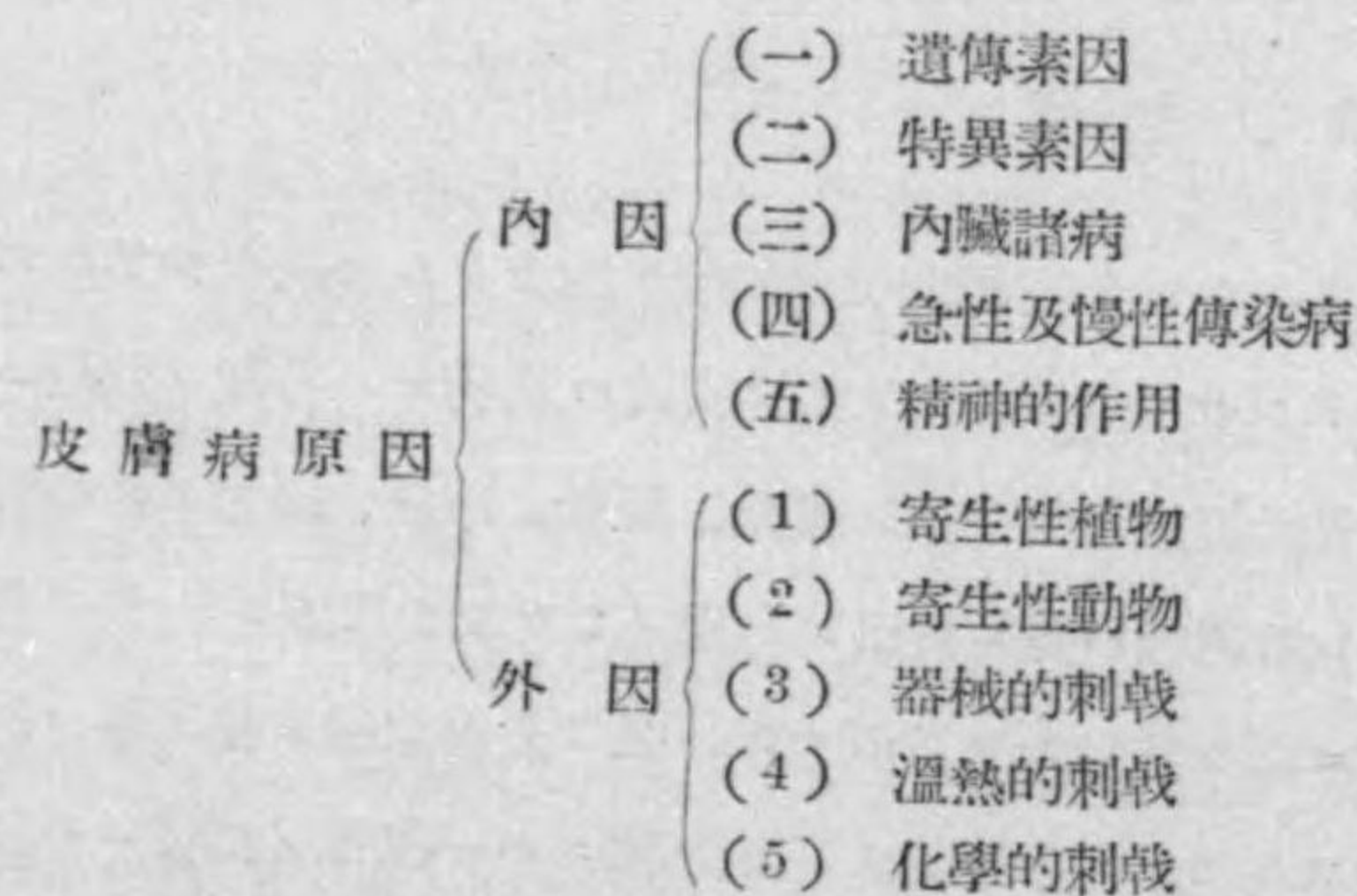
其他皮膚癩痕中ニハ痛點以外ノ知覺器官ヲ有セザルヲ常トシ、四種ノ知覺器官同一部位ニ存スル時ハ一平方種ニ平均温點一二冷點十二觸覺點二十

五痛點百乃至二百箇ヲ有スペシト云フ、其他小兒ハ其終末器ハ大人ニ比シ遙ニ密接スペシ

第四章 病理

(一) 原因概論 Aetiology.

皮膚病ノ原因ハ甚ダ廣汎ニシテ其種類亦尠カラズ、然レドモ今之ヲ大別シテ内因及外因トナシ更ニ細別表示スルトキハ次ノ如シ



内因

(一) 遺傳素因 母斑癌腫等其他多數ノ皮膚病ハ屢々其遺傳的ナルヲ證明セラル、コトアルハ日常吾人ノ經驗スル所ノ如シ

(二) 特異素因 蟹螯貝族等其他食料品ノ食後忽チ皮疹ヲ發生シ、或ハ「アンチピリン」、「ヨードカリウム」等其他藥物ノ内服使用ニ依テ諸種ノ皮疹ヲ發顯スルコトアルハ、是レ所謂其個人的特異素因ニ基クモノト云ハザルベカラザルナリ

(三) 内臟諸病 例之ハ消化器障害、慢性胃腸病等ニ由テ濕疹ヲ來シ黄疽症ノ皮膚癢痒症ヲ伴ヒ、或ハ婦人生殖器病ニ因テ黄斑ヲ生ズル等、或ハ其内臟疾患ノ増進及消退ト共ニ皮疹ノ運命ヲ同ジフスル如キハ、其原因的關係ヲ有スル者ト云ハザル可ラザルナリ

(四) 急性及慢性傳染病 例之ハ腸窒扶斯、麻疹、痘瘡等ニ其皮疹ヲ發生シ又梅毒、結核、癩病等ニ由テ皮膚ニ諸種ノ症候ヲ呈スル如キハ其結果ニ外ナラザルナリ

(五) 神經的及精神的作用 後天白斑病、天疱瘡及皮膚壞疽等ノ諸症ハ末梢神經及中樞神經ト其關係ヲ有スル者ノ如シ、之レ發疹ノ對側的ニシテ一定外形上ノ標徵ニアルハ其疑ヒノ存スルヲ見ルベシ、又感情ノ激動ニ由テ皮膚血量ノ増減ヲ來シ例之ハ憤怒ニ滿面朱ヲ漲ギ恐怖ニ面色土ノ如ク耻羞忽チ紅ヲ潮スル如キハ吾人ノ常ニ目撃スル所ナリトス

(外因)

(一) 寄生性植物 皮膚ニ存在スル寄生物ニ關スル吾人ノ智識ハ現今尙ホ幼稚タルヲ免カレズ、而シテ寄生性植物ナル絲狀菌ノ黴風黃癬ヲ生シ結核菌ノ小創ニ侵入シテ屍毒結節ヲ形成スルガ如キ皆之ナリトス

(二) 寄生性動物 該寄生物ノ皮膚疾患ヲ惹起スルハ其器械的或ハ化學的作用ニ由テ皮膚上皮ヲ鬆粗ナラシメ、或ハ充血滲潤出血等ヲ招致シ、又ハ癢痒症ヲ發スル者ニシテ最モ屢々吾人ノ遭遇スル所ナリ

(三) 器械的刺戟 摩擦壓迫等ニ因テ皮膚ノ肥厚若クハ胼胝ヲ生ジ、或ハ搔爬ニ由テ表皮ノ剝脫ヲ來シ、或ハ濕疹ヲ誘起スルガ如キ等之ナリ

(四) 溫熱的刺戟 日光、火焰、熱體及熱蒸氣等ノ皮膚潮紅灼熱竝ニ水疱等ヲ發生シ、或ハ嚴寒ノ凍瘡ヲ來サシムルガ如キ之ナリ

(五) 化學的刺戟 酸類及亞爾加里類ノ皮膚ヲ腐蝕シ或ハ軟膏類貼用部ニ皮疹ヲ生ズル等之レナリ

以上論述セル所ノ外原因ト密接ノ關係ヲ有スル者アリ、則チ年齢、男女

兩性、職業並ニ氣候之レナリ

(一) 年齢 哺乳期ニハ濕疹、蕁麻疹、皮膚漏等ヲ多發シ 春季發動期ニ於テハ面皰瘡最モ多ク 老人期ニハ皮膚癢、疥癬、瘙癢症等比較的多シトス

(二) 男女兩性 婦人特有ノ妊娠黃斑ノ如キアリ、或ハ其他男子ニ多クシテ女子ニ少ナキ者アリ、或ハ至ク之ニ反スル者アリ

(三) 職業 手工ニ從フ者ハ胼低ヲ發シ 下婢洗濯夫等ハ往々凍瘡ニ罹リ易ク、又獸皮獸毛獸肉ヲ取扱フ職業者ハ往々惡性膿疱其他獸類ヲ犯ス疾病ノ傳染ヲ受クルコト多ク、又醫師解剖家ノ屍毒ニ感染スルノ機會多キガ如キ之レナリ

(四) 氣候 夏期ニ多發スル者アリ、或ハ冬期ニ多發スル者アリ、或ハ四季不定ニ存在シ、或ハ春秋ノ季ニ於テ稍ヤ流行性ニ來ル者アリ、其他彼ノ象皮病ノ如ク溫暖ナル地方ニ多クシテ 寒冷ナル地方ニ少キモノアルガ如シ

(二) 症候概論 Symptome.

皮膚ノ病變ハ一部層又ハ附屬器管ノミニ局限スルコトアリ、或ハ其全層ヲ浸シ甚シキハ深部器管並ニ組織ニマデ波及シ、或ハ又深部ヨリ續發的ニ皮膚ニ傳播スルコトアリ、其皮膚病變ノ狀態ヲ吾人ハ皮膚疹 **Efflorescenz** ノ發生 (發疹 **Exanthem**) ト稱ス、其形狀千差萬別殆ド不定ナル如モ仔細ニ之ヲ觀察スレバ又一定ノ規律ニ隨テ發生セル者多キヲ認ムベシ、而シテ偶々發疹ガ或ル原因的影響ノ爲ニ初發形狀ト相反スルガ如キ外觀ヲ呈スルコトアルヲ注意セザルベカラズ、今次ニ疾病ニ由テ直接發生セル者ヲ原發皮膚疹 **Primärefflorescenzen** ト名ケ、其原發疹ガ變化シテ生ズル者ヲ續發皮膚疹 **Secundärefflorescenzen** ト稱シ以テ其發疹諸形ヲ類別概説スベシ

- | | | |
|-----|---------------|-------------|
| 疹 | 原發疹 | (1) 斑 |
| | | (2) 丘疹 |
| | | (3) 結節 |
| | | (4) 苔癬 |
| | | (5) 瘤塊又ハ大結節 |
| | | (6) 蕁麻疹 |
| | | (7) 水疱 |
| | | (8) 大水疱 |
| | | (9) 膿疱 |
| 續發疹 | (一) 上皮剝脫又皮膚剝脫 | |
| | (二) 潰瘍 | |
| | (三) 皸裂 | |
| | (四) 鱗屑 | |
| | (五) 癩皮 | |

原發疹 Primäre Effloreszenzen.

(一) 斑 (**Fleck, Macula**) トハ皮膚表面ヨリ隆起セザル斑紋ニシテ則チ限局性皮膚變色ヲ指ス者ナリ、而シテ赤、褐、黃色等更ニ各種ノ潤色ヲ呈スルヲ見ル、其形狀及大小ハ千態萬狀ニシテ發生原因等又種々ナリ、或ハ先天性ニ來リ或ハ後天性ニ發スル者アリ、然レドモ其因タル血管系統内ノ病理的變化ニ非ザレバ必ズ色素ノ異常ニ基クモノニシテ、則チ其病變真皮中ニ存シ觸知スベカラズ

斑ノ赤色ヲ呈スル者ハ單純充血或ハ炎症或ハ乳頭層又ハ真皮ノ血管充潮或ハ溢血ニ因テ生ズル者ニシテ、加壓褪色シ其壓ヲ去レハ忽チ舊態ニ復ス而シテ其大サ爪甲大以下ヲ薔薇疹 **Roseola** ト名ヅケ、其以上ヲ紅斑 **Frythema** ト云フ、又タ其赤斑内細小血管ノ蜿蜒タル者ハ毛細血管擴張症 **Teleangiektasien** ニシテ其先天性ナル者ハ血管性母斑 **Naevi Vasculosi** ナリトス、又充血斑ニシテ他皮膚疹ヲ圍繞スル者ハ之ヲ暈 **Halo** ト稱ス

而シテ溢血性赤色斑ハ加壓消失セズ、之ヲ總稱シテ紫斑 **Pur Pura** ト

云ヒ、其小圓形點狀ヲナス者ヲ血點 **Petechiae** 線狀ヲナス者ヲ血條 **Vibices** ト云フ、其大ナル者ヲ大溢血斑 **Ecchymosen** ト稱ス、而シテ初ハ鮮紅色次デ暗紫色、綠色、黃色トナリ遂ニ自ラ消失ス

又皮膚色素ノ過度集積又ハ色素ノ沈着ニ由テ黃褐色乃至黑色ノ斑ヲ來スコトアリ、則チ黃斑、雀卵、夏日斑、色素性母斑等ノ色素斑 **Pigmentflecke** 之ニ屬ス、而シテ色素沈着ハ慢性炎ノ後ニ多シ、其他皮膚色素ノ缺如ノ爲ニ白斑 **Vitiligo, Leucoderma** ヲ生ジ往々先天性全身白皮病或ハ局處白皮病又ハ後天性白斑病トシテ之ヲ認ムベシ、而シテ此色素ノ集積及缺如ニ依テ來ル斑紋ハ如壓褪色セザル者トス

(二) 丘疹又小丘疹 **Knötchen, Papula** 皮膚ノ充實性最小隆起ニシテ多少抵抗ヲ有シ限局ス、其大サ粟粒大乃至豌豆大ノ圓錐形又ハ半球形或ハ扁平若クハ多角形ヲ呈シ其色ハ赤色或ハ蒼白色等數種アリテ一様ナラズ而シテ有棘層肥厚スル時ハ有棘層増殖又表皮肥厚 **Acanthese** ト名ケ同時ニ角層肥厚ヲ伴フモノナリ、又丘疹中心ニ輕微ノ漿液ヲ含ムモノアリ之ヲ漿液性丘疹 **Sero Papel** ト云ヒ濕疹性丘疹ノ如キ之ナリ

(三) 結節 **Knoten, Tuberculum**, 豌豆大乃至榛實大實質性ノ皮膚變狀ニシテ、其皮膚表面上ニ隆起シ或ハ皮下ニ埋沒ス、其他丘疹ニ於ケルト殆ド同一ニシテ丘疹ヨリ更ニ大ナリ

(四) 苔癬 **Lichen**, 小結節ニシテ終始一貫變形ヲ爲サズシテ成立シ所謂實質性丘疹 **Solide Papel** ナリ

(五) 癩塊癩腫又ハ大結節 **Phyma Knollen** 榛實大乃至手拳大ニ至ル所謂結節ノ大ナル者ト見做ス可キ者ニシテ、通常半球狀稀ニ扁平或ハ球形ヲナシ或ハ莖ヲ具有ス、而シテ其莖ヲ具有スル者ハ屢々懸垂性腫瘍ヲ形成スルヲ見ルベシ

(六) 蕁麻疹又發斑 **Urtica, Quaddel** 限局性ノ水腫様扁平隆起ニシテ淡紅色乃至白色ヲ呈シ紅暈ヲ有ス、而シテ其實硬ク突如トシテ現レ又忽然トシテ消滅スベシ、蓋シ該疹ノ發生ハ有棘細胞間腔ニ漿液浸潤ヲ來シ同

時ニ其下層ノ乳頭内ニ限局性滲出ヲ來スニ由ル、而シテ其形圓形環狀或ハ不正ニシテ小豆大乃至拇指爪甲大ナリ、然レドモ數個相合シテ一大局面ヲ連亘スル者アリ、其吸收セラレヤ毫モ痕跡ヲ貽サザル者トス、自覺症ハ劇甚ナル癢痒ヲ有ス

(七) 小水疱 **Blaschen, Vesicula** 粟粒大乃至小豆大ノ透明ナル内容ヲ有スル表皮ノ隆起則チ小疱ニシテ内容ハ通常水様透明ナリト雖、時トシテ乳様或ハ稀ニ血液ヲ混ズルモノアリ、而シテ其内容物ハ乳頭層血管ヨリ漏出セル血漿ニシテ所在ノ深淺ニ從ヒ疱膜ノ強弱ヲ異ニス、形ハ球形若クハ圓錐形ヲ呈シ時ニ頂點陷凹シ所謂臍窩 **Dellea**, ヲナス者アリ

其他小水疱ハ經過甚ダ速ニシテ内容ハ吸收セラレ水疱ハ陥沒シテ治癒スルカ然ラサレバ膿様ニ變ジテ遂ニ膿疱ニ移行スル者トス、而シテ疱疹又同疔疹ハ水疱ノ集簇セル義ニシテ天疱瘡ハ其反復シテ發生スル水泡ヲ稱ス

(八) 大水疱 **Blase, Bullo**, 雀卵大乃至鵝卵大或ハ其以上ニ到ル大水疱ニシテ萬般ノ性狀ハ悉ク小水疱ニ同ジ只其大ヲ異ニスルノミナリ、而シテ表在性ニシテ疱膜薄キ天疱瘡ノ如キ者モアレバ、深在性ニシテ火傷性大水疱ノ如ク疱膜厚キ者アリ

(九) 膿疱 **Pustel, Pustula**, 水疱ニ白血球ヲ混ジ膿汁様混濁セル内容ヲ有スル皮膚膨起則チ膿水疱ニシテ、圓形若クハ圓錐形ヲ呈シ其色ハ黃色黃綠色或ハ褐綠色ナリ、而シテ大小水疱ノ小有機體侵入ニ由リ、或ハ理化學的影響ニ因テ本病ニ變化シ來ル者アリ(濕疹膿疱疹等)或ハ真皮ノ炎症ヨリ發スル者アリ(水痘痘瘡梅毒疹等)或ハ又毛囊及毛囊周圍ノ炎症ヨリ來ル者アリ(鬚瘡瘡毛囊周圍炎等)、而シテ其小ニシテ淺在ナルヲ小膿疱 **Impetigo** ト云ヒ、大ニシテ深在真皮ニ達スルヲ大膿疱又深膿疱 **Ecthyma** ト云フ

其他膿疱ノ消退スルヤ疱膜陥沒シテ膿液ハ凝固シ疱膜ト共ニ乾燥シテ痂皮ヲ形成ス、之ニ血液ヲ混ズル時ハ黑褐色ノ血痂 **Blut Borke** ヲナス、而シテ其痂皮下ニハ表皮ノ再生ヲ來シテ全ク治癒スベシ、然リト雖時トシテ

其病勢盛ナル者ハ炎症尙ホ持續シテ痂下膿ヲ醜シ遂ニ痂皮ヲ排濟シテ潰瘍ヲ形成スルニ到ル者アリ、而シテ其膿疱治癒後ニ癩痕ヲ貽スヲ見ルハ之レ全ク表皮ノミナラス真皮モ共ニ侵害セラレシ結果ニ外ナラズ、去レバ其癩痕ノ有無ヲ檢シテ膿疱ノ性質ヲ推究スル事敢テ難ニ非ズ、而シテ痂皮ヲ有スル膿疱ヲ膿癩疹(小膿疱)ト云フ

續發疹 Secundaren Effloreszenzen

(一) 上皮剝脫又糜爛 **Erosion** 及表皮剝脫又搔痕 **Excoriation** 皮膚角質層ノミ剝離スルヲ上皮剝脫又糜爛ト云ヒ、深ク真皮ニ達スルヲ表皮又ハ皮膚剝脫或ハ搔痕ト云フ、而シテ器械的殊ニ搔爬ニ由テ生ズル者ナリト雖又化學的作用ニ由テ生ズルコトアリ、又大小形狀ニ至テハ其原因ニ從テ異ニシ則チ爪ヲ以テ搔爬セシモノハ線條ヲナシ、摩擦ニ因ル者ハ其器ノ形狀ニ類シ其他水疱、膿疱等原發疹ヨリ變ジタル者ハ其原發疹ノ形ヲ存スルヲ見ルベシ

(二) 潰瘍 **Geschwur, Ulcus**, 真皮ノミナラス尙ホ其深部則チ皮下組織ヲモ缺如セシムル所謂續發疹ニシテ、其表面ニ排泄シ來ル液ハ常性膿汁ト大ニ異ニシ則チ肉芽ノ發生ヲ妨害スルノ性狀ヲ有スルモノトス、而シテ潰瘍ニハ底面ト邊緣ヲ區別ス可シ、邊緣ニハ平滑ナル者或ハ犬牙狀、侵蝕狀、洞狀、提塘狀等ヲ呈スルヲ見、又底面ハ深淺其他汚穢膿汁ヲ被ムル者壞疽狀ヲナス者肉芽ヲ有スル者等ヲ認ム可シ、其他潰瘍全體ノ形狀ニ就テハ圓形、橢圓形、腎臟形或ハ蛇行狀若クハ椀盆狀、皿狀ヲナスモノアリトス、其經過ニ到テハ急性慢性素ヨリ一ツナラズ

(三) 皸裂又裂傷 **Rhagades, Fissura** 皮膚ノ彈力性ヲ失シ遂ニ其緊張ニ由テ分裂セラレテ發スル溝狀ノ皸裂ニシテ、淺キハ上皮ニ止マリ深キハ真皮ニ達ス、而シテ其高度ナル者ニ到テハ底面ニ出血或ハ糜爛ヲ認メ邊緣峻狀ヲナスヲ見ルベシ、多ク屈伸、開閉、收縮等運動屢々ナル處ニ來リ殊ニ指趾、肘、膝、手掌、口角、肛門、陰囊等ハ其主ナル部位トス

(四) 鱗屑 **Schuppen, Squama**, 表皮細胞ノ角質變化シ皮膚面上ニ推積シ或ハ已ニ剝離セル角質層ノ小板ニシテ尙ホ皮膚面上ニ附着シアル者ヲ云フ、其小ニシテ糠秕或ハ麵粉ノ如キヲ糠秕狀落屑又枇糠疹 **Desquamation Pityriasis** ト云ヒ、大ニシテ葉狀或ハ膜狀ヲナセルヲ膜樣落屑又落葉脫皮 **Desquamation Membranacea** ト稱シ、更ニ大ナルヲ莢狀落屑 **Desquamation Siliquoso** ト名ケ、其他角層細胞過度ニ増殖スル時ハ角質過生又角質増殖 **Hyperkeratose** ト云ヒ、其固着シテ肥厚スルヲ角化症 **Keratosis** ト名ケ、細胞完全角化セズ染色核ヲ有スルヲ不全角化ト稱ス

(五) 痂皮 **Kruste, Borke, Crusta**, 滲出物則チ漿液、膿汁或ハ血液等ノ皮膚上ニ乾固スル者ヲ云フ、而シテ漿液ヨリ生ズル者ハ其色黃色ニシテ護膜或ハ蜂蜜色ヲ呈シ、膿汁ヨリスルハ帶綠色血液ヨリスルハ暗褐色乃至黑色ヲ呈スベシ、又其厚薄ニ到テハ滲出物ノ多少ニ關スル者ナリ

其他中央ヨリ漸次周圍ニ向テ結痂スル者ハ恰モ盤渦狀ヲ呈スベシ、斯ノ如ク中央ガ治ニ近クモ周圍ノ病勢盛ナル者ハ中央凹陷シ之ニ反シテ周圍ノ治ニ近キ中央病勢盛ナル者ハ中央隆起ス、而シテ又屋瓦狀ニ層重隆起セル痂ヲ結フ者ハ之ヲ蠟殼疹又ハ汚疹 **Rupia** ト稱ス

(三) 經過轉歸及豫後概論

皮膚病ノ經過ハ概シテ一定セズ、其急性症ニシテ或ハ慢性經過ヲトリ、或ハ慢性症ニシテ急性經過ヲトル者アリ、或ハ疾病經過中更ニ他ノ皮膚病ヲ誘起シ其經過ヲ延長スルモノアリ、例令ハ疥癬ノ濕疹癩腫ヲ誘起スルガ如シ、而シテ其最モ急性ニ經過スル者ニ在テハ僅ニ數時間ニ過ギズト雖其最モ長キ者ニ到テハ終生治セザル者アリ、其他又往々皮膚病經過中ニ於テ內臟其他ニ疾患ヲ續發スル事アリ、而シテ其豫後轉歸ニ到テハ皮膚疹ノ毫モ其癩痕ヲ留メズシテ治スル者アリ、或ハ色素沈着ヲ殘シ或ハ癩痕ヲ貽シ或ハ全ク不治ニ終ル者等アリ、從テ其豫後ノ善良ナル者或ハ患部ニ醜形ヲ止

メ只生命上ニ關セザル者アリ、或ハ全然治癒セズ若クハ甚ダ危險ニシテ豫後ノ全ク不良ナル者等アリトス

(四) 診 斷 概 論

皮膚病診斷ハ甚ダ困難ナル者ニシテ之ヲ確診セント欲セバ其一班ヲ見テ直ニ其斷案ヲ下スベカラズ、則チ發疹ノ狀態蔓延ノ影況部位及其族生配列ノ模様、進デ其變形等ヲ充分ニ觀察スルノ外全身ノ髮膚並ニ患者ノ全體ヲ檢診シ粘膜等モ其異狀ノ有無ヲ精査ス可シ、之レ原因條下ニ述ベタル如ク皮膚病ト内臟諸病ハ其相關スル所甚ダ深ケレバナリ、而シテ其診斷ハ殆ド唯他覺的症候ヲ以テ主トナシ、既往症及自覺症等ニ向テハ信ヲ置カザルヲ例トスベシ、之レ往々診斷ニ迷誤ヲ來ス事アルヲ以テナリ、故ニ發疹ニ就テ精密ノ觀察ヲ施シタル後可及的全身各部ヲ診檢シ其經過ニ着眼シ以テ病症ニ對シ略ボ診斷ヲ下シ、而シテ既往症ヲ聞クヲ可トス可シ、殊ニ花柳病性發疹ニ於テ然リトナス

今次ニ發疹ノ診査模型ヲ表示スベシ

皮 疹	視診	— 發疹ノ種類— 色澤— 大サ— 高サ— 形狀— 表面狀況
		— 集簇ノ狀態(排列蔓延等)— 周圍及基底ノ有様— 部位
	觸診	— 溫度— 硬度— 知覺
		— 鏡驗 — 奇生物及其種類組織ノ變化
問診	— 自覺症— 既往症	

其他色澤ノ加壓消褪スルヤ否ヲ檢スルニ硝子壓(透見法 **Piascaple**)ヲ用ヒ或ハ指壓ヲ用フルモ可ナリ、又三十倍ルーペヲ使用スル時ハ皮疹ノ狀況ヲ視察スルニ好適ナリトス、其他前條陳ブル如ク神經血管、消化器、泌尿生殖器等諸臟器ノ疾患の有無等全身ヲ診檢シ、若シ疑ノ存スアラバ進デ排泄物ノ化學的並ニ顯微鏡的檢査ヲ行ハザル可カラズ、而シテ既往症ニ就テハ遺傳特異素因ノ有無生活ノ有様男女職業年齡等ニ注意スベシ

(五) 豫 防 概 論

皮膚病ハ其病因等ノ研究尙ホ未ダ充分ナラザルヲ以テ、皮膚攝生並ニ病因トナル可キ有害物ヲ防遏シ全身ノ衛生法ヲ遵奉スルニアリ、則チ海水浴、鹹水浴其他沐浴ヲ以テ髮膚ヲ清潔ニシ衣服モ亦清淨ナラシメ其刺戟性ヲ避クル等、其他或ハ全身病ノ存スル者ハ之ヲ加療シ且ツ其傳染病並ニ消化器生殖器病等ノ豫防ヲ勉ム可シ、而シテ電工、銀工、鍛工等一定ノ職業者ハ之ニ基ク皮膚病ニ罹ル事多シ、故ニ職工衛生問題ヲ惹起スル所以ニシテ場合ニ依テハ豫防上之等職業者ニ向テ其轉職ヲ要求セザル可カラザルコトアリ

(六) 療 法 概 論

皮膚病療法ハ最モ外界ト密接ノ關係アル皮膚ノ疾患ニ對スルモノナルヲ以テ、一般外科的療法ニ於ケル如ク諸么微體ハ勿論諸種ノ理化學的作用ヲ爲ス可キ外來ノ障害ヲ除クヲ以テ目的トナシ、其疾病時期ニ適應スルノ法ヲ執リ所謂機ニ望ミ變ニ應ズルノ策ヲ以テ其第一義トナス可シ、故ニ終始一藥一法ヲ以テ効果ヲ收メント欲スル如キハ不可能事ニシテ、屢々經過ヲ精査シ藥物ノ交換處置ノ改正ヲ爲ササル可カラズ、例令特效藥ト自認セル藥劑ノ存スル有ルモ各々其特異質ノ存スル有リテ反テ症狀ヲ増悪スル者アリ、左レバ先ヅ其適合ヲ須ク確定シ後チ充分ニ使用スルヲ可トス、又其原因ヲ精査シ内臟器管ノ異常體質ノ如何等ヲ確定スルハ大ニ其根治療法ヲ施スニ向テ必須要件ナリトス、左レバ療法ヲ全身及局處療法ニ分ツベシ、而シテ其治方ハ藥劑的療法ト理學的療法ニ區別ス

(1) 藥 劑 的 療 法

藥劑的療法ニハ外用療法及内服劑、皮下注射等ヲ有ス、而シテ外用劑中又種々ノ種別アリ次ニ治療材料並ニ其種別ヲ列記ス可シ

(A) 治療材料

(1) 水ハ炎症性皮膚病ニ對シ有害ナリトセラレタルモ其効力往々醫藥ニ比ス可キ場合アリ、則チ冷水ハ皮膚ヲ鍊固シ又温湯ハ皮膚ヲ清潔ニナス而シテ温泉ハ身體ヲ强健ナラシムベシ、然レドモ其用法宜シキヲ得ザレハ却テ有害ニシテ例令バ急性濕疹ニ對シテハ尙ホ概シテ不良ノ結果ヲ致スベシ、之ニ反シテ慢性症殊ニ慢性濕疹、乾癬、皮膚癢痒症等ニハ有効ニ作用スベシ、又水ハ電法ニ用ヒ或ハ浴湯トナスコトアリ或ハ藥品ヲ混入溶解スルコトアリ、通常此際ハ硼酸水(3%)「レゾルチン」水(1—2%)プロウキ氏液(明礬一分、鉛糖五分、水百分、用時10—20%ニ稀釋ス)醋酸礬土水(1—2%)等ヲ用ユベシ、然シテ電法ニ冷温二法ヲ有シ冷電法ハ血管ヲ收縮セシメ温電法ハ血管ヲ擴張シ消炎ノ効ヲ有ス、殊ニ熱湯ヲ少時作用セシムレハ收斂ノ効著シ、其他蒸電法ヲ施ス事アリ之ハ電法藥液ヲ浸漬セル布片ヲ桐油紙又ハ護膜紙ヲ以テ包ミ水分ノ蒸發ヲ防グモノニシテ慢性潰瘍ニ於テ表皮形成ヲ促スニ宜シ、又熱湯ヲ布片若クハ海綿ニ漬シ局部ノ反覆濕電法ヲ施ス時ハ一時性血管擴張ヲ起シ後チ甚シキ收縮ヲ來シ以テ急性濕疹、酒渣鼻、皮膚癢痒症等ニ良果ヲ見ルコトアリ、其他熱蒸氣攝氏五十度迄ノモノヲ適當裝置ヲ以テ作用セシムル時ハ浸潤ノ吸收分泌ノ抑制及癩痕形成ヲ促ス、故ニ座瘡、油性面皰、皮脂漏、濕疹等ニ試ミテ可ナルコトアリ

(2) 酒精依的兒「ベンチン」、クロ、ホルム、等ハ皮膚ノ脂肪ヲ脱シ垢滓ヲ去リ又ハ軟膏硬膏類ノ残留セルヲ拭フニ宜シク、又藥品溶解劑トシテ用ヒラレ流動體若クハ脂肪性ノ吸收ヲ促スノ目的ニ使用セラル

酒精ハ消毒消炎ノ効ヲ有ス故ニ蜂窩織炎、創傷、打撲等ニ其50%液ヲ綿帶ニ浸スベシ、又藥品ヲ溶解スルニハ純酒精ニ蓖麻子油(5—10%)ヲ混ジ又ハ餾水ヲ以テ稀釋シ若クハ「グリセリン」、(10%)ヲ加フ、而シテ酒精ヲ皮膚ニ外用スルニハ發散速ニシテ多少ノ粘り氣アルヲ可トス、土肥氏ハ次方ヲ使用セリ

處方 酒精 40.0 蒸餾水 50.0

佩利施林 10.0 (塗布用)

依的兒 ハ單用又ハ酒精ト等分トナシ消毒若クハ藥品溶解劑トナス例令バ

處方 酒精 依的兒 木參兒 各10.0

右參兒丁幾

「ベンチン」ハ主トシテ淨拭用トナス

「クロ、ホルム」ハ主トシテ彈力護膜ノ溶解劑トナス

處方 クロ、ホルム 100.0 グツタベルカ 10.0

(トラウマチ、ン)

此「トラウマチ、ン」ハアウスビ、ツ氏ノ創意シタルモノニシテ之ニ藥物ヲ溶解シ塗布基劑トナス、則チ「クロ、ホルム」ハ速ニ飛散シ藥物ノミ薄膜ヲ作り皮膚ニ膠着シ容易ニ剝離セズ例令ハ

處方 クリサロピン 10.0 トラウマチ、ン 100.0 (塗布用)

(3) 「コロジウム」ハ純液又ハ依的兒「カナダバルサム」單鉛硬膏蓖麻子油等ニ混ジ使用シ或ハ溶解劑トナス、例令バ

單鉛硬膏 15.0 依的兒 20.0 酒精 40.0 コロジウム 60.0 (鉛硬

膏漆劑)ヲ粉劑ノ溶解ニ用ヒ カナダバルサム 1.0 コロジウム 16.0

ヲ「ピロガロール」又、依的兒コロジウム等分ヲ「サリチル」酸溶解ニ用ユルガ如シ

(4) 油脂ハ皮膚分泌ヲ減少シ鱗屑痂皮ヲ去リ表皮細胞ヲ膨大シ皮膚吸收力ヲ増シ、水分乾燥蒸發等ヲ妨ギ表皮ノ形成ヲ促ス作用等ヲ以テ其主用ナルモノトス、之ニ植物性、動物性、礦物性ノ三種アリ

(甲) 植物性ハ又流固ノ二種類ニ區別スベシ

(イ) 流動脂ニ屬スルハ椿油、阿列布油、胡麻油、茶種油、罌粟殼油、蓖麻子油、甘扁桃油、亞麻仁油、大楓子油等アリ又芳香原料トシテ薔薇油刺賢堊兒油、丁香油、「ベルガモツト」油等ノ少量ヲ用ヒラル、而シテ亞麻仁油ハ游離酸ヲ含ミ屢々刺戟ヲ有スルモ石灰水ト等分ニ混ジ善ク火傷ニ用

ヒラル、蓖麻子油ハ酒精ニ溶解スルヲ以テ酒精溶液(5—10%)トシテ用フベシ、又阿列布油ハ特ニ和製ニハ注意シテ新鮮ナルヲ撰ブベシ

(ロ) 固形脂ニ屬スルハ「カ、ヲ」酪、黃及白蠟等ニシテ前者ハ化粧品ニ適シ後者ハ單軟膏原料トナス

(乙) 動物性ハ又流固ノ二種類ニ區別スベシ

(イ) 流動脂ニ屬シ多ク用ヒラル、ハ肝油ニシテ無色透明ナルヲ可トス其游離酸ヲ含有スルモノアリ注意スベシ、多ク腺病性皮膚病ニ内外用トシテ使用ス

(ロ) 固形脂ニ屬スルハ豚脂又家猪脂、牛骨髓、鯨腦「エジプス」鯨蠟等アリ、毛脂ニハ「アデプスラーネ」「アラブリン」刺納林等アリ、孰レモ殆ド無臭ニシテ皮膚ニ粘着シ刺戟性ナク其効相類似ス、刺納林ト華攝林ト一ト二ノ割合ニ混ジタルヲ無水刺納林ト稱セリ、其他豚脂ニ安息香酸(2—4%)ニ混和シタルヲ安息香脂ト稱シ分解ノ虞ナク華攝林ニ代用ス

(丙) 礦物性脂又流固ノ二種類ニ區別ス

(イ) 流動脂ニ屬シ多ク用ヒラル、ハ「ワゾゲン」ニシテ炭化水素ニ阿巽ヲ作用シ油狀トナシタルモノナリ、多ク藥品ヲ溶解シ皮膚ヨリ吸收セシムル効力アリ、沃度(6%)沃度彷彿(1.5%)硫黃(3%)參兒(10%)水銀ワゾゲン等最モ多ク用ヒラル

(ロ) 固形脂中華施林、巴持賓等ヲ主トシテ用フ而シ華攝林ハ石油ノ副産物ニシテ尙石油臭氣ヲ有シ刺戟性アルモノアリ、米國製ノ白色及黃色華攝林ヲ可トス又巴持賓ニ流動ト固形トアリ4ト1ノ割合ニ混和シ使用セラル

(5) 偏里施林ハ其純粹ナルハ引濕性强ク皮膚ヲ刺戟スト雖稀薄ナレハ濕潤性皮膚ニ用フベク其効油脂ニ同ジ、通常水及酒精ヲ加ヘ又ハ溶解劑トナス

(B) 外用藥劑ノ種別

(1) 撒布劑又粉末劑 **Puder** ハ皮膚ヲ保護シ汗脂ヲ吸收シ水分ノ蒸

發ヲ増加シ血管收縮シテ充血ヲ去リ從テ皮膚ニ清涼ノ感ヲ與フ、故ニ主トシテ充血面ニ撒布シ又ハ泥膏ヲ固定シ或ハ軟膏拭去ノ用ニ供スベシ

粉末劑ニ植物性、動物性、礦物性ノ三種アリ

(甲) 植物性ハ澱粉多ク用ヒラル之ニ麥粉、米粉、馬鈴薯粉、山慈姑粉、葛蒲根末、石松子末、豌豆粉等アリ

(乙) 動物性ニハ精製貝殼、鳥賊骨等アルモ使用スルコト殆ドナシ

(丙) 礦物性ハ亞鉛花、滑石、次硝酸砒鉛、炭麻苦、炭酸石灰又白堊硅土等アリ其中最モ多ク使用セラル、ハ亞鉛花滑石等ナリ

就中次ノ處方ハ最モ多ク使用セラル

處方 亞鉛花 5.0 澱粉 5.0

其他粉末防腐劑ヲ前記ノ粉劑ニ伍シテ特殊ノ目的ニ使用スルコトアリ

(2) 軟膏劑 **Salbe** ハ最モ古クヨリ世ニ行ハレタル外用藥ニシテ濕潤面肉芽面等ニ貼用シ表皮形成ヲ促ス、其基礎藥トシテハ前記油脂類ニシテ最モ多ク使用スルハ單軟膏トナス

處方 黃蠟 1.0 胡麻油 2.0 (日本藥局方)

硼酸軟膏其他各種ノ藥物ヲ伍シタル軟膏類ハ單軟膏ヲ基礎トナスベシ單ニ華攝林又ハ刺納林等ニ混和シタルハ眞ノ軟膏トシテノ用ヲ完フシ難シ、

其他軟膏交換時ニハ粉末劑(亞鉛花澱粉)ヲ以テ患部ヲ拭ヒ軟膏刺戟ニヨル所謂藥カブレヲ豫防スベシ、今次ニ一二ノ軟膏處方ヲ示スベシ

處方 單鉛硬膏 阿列布油 各10.0

右溶和(ヘブラ氏軟膏)

處方 亞鉛花 10.0 單軟膏 80.0 澱粉 10.0

右爲研和軟膏(亞鉛花軟膏)

(3) 泥膏劑則巴斯答又ハ捏粉劑 **Pasta** ハ油脂ト粉劑ノ泥狀ニ煉和シタル物ヲ云ヒ専ラ乾燥作用ヲ目的トスル際ニ用ユ、其質鬆粗ニシテ皮膚分泌物ヲ吸收シ軟膏ヨリハ清潔ニシテ屢々纏帶ヲ省キ得ルノ利アリ、通常泥膏ノ良好ナルモノハ薄ク塗布シテ其粘着性ノ強キヲ可トス、而シテ泥膏

劑使用ノ上ニ更ニ粉末劑例之ハ亞鉛花澱粉ノ如キヲ撒布スルヲ法トス、今
次ニ二三泥膏劑處方ヲ示ス

處方 亞鉛花 澱粉 各25.0 華攝林 50.0
右爲泥膏(ラツサー氏泥膏)

處方 水揚酸 酸化亞鉛 澱粉 各12.0 華攝林 25.0
右爲泥膏(ラツサー氏水揚酸泥膏)

處方 亞鉛花 40.0 阿列布油 60.0
右爲泥膏(ラツサー氏亞鉛花油)

處方 レゾルチン 10.0 ラツサー氏泥膏 10.0
右爲泥膏(ウンナ氏剝離泥膏)

處方 水揚酸 1.0 ツメノール 3.0
亞鉛花 澱粉 各12.5 華攝林 25.0
右爲泥膏(ナイセル氏)

處方 亞鉛花 澱粉 各24.0 サリチル酸 2.0 刺納林 50.0
右爲泥膏(士肥氏刺納林膏)

處方 亞鉛花 5.0 安息香酸 1.0 豚脂 30.0
右爲泥膏(ウキルソン氏膏)

處方 亞鉛花 硫黃花 木參兒 各10.0 豚脂 30.0
右爲泥膏(士肥氏參兒膏)

此他諸家各々得意ノ泥膏アリ枚擧ニ遑アラズト雖前記ノ數劑ハ適好ノ代
表品ニシテ之ニ適宜他ノ藥物ヲ配位スルヲ可トス、而シテ前記士肥氏刺納
林膏ハラツサー氏巴斯答ニ比シ僅ニ硬ク粘著力隨テ強シ、且ツ無刺激性ナ
ルヲ以テ小兒濕疹殊ニ丘疹性濕疹ニ適應ス、若シ夫レ士肥氏參兒膏ニ至テ
ハ其應用範圍廣汎ニシテ急性皮膚炎ヨリ慢性症ニ及シ殆ド使用上制限ノ時
期ナク奏効確實將ニ推獎ニ値スベシ、特ニ脂漏性濕疹、急性及慢性陰囊濕
疹、痒疹性濕疹、毛瘡汗泡等一々列擧スベカラズ、又殺菌力及殺蟲力ヲ有
シ白癬疥癬等ニ用ヒ其効著シ、然リ而シテ普通木參兒使用ノ際ハ焮衝皮膚

ニハ刺戟ヲ與ヘ注意ヲ要スルモ、士肥氏處方ニ於テハ此副作用ヲ豫防シ如
モ參兒ノ効力ヲ完フセシムルノ特長ヲ有セリ

(4) 硬膏劑 Pflaster ハ壓迫及濕潤軟化ニヨリテ藥物ノ深部ニ作用
セシムルノ目的ニ使用ス、故ニ其良品ハ無刺激性ニシテ粘着力強ク且ツ諸
種ノ藥物ヲ混ズルモ其粘着力ヲ失フコトナク、又容易ニ腐散變質セズ薄質
ニシテ多ク藥品ノ含有スルヲ條件トナス、而シテ脂肪酸鉛ヲ基礎トシ之ニ
樹脂蠟脂肪ノ類ヲ加フルモノナリ、現時強力護膜ヲ硬膏製造ニ用ヒ著明ノ
進歩ヲ致セリ、今次ニ最も多ク使用セラル、モノ二三ヲ例示スベシ

(A) 單鉛硬膏ハ酸化鉛細末、阿列布油、豚脂各五分、蒸留水一分ヲ採
リ先ツ酸化鉛ニ水ヲ加ヘ之ニ阿列布油及豚脂ノ混和セルモノヲ和シ加熱攪
拌シ時々少許ノ水ヲ加ヘツ、煮沸シ硬膏塊トナレバ直ニ溫湯ヲ加ヘ捏轉シ
偏利施林ヲ除キ尋テ重湯煎上ニ於テ水分ヲ去ルベシ、然ル時ハ類黃白色ヲ
呈スル所謂單鉛硬膏ヲ得ベシ、之レハ諸種ノ硬膏及ヘブラ氏軟膏ノ基礎劑
トシテ應用セラル

(B) 水銀硬膏ハ水銀三十分無水刺納林十五分ヲ研和シ之ヲ黃蠟十五分
單鉛硬膏九十分ノ溶和物中ニ混ジ製スベシ、消炎ノ効著シク殊ニ梅毒性皮
膚疹ニ奏効ス

(C) 石鹼硬膏ハ單鉛膏七十分黃蠟十分ヲ加熱溶融シ半バ冷却シタル時
藥用石鹼末五分、阿列布油一分、精製樟腦一分ヲ攪拌投入シ製シタル類黃
色ノモノニシテ之ニ「サリチル」酸十分乃至二十分ヲ加ヘタルモノアリ之
ヲ撒里失爾酸石鹼硬膏ト稱シ、明治三十一年士肥氏教室ニ於テ始メテ製セ
ラレビツク氏硬膏ト假命セラレシヲ今ヤ通稱トナリ居レリ

(D) 「グツタベルカ」硬膏ハウンナ氏ノ創意ニ依リ諸種ノ硬膏ヲ「ムル」
布ニ貼シタルモノニシテ普通用ヒラル、ハ亞鉛花(10%)「サリチル」酸(10
—50%)水銀(20%)等ヲ含ミバイエルズドルフ社ヨリ「ムル」ニ貼シ發賣
セリ、皮膚深部ニ藥力ヲ作用セシムルニ効アルモ久時使用スレバ刺激性ヲ
有ス

(E) 「パラプラスチック」硬膏ハ含有藥品前項ニ同ジク亦同社發賣品ニシテ前者ヨリ粘着力弱ク皮膚ニ硬膏殘片ヲ貼サズ刺激性ナシ、背面肉色使用ニ便ナリ

以上述ベタルハ硬膏劑ノ概要ニシテ其含有藥品ハ各自特意ノモノヲ加味シ製スベシ、而シテ硬膏ハ文火ノ上ニテ布片ヘ延バヌヲ可トス、或ハ布片ヲ熱板上ニ置キ適度ノ溫ヲ保タシメ膏藥筒ヲ以テ硬膏ヲ引延シ可及的平等ニシテ厚薄ナキ様注意スベシ

(5) 糊膏劑 ^{オメント}Linimentum. ハ其作用硬膏ニ近ク軟膏泥膏劑ハ貼用ノ際概シテ繃帶ヲ施スノ煩アリ、或ハ患者ノ堪ヘ難キ場合アリ或ハ患部ヲ刺戟スルコトアリ、斯ノ如ク其使用困難ナル際ニ推賞スベシビツク氏ハ次方ヲ處セリ

處方 トラガントゴム 5.0 偏利施林 2.0 水 100.0

(ビツク氏護膜糊膏)

然レ雖本劑ハ乾燥遅ク粘著ニ不快ノ點アリ土肥氏ハ更ニ防腐ト止痒ノ目的ニテ次方ヲ處シタリ

處方 トラガントゴム 5.0 偏利施林 3.0 亞鉛花 10.0

石炭酸 1乃至2.0 水 100.0 (土肥氏護膜糊膏)

其他布苔、^{フナ}蒟蒻糊、米糊ノ類ヲ以テ製スルコトアリ、殊ニ布苔ハ製法簡易ニシテ粘着力強ク適宜ノ藥品ヲ混ジ製スルヲ得、著者ハ土肥氏ニ從ヒ日常之ヲ使用セリ、先ヅ布苔ヲ水洗シ次デ水ニテ煮沸濾過シ更ニ適度ニ煮詰メ之ニ亞鉛花石炭酸等ヲ混ジ製セリ

處方 布苔 一枚 水 100.0 (煮沸ノ上) 亞鉛花 10.0

石炭酸 1—2.0ヲ加ヘ攪拌ス (土肥氏布苔糊膏)

處方 蒟蒻糊粉 適宜 水 100.0 亞鉛花 10.0

石炭酸 1—2.0 (土肥氏蒟蒻糊膏)

處方 米粉 40.0 水 500.0 安息香酸 5.0 (山田氏米糊膏)

又亞拉比亞護膜漿卵白偏利施林等モ使用セラルコトアリ

處方 偏利施林 十五分 小麥澱粉 一分 微溫ニテ攪拌シ製ス
(佛方偏利施林糊)

處方 イヒチオール 40.0 澱粉 40.0 蛋白溶液 1.0乃至1.5
水 100.0 (ウシナ氏方)

處方 偏利施林 40.0 滑石澱粉 各100.0
1%鉛糖水 200.0 (ベツク氏鉛糊)

而シテ硼酸(3%)「プロモコル」(10%)メントール(2—5%)「ピロガロール」(5%)等ヲ適宜糊膏劑ニ伍用スルモ可ナリ、其他糊膏劑使用法ハ手又ハ筆ニテ塗布シ乾燥スルニ任セ之ヲ除去スル際ハ溫湯ヲ綿ニ浸シ輕ク拭フベシ、然シテ皮膚濕潤面ニハ適セザルヲ常トス、之レ水ニ溶解スルヲ以テナリ

(6) 膠劑又ハ假漆劑 **Leime** ハ糊膏劑ノ一種ト見做スベク凡テ乾燥セル炎症性皮膚症ニ適應スベシ

處方 亞鉛花 30.0 白膠 30.0 偏利施林 50.0 水 90.0

(亞鉛花膠)

本劑ハ固形ナルヲ以テ用時湯煎溶解シテ筆又ハ刷毛ニテ患部ニ厚ク塗布シ綿花ニテ輕ク掩フベシ

(7) 石鹼劑 **Sapo, Seife** ハ皮膚ニ附着セル異物及分泌物ヲ去リ角質ヲ軟和溶解スルノ作用ヲ有シ脂肪酸ト亞爾加里ノ化合ヨリナル、即チ脂肪又脂肪油ニ苛性亞爾加里ヲ加ヘ煮沸シ偏利施林ノ遊離ヨリ生ジタルモノナリ、共加里化合物ハ軟石鹼ヲ得那篤倫ハ硬石鹼ヲ得ベシ、其他粉末或ハ流動ノモノアリ反應ニ從テ中性亞爾加里性及脂肪過剩石鹼ヲ區別ス

硬石鹼即チ固形石鹼ハ中性又中性脂肪過剩那篤倫石鹼ニシテ軟石鹼中皮膚科ニ最モ多ク使用セラル、ハ加里石鹼及綠石鹼ナリ、之ハ角質溶解力強ク皮膚中ニ容易ニ侵入シ消毒力ヲ有ス單用又ハ軟膏劑ニ配伍使用セラル粉末石鹼ハ純牛脂ニ那篤倫油汁ヲ加ヘ煮沸シ乾燥セシメタルモノナリ流動石鹼ハ下山氏流動石鹼最モ多ク使用セラ、之ニ種々ノ藥品ヲ溶解シ

就中5%「ナフトール」ヲ加ヘ使用ス、此物ハ廣ク絲狀菌性皮膚病ニ應用セラル、其他ヘブラ氏加里石鹼精アリ加里石鹼100.0ト酒精50.0刺賢埜兒油0.5ヲ和シ濾過製シタルモノニシテ能ク角質ヲ軟和シ諸種藥品ヲ溶解シ「クロホルム」「テルピン」依的兒「ベンチン」等ノ良賦形藥タリ、藥物石鹼トシテ市場ニ廣ク販賣セラル、ハ參兒、硫黃、「イヒチオール」「ピツチーレン」「クレヲリン」「レゾルチン」「メントール」石鹼等ノ類トス、又機械的作用ヲ主トスルモノニハ大理石石鹼砂及浮石鹼ノ類アリ

而シテ石鹼ノ使用法ハ種々ニシテ直チニ皮膚ニ塗擦シ更ニ溫湯ヲ以テ洗滌スルコトアリ、或ハ石鹼泡沫ヲ輕ク塗布シテ自然ニ乾燥セシムルモノアリ、或ハ乾布ヲ以テ強ク泡沫ヲ皮膚ニ擦入スルコトアリ、或ハ更ニ水密性被布ヲ以テ覆フコトアリ

(8) 其他噴霧劑アリ之ハ藥物中ノ揮發性液體ニ溶解シ後チ始メテ皮膚ニ強大ナル作用ヲ致スモノニシテ、噴霧器ヲ以テ患部ニ撒布ス部位ニヨリ便宜ナルコトアリ、例令バ口腔鼻腔咽頭外聽道女子生殖器等ノ如シ、今一ニノ處方ヲ示スベシ

處方 サリチル酸 10.0 依的兒 90.0

右スプレ用

處方 昇汞 1.0 依的兒酒精 各100.0

右スプレ用

處方 木參兒 25.0 依的兒 37.5 酒精 37.5 刺賢埜兒油 1.0

右スプレ用

(2) 理學的療法

(1) 按摩法

按摩法ハ浸潤ヲ柔軟トナシ其吸收消退ヲ目的トスルモノニシテ硬結性瘰

瘰及寄生性鬚瘰等ニ應用スルコトアリ

(2) 機械的療法

皮膚細小管ノ挫滅ヲ目的トシ亂刺又ハ穿刺等ヲ施スモノニシテ瘰瘡酒渣鼻等ニ應用セラル

(3) 電氣療法

平流及感傳ノ二種アリ平流ハ主トシテ電氣分析術ニシテ毛髮ヲ拔去シ癩痕、息肉、頭部乳頭狀皮膚炎、疣贅、母斑、血管腫、黃色腫、酒渣鼻等ノ類ヲ治療スルニ用ヒ通常30ボルト0.5—5ミリアンペアヲ使用ス、又感電傳流ハ圓形禿髮ノ治療ニ用フ通常ノ電導子又ハ針筆ニテ可ナリ、其他電氣燒灼法ヲ應用スルコトアリ

(4) 光線療法

ファンゼン氏燈 ライン氏燈金屬弧燈、水銀蒸氣燈クロマイエル氏石英燈ウニアル晶燈、熾熱燈等使用セラル主トシテ狼瘡ニ應用セラル、即チ無痛ニシテ副作用ナク治癒面醜形ヲ呈セザルノ長所アリ

(5) レントゲン療法

之レハ光線療法中ニ記入スベキモ特ニ一項ヲ設ケ概述スベシ、而シテ本療法ハ所謂X線ヲ應用スルモノニシテフロインド氏(一八九六年)ガ有毛性色素母斑ノ拔毛ニ試用シタルヲ始メトス、其結果直接健常皮膚ノ細胞毛囊細胞並ニ新生物ノ細胞ヲ侵害シ炎症作用ヲ惹起シ得ルヲ知ルニ至レリ、但シ此反應ハ一定潜伏期ヲ要シ該線ノ硬軟ト放射時間ノ長短ハ反應ノ大小ニ正比シ潜伏期ノ長短ニ反比セリ、而シテ又時トシテ反復放射後其蓄積作用ノ爲微弱ノ放射線ニ依リ既ニ皮膚ニ劇シキ反應ヲ見ルコトアリ

今X線性急性皮膚炎ヲ視ルニ上皮細胞及血管内膜ノ内皮細胞最モ強ク侵害セラル、此事實ハ内臟一部ノ上皮細胞睪丸上皮細胞、卵巢濾胞、淋巴細

胞ノ侵襲ニヨリ證明セラル、所ニシテ脾臟ノ如キハ感受性最モ著シ、其他白血病ニ於テハ新陳代謝ノ變化ヲ證明シ、又皮膚知覺神經末梢端ニ對スル作用トシテ癢痒及疼痛ヲ制止スルヲ認メタリ、然レ雖寄生蟲及細菌ニハ作用輕微ニシテ滅殺力弱シ、又病的増殖細胞ニ對シ幸ニ周圍健全組織ニ及ブコト少シ、而シテ皮膚治療ニ應用スルニ當リ必要ナルハ放射量ニシテ、其分量僅少ナレバ奏効セザルノミナラズ反テ不良ノ結果ヲ來シ、又多量ナレバ皮膚炎又ハ頑固ノ潰瘍ヲ發生スルコトアリ、故ニサブロウ、ノアレ兩氏ノ著色測量表ヲ用ヒ其紅班量ヲ使用スベシ、然シテ現今適應症大略トシテウ・ヒマン氏ハ左ノ如ク定メタリ

(一) 皮膚毛囊器關係疾患 (イ) 圓形禿髮、刺戟、分量小 (ロ) 毛髮過生症、硬管、分量小、反復應用、萎縮又ハ血管擴張症發生ノ危險アリ (ハ) 毛瘡白癬 黃癬脫毛作用結果往々軟膏ニ優ル (ニ) 頭部乳頭狀皮膚炎効用正確ナラズ (ホ) 發汗過多症輕小分量ニテ長ク治療ス

(二) 著明上皮變化ヲ伴フ炎症性皮膚病 (イ) 濕疹殊ニ慢性症ニ適シ癢痒ヲ減ズ (ロ) 尋常性鱗屑疹、紅班發生ヲ避クベシ、一時的良好ナリ (ハ) 扁平赤色苔癬止痒ノ効アリ藥劑療法ト兼用スベシ

(三) 新生物 (イ) 播種狀疣贅、表皮剝離迄用フ間々再發 (ロ) 表皮癌奏効正確 (ハ) 深入性癌腫手術ノ望ミナキ時用フ皮下及内臟腫瘍ニ効力著シカラズ (ニ) 皮膚肉腫、柔軟圓形細胞肉腫ハ退行シ易シ硬紡鐘狀細胞肉腫ハ反應スルコト稀ナリ (ホ) 深在肉腫(圓形細胞肉腫?) 稀ニ退行スルコトアリ豫防的放射ニ適ス (ヘ) 菌狀肉退行ヲ期スベキモ新發生ヲ防ギ難シ (ト) 尋常性狼瘡短クトモ二年以上持續治癒ヲ期スベシ稀ニ狼瘡性癌腫ノ發生ヲ促スコトアリト云フ (チ) 紅班性狼瘡結果確實ナラズ (リ) 血管腫血管擴張性母斑治療ニ適セズ (ヌ) 攝護腺肥大腺性肥大ニハ有効ノ如シ

(四) 有痛性及癢痒性狀態 (イ) 手術不可能ノ場合一時的鎮痛ノ効アリ (ロ) 皮膚癢痒症痒疹ニハ一時的ナリ

(五) 淋巴系病的狀態 (イ) 白血病全身狀態恢復ニハ良好ノ結果ヲ得

タルモノ多シ (ロ) 假性白血病良好對症的成績ヲ得ベシ

其他使用上注意スベキハ同一部面ニ引續キ放射セザルコト、並ニ毎回三週間ヲ隔テ必ず局所反應ヲ検査スベシ

(6) ラジウム療法

之レモ光線療法ノ一種ニシテキュリースクロドフスカ夫人(一八九八年)ノ發見シタル新元素ナリ、治療上ニハ化學的純粹ノラジウム臭素鹽ヲ用フ、之ヲ彈力護膜ノ小匣ニ藏シ表面雲母ノ薄板ヲ以テ密閉ス、其効力ハ強力「ラジウム」標本ノ雲母面ヲ皮膚ニ貼スルコト四五分ナレバ二三週ヲ經テ脫毛シ五分乃至十分ナレバ一時紅班ヲ呈シ十分乃至十五分ナレバ炎症水泡形成(表皮剝離)ヲ來シ治癒ノ後チ輕度ノ皮膚萎縮ヲ見ル、又二十分乃至三十分ニ及ベバ組織壞疽又ハ潰瘍深ク結締織層ニ達シ癩痕治癒ヲ營ミ往々血管擴張症ヲ伴フ、然シテラジウム使用ノ場合ハ前驅反應トシテ局所ニ淡紅色ヲ呈スヲ常トス、適應症トシテハ小表皮瘤疣贅母斑狼瘡(殊ニ結膜鼻口粘膜炎)等トス

(7) 浴 法

浴法ハ全身浴、半身浴、坐浴、灌注法等アリ、而シテ浴湯ニ普通溫浴、藥浴、蒸氣浴等アリテ各有効ナル場合アリト雖反テ其爲病勢ヲ増悪スルコトアリ、故ニ宜シク臨機試用ノ策ヲ執ルヲ可トス、今次ニ一二例示スベシ

(1) 普通溫浴ハ火傷及全身性皮膚剝離症等ニ對シ持續的ニ應用シ有効ナルコトアリ

(2) 藥浴ハ普通溫湯ニ藥物類ヲ投入スルモノニシテ其數甚多シ例之バ(イ) 糠浴即チ糠一升ヲ袋ニ容レ五升ノ水ニテ半時間煮沸シ之ヲ糠袋ト共ニ全身浴槽ニ投ズ、又ハ米磨汁ヲ代用ス癢痒ニ良シ (ロ) 澱粉浴一浴ニ一二磅ヲ混ズ (ハ) 人工鹽浴一浴ニ鹽一貫目又ハ海水溫浴 (ニ) 曹達浴一浴ニ半磅 (ホ) 明礬浴一浴ニ一磅 (ヘ) 過滿俺酸加里浴一浴ニ五瓦乃至十瓦

トナス痒疹癬瘡等=用フ (ト) 單寧浴一浴=百瓦 (チ) リゾール浴一浴
=五乃至十瓦 (リ) 硫黃浴最モ廣ク應用セラル一浴=湯ノ花百瓦乃至二百
五十瓦又ハ硫肝百瓦乃至二百瓦加フ硬結性瘰癧、疥癬其他慢性瘡痒性皮膚
病=用ヒラル (ヌ) 昇汞浴ハ木風呂ヲ用ヒ大人=ハ一浴十瓦嬰兒=ハ二瓦
トス多ク瘰癧瘰癧、全身虱、梅毒等=用フ (ル) カミツレ浴一浴=約半
磅 (ヲ) 松葉湯一浴=四分一磅 (ワ) 乾葉湯一浴=約半磅 (カ) 膠浴一浴
=普通膠一乃至六磅ヲ加フ痒疹、凍瘡=用フ (ヨ) 爹兒浴之ハ木爹兒酒精
依的兒等分ヲ患部=塗布シ乾燥スルヲ待テ十五分乃至半時間入浴セシムル
ヲ云フ但シ此法ハ急性濕疹等=ハ禁忌トズベシ

溫泉ハ硫黃泉、鹽泉、鐵泉等アリ凡テ後療法=適シ、例之ハ慢性汎發性
濕疹ノ藥劑療法後、又ハ梅毒=對スル水銀療法後、或ハ創傷潰瘍等=ヨリ
湯治セシム、然ル時ハ血行ヲ旺ニシ藥力普及ヲ圖リ或ハ肉芽發生ヲ促シ良
好ノ成績ヲ見ルコトアリ、然レ雖單ニ溫泉ノミニテハ皮膚病根治セズ却テ
増悪スルコトアリ、或ハ一時輕快スルモ家=歸レバ病症再ビ萌生スベシ、
時トシテ溫泉ノ効用ト氣候ヲ利用スルコトアリ、例之ハ小兒蕁麻疹性苔癬
痒疹、慢性濕疹等=於テ高山深嶺ノ溫泉良ロシキガ如シ、近時「ラジウム
エマナチオン」ノ此種溫泉=含有スルニ基クト稱シ之ヲ證明セリ、蓋シ溫
泉効用ハ之ヲ飲用シ又ハ含有スル空氣ヲ吸入スル等大ニカアルナルベシ、
而シテ腺病性皮膚病=ハ海岸溫泉良好ナリトス

皮膚寄生菌檢索法概説

皮膚病ハ諸般ノ醫學中未ダ幼稚ナルヲ免カレズ、蓋シ其本態ヲ明ニセザ
ルモノ頗ル多キガ故ナリ、而シテ現今既ニ其存在ヲ認メラレタル病原=向
テハ之ガ檢索ヲ施スハ確診上當然缺ク可カラザルノコト=屬ス、而シテ皮
疹相互ノ形狀色及其蔓延狀態等酷似スル者=於テハ殊ニ其寄生菌本體ヲ窮
メザルベカラザルナリ、斯ノ如ク病原菌ノ檢索ハ實地上必要條件タルノミ
ナラズ、又學術上緊要事項=屬セリ、即チ今其檢査法ヲ略述セントス、然

レドモ其詳細=到テハ細菌學書ニ讓ラザルベカラズ

(一) 「トリコフイトン、トンズーランス」=因ル者

(イ) 水泡性寄生性匍行疹

(ロ) 薔薇色糠枇疹

(ハ) 頑癬寄生性鬚瘡

(ニ) 寄生性爪甲炎(「トコツイトン」=因ル)

(二) 「アホリオン、シエンライニ」=因ル者

(白) 黃癬、爪甲白癬

(三) 「ミクロスボロン、フルフル」=因ル者

癬風

(四) 「ミクロスボロン、ミヌチツスムス」=因ル者

紅色陰癬

(五) 「ミクロスボロン、ヲボイデン」=因ル者

ビエドラ

(イ) 「トリコフキトン、トンズーランス」 *Trichophyton tonsurans*

ハマルムステン氏及グリユービー氏 (1844) ノ發見セル一種ノ絲狀
菌ニシテ、僅少芽胞ノ鏈鎖狀ヲナスモノ及分岐セル菌絲ヨリナリ、其人工
培養ハ馬鈴薯「グリスリン」寒天培養基ヲ可トスベシ、サブロー氏ハ大小
二種アリトシ大ハ無毛部小ハ有毛部ニ來ルト云フ

(ロ) 「アホリオン、シエンライニ」ハシヨエンライン氏ノ (1839) 發
見セル者ニシテ、無數ノ分岐放線狀菌絲ヨリ成リ其枝條ハ廣狹一樣ナラズ
菌絲ヨリ肉双狀ニ分岐シ其末端膨大シ此側方ニ芽ヲ出スベシ、其人工培養
ハ殆ド凡テノ培養基ニ於テ室温3—4日ニシテ發育シ、其色初灰白色ナルモ
後チ黃色トナリ深部ニ向テ發生ス

(ハ) 「ミクロスボロン、フルフル」ハアイヒステツト氏ノ (1846) 發見セ
シモノニシテ網狀ヲナセル短キ菌絲及無數ノ葡萄狀聚落セル芽胞ヨリナル、
而シテ人工培養ハ未ダ正確トスルニ足ル者ナシ、而シテスピエツケエカ氏

(1884)ハ寒天培養基上ニ於テ成効セリ

(二) [ミクロスポーロン、ミスチッスムス] ハブルヒハルト氏 (1859)ノ發見セシ者ニシテ、前者ニ近似シ只其菌絲及芽胞ノ微少及柔軟ニシテ前者ノ約三分ノ一程ニシテ一見恰モ [コツケン] ノ觀アリ、人工培養ハ馬鈴薯 [ゲラチン] 培養基ニ三十七度ニテ發育シ其色赤酒色或ハ褐色ナリト云フ而シテ吾人ノ日常行フ可キ檢索法ニ三アリ、曰ク器械的表皮剝離法曰ク藥品表皮剝離法並ニ培養法之レナリ 今次ニ其概要ヲ説述スベシ

(イ) 器械的表皮剝離法ハ刀刃ヲ以テ表皮ヲ擦過シ 其落屑ニ10乃至20%苛性加里液ヲ加ヘ針ヲ以テ粉碎シ [メチーレン] 青ニテ染色鏡檢ス、然レドモ本法ハ素トヨリ完全ナルモノニ非ズ、之レ寄生菌ノ破碎セラレ表皮層中ノ分佈及發芽ノ狀況ヲ窺知スルヲ得ズ、且ツ治療セシ者ニ於テ殊ニ然リトナス

(ロ) 藥品表皮剝離法ハ前條ノ要求ヲ満足セシムル者ニシテ、ウンナ氏 (1894) 初メテ亞鉛花硬膏ヲ貼シ膠着後注意シテ剝離スレバ表皮角質層モ共ニ剝離シ得タルヲ鏡見セリ、笹川學士ハ膿厚 [チエロイヂンエーテル] ヲ患部ニ貼シ之ヲ剝離スベシト、著者ハ [コロヂユム] ヲ數層ニ塗布シ後チ之ヲ剝離ス試ム可キノ便法トナス、而シテ乾燥スルト同時ニ周圍ノ皮膚ヲ牽引シ癩痕狀ニ收縮スルヲ以テ 其時期ニ於テ周圍ノ皮膚ヲ緊張シツ、剝離シ其皮片ヲ酒精及依的兒等分液中ニ入レ [チエロイヂン] 若クハ [コロヂユム] ヲ溶解シ角質片ノミヲ殘留シ染色ニテ鏡檢ス、染色法ハ リヨフレル氏 [メチーレンブウ] ニテ染色スル カワイゲルト氏 ノ纖維素染色法ヲ用フベシ

(一) 濃厚ゲンチアナ紫酒精飽和液ト 亞尼林水等分液ニ十五分乃至三十分間染色

(二) 0.6%食鹽水洗滌

(三) 漏紙ニテ液分除去

(四) 沃度、沃度加里液中ニ二三分間

(五) 濾紙ニテ乾燥

(六) [アニリン] 油二分 [キシロル] 一分ノ液中ニテ脱色

(七) 「キシロル」ニテ [アニリン] 油除去

(八) カナダバルサム固保

然ル時ハ角質細胞ハ脱色シ 寄生菌ハ紫色ニ明瞭ニ現ハル、複染スルニハ [ピクリン] 酸又ハ [エオヂン] 液ヲ可トス

(三) 培養法 落屑ヲ其儘採取培養スル時ハ 無數ノ菌發生スルヲ以テ [アルコール] ニテ他外部ニ附着セル菌ヲ撲滅シ、後寒天 [ゲラチン] 培養基ニ入レ攪拌シ ペトリ 皿ニ入レ 所謂扁平培養ヲナシテ可ナリト雖、クラール氏ニ從ヒ即チ鱗屑又ハ毛髮ヲトリ キーゼルグール ヲ混ジテ之レト共ニ細磨シ後チ [ゲラチン] 扁平培養トナシ、而シテ室溫又ハ攝氏三十度ニ保タシム可シ

第二篇 各論

第一章 寄生性皮膚病

Parasitäre Dermatose

(甲) 動物性寄生蟲 Tierische Parasiten

カボシー氏 *Kapogje* ハ之ヲ二種ニ區別シ、一ヲ皮膚ニ生息スルモノ、一ヲ毛髮、衣服ニ棲息スルモノトナセリ

疥癬 *Scabies, Kratze'*

意義 疥癬蟲 *Kätzmilbe* ノ皮膚ニ寄生シ、爲メニ生ズル癢痒甚シキ傳染性皮膚病ナリ

原因 本病ノ原因蟲ハ往時ヨリ人ノ知ル所ナリト雖、ヘベラ氏 *Hebra* ノ研究ニ由テ益々明確トナレリ

該蟲ハ床虱類ニ屬シ其成熟セル者ハ肉眼ヲ以テ好ク識別シ得ベシ、雌雄大サヲ異ニシ、雌蟲ハ長サ0.35耗、幅0.23耗、雄蟲ハ長サ0.25耗、幅0.15耗ヲ有セリ、亦肉眼上熟視スル時ハ帶黃白色乃至灰白紅色ノ小球形體ニシテ疾走ス、今之ヲ顯微鏡下ニ(八十乃至百倍ニ廓大ス)檢スル時ハ、背面凸隆シ腹面ハ平坦ニシテ、表面銳刺ヲ生ジ前端ニ圓錐形ノ嘴ヲ具ヘ、體ニ四對ノ脚ヲ有ス、内二對ハ前方ニ二對ハ後方ニ存セリ、其脚ノ尖端ニ長毛ヲ有スルモノト吸着盤ヲ具フル者アリ、雌蟲ハ前脚二對ニ吸盤ヲ有シ後方二對ニ長毛ヲ生ゼリ、雄蟲ハ後脚ノ一對ニ長毛ヲ有スルノミニシテ他ハ悉ク吸盤ヲ具フ、其他雌蟲ハ體雄蟲ニハ陰莖ヲ見ルヲ得ベシ

該蟲ノ寄生スルヤ皮膚角質層下又ハ粘液層下ヲ穿孔シテ生息シ、細長丘疹狀ノ赤色隆起ヲ呈シ、恰モ針ヲ以テ傷ケラレタル如ク、亦皮膚白色菲薄

ナル者ハ往々透見スルヲ得ベシ、雌蟲ハ1.5乃至2耗ノ深キ孔道ヲ穿チ不正S字形ヲ呈シ、其最終端ニ居住セルヲ見ル、雄蟲ハ夫レヨリ稍小ナルS字形孔中ニ存シ、或ハ皮膚面ヲ走行ス、此孔道ヲ所謂蟲道 *Milbengang* ト稱ス、然シテ白色或ハ汚穢ノ爲メ暗黒色ノ線トシテ見ルベシ、亦雌蟲ハ白色ノ二十乃至五十個ノ卵子ヲ此ノ蟲道ニ產出ス、其他黒色若クハ暗褐色ノ糞點ヲ見ルヲ得ベシ

此疥癬蟲ノ卵子ハ四日乃至八日ヲ經テ幼蟲ニ孵化シ、該幼蟲ハ前方二對後方一對則チ六脚ヲ有シ、蟲道ヲ去リテ近傍ニ小孔ヲ穿チ、或ハ蟲道内ヨリ其側壁ニ小孔ヲ穿チ、其内ニ棲息シテ脱皮シ八脚トナル、更ニ尙ホ二回脱皮シ成熟蟲トナリ、其居ヲ出テ皮膚面ヲ逍遙シ以テ雌雄交接スルニ到ルモノナリ

疥癬蟲ヲ鏡見セント欲スル時ハ、針尖ニテ蟲道ノ最深部ヨリ蟲ヲ掘リ出シ、或ハ小剪刀若クハ小刀ヲ以テ隧道全部ヲ切除シ、10% 苛性加里液又ハ「グリセリン」ニ浸シ檢スベシ、而シテ水疱中ノ隧道ヲ取ル時ハ表皮ノミヲ切除シ得ルヲ以テ、眞皮ヲ傷ツケ或ハ出血疼痛等ナキノ利アリトス、亦蟲道ノ證明シ能ハザル時ハ、癢痒アル部位、搔把症候ノ存スル處、或ハ濕疹ニ就テ處置スルモ其目的ヲ達シ得ベシトス、而シテ巧ニ作ラレタル標本ハ蟲道ノ末端ニ母蟲ヲ認メ、蟲道内卵子ハ橢圓形ヲナシテ道軸ニ鉛直ノ方向ヲナシテ存スルヲ見ルベシ

本病ノ傳播ハ人ヨリ人ニ、或ハ亦動物(例之バ犬馬兎猫等)ヨリ妊娠セル雌蟲又ハ多數ノ雌雄兩蟲ヲ同時ニ傳播スルヨリ發スル者ニシテ、多クハ該患者ト同衾シ容易ニ感染スルヲ常トセリ

症候 一定部位ニ於ケル甚シキ癢痒及發疹ナリ、而シテ全身症狀ハ唯癢痒ノ爲ニ犯サルノミニシテ、夜間ハ痒温ノ爲該蟲運動活潑トナリ更ニ搔痒劇甚堪ヘ難シ、亦丘疹若クハ水泡及膿疱ヲ誘發シ、或ハ搔爬ノ爲毛囊炎、濕疹等ヲ惹起ス、其他皮膚ニ發スル變化ノ顯著ナルハ彼ノ蟲道ナリトス、亦長ク持長セバ皮膚肥厚、色素沈着等ヲ來タシ、或ハ體質ニヨリ下肢深部

ノ炎症症狀ヲ起シ、癰腫様變化ヲ來ス事アリ、或ハ婦人ニ於テハ乳房濕疹ヲ生ジ、更ニ乳腺炎ヲ續發スル事アリ、然シテ本病ノ殊ニ特有トスル處ハ其部位ナリトス

部位 其好發部ハ指間、腕關節屈面、前肘關節屈面、腋窩、乳房、前腹部、腰圍部、陰莖、大腿內股及内頸部ニシテ其他衣服等殊更壓ノ加ハル所ニ寄生ス、亦頭髮部、顔面、足蹠等ニハ通常發生絶無ナルモ、時トシテ皮膚軟弱者小兒婦女子ニ於テ稀ニ見ル事アリ

經過 適當ナル療法ヲ施ス時ハ速ニ治癒ス、然レドモ放任スル時ハ數十年ノ久シキニ亙ル事アリ、斯クノ如ク療法ヲ等閑ニ附シ病症高度ニ達スルヲ結痂性疥癬 **Skabies. Crustosa** ト云ヒ、其經過中大水泡ヲ作ル者アリ、之レヲ大水疱性疥癬 **Scabies Bultosa** ト云フ、亦疥癬蟲ノ非常ニ多ク痂皮中ニ群集スル者アリ、之ヲ諾威疥癬 **Norwegische Scabies** ト稱シ、ベツク氏 **Beck** ノ該國ニ於テ始メテ實驗シタルヨリ名ク者ナリ其他鼠蹊腺等ノ淋巴腺腫脹ヲ來シ、所謂「スカービスブーボ」ヲ見ルコトアリ、之レ續發疹ヨリ起炎體ノ浸入シタルニ因ルナリ

診斷及鑑別 好發部、蟲道、劇甚ナル癢痒症ニ依テ容易ニ診斷シ得ベシ尙ホ確診センニハ蟲道ヲ檢索シ疥癬蟲ヲ證明スルニアリ

- (一) 皮膚癢痒症ハ蟲道ナク、又固有ノ部位ヲ有セズ
- (二) 蕁麻疹ハ發疹ノ發現、消失、特有ニシテ、人工的ニ蕁麻疹ヲ發セシムルヲ得ベシ
- (三) 痒疹ハ幼年ニ發シ、痒疹結節、痒疹横痂アリ部位ハ伸展側ニ來ル
- (四) 濕疹ハ蟲道ナク且濕潤アリ、亦部位モ陰莖指間ニ發スル事稀ナリ
- (五) 増殖性肉芽腫ハ發疹多形ニシテ紅斑アリ、亦特有部位ヲ有セズ濕潤アリ

療法 第一治療法ノ目的ハ疥癬蟲ヲ除去スルコト、第二目的ハ續發症ヲ治療スルニアリ、故ニ皮膚ニ刺戟ヲ與ヘズ、先ヅ炎症々狀ヲ水揚酸軟膏等ニテ治療シ、後充分綠石鹼ヲ使用シ溫浴ヲ爲サシム、其後次方ノ内一法ヲ

處スベシ

(1) 「ナフトール」軟膏 (カボシー氏軟膏)

ナフトール	10.0
綠石鹼	25.0
ワゼリン	60.0
滑石	5.0

毎日塗擦四日後入浴

(2) 「ウキルキンソン」軟膏

テエール	10.0
硫黃華	10.0
滑石	20.0
綠石鹼	20.0
豚脂	20.0

四日間毎日一回塗擦シ四日目ニ入浴スベシ

(3) 10%「エピカリン」軟膏 50.0

(4) 5%「ザロール」油

外用塗附

又從來使用セラレン百露拔爾撒謨、流動蘇合香等有効ナルモ朕フ可キ臭氣アリ、且ツ腎臟ヲ刺戟スル恐アルヲ以テ注意スベシ

(5) 百露拔爾撒謨 20.0 酒精 80.0

塗布用

著者ハ常ニ「ナフトール」軟膏ヲ以テ其目的ヲ達セリ、今次ニ使用方法ヲ略述スベシ

(1) 第一日 患者ニ溫浴ヲ命ジ、炎症々狀劇シキ者ハ豫メ之ヲ治シ「ナフトール」軟膏ヲ塗擦ス

(2) 第二日 猶ホ癢痒アル部分ニ限り、該軟膏塗擦ス

(3) 第三日 癢痒訴ヘザレバ入浴ヲ命ジ、衣服ヲ悉ク更新セシムルモ

尙痒痒アレバ前日同様トナス、濕疹ヲ續發スレバ撒布劑ヲ處スルコトアリ

(4) 第三日 以後ハ毎日入浴セシメ専ラ經過ニ注意スベシ、大抵五日乃至七日ニシテ治癒スルヲ常トス

其他硫黃劑及硫黃浴モ有効ニシテ山田氏ハ硫黃糊ヲ製シタリ

處方 硫黃 30.0 米糊 100.0 (外用)

而シテ疥癬ノ多クハ濕疹ヲ合併セルヲ以テ、殺蟲ト共ニ刺戟ニ注意ヲ要スルコトアリ、此際ハ單純硫黃軟膏又ハ土肥氏參兒膏ヲ使用スルヲ可トス又疥癬蟲ノ除去セラレタルモ尙ホ痒痒ヲ訴フル者アリ、斯ノ如キ場合ハ濕疹療法ヲ試ムベシ、又次方ヲ處スルモ可ナルコトアリ

處方 メントール 4.0 チモール 4.0 酒精 200.0 (外用)

處方 エピカリン 3.0 グリセリン 30.0 酒精 200.0 (外用)

小兒ノ疥癬ニハ刺戟ノ弱キモノヲ用フベシ、例之ハ硫黃軟膏等ヲ以テ經過ヲ視察シ臨機處方スベシ

毛囊虫 *Acarus Folli Gulorum*

形状 0.3—0.4耗ノ長經及0.04耗ノ巾ヲ有スル蠕蟲ニシテ、頭、胸、尾ノ三部ヲ有シ、頭ハ短扁平ニシテ其前方尖銳ナリ、胸部ハ極メテ短ク茲ニ四對ノ脚ヲ具フ、尾ハ柳葉狀ヲ呈シ後方ニ到ルニ從ヒ其幅ヲ減ゼリ

症候 特異ノ症狀及自覺症ヲ發セズ、且ツ有害ナラズト雖、ゲ、ジモン氏 G. Simon ハ粉刺ノ元因ヲナシ、レマーク氏 ハ亦座瘡ヲ誘起シタリト述べタリト雖、スチータ氏 Stieda ハ之ヲ打破シタリ、亦グルビー氏 ハ毛髮落脱ヲ該蟲ノ元因ニ歸シタルヲアリキ、其他睫毛ニ寄生スル時ハ眼瞼炎ヲ惹起スル事アリト云フ

部位 毛囊皮脂腺ニ寄生シ、健者ニ在テモ脂肪性分泌物中ニ發見スルヲアリ、其毛囊内或ハ一皮脂腺内ニ凡ソ二個一六個ヲ存スルモ或ハ二十餘個ノ多キヲ算スルヲアリ

囊蟲又ハ胞蟲 *Gysticercus cellulosa*

意義 有鈎條蟲ノ幼蟲カ寄生スルヨリ發ス

原因 第一飲食物等ニ混ジ胃中ニ嚥下セラル、第二自家寄生ノ條蟲其一片ヲ胃中ニ逆入ス、則チ斯クノ如クシテ胃中ニ到レル條蟲片ハ消化セラレテ卵子ヲ遊離シ、其飲食物ト共ニ混入シタル卵子ハ其儘胃壁ヲ通過シテ血行ニ入り、身體各處ニ到リ所謂囊蟲ヲ形成ス

症候 皮膚ニ發生スル囊蟲ハ倫仙豆大乃至胡桃實大ノ緊張アル弾力性軟骨様ノ結節ニシテ、皮下移動シ易ク自覺症ハ全ク欠如セリ、亦レウイン氏 ハ多ク患者ハ初期該部ニ少シク黒色ヲ呈スルヲ認ムベシ、之レ該蟲ノ運動刺戟ニヨリ組織炎ヲ呈スルモノナリト云フ、其他試ミニ該結節ヲ切開シテ半透明ノ囊ヲ摘出シ、更ニ之ヲ切開スレハ透明液ヲ流出シテ條虫頭ヲ證明シ得ベシト云フ

部位 腦髓、眼皮下結締織、筋肉、心臟、肺臟、肝臟等ニ存セリ

療法 皮膚ヲ切開シ以テ囊胞ヲ除去スベシ、或ハブラワツ氏注射器ヲ以テ其内容ヲ吸出シ、沃度丁幾ヲ注射ス、其他豫防法トシテ該患者ニハ其驅除法ヲ施シ卵子ノ散亂ヲ妨グベシ

虱 *Pediculi, Lause*

人體ニ寄生スル虱ハ其形體ト寄生スル部位ニヨリ三種ニ區別セラル、頭虱 *Pediculus capitis* 毛虱 *Pedi Gullus Pubis* 衣服虱 *Pediculus Vestimentorum* 是ナリ

(A) 頭虱 *Pediculus Capitis = Kapflaus*

形状 大サ2—3耗ナリ、而シテ三對ノ脚ヲ有シ、其尖端強大ナル鈎ヲ具ヘ、其傍ラニ更ニ小鈎ヲ具フ、此大小二個ノ鈎ハ以テ毛髮ヲ握ルノ用ニ供ス、而シテ色ハ各人種ニ依リ異ニシ、日本人ニ在テハ暗灰白色、歐洲人ニ

在テハ淡灰白色、黑人ハ黒色、米國ノ土人ハ黄褐色、レスキモー人ハ白色ヲ呈セリ、其他雌蟲ハ雄蟲ニ比シ大ニシテ、常ニ一毛髮ニ數個ノ卵ヲ附着産出ス、其卵子中最モ頭皮ニ近キ者ハ古クシテ、毛髮ノ末端ニ到ルニ從ヒ新ナリトス、而シテ卵子ハ六日ニシテ幼蟲ニ化シ、一二回ノ脱皮後則チ約十八日ニシテ成熟スル者ナリ、亦其卵子ヲ毛髮ニ附着セシムルハ、初メヒチーンヲ以テ鞘狀ニ毛髮ヲ圍繞シ、更ニ卵ヲ覆フ所ノヒチーンニ移行シ以テ卵子ノ固着ヲナスモノトス、其他蕃殖力ハ實ニ夥大ニシテ一匹ノ雌蟲約八週日ニシテ好ク五千ノ子孫ヲ生ズト云フ、亦頭虱ノ營養攝取ハ吸引装置ニヨリ、皮膚内ニ刺入シタル毛細管ヨリ血液ヲ吸引スルモノナリ

原因 頭虱ニ罹ル者ハ小兒及下等社會殊ニ不潔ナル者ニ多ク、上流社會ニ之ヲ見ル事少シ、而シテ頭髮ニノミ限りテ寄生ス

症候 劇甚ナル癢痒ト濕疹ニシテ其癢痒ハ虱ノ刺戟及歩行ニ依テ來リ、濕疹ハ虱ノ咬傷ト癢爬ニ由ル所ノ器械ノ刺戟ノ爲メニ發ス、而シテ濕疹ハ顔面及項部ニ達スル事アリ、亦症狀甚クシテ近傍淋巴腺ノ腫脹、眼瞼ノ浮腫、眼瞼炎、結膜炎等ヲ續發スル事ナキニ非ズ

診斷 毛髮内ヲ精査スレバ頭虱ヲ直ニ發見スルコトヲ得ベシ、其他毛髮ニ附着スル卵子ニ依テ診斷シ得ベシ

療法 頭虱及卵子ノ撲滅ヲ以テ其目的トス、則チ水銀軟膏、白降汞軟膏等ニワセリンヲ混ジ等分トナシ之ヲ頭部ニ塗附シ、次ニ白木綿ヲ以テ被覆シ一日間放置シ、石鹼ヲ以テ洗去スベシ、而シテ梳櫛ニ溫酢或ハ千倍昇汞水ヲ浸シ反覆毛髮ヲ梳去シ、以テ卵子ヲ排除ス、其他5%ナフトール軟膏石油又ハ石油100.0 オーレーフ油50.0 ペルバルサム20.0ノ合劑ヲ塗布ス、而シテ濕疹ニ對シテハ、除虫撲滅後濕疹療法ヲ開始スベシ

(B) 陰毛虱 *Phthirus inguinalis* Filzlaus

形狀 扁平帶黃色ニシテ三對ノ脚ヲ有シ、前方ノ一對ハ短ナルモ他ハ長

シトス、而シテ皮膚ニ固着スルノ用ヲナセリ、亦卵子ハ他ノ虱卵ト異ナラズ、其ノ他陰毛虱ハ皮膚ニ密着スル時ハ皮膚ト同色ニシテ、熟視スルニ非ザレバ檢出シ難キモノトス

部位 陰毛虱又ハ毛虱 *Rediculus Pubis* ノ好發部位ハ陰毛ニシテ、終ニ腋窩、鬚髯、眉毛及睫毛ニ棲息スルニ到ル、然レドモ頭髮ニハ殆ド來ルコトナシ、而シテ該虱ハ大半交接ニ依テ移轉スルモノナリ

症候 一定部位ニ刺戟ノ癢痒ヲ發シ、或ハ繼發性濕疹ヲ來タス、其他デュグエー氏 *Duguet* ノ證明シタル如ク、本蟲ヨリ分泌スル液ノ爲メ、藍色斑ト名ヅクル小斑點 *Taches bleues, Ombrees, Maculae Gaeruleae*、ヲ續發スルヲ見ル事アリ

診斷 陰部ニ於ケル癢痒及陰毛ニ卵子ノ附着ヲ見、又陰毛部ヲ精査スレバ多數ノ毛虱ヲ發見スベシ

療法 灰白軟膏、白降汞軟膏等ヲ塗擦シ、或ハベタナフトール軟膏石油ペーリウバルサム昇汞水等ヲ用フベシ、而シテ其方法ハ二三日間毎夕塗擦シ翌日入浴セシムベシ

(G) 衣服虱 *Pediculus Vestimentorum, Kleiderlaus.*

形狀 3—5耗ノ大サヲ有シ、淡灰白色或ハ帶黄灰白ヲ呈ス、三對ノ脚ヲ具ヘ、尖端ニ大小二個ノ鉤ヲ有セリ

部位 皮膚ニ寄生セズ、衣服襪衣ノ裏面ニ占居シ、殊ニ縫目或ハ皺壁部ニ寄生シ、茲ニ卵子ヲ産出ス、而シテ該蟲ハ單ニ皮膚上ニ到リ上皮ヲ咬刺シ、乳嚙體ヨリ血液ヲ吸收スルノミナリ

症候 劇甚ナル癢痒ヲ惹起シ、或ハ蕁麻疹ヲ發ス、而シテ常ニ搔爬ノ爲皮膚剝離ヲ起シ、又ハ該部ニ癩痕ヲ止ム、其初メ褐色ニシテ後白色ニ變ジ周圍ニ色素蓄積ヲ呈ス、其他濕疹、膿疱疹、癬腫又ハ膿腫等ヲ久時衣服虱ヲ患フル者ニ發スル事アリ

診斷 癢痒感專ラ衣服ノ縫目又ハ皺壁部ニ觸ル、所ニ發ス、而シテ衣服

ヲ檢スレバ虱及卵子ヲ發見シ得ベシ

療法 衣服ヲ交換スベシ、而シテ併發症ニハ對症療法ヲ施ス、又其衣服ハ熱湯中ニ浸シ、虱及卵子ヲ殺スベシ

**床虱 *Acanthia lectularia*,
Gimex lectularia, Bett Wanze'**

異名 壁虱、臭虫、扁虫、南京虫、寢臺虫、鎮臺虫等ノ名アリ

形状 網ハ昆虫類、目ハ有吻類、亞目ハ半翅類、科ハ床虫科ニ屬スル六脚關節虫ニシテ、長サ約4—5耗、最大幅約3耗ヲ有セリ、其色赤褐色或ハ汚穢赤錆色ニシテ、扁平或ハ稍菱形ヲ呈シ、口吻ヨリ強亞爾加里性唾液ヲ分泌ス、又後肢ノ間ニ油狀液ヲ漏スル腺ヲ有ス、其他産卵期ハ三月、五月、七月、九月ニシテ毎回約五十個ヲ産出スト キヌヘンマイステル氏ハ報告セリ、而シテ其幼虫孵化後一ケ年ニシテ成熟スルヲ常トシ、卵ハ白色稍扁平ナリ、然シテ九月ニ生レタル者ハ多ク孵化セズシテ死滅スト云ヘリ、該虫ハ晝間ハ壁、寢臺、敷物、疊ノ縫合面、額面ノ縁等ニ潜伏シ夜間出デテ人ヲ襲フモノナリ

症候 劇甚ナル痒痒ニシテ體質ニヨリ一週間ニ亘ル頑固ノ者アリ、而シテ蕁麻疹ヲ發シ、或ハ往々吸痕ニ水疱ヲ生ジ周圍著シク潮紅腫起シ灼熱苦痒ヲ感ジ、或ハ淋巴管炎ヲ發シテ體溫高昇シ、或ハ搔爬ノ爲ニ濕疹ヲ起シ、或ハ化膿シ、又ハ潰瘍ヲ生ズル者アリ、而シテ本虫刺螫ニ對シ免疫性ヲ生ズル者多シ

療法 一般ニ施サレツツアルハ吸痕ニ安母尼亞水或ハ「カンフル」精等ヲ塗附シ、又ハ3%重曹水、安母尼亞酒石酸等ノ洗滌ヲ試ミ、炎症アル者ハ「プロウキ氏液」、硼酸水等ノ冷滌方ヲ行ヒ、濕疹ニハ該療法ヲ施スベシ、其他刺螫部ニ西瓜ノ汁塗布、或ハ「ハブ」草ノ生葉ヲ揉ミ塗擦スルヲ有効ナリト稱スル者アリ、著者ハ該虫ノ分泌スル強亞爾加里性唾液ノ化學的作用ト信ジ、中和ノ目的ヲ以テ酒石酸ヲ1乃至5%ノ溶液又ハ軟膏トナシ或ハ「ク

エン」酸ヲ代用シ使用スルニ每常好結果ヲ得ツ、アリ

豫防法 該虫ノ撲滅ヲ講ズベシ、現今有効ト認メラル、ハ除虫菊粉撒布「ベンチン」石油、硫化水素瓦斯、亞硫酸、「ホルマリン」瓦斯、苛性曹達液等ヲ以テ滅殺スルナリ、著者ハ曾テ寢臺ニ潜伏寄生セル該虫撲滅ヲ單ニ浴場ニ於テ煮沸セル水中ニ約一時間投ジ、更ニ日光ニ露シ其目的ヲ達シタルコトアリ、而シテ青松葉ヲ疊ノ下ニ撒布シ置キタルニ數日ヲ經テ該虫ヲ見ザルニ到レリ、試ム可キノ法トス

蚤 *Pulex irri* Tons. Floh

形状 赤褐色ヲ呈シ、雌ハ4耗雄ハ2.5耗ヲ有セリ、常ニ塵埃中ニ寄生ス一般人ノ知ル處ノ如シ

症候 皮膚ニ吸痕ヲ認メ小ナル點狀出血ヲ呈シ、其周圍充血シテ紅暈ヲ圍ラシ、時ニ蕁麻疹ヲ發スルヲ見ルヲアリ

療法 痒痒甚シキ者ハ「メントル」酒精、「チモール」酒精、石炭酸酒精等ヲ塗附ス可シ

豫防法トシテハ除蟲菊粉撒布ヲ最モ有効ナリトス

蚊 *Gulex Pipiens*

蚊ハ種類甚ダ多シト雖大別シテ二トナス、則チ「クレツクス」*Gulex*「アノフェレス」族 *Anopheles* 之レナリ、共ニ人ヲ咬刺シ其吸痕ニ蕁麻疹ヲ發シ痒痒甚シク時ニ搔把ノ爲ニ濕疹ヲ生ズルヲアリ、又「アノフェレス」族ハ彼ノ「マラリア」ヲ媒介スルノ性能ヲ有シ危險ナリトス

療法 痒痒ニハ「アンモニア」水、「メントル」酒精、石炭酸酒精等可ナリトス、豫防法トシテハ除蟲菊ノ燻燒有効ナリトス

牛虱 *Ixodes ricinus*, Zecke, Halzbock

形状 扁平ナル褐赤色或ハ黑色ノ小蟲ニシテ、雄ハ長サ1.25乃至2耗雌

ハ22.25耗ヲ算シ口部ニ倒鉤ヲ具フ

部位 常ニ草木ノ葉ニ附着スト雖、雌ハ犬、牛、羊等ニ寄生シ時トシテ人體ヲ襲フ

症候 皮膚内ニ頭ヲ穿刺シ血液ヲ吸引シ數倍ノ大サトナル、放置スレバ二三日ニシテ自ラ退去シ障礙ナキヲ常トスルモ、強テ徐去ヲ試ム時ハ口部ヲ皮膚内ニ留メテ炎症ヲ發ス

療法 Lテルベンチン⁷、石油Lベンチン⁷塗附ヲ可トス

線狀蛆病 Myasis Linearis. Hautmaulwurf.

原因 蛆ノ皮膚内ニ寄生スルニ因ル

症候 皮膚ニ細キ赤色ノ少シク隆起シタル線ヲ生シ癢痒灼熱ヲ訴フ、日一日ト赤線ノ増進ヲ見ル

著者曾テ滿洲ニ在ル一兵士ノ左大腿部鉄創繃帯交換ニ際シ、一見淋巴管炎ノ如キ症狀ヲ有シ疼痛ナク反テ癢痒灼熱ヲ訴フルヲ見タルモ別ニ留意セザリシニ、翌日該淋巴管炎様ノ症狀少シク進行シ癢痒ヲ訴フ、依テ熟視スルニ前日ヨリ20種増進發赤セリ、壓スルモ疼痛ヲ訴ヘズ、依テ試ミニ分離針ヲ以テ探息シタルニ、蛆虫二匹ヲ得、該病ト心附キ繃帯ヲ交換シ汚損ガーゼ⁷ヲ檢シタルニ、蛆虫ノ附着セルヲ發見シタルコトアリキ
療法 線ノ末端ニ於テ一小片ヲ切除シ、或ハ針ヲ以テ除去シ防腐所置ヲ施ス可シ

(乙) 植物性寄生蟲 Pflanzliche Parasiten.

白癬 Trichophytina.

異名 寄生性匍行疹、剪髮癬、剪髮疱疹 Herpes Tonsurans 皮膚剪髮菌病 Dermatomycosis Tonsurans 輪癬 Ringwurm 禿髮

匍行疹等ナリ

[註] 土肥氏曰ク本症舊ト寄生性匍行疹ト譯シアルモ、原名ニ(ヘルペスバラジタリヤ)アルヲ聞カズ、且ツ寄生ノ意義頗ル明確ナラズ、故ニ原名ニ據リ剪髮癬 **Scheerende Flechte**、剪髮疱疹(截髮疱疹)ナル名稱ヲ用ヒ、其白癬ナル名稱ニ至テハ其由來遠ク字義亦簡古ニシテ黃癬 **Favus** ナリテ之ヲ配スルニ、頗ル好對稱タルヲ覺ユト著者亦之ニ從フ者ナリ

意義 一種ノ絲狀菌皮膚上ニ寄生スルヨリ小水疱ヲ生ジ、落屑及炎症ヲ有シ毛髮短折等ノ症ヲ發スルモノナリ

原因 グルビー氏 Gruby マルムステン氏 Malmsten (1844)ノ殆ド同時ニ發見セルLトリコヒートン、トズランズ⁷菌ニシテ、該菌ハ分岐スル所ノ微絲 **Myzelfäden** ト芽胞 **Sporen** ヨリナリ、其芽胞ハ毛髮内ニ在テハ群生シ他ニ於テハ連鎖狀ヲナス、近時サボウロー氏 **Sabouraud** ハ亦主トシテ本病ノ症狀多般ナルヨリ此微菌ニ就キ研究シ其多種アルヲ唱道シ居レリト雖、俄ニ信ジ難シトス

カボシー氏 Kaposi 及 ビカゼノウ氏 Gozenave ハ濕潤セル氣象ニ於テ本病ノ發生スル⁷多シト稱セリ、而シテ本菌ノ傳播ハ家畜(牛馬犬猫)ヨリ觸接傳染シ、或ハ理髮店ノ不潔ナル器具、例之バ鋏、剃刀、刷毛等ヲ介シテ傳播シ、或ハ間々學校、兵營、工場、監獄等ニ於テ其流行ヲ見ルコトアリ

種別 小水疱性剪髮疱疹 **Herpes Tonsurans Vesiculosus** 頭部剪髮疱疹 **Herpes Tonsurans Capillitii** 斑狀剪髮疱疹 **H. T. Maculosus** ノ二種トナス、然シテ土肥氏ハ本症ヲ分チテ淺在白癬 **Tri Chopytia Superficialis** 深在白癬 **Tpurofunda** 輪廓性濕疹狀白癬 **T. eczematosa Marginatum** 爪甲白癬 **T. unguium** ニ區別セラレタリ

症候 小水疱性剪髮疱疹ハ即チ土肥氏ノ淺在白癬ニ屬スルモノニシテ、初メ五厘銅貨大乃至二錢貨大或ハ其以上ニ到ル圓形若クハ橢圓形或ハ半環

狀ノ斑疹ニシテ、一箇或ハ數多發生シ其周圍ハ小隆起ヲナシ、則チ輪環狀ヲ呈シテ鱗屑ヲ被ムリ、或ハ小水疱ヲ混ジ淡紅色ヲ呈ス、而シテ疹ノ増大蔓延スルヤ中心部ニ發生シタル鱗屑ハ已ニ消失シ其部ノ皮膚ハ平常觀ニ復シ、或ハ色素沈着又ハ僅ニ落屑ヲ見ルベシ、而シテ皮膚ノ無毛部、有毛部ニ關ハラズ傳搬ス、其他頭部ニ在テハ白癬ノ中心速ニ治セズ遍ク鱗屑ヲ被ムルコトアリ、亦ハ毛髮ヲ短折シ或ハ全ク脱落スルニ到ル者アリ、之ヲ頭部剪髮癩疹 **Herpes Tonsurans Capilitii** ト云フ、此頭部白癬ハ初メ小水疱環ヲ發スルノミニシテ毛髮ハ折斷シ易ク之ヲ抜カントスレバ折斷シ其光澤ヲ失ス、亦時トシテ炎症ヲ誘起シ患部ハ圓ク腫脹隆起シテ潮紅甚シク痂皮ヲ生ジテ浸潤深層ニ及ビ毛囊口ヨリ膿汁ヲ漏シ或ハ膿腫ヲ作ルコトアリ、之ヲチエルジ氏禿瘡 **Kerion celsi** ト云フ、亦鬚髯ヲ浸シテ斯ノ前症ノ如キ症狀ヲ呈スル者アリ、或ハ時トシテ硬キ腫瘍ヲ形成スルモノアリ、之ヲ寄生性鬚瘡 **Sykosis Parasitoria** ト稱ス、共ニ深在白癬ニ屬ス

又圓癬(輪廓性濕疹 **Eczema marginatum**)ハ皮膚兩面ノ相觸接スル處ニ多ク發生スル者ニシテ、其白癬ノ爪甲ニ寄生スル時ハ爪ハ溷濁變色シテ乾燥肥大シ破折シ易ク小片ヲナシテ剝離スルニ到ル、之ヲ白癬性爪甲炎 **Onychomycosis Trichophytina** ト稱ス

斑狀剪髮癩疹ハ全身ニ汎發シ帽針頭大乃至豌豆大圓形紅色疹ヲ生ジ境界明割細小鋸齒狀ヲ呈シ、僅ニ隆起シテ鱗屑アル輪環ヲ形成ス、環ノ周圍ハ中央ヨリ發赤シ指壓退色ス、或ハ黃色ノ光澤ヲ帶ビ多クハ急性ノ經過ヲ取ルモノニシテ、微弱ノ色素沈着落屑等ヲ以テ全ク消散スベシ、其輪環進行スルヤ遠心性ニ増大シ其治癒スルヤ中心ヨリス、其他亦輪環融合シ弧線ヲナス者アリ、而シテ本症ノ自覺症ハ孰レモ皆劇烈ナル痒痒ヲ伴フモノトス

部位 頭部、顔面、鬚髯部、項頸、手腕等ニ最モ多ク時トシテハ全身ニ發生ス

經過 頭部剪髮癩疹、寄生性毛瘡及圓癬ノ如キハ三四週乃至月餘ニ亙リ

往々頭症ヲ成スコトアリ、其他發生速ニシ全身ニ汎發スル者アリ

解剖 剪髮菌ハ表皮中、角層ノ直下ニ蛛網ヲ作り毛根鞘ヨリ毛皮中ニ蔓延シ遂ニ毛幹ヲ中斷ス、然レドモ毛球ノ侵蝕ヲ見ズ、而シテ網狀層中ニハ輕微ノ炎症ヲ徵シ毛囊周圍ニ多少浸潤ヲ呈ス、又其内外ニ膿腫ヲ作ルヲ見ルコトアリ

診斷 輪狀ノ疹ニシテ邊緣淡紅色或ハ暗褐色ニシテ白屑又ハ小痂ヲ有シ中心多クハ變化ヲ呈セズ、毛髮短折スルモ禿頭ヲナサズ且ツ癩痕ヲ結バズ痒痒著シトス、而シテ其絲狀菌ヲ證明スルヲ得バ益々確實ナリトス

鑑別

- (一) 黃癬 ハ毛髮脱落シ禿頭ヲ呈シ皮膚癩痕ヲ形成シ黃色ノ乾痂小盃狀ヲ作ル
- (二) 鬼舐頭 落屑痒痒ヲ缺キ表面滑澤斷裂髮ヲ見ルコト稀ナリ
- (三) 落屑性濕疹 發疹境界明割ナラズシテ處々ニ濕潤面ヲ有シ毛髮脱落セズ
- (四) 脂漏性濕疹 頗ル白癬ニ類スルモ形狀ハ不正ニシテ且ツ鱗屑脂黃色ヲ呈ス
- (五) 頭部枇糠疹 枇糠狀落屑ヲ見輪環ヲ作ラズ
- (六) 尋常性鱗屑疹 ハ葉狀ニ剝離スル銀白鱗屑ヲ有シ基底鮮紅色血點アリ痒痒ヲ缺ク
- (七) 多形滲出性紅斑 ハ痒痒輕度ニシテ鱗屑ナシ主トシテ伸展側ニ發生ス
- (八) 紅色苔癬 ハ陷凹ヲ有スル多角形結節ニシテ蠟樣光澤ヲ有シ中心ニ鱗屑アリ
- (九) 紅斑性狼瘡 ハ中心皮膚萎縮シ邊緣ハ不正皮脂漏性ノ被苔アリ
- (十) 輪狀丘疹微毒 ハ銅紅色丘疹連接シテ輪環ヲナシ浸潤硬クシテ痒痒ナシ
- (十一) 微毒性薺微疹 ハ其色指壓ニテ多クハ消失セズ痒痒ナク落屑稀

ナリ

(十二) 虹彩膜状疱疹 ハ多ク手背ノ兩側足甲及前臂ノ伸側ニ發シ多形滲出性紅斑ノ一症ニシテ落屑ナク搔痒少ナン

(十三) 層輪痲症 ハ鱗屑大ニシテ常ニ層輪ヲ作り往々全身ニ蔓延ス其他急性期ニ於テ高熱及全身症狀ヲ有ス

豫後 多クハ佳良ナリト雖毛髮鬚髯部ノ如キハ往々治シ難キ者アリ

療法 本症ノ療法ハ主トシテ深部ニ潜在セル絲菌ヲ殺シ可及的其際皮膚ヲ犯ササルモノヲ撰バザルベカラズ、而シテ(一)小水疱性剪髮疱疹ニハ刺激性ノ藥劑ハ全く無用ニシテ、硼酸或ハ水揚酸_レバスタ_レ5—10%、水揚酸石鹼硬膏ヲ用ヒ、或ハ現今最モ佳良ナリト稱セラル亞鉛華軟膏ヲ貼用シ其上ニ亞鉛花澱粉等ヲ撒布シ、奏効セザル時ハ土肥氏參兒軟膏ヲ用フベシ、亦(二)頭部剪髮疱疹ニアリテハ毛髮ヲ短切シ加里石鹼ニテ洗滌シ前方ヲ施スベシ、其他三百倍昇汞精、參兒丁幾(木參兒酒精依的兒等分)又ハ沃度丁幾ノ塗布ニテ足ルコトアリ、或ハ5%_レレゾルチン_レ精、10%_レレゾルチン_レ硫黃軟膏ヲ用フベシ、其頑固ナルモノニ在テハ一萬倍乃至千倍ノ昇汞水ヲ以テ罨法ヲ施シ急性炎ノ去ルヲ俟チ前方或ハウイルキンソン氏軟膏ヲ塗布スベシ、土肥氏ハ好シデ5%—10%焦性設食子酸軟膏ヲ用フ、然シテ膿腫ノ切開ヲ要スルコト幾ト稀ナリトス(三)圓癬ニ對シテハ5—10%_レクリサロビン、トラウマチチン_レノ塗布最モ良効ヲ奏シ(四)爪甲白癬ニハ10%昇汞精又ハ十倍昇汞_レコロデイニウム_レヲ塗布スベシ(五)斑狀剪髮疱疹ハ毎日一回土肥氏參兒軟膏ヲ塗擦シ、亞鉛花澱粉ヲ撒布シ數日ノ後入浴セシム、カボシイ氏ハ毎日一回數日間加里石鹼ノ塗擦ヲ行フ、其他或ハ毎日入浴ヲ命ジ藥石鹼ヲ以テ洗滌シ、或ハ入浴前_レサリチール_レ酸5.0_レルスクス_レ油25.0_レ綠石鹼150.0ヲ塗擦シ入浴後硫黃軟膏ヲ輕ク塗擦シテ良効ヲ呈スル事アリ

處方

木參兒

硫黃花

各 10.0

(56)

亞鉛花

豚脂

30.0

(土肥氏參兒軟膏)

硫黃花

1.0—5.0

レゾルチン

1.0—2.5—5.5

水揚酸

2.0—5.0

亞鉛花

澱粉

各 7.5

ワセリン

50.0

(以上頭部白癬ニ塗布)

十倍クリサロピントラウマチ、ン 30.0

(患部塗布料毎日一回外用)

ルスチー油

15.0

加里石鹼精

25.0

硫黃花

10.0

ペーリウバルサム

1.5

ナフトール

0.5

酒精

100.0

(カボシイ氏合劑)

硫黃

10.0

ベルガモツト油

2.0

豚脂

200.0

(塗擦料)

ベタナフトール

2.0

アルコール

適宜

カリ石鹼

100.0

(三日間一日二回宛塗擦シ後撒布藥ヲ用ヒ十日後入浴スベシ)

(57)

黄癬 Favus

異名 皮膚黄癬菌病 *Dermatomykosis Favosa*

白癬(舊譯)

(註) 土肥氏曰ク白癬ノ字巢子病源候論ニ出テ「白癬之狀白色礎々然而痒」トアリ其症候寧ロ斷髮菌性癩疹ニ近シ、是レ本病ノ主徴ニ據リ別ニ新譯名ヲ撰ヘル所以ナリト、著者亦之ニ從フ者ナリ

意義 一種絲狀菌ノ寄生ニ因テ黄色ノ乾癬ヲ作り鼠糞微様臭ヲ放ツ所ノ皮膚病ナリ

原因 [アホリヤン、シエンライニ] *Achorion Schänleini*, *Re-mak* ト稱スル絲狀菌ニシテ、シエンライニ氏(1839)ノ發見ニ據リ、レマーク氏ノ命名シタルモノナリ、而シテ其種屬ハビツク氏 *Pick* ウエルシユ氏 *Wälsch* 等ノ如キハ一種ナリトシ、ウンナ氏 *Unna* クインケ氏 *Kuincke* 等ノ如キ多種ナリト云ヘリ、然レ共前説或ハ眞ニ近カラシキ乎、今黄癬小體ヲ10%—15%ノ加里又ハ「ナトロン」鹼汁ニ浸シ載物硝子上ニ於テ少シク焙上ニ温メ三百倍乃至四百倍ノ廓大ヲ以テ鏡檢スル時ハ、其發育程度ヲ觀察シ得ベシ、即チ長サ三乃至八「ミクロン」幅三乃至四「ミクロン」ヲ有スル芽胞ヲ認メ、其形ハ小圓形或ハ橢圓形或ハ四角形ニシテ孤立セルアリ、或ハ連珠狀ヲナスアリ、菌絲ハ廣狹不同ニシテ末端肉叉狀或ハ棍棒狀ヲナス者アリ、亦種々ニ紆曲セル菌絲網ヲ形成シ或ハ側面ヨリ出芽セルモノアリ、而シテ其他類敗物、脂肪小滴、上皮細胞ヲ見ルモ他ノ菌類ヲ混ズルヲ見ズ、本病ハ傳染性ヲ有シ啻ニ人類ヨリ人類ニ傳染スルノミナラズ、犬、猫、家兎等動物ヨリ人類ニ傳染シ、又人類ヨリ動物ニ傳染セシムルアリ

然レ共本菌ハ傳染力極メテ弱ク一家混同衆人群居スルモ其傳染スルコト少ナク、亦乾燥セル健康皮膚ニハ附着繁殖スルコトナシト雖、濕潤軟化セル皮膚若クハ毛嚢内ニ達シテ始メテ傳染スルモノナラント云ヘリ、其他特異素

因ニ關係アルベシト雖、其素因ヲ有スルモノハ比較的少數ナルガ如シ、亦本病ハ我國ニ於テハ沿海ノ漁村若クハ山間(畝僻)ノ地ニアル小兒ニ多ク都市ニハ稀ナリト云ヘリ

症候 圓形ノ小斑ニシテ時ニ小水疱環ヨリ圍マルコトアリ、之ヲケブネル氏 *Kebner* ハ黄癬ノ匍行疹期ト稱ス、而シテ初メ毛嚢部周圍ノ角層中ニ黄色ノ小斑ヲ發シ、亦時トシテ其周圍ニ紅色ヲ呈シ輕度ノ落屑ヲ見、彼ノ截髮癩疹ニ似タル者アリ、然レ共其黄斑ハ漸次四方ニ向テ肥厚増大シ一ニ週ノ後ニハ小豆大乃至錢大トナリ、上皮下ニ透映スル所ノ特異ノ硫黄々色或ハ麥桿黄色ノ稍陷凹セル恰モ皿ノ如キ中心臍アル小圓板ヲ形成シ皮膚ノ表面ニ露出シテ邊緣游離ス、之ヲ所謂黄癬甲 *Favus Scutulum* ト稱ス而シテ一幹若クハ數幹ノ毛髮其中心ヲ穿貫スルヲ常トセリ

此黄癬甲ヲ表皮ヨリ剝去セル者ヲ黄癬體 *Faus Körper* ト稱シ、其底面ハ陷凹シテ淡紅色ヲ呈シ濕潤ス時ニ或ハ潰瘍狀ヲナス者アリ、而シテ小時ノ後下層角質層膨脹シテ陷凹消失スト雖、黄癬ノ數年ニ亘ル者ハ久シク其皮膚ヲ壓迫スルヲ以テ萎縮ヲ來シ甚シキハ毛根ヲ絶ツニ至ル者アリ

黄癬ハ亦孤立スルコトアリ或ハ融合シテ廣大ナル部分ヲ犯スルコトアリ、然レ共其周縁ハ常ニ凸狀ヲナシテ小圓板ノ連合ニ由ルヲ知り得ベシ、而シテ一種ノ鼠糞臭ヲ放チ其黄癬ノ古キ者ニアリテハ搔爬若クハ梳髮ノ爲ニ上皮剝離シ黄癬體ヲ露出スベシ、然ル時ハ乾燥シテ其硫黄々色ハ漸ク消褪シ灰白色若クハ煉瓦灰色ヲ帯ビ硬固ナル厚層トナル、之ヲ塔狀黄癬 *Favus Turriciformis* ト稱スル者アリ、然シテ黄癬ノ附近ニアル毛髮ハ光澤ヲ失ヒ恰モ塵埃ヲ被ムル如ク細弱トナリ拔去シ易ク終ニ脱落シテ禿頭ヲ呈スベシ

自覺症トシテハ搔痒ヲ有スルヲ常トスルモ、時ニ僅微ニシテ毫モ訴ヘザル事アリ、其他續發症トシテハ本症ノ蔓延時ニ於テ濕疹癬及淋巴腺炎ヲ見ル事アルノミナリ

部位 殆ド頭部ニ來ルヲ常トシ稀ニハ鬚毛部ニ生ジ或ハ全身ニ汎發スルモノアリ、此鬚毛部黄癬 *Favus der unbehaarten Haut* ハ皮膚ノ

深部ニ達セザルヲ以テ通例數週若クハ數月ニシテ治ス、其他胃腸管壁ニ發見セラレタル事アリ（黃癬性腸胃炎 **Gastroenteritis Fovus, Kaposi**）、亦爪甲ニ生ズル時ハ甚ダ頑固ニシテ黃斑ヲ生ジ限局性或ハ全爪甲ノ肥厚溷濁ヲ來シ一指若クハ數指ヲ犯シテ、表面粗糙トナル、則チ黃癬性爪甲症 **Onychomycosis Favus** 之レナリ

經過 極アテ緩慢ニシテ十數年ニ渉ル、然レモ毛部黃癬ハ僅ニ數ヶ月ヲ以テ治スルヲ得ベシ

解剖 黃癬菌ハ常ニ毛囊口ヨリ入りテ表皮中ニ蔓延シ、毛根外鞘ヲ穿テテ毛球ニ達シ又毛幹中ヲ上行セルモ毛髮ノ分裂ヲ來ス事ナシ

診斷 黃癬甲則チ乾固セル盃狀黃色ノ菌塊ヲ認め、固有ノ穢臭ヲ放チ患部ノ皮膚ハ萎縮シ癢痕ヲ來シ脱毛ヲ見ル事ニ依テ本病タルヲ知り得ベシト雖、絲狀菌ノ證明ヲ得バ更ニ確實ナリトス

鑑別

(一) 濕疹 ハ痂皮軟弱ニシテ濕潤シ患部皮膚ハ萎縮癢痕ヲ呈セズ、經過多クハ速カニシテ其落屑ヲ有スルモノハ微細灰白色ヲ呈スルヲ以テ鑑別シ得ベシ

(二) 斷髮菌性疱疹 毛髮短折スルモ禿頭及萎縮癢痕ヲ來サズ、落屑ハ灰白色ヲ呈シ枇糠ノ如シ、其他絲狀菌ノ形狀同一ナラズ

(三) 尋常性鱗屑疹 銀白色扁平葉狀ノ落屑ニシテ毛髮脱落ヲ來サズ且ツ瘙痒稀ナリ

(四) 癩菌性瘰癧 瘙痒ヲ缺キ痂皮下ニ於テ潰瘍ヲ見、其他癩菌症狀ヲ認ムベシ

(五) 紅斑性狼瘡 邊緣紅色ヲ帶ビ中心萎縮シ、且ツ皮脂漏性苔アルモ角質増殖シテ楔狀ヲナシ毛孔ニ竅入セリ

豫後 生命ニ關スル事ナシト雖、數々再發シ容易ニ根治スベカラズ、要スルニ治癒緩慢ナリトス

療法 油劑或ハ濕蒸法ヲ以テ先ヅ圓板ヲ軟化スルニアリ、然シテ後盡ク

之ヲ剝離シ加里石鹼精或ハ下山氏流動石鹼ヲ以テ洗滌シ、更ニ酒精及シクロ、ホルムヲ以テ脱脂シ次デ拔毛スベシ、或ハ亦脱脂セザルモ直チニ拔毛ヲ行フベシ、之レ本療法中最モ重要ナル條件ノ一ニシテ、則チ本病菌ハ好シデ毛根鞘内ニ占居スルヲ以テナリ、而シテ拔毛後殺菌藥（昇汞、石炭酸木多兒、沃度丁幾、ナフトール、百露拔癬膜、クリサロビン、焦性沒食子酸、ホルマリン等）ヲ溶液或ハ軟膏トシテ塗布シ寄生菌ノ撲滅ヲ謀リ、以テ彼ノ黃癬甲再發ヲ認メザルニ至リテ止ムベシ、近時亦光線療法ヲ以テ治効ヲ收ム者アリ、然シテ彼ノ拔毛法ハ只鑷子ヲ以テ一毎ニ拔去シ或ハ拇指ト壓舌子ヲ以テ患部ノ毛髮ヲ挾ミ以テ上方ニ牽引スルニアリ、則チ病毛ハ脱落シ健毛ハ依然留マルベシ、往時ハ髹毛帽ヲ製シ内面ニベンキヲ塗リ全患部ノ毛髮ヲ一時ニ拔去スルヲ試ミタルモノアリキ、亦軀幹（無毛部）ノ黃癬療法ハ比較的容易ニシテ、則チ油類（1%ナフトール油）及石鹼ヲ以テ所置シ既ニ治スル者アリ、爪甲ノ黃癬ニアリテハ又極メテ困難ニシテ、其黃色斑點ヲ形成スル者ハ匙若クハ剪刀ニテ患部ヲ除去シ、其溷濁性溷濁ヲ呈スル者ハ或ハ10%クリサロビントラウマチ、ン或ハ百倍昇汞アルコール水銀軟膏等ヲ塗附スベシ

處方

百露拔癬膜	等分
椿油	
(塗布料)	
石炭酸	3.0
グリセリン	50.0
アルコール	50.0
(塗布料)	
ホルマリン	3—5.0
蒸水	100.0
器法料(皮膚糜爛スレバ中止ス可シ)	

1%[ナフトールオレフ]油

(塗布料)

焦性没食子酸 5—10.0

ワセリン 100.0

毎日一回貼用(ヨセフ氏方)

クリサロビン 3.0

バラピン 2.5

柯々阿酪 2.5

ワセリン 1.5

毎日一回貼用(アロツボウ氏方)

紅色陰癬 Erythrasma

意義 一種ノ絲狀菌ニヨリ生ズル淡紅色乃至暗褐色ノ境界判然タル乾燥斑ナリ

原因 本症ハフオン、ペーレンスブルング氏 V. Bärensprung ノ初メテ稱道セル所ニシテブルヒアルド氏 Burehard (1859) ノ發見シタル「ミクロスポーロン、ミヌチツシムム」Microsporen minutissimum ト名ヅクル絲狀菌ニ由テ發スル者ナリ、該絲狀菌ハ「ミクロスポーロン、フルフル」ニ類似シ之ヨリ遙ニ細小ナリ、故ニ或ハ皮膚局部ノ性質ニ依テ癩風寄生菌ノ變形セルニ非ザルカト疑フ者アリ、然レモベスニール Besnier ケブネル Köbner リール Riehl 等ノ諸學者ハ全ク其別種ナルヲ説明セリ

症候 初メ淡紅色ニシテ後黃色或ハ褐色トナリ境界明割且ツ乾燥セル點狀乃至手掌大ノ斑ニシテ、表面微細ノ糠秕落屑ヲ有シ其周圍ニ蔓延スル事緩慢ナリ、自覺症トシテ搔痒ノ有無殆ド不定ニシテ或ハ全ク來サマル者アリ、或ハ亦發汗ニ際シ之ヲ感ズル者アリ

經過 慢性ニシテ極メテ除々ニ發育増大シ又一時發育ヲ休止スル事アリ

部位 本症ハ男子ニ多ク婦人ニハ稀ニシテ小兒ニハ殆ド見ズト云ヘリ、多クハ上腿内面陰囊ト觸接スル部分鼠蹊部及ビ腋窩ニ局限ス

診斷 固有ノ症狀及發生ノ部位ニ依テ容易タルヲ知り得ベシ、其他寄生菌ノ證明ヲ得ハ益々確實ナリ

療法 ウキルキンソン氏軟膏或ハ10%「クリサロビン、トラウマチハン」等ヲ可トシ其他癩風ト同一療法ヲ施スベシ

頑癬 Eczema marginatum

異名 有縁性濕疹又ハ惡性濕疹(俗稱たむし)ト稱ス

意義 一種ノ絲狀菌ニヨリ皮膚兩面ノ相觸接スル所ニ生ズル圓板狀疹ナリ

原因 ケブネル Köbner ビツク Pick カボシー Kaposi 氏等ノ説ニヨレバ「トリコヒートントズランス」菌ニ類似セル絲狀菌ニヨリテ發スルモノニシテ、ヘブラ氏 Hebra ハ其寄生物アルヲ承認セルモ、尙ホ濕疹狀性質アルヲ主張シ初メテ之ヲ有縁性濕疹ト稱シタリ、而シテ本病ハ男子ニ多ク女子ニハ稀ナリ、彼ノ夫婦間ニ於テモ尙其傳染ヲ見ザルヲ常トセリ亦以テ其觸接傳染性ノ微弱ナルヲ知ルベシ

症候 初メ赤色ノ隆起セル小斑ニシテ或ハ小丘疹小水疱亦ハ鱗屑及黃褐色ノ小痂皮ヲ有シ、孤線狀褐色ノ邊緣ヨリ取圍マレ漸次増大シテ圓板狀トナリ、中心部ハ病勢退行シ褐色乃至暗褐色ノ色素沈着ヲ有シ、或ハ浸潤ヲ殘シ又ハ潮紅ヲ存ス、然シテ其發生長キモノニアリテハ皮膚肥厚シ中心部ニ再發ヲ來シ、搔痒症狀及搔痒性濕疹ヲ合併スルヲ見ルベシ、然シテ本病ノ蔓延ハ甚ダ徐々ナルモ周圍ニ増大シ近接ノ者相融合シ手掌大或ハ尙ホ之ヨリ大ナル不正形ノ患部ヲ生ズ、然レモ其境界線ハ外方ニ彎曲線ヲ畫スヲ以テ舊時ノ圈輪ヲ認メ得ベシ

自覺症ハ劇甚ナル搔痒ニシテ非常ニ頑固ナル者ナリ

經過 數年若クハ數十年ニ亙リ漸次蔓延シテ自然的治癒ヲトル事ナキモ

ノトス

部位 好發部ハ主トシテ皮膚分泌液例之ハ汗等ニヨリ皮膚浸潤シ麻擦ノ加ハル爲表皮ノ濕潤軟化ヲ來シ易キ部位ニシテ、則チ陰部及其周圍特ニ陰囊ト上腿内面ノ接觸部、陰阜及會陰部、肛門周圍部薦骨部其他腹背ノ下部稀ニ腋窩及懸垂セル乳房ノ下面等ニ來ル、然レモ陰囊皮膚及陰莖ハ浸サレザル者トス

診斷 限界セル邊緣ノ隆起ヲ認メ劇甚ノ癢痒及特性部位ヲ以テ容易ニ診斷シ得ベシ

鑑別

(一) 白癬 頑癬ニ近似セルモ彼レノ如ク中心部ニ再發疹ヲ生ズル事ナシ、而シテ又頑癬ハ毛髮アル部分ヲ襲フモ其光澤ヲ失ヒ折烈スル等ノ事ナシト雖白癬ハ之ニ反ス

(二) 慢性濕疹 境界明劃ナラズ亦邊緣頑癬ノ如ク孤爬狀隆起ヲ有セズ其他浸潤及結痂形成ヲ有ス

(三) 紅色陰癬 癢痒不定ニシテ邊緣狀態及本病固有ノ症狀ニ由リ區別シ得ベシ、且ツ其寄生菌ヲ異ニス

(四) 乾癬 原發疹ハ赤色或ハ褐色ノ帽針頭大丘疹ニシテ葉狀ニ剝離スル銀白色鱗屑ヲ有シ、且ツ點狀出血性底面ヲ認メ多ク伸展側部位ヲ犯シ癢痒ヲ缺ク

(五) 癩風 褐色ノ搔癢シ得ベキ鱗屑ヲ有スル斑點ニシテ、多ク被覆セラレタル部分ヲ犯ス

豫後 甚ダ慢性ナルモ良好ナリ

療法 豫防法トシテ勉メテ洗滌シ亞澱散ヲ撒布シ次ニ提帶ヲ使用スベシ、而シテ頑固ナルヲ以テ強力ノ療法ヲ要ス、其他先ヅ該寄生菌ノ誘引タル多汗症ヲ治癒セシムルヲ必要トス、則チ「アトロピン」ヲ毎日一二回0.0005ヲ丸トナシテ投與シ、局部ハ加里石鹼ヲ以テ洗滌入浴セシムベシ、而シテ刺戟症狀ナケレバ直チニ10%「クリサロピントラウマチ、ン」ヲ用フ可シ

著者常ニ之ヲ賞用ス、或ハ軟膏トナスモ可ナリ、其他10—20%硫黃軟膏、ヘブラ氏改良ウキルキンソン軟膏、5%「ナフトール」軟膏、10%焦性沒食子酸軟膏、亞鉛「イヒチオール」軟膏ムル、0.3%昇汞精、百倍「ナフトール」精、十倍「サリチル」酸精等ヲ用フ可シ、然シテ皮膚肥厚ノ著シキ者ニ在テハ先ヅ上皮ヲ剝離セシメ然レ後前記ノ藥劑ヲ使用ス可シ、然シテ皮膚ニ刺戟或ハ剝離ヲ來シタル時ハ硫黃、丹寧酸「パスタ」、ウキルソン軟膏、硼酸軟膏等ノ無刺戟性藥劑ヲ軟膏トナシ貼用處置スベシ、然シテ上皮肥厚ノ剝離ハ加里石鹼電法10%加里渣汁或ハ醋酸ヲ用フベシ

處	方
丹寧酸	5.0
硫黃花	10.0
ワセリン	50.0
塗布料 (強力藥物塗附ノ爲皮膚ニ刺戟或ハ剝離ヲ來シタル時ニ用フ)	
亞鉛花	} 等分
澱粉	
(撒布料)	

其他土肥氏參兒膏ヲ當初ヨリ使用シ有効ナル事アリ、又癢痒劇甚ナル際ハ對症療法トシテ5%薄荷精、1%石炭酸精等ヲ與フベシ

斯ノ如クシテ軟膏劑ノ奏効ナキ際ハ、レントゲン療法ヲ試ミ其上表的ノ者ハ水晶石英燈ヲ試ムモ可ナリ、著者曾テ十數年間ニ亙ル頑癬患者ニ逢遇シ其目的ヲ達セズ、依テ赤色酸化汞1.5 カンフル2.0 ゴア末3.0 硫黃花 2.0 單軟膏30.0ヲ混和シ塗附セシメタルニ旬日ニシテ治癒シ、其後三回程其再發ヲ視タルモ遂ニ治癒シ其目的ヲ達シタルコトアリ

癩風 Pityriasis Versicolor,

意義 一種ノ絲狀菌ニ依テ皮膚上ニ發スル黃褐色乃至暗褐色ノ小斑ナリ

原因 アイヒステット氏 **Eichstedt** (1846) ノ發見ニ罹リ、**ロビン**

氏 Robbin ノ名命シタル「ミクロスポーロン、ブルフル」菌ナリ

該菌ハ菌絲ト芽胞ヨリナリ、菌絲ハ短小ナル分枝ヲ有シ芽胞ハ葡萄狀ヲナシ菌絲間ニ無數ノ集合ヲナスヲ以テ特異トス、之ヲ鏡見スルニハ爪甲若クハ小刀ヲ以テ輕ク患部ヲ摩擦シ落屑ヲ取り之ヲ載物硝子上ニ置キ10%加里油汁一滴ヲ加ヘ十乃至二十分時ヲ經テ表皮細胞ノ膨脹シ透明トナリタル頃ニ於テ之ヲ檢スベシ、又本病ハ傳染性ナル如シト雖、其力極メテ弱キガ如シ、曾テケブネル氏 Kábner ハ試驗的ニ之ヲ證明シ得タリト雖未ダ其實地ニ於テ傳染シタル例證極メテ少シ、ヨセフ氏 Joseph ハ曾テ患夫ヨリ妻ニ傳染シタル所謂夫婦間傳染ヲ疑ヒタル一例ヲ報告シタルモ、恐ラク其婦人ハ以前ニ輕キ本症ヲ患ヒタル者ナラント、故ニ輒近ゲ、チン G. Thin ノ證シタル如ク個人的特異素因ノ存スルニ非ザル乎、而シテ又一回本病ニ罹ル者數々之ヲ患ヒ或ハ容易ニ發汗スル者ハ本病ノ發スルヲ見ルベシ、其他壯年者ニ多ク老人ニハ之ヲ見ルコト少ナシ

症候 帽針頭大乃至豌豆大ノ圓形若ハ橢圓形ノ僅ニ認知シ得ベキ隆起セル黃褐色若ハ暗褐色ノ小班ニシテ、輕度ノ鱗屑ヲ有シ或ハ平滑ニシテ光澤アル者或ハ無キ者アリ、其増大スルヤ甚緩漫ニシテ五厘銅貨大乃至二錢貨大ニ至リ、或ハ數個ノ斑點相合シテ種々ノ大班紋ヲ形成シ、甚シキハ殆ド全身ヲ覆フニ到ル、多クハ皮膚ノ廣大ナル面ニ向テ蔓延シ上皮ノ表層ヲ犯シ毛囊毛質又ハ腺ヲ侵ス事ナシ、此小班ハ爪甲ニテ搔爬スレバ容易ニ小葉狀ノ落屑ヲ得ベシ、然シテ其底面ハ普通ノ皮膚トナリ、或ハ稍紅色又ハ稀ニ出血スル皮膚ヲ呈スベシ

自覺症ハ更ニ之ヲ訴ヘズ或ハ輕微ノ癢痒アルニ過ギズ

經過 極メテ慢性ニシテ二十年以上持續スル者アリ、然レ共稀ニ急性ニ全身ニ發生シ白癬ノ如ク輪環狀ヲナシテ來ルモノアリ

部位 専ラ被覆セラレタル部位ニ發スルモノニシテ、即チ胸腹部最モ多ク其他頸部上肢ノ屈曲面、腋窩乳房ノ下部、陰囊ト上腿ノ接觸部ニシテ極メテ稀ニ顔面ニ來ル事アルモ、多クノ場合ニ於テ顔面手掌足趾ニハ來ル事

ナシ

診斷 黃褐色乃至暗褐色ノ搔把シ得ベキ細小落屑ヲ有スル小班ニシテ、特異ノ寄生菌ヲ鏡見スル等ニ依テ診斷シ得ベシ、其他本病固有ノ症狀ヲ參照スベシ

鑑別

(一) 頑癬 限界セル邊線ノ隆起ヲ認メ劇甚ノ癢痒ヲ有シ、中心部再發其他發生部位ニ依テ之ヲ知り得ベシ

(二) 白癬 輪狀ノ疹ニシテ毛髮短折ノ症ヲ有シ癢痒著シ

(三) 乾癬 銀白色鱗屑ヲ有シ點狀出血性底面ヲ認メ多ク伸展側ヲ犯ス

(四) 紅色陰癬 初メ紅色後チ黃色或ハ暗色ノ境界明劃且ツ乾燥セル點狀乃至手掌大ノ班ニシテ寄生菌ヲ異ニス

(五) 慢性濕疹 境界明劃ナラズ皮膚浸潤及ビ結痂形成ヲ有ス

豫後 慢性ナルモ生命ニ關スル事ナシ

療法 表皮ヲ剝離スルヲ以テ第一ノ治療目的トナスベシ、其他屢々入浴ヲ命ジ該菌寄生ノ誘引タル多汗症ヲ治療スベシ

即チ先ヅ加里石鹼ヲ以テ處置シ入浴後「サリチル」酸、加里石鹼、「ベタナフトール」石鹼精、又ハ10—20% 硫黃軟膏或ハ「ウキルキンゾン」軟膏ヲ塗附シ五六日間持續スベシ、而シテ四五日間休藥シ上皮ノ剝離シ初ムレバ又入浴ヲ命ズ、其他10%「サリチル」酸精、0.3%昇汞精、10%「レゾルチン」軟膏、5—10%「クリサロピントラウマチ、ン」或ハ軟膏、10%焦性沒食子酸軟膏ヲ用フルモ可ナリ

處	方
サリチル酸	3.0
カリ石鹼	100.0
石鹼劑トシ朝夕塗擦	
ベタナフトール	5.0
酒精	適宜

加里石鹼若クハ綠石鹼 100.0

塗擦料 (一週間毎日一回塗擦シ其後四日間休業シ患部ノ落屑ヲ生ズ
レバ入浴セシムベシ)

グルビー氏病

意義 主トシテ十五歳以下ノ兒童ヲ犯シ春期發動後自ラ消滅スル傳染性
ノ灰白色小鱗屑ヲ有スル皮膚ノ疾患ナリ

原因 グルビー氏 (Gruby 1843) ノ發見シタル「ミクロスポロン、アウ
ドウィー」ト稱スル絲狀菌ニヨル

症候 頭髮部ニ數個ノ圓形若クハ橢圓形灰白色部ヲ生ジ、毛髮ハ短折シ
且ツ灰白色粉末様ノ鞘ヲ有シ毛髮ヲ圍繞セリ、而シテ其皮膚ハ灰白色ノ小
鱗屑ヲ有ス、蔓延ハ極メテ徐々ナリト雖全頭部ニ汎ク、稀ニ額及項部ニ帶
赤色ノ鱗屑ヲ有スル斑ヲ形成スル事アリ

經過及部位 經過慢性ニシテ部位ハ頭髮部稀ニ額及項部ニ之ヲ見ル

療法 本病ノ治療ハ數ヶ月間持續セザルベカラズ、先ヅ患部ノ毛髮ヲ剃
去シ清潔ナラシメ沃度丁幾ノ塗布或ハ2-10%「クリサロビン」軟膏、沒食
子酸軟膏等ノ外用ヲ施スベシ

屋瓦狀チネア *Tinea imbricata*

意義 一種ノ絲狀菌ニヨリ屋瓦狀ニ相重ナレル鱗屑ヲ生ズル一種固有ノ
皮膚病ナリ

原因 パトリック、マンソン氏 (Patrik. mon Son) ノ始メテ詳記シ
タル一種ノ白癬菌ニ類似セル絲狀菌ニシテ、或學者ハ尙ホ本病原因ヲ截髮
疱疹ト同一物ナリト稱セリ、然レモマンソン氏ハ截髮疱疹ニ類似セル該絲
狀菌ヲ他人ニ接種シ同一ノ疾病ヲ得、又タ同一ノ人ニ「トリコフイトン」菌
ヲ接種シテ定型的ノ疱疹ヲ生ジタルヲ見タリト、由之觀是本病固有ノ原因
菌ハ白癬菌ニ酷似セルモノナルベシ

症候 同心性輪環ヲ形成スルヲ以テ其主徴トシ、其輪環ハ輕度ノ炎症ヲ
呈シテ多數ノ鱗屑ヲ生ズ、而シテ該鱗屑ハ屋瓦狀ニ相重ナルヲ以テ特異ト
ス、其急性期ニ往々發熱シ強度ノ全身症狀ヲ發スル者アリ、又該輪環ノ漸
次其周圍ニ蔓延シテ全身ヲ侵ス事アリト雖決シテ頭髮ヲ侵ス事ナシトス

經過 數ヶ月ヲ要ス

療法 斑狀剪髮疱疹ト同一ノ治療ヲナスベシ

ピエドラ *Piedra*

意義 一種ノ纖維菌毛髮ニ寄生スルヨリ發スル疾病ナリ

原因 ベーレンド氏 (Behrend) ノ命名シタル「トリコスポロン、ヲボイ
デス」菌 *Trichosporon. ovoides* ノ毛幹ニ寄生蕃殖スルニヨル

症候 毛幹結節狀ニ膨隆シテ帶黃灰白色ヲ呈シ頗ル硬固ナリ、其結節ハ
一本ノ毛髮ニ數個附着シ毛ノ一部或ハ全毛幹ヲ取卷ク事アリ彼ノ頭虱卵ト
誤リ易シ

療法 グルビー病ニ同ジ

兒頭截髮病 *Trichophytosis tonsurans der kinderköpfe*

原因 マルムステン氏 (Malmsten 1846) ノ發見シタル「トリコヒー
トン、エンドトリツキス」ニシテ「トリコヒートン、トンズランス」ニ屬ス、其
「エンド、スポーレン」ハ毛髮内ニ於テ列ヲ形成スルモノトス、而シテザブ
ロー氏 (Sabouraud) ハ研究ノ結果大人ノ鬚髯及動物ノ毛ニハ決シテ本
菌ヲ見ズト云ヘリ

症候 大小多數ノ患部散在シテ其症狀ヲ三種ニ區別スベシ

(一) 患部ノ皮膚表面上約12耗ノ所ヨリ多數ノ毛髮短折シテ小數ノ健毛
ト相混在シ、而シテ病毛ヲ圍繞スル鞘ノ如キモノ無ク皮膚又異常ヲ呈セザ

ルモノ

(二) 病毛短折シタル所ノ毛囊口上ニ皮膚面ト密接シテ小鱗屑ヲ來シ、尙ホ健毛ノ多少存在シテ病毛ニ混ズルモノ

(三) 毛髮全ク缺如シテ皮膚白色ヲ呈シ且ツ滑澤トナリテ毳毛ノ生ズルヲ見ルベシ、之レ本病ノ末期ニシテ治療期ニ移行セントスルモノナリ

療法 グルビー氏病ト同一治療ヲ施スベシ

彎曲面瀰蔓性寄生性皮膚症

Dermatomycosis diffus oflexurarum

原因 一種ノ絲狀菌ニシテ「ミクロスポーロンフルフル」ニ類似スト云フ

症候 本症ハ小水疱性或ハ丘疹性ノ扁平隆起ニシテ鱗屑或ハ痂皮ヲ以テ被ハレ、其鱗屑或ハ痂皮ヲ徐去スル時ハ「レンス」豆大ノ灰白黄色ナル光澤アル班ニシテ高ク索狀ニ配列スルヲ見ル、其他亦本症ハ夏季ト婦人ニ多シトス

自覺症ハ痒痒ニシテ爲メニ搔爬症候ヲ續發スルヲ見ルベシ

經過 頑固ニシテ頗ル經過長シ

部位 肘窩膝關或ハ頸部ニ發スルヲ常トス

診斷 固有ノ部位及鱗屑下ニ光澤アル隆起ハ本症ノ特兆トナス

鑑別

(一) 頑癬 邊緣明劃且ツ褐色ヲ呈シ中心再發疹ヲ認メ部位又殆ド一定セリ

(二) 尋常性糠枇疹 發生狀態不同ニシテ搔落シ得ベキ鱗屑アリ痒痒僅ニ之ヲ存ス

(三) 慢性濕疹 瀰蔓性ニシテ濕潤シ其他光澤アル隆起ヲ存セズ

(四) 寄生性匍行疹 環狀ノ配列ヲ有シ毛髮犯サル、事アリ

療法 頑癬ト同一ノ療法ヲ施スベシ、其他多汗症アルモノハ水揚酸撒布劑ヲ以テ之ヲ治セシメ、然ル後チ1—10「クリサロビンエーテル」ノ噴霧ヲ

行ヒ毎日皮膚ノ發赤スル迄處置スルモノ可ナリ

處	方
水 揚 酸	3.0
澱 粉	70.0
滑 石 末	27.0
撒 布 料	

第二章 皮膚血行障礙

Circulationsstorungen der Haut

蕁麻疹 Urticaria-Nesseln

意義 急性ニ發生シテ落屑ナク且ツ速ニ消失スル所ノ小發疹ノ集合スル者ニシテ、一發疹 **Quaddel** ノ直徑ハ殆ド五厘貨大以上ヲ常トシ皮膚ヨリ隆起シ、所謂一種ノ局限性浮腫ニシテ消退スルヤ毫モ痕跡ナク痒痒ヲ必發症トス、而シテ其本態ハ所論一定セズ或ハ中樞神經系統障礙ト云ヒ、或ハ交感神經系統障礙ト稱スルモ、血管運動神經障礙タルハ疑ヒナキ所ナリ

原因 血管運動神經ノ障害ニ由テ發スル者ニシテ、例之ハ蚊、蚤等ノ局處刺戟ニ由テ其部ニ發シ、或ハ神經反射的ノ作用ニ因リテ遠隔セル皮膚ニモ發疹スルモノナリ、則チ外來ノ刺戟直接ニ皮膚ニ作用シ此ノ刺戟ヲ神經中樞ニ傳搬シ反射的ニ再ビ皮膚ノ諸部分ニ作用シテ發疹スル者、或ハ内臟ヨリ神經中樞ニ作用シ夫レヨリ更ニ反射的ニ皮膚ヲ發生セシムル者アリ、彼ノ直ニ皮膚ニ作用スルモノヲ直接ノ原因或ハ外因ト稱シ、此内臟ノ一部ヨリスルモノヲ間接ノ原因或ハ内因ト稱ス、外因ナルモノ次ノ如シ

(一) 蚊、蚤、虱、毛虫、羽虫、臭虫等ノ刺戟

(二) 刺戟性植物例之ハ蕁麻漆ノ刺戟

(三) 器械的刺戟例之ハ搔爬衣服殊ニ毛織物ノ刺戟

(四) 寒冷例之ハ寒風ノ刺戟

(五) 藥物的刺戟例之ハ石炭酸等ノ刺戟

内因ノ主要ナルモノ次ノ如シ

(一) 消化器系統ヨリスルモノ則チ食物性蕁麻疹 *Urticaria ex ingestis* ハ大ニ特異素因ニ基クモノニシテ 飲食物中 本病ノ原因ヲナスハ蝦蟹類及貝類、蜘蛛、青魚、牡蠣、覆盆子類、菌類、其他酒類等ナリ、而シテ皮疹ノ外 悪心嘔吐下痢ヲ發スルコトアリ、亦安知必林、規尼涅、阿片、莫比、苺若、抱水〔コロラル〕、華澄茄、〔コバイバルサム〕、〔テレピンチーナ〕等ノ藥物内服ニヨリ發疹スルコトアリ、其他胃加答兒、疥蟲、蛔蟲等ノ刺戟、膽石痛ノ發作、或ハ便秘等消化器系統内ノ疾病ニ由リ、或ハ小兒ニ於テハ齒牙發生時ニ於ケル口腔内刺戟ノ本病ヲ惹起スル事アリ、之ヲ生齒蕁麻疹 *Urticaria e dentitione* ト云フ

(二) 生殖器系統ヨリスルモノ特ニ月經、妊娠、流産後、等婦人生殖器病ニ發疹スルコト稀ナラズ

(三) 神經系統ヨリスルモノ、感情ノ激動例之ハ驚愕、忿怒、悲歎、啼笑等ニ由テ俄然發疹ス

(四) 呼吸器系統ヨリスルモノ、例之ハポール Pohl 等ノ實驗セル如ク喘息發作ノ緩快スル際發疹ヲ見ル如シ

(五) 傳染病 例之ハ間歇熱、窒扶斯等ノ經過中ニ本病ノ發現ヲ見ル

症候 一種固有ノ急激ニ發生シ亦消失スル所ノ落屑ナキ五厘貨大乃至爪甲大ノ硬固ナル皮膚隆起ニシテ、小發疹ノ集合ヨリ成リ搔痒ヲ感ジ之ヲ搔ケバ其部ニ充血ヲ來シ尋テ浮腫ス、然シテ亦破格トシテ細小ナルモノ或ハ巨大ナルモノアリ、境界明瞭ニシテ其色澤紅色ナルヲ紅色蕁麻疹 *Urticaria rubra* ト云ヒ、其色白クシテ只屢淡紅色ヲ帯ビ繞ラスニ紅暈ヲ以テスルモノアリ、之ヲ陶器様蕁麻疹 *Urticaria Porcellanea* ト云フ、亦白色ナルヲ白色蕁麻疹 *Urticaria alba* ト稱ス、搔クニ隨テ生ジ忽チ全身

ニ蔓延シ其存在時間甚ダ短ク 全然消失シテ一ノ痕跡ヲモ止メザルヲ常トス 然レモ極メテ稀ニ所謂ゼングステル氏 Sengster ノ色素性蕁麻疹 *Urticaria Pigmentosa* ハ其發疹甚ダ永ク、或ハ同所ニ反覆發生シテ赤褐色ノ色素ヲ殘シ其確症トシテ發疹ト共ニ色素沈着班ヲ存シ 其沈着ハ輕度ノ皮膚面ヨリ隆起ス、而シテ永キ經過中ニ腫脹亦ハ表面發赤等ヲ來シ時ニ搔痒ヲ缺ク事アリ、通常幼年者生後數日若クハ數月ノ者ヲ犯ス、大人ニ來ル事稀ナリ、然レモ著者ハ土肥氏ニ從ヒ本症ト蕁麻疹ヲ區別スベシ、亦蕁麻疹ノ中心部消失シテ周縁ノミヲ存シ輪狀ヲナスモノアリ、之ヲ輪狀蕁麻疹 *Urticaria annularis* ト稱シ、數個連合シテ紆回狀ヲナスモノヲ紆回狀蕁麻疹 *Urticaria gyrata* ト云ヒ、地圖狀ヲナスモノヲ圖狀蕁麻疹 *Urticaria Figrata* ト云フ、更ニ増大スル者ヲ蛇行性蕁麻疹 *U. serpiginosa* 其大サ二錢銅貨大高ク 皮膚面ヨリ隆起スルモノヲ、巨大蕁麻疹 *Riesenurticaria* ト名ク、又疹内組織ニ漿液性浸潤ヲ有シ丘疹ヲ形成スルモノヲ丘疹性蕁麻疹 *Urticaria papulosa* ト云ヒ、其漿液性ノ浸出ニ由テ表皮水疱ヲ形成スルモノヲ水疱性蕁麻疹 *Urticaria Vesiculosa* ト名ケ、大水疱ヲ作ルモノヲ大水疱性蕁麻疹 *Urticaria bullosa* ト稱ス、又其丘疹ヲ形成シ漿液性浸潤ナキハ蕁麻疹性苔癬 *Lichenurticaria* ト云フ

蕁麻疹患者ノ皮膚ハ其發疹ナキ部位ヲ刺戟スルモ甚ダ過敏ニシテ隨意ニ其蕁麻疹ヲ喚起シ得ベシ、例之ハ爪ニテ摩擦シ文字ヲ書スレバ忽チ皮膚ニ其文字ヲ現出ス、而シテ其線狀隆起ノ吸收後漿液ノ滲出ヲ見ル、斯ノ如ク人工ニ發疹セシメタル者ヲ人工的蕁麻疹 *Urticaria Factitia* 又ハ皮膚表記症 *Dermagraphism* ト云ヒ、此人工的蕁麻疹ハ蕁麻疹患者ニ普通見ル所ニシテ、蕁麻疹ノ發現ナキ際ハ人工的ニ試ミ依テ以テ診斷ノ一助トナス

眼瞼及ビ陰部ノ如キ皮下結締織ノ鬆疎ナル部ニハ著シキ浮腫ヲ發スルヲ見ル事アリ、小兒包皮卒然浮腫シ透明トナリ俗ニ蚯蚓ニ放尿シタリト云フ

如キ其一例ナリ、時トシテ其他ノ部例之ハ手ニ浮腫ヲ來シ、或ハ粘膜就中軟口蓋、咽頭懸壅垂、會壓軟骨部等ニ蕁麻疹ヲ發生シ浮腫狀腫脹ヲ呈シ、甚シキハ窒息ヲ來スノ危險アル事アリ、然レモ幸ニ此症狀ハ稀有ニシテ只巨大蕁麻疹ノ皮膚ニ存スル時ニ見ル事アルニ過ギズ

自覺症ハ痒痒灼熱甚シク搔爬スレバ從テ新疹ヲ生ジ殆ド堪ヘ難キヲ見ル然レモ本病ハ之ニ由テ濕疹ヲ生ズル事少ナキヲ常トセリ

部位 別ニ一定ノ好發部ヲ有セズト雖、刺戟ヲ受クル部位例之ハ衣服ノ壓迫ヲ受クル部分或ハ搔爬シ得ベキ部分ニ發スル事殊ニ多シトス

經過 急性ニ多クハ經過ス時トシテ一日中數回發作スルコトアリ、其發作ナキ中間期ハ何等健體ト異ルコトナキモ發作時ハ痒痒ニ堪ヘズ爲ニ全身遠和發熱スルコトアリ、亦慢性ハ屢々再發シ舊皮疹消失シ新皮疹ヲ生ジ數週或ハ數月若クハ數年持續シ往々全身ヲ犯ス、亦「マラリア」ノ假面ヲ呈スル間歇性蕁麻疹 *Urticaria intermittens* ナルモノアリ、而シテ此急性ヲ速消性蕁麻疹 *Urticaria evanida* ト稱シ、慢性ヲ持續性蕁麻疹 *Urticaria Perstans* ト稱スルモノアリ

診斷 發疹ノ發現消退共ニ急速ニシテ甚シキ痒痒ヲ有シ、其皮疹ノ没シテ見ルベカラザル者ハ其搔爬痕ノ存スルト既往蕁麻疹ヲ推測セシムルニ由テ容易ニ診斷シ得ベシ、而シテ痒痒ノ原因何ヲ以テスルモ説明シ得ザル時ハ則チ蕁麻疹ノ豫診ヲ下シ人工ニ依テ蕁麻疹ヲ發生セシメ得ルヤ否ヲ試ミ而シテ其本病タルヲ知ラバ進ンデ之レガ原因ヲ探究スベシ、之レ治療上ニ於テ大ナル關係ヲ有スレバナリ

豫後 通常經過可良ニシテ危險ナラズ、其原因一時性若クハ容易ニ除去シ得ベキ者ハ速ニ治癒スルモ、其然ラザルモノニ在テハ多クノ時日ヲ要スルハ言ヲ俟タズ

鑑別 ノ要アル者ハ多形滲出性紅班ニシテ該班ハ一定ノ好發部位殆ド常ニ手背ニ來リ、周圍赤色、中央暗赤色ニシテ痒痒少ナク其他特異ノ變化アリ、又皮膚痒痒症アルモ之レハ發疹ナシ、中毒性紅班ハ熱灼感アルニ過ギ

ズ且ツ發疹速ニ消失スルコトナシ

療法 其原因ヲ精査確定シテ之レガ除去ノ法ヲ講ズルヲ第一義トナスベシ雖、先ヅ其痒痒ヲ除カザルベカラズ、痒痒ヲ制スルニハ次方ヲ撰ムベシ

(1) 薄荷腦	3.0—5.0
酒 精	100.0
患部ニ塗布	
(2) 石 炭 酸	2.0—4.0 (或ハ薄荷2.5ヲ加ヘ)
酒 精	100.0
同 斷	

ヱイタール氏法

(3) 抱水クロラール	3.0
杏 仁 水	50.0
蒸 留 水	200.0
同 斷	
(4) チ モ ー ル	1.0
酒 精	100.0
同 斷	
(5) 薄 荷 腦	2.5—5.0
ラ ノ リ ン	50.0
患部塗擦用	
(6) 石 炭 酸	1.0
ラ ノ リ ン	30.0
ワセリン	20.0
同 斷	
(7) ナフトール	5.—10.0
綠 石 鹼	30.0
ワゼリン	60.0
同 斷	

- (8) カムフル 各 2.0—4.0
 抱水クロラール
 ラノリン 各 20.0
 ワセリン
 同 斷

- (9) 5%石炭酸軟膏 3—5%石炭酸液
 (10) 5%薄荷精 20%薄荷油 3—60%薄荷軟膏
 (11) サリチル酸ナトリウム 5.0
 澱粉 20.0
 患部撒布用

内服 急性ノ場合ハ「サリチル酸ナトリウム」3—6.0 一日三回分服奇効ヲ奏ス事アリ、其他内服藥トシテ「アトロピネ」アンチピリン「亜砒酸、沃度加里」「ザロール」「クレオソート」麥角等ヲ用フ、又消化器ニ注意シ下劑ヲ與フベシ、土肥氏ハ「アトロピネ」ヲ原因不明ノ際ニ推奨セリ

- 硫酸アトロピネ 0.01
 甘草越斯及末 適宜
 爲20丸毎日1—3回2乃至1丸宛食後服用

其他刺戟癢痒ヲ感ズルモ之ヲ搔ク事ヲ禁ジ亞礫散ヲ撒布シ、若シ止ムヲ得ズンハ綿花ノ薄層ヲ以テ被覆シ繻帶ヲ輕ク施シ固定スベシ、慢性症ニハ精製硫黃、被方甘草散等ヲ處シ又石炭酸「クレオソート」「ナフタリン」等ノ内服ヲ試ミ、間欠性ノ者ニハ規尼涅ヲ試ムベシ、浴法亦奇効ヲ見ルコトアリト雖反テ増悪スルコトアリ

著者曾テ數年ニ亘ル頑固ノ蕁麻疹ニ逢遇シ遂ニ生理的食鹽水或ハ1%乃至3%「クロールカルシウム」等ノ靜脈注射ヲ試ミタルモ無効ニ終レリ、然ルニ一日「カンフル」注射ノ必要ヲ來シ實施後一時間ヲ經テ患者ヲ診スルニ遇然蕁麻疹ノ消褪ヲ認メ自覺症輕快セリ、依テ其後「カンフル」皮下注射ヲ試ムルニ永久的効力ハ期シ難キモ、一時的輕快ヲ與フルヲ認メタリ、其後

多數ノ蕁麻疹患者ニ試ムルニ成績良好ナルコト多シ、但シ原因除去ヲ勉ムルハ論ヲ俟タズ

色素性蕁麻疹 *Urticaria Pigmentosa*

意義 本症ハネツトレスツプ氏始メテ記載シサングスター氏ノ名命シタル稀有性ニシテ、主トシテ嬰兒期ヨリ犯シ皮膚ニ黃褐色小斑又ハ丘疹ヲ生ジ多年治癒セズ、其間蕁麻疹性過敏症ヲ伴フ慢性皮膚病ナリ

症候 蕁麻疹頻回發生後其跡ニ鮮紅色小斑又ハ丘疹ヲ認メ、其後稍扁平トナルモ忽チ腫起シ蕁麻疹様トナリ一進一退長ク消失セズ、發疹ハ暗紅褐色ニ變ジ班紋虎豹ノ如シ、又時トシテ着色淡ク帶黃褐色ナルアリ、黃色腫様蕁麻疹 *Urticaria Xanthelasma* ト云フ、又廣大局面ノ對側的ニ皮膚面腫起スルコトアリ、其他血管神經過敏症ヲ有シ固定色素疹ノ反復浮腫ノミナラズ、健康皮面ニ於テモ潮紅又ハ單純蕁麻疹ヲ生ジ速ニ消失スベシ、自覺症ハ癢痒ニシテ發作性ニ來ル

部位 軀幹ヲ主トシ四肢顔面等ニモ來ルト雖手掌足趾頭部ハ稀ナリトス
經過 生後數日又ハ數月長クモ一ケ年以内ニ發生シ後數年間固定ス、時トシテ十年乃至三四十年ノ後チ尚ホ存在スルコトアリ、或ハ成年以後ニ始メテ發生スルコトアリ

解剖 初生兒期ニ於テハ眞皮浸潤全ク飽肥細胞ヨリ成リ、後年發生ノ者ハ然ラザル如ク、其著色ハ飽肥細胞ノ爲ナラズシテ主トシテ基底層色素増殖ニ因ルト云フ

診斷 蕁麻疹ニ伴フ色素性小斑及丘疹ニシテ、人工的ニ蕁麻疹ヲ起シ得ベク癢痒發作性ニシテ組織中ニ數々飽肥細胞集簇ヲ認ム

鑑別 蕁麻疹ハ消失速ニシテ固定セズ色素沈着セズ、梅毒疹ハ手掌、足趾顔面ニ來リ經過短ク癢痒ヲ缺ク、癩ハ知覺麻痺、神經肥厚、筋肉萎縮等ヲ認メ生後直ニ發疹セズ

豫後 早晚完全治癒ス

療法 土肥氏ハ石炭酸亞鉛花糊ヲ連用シ患者ニ輕快感ヲ與ヘラレタリト云フ

小兒蕁麻疹様苔癬

Lihen urticatus infantum

異名 蕁麻疹様苔癬 *Lichen urticatus* 丘疹性蕁麻疹 *Urticaria Papulata* 小兒「ストロフルス」*Strophulus infantum*

意義 蕁麻疹様紅斑又ハ丘疹數年ニ亙リ反覆發生スル癢痒性皮膚病ニシテ主トシテ小兒ヲ犯ス

原因 未ダ明瞭ナラズ、一家族同胞ノ罹患スル者アリ殊ニ結核質母親ヲ有スル子ニ多シ、然レモ患者ノ榮養及母乳ト人工榮養法ニ依ル者モ其間差異ナキ如シト云フ

症候 數日前ヨリ食思減少精神過敏トナリ安眠ヲ得ズ數々啼泣ス、卒然皮膚ニ散在性又ハ集簇性ニ粟粒大乃至大豆大丘疹ヲ發生シ癢痒甚シク殊ニ夜間甚シ、而シテ丘疹ハ往々眞珠様光澤アリ淡紅又ハ鮮紅色外暈ヲ有ス、時トシテ丘疹尖端ニ小水泡又ハ膿疱ヲ有シ或ハ搔爬ノ爲血痂スルコトアリ、其消退スルヤ紅暈ヨリシ亞テ丘疹ニ及ビ一時輕微ノ色素沈着又ハ落屑ヲノコス、輕症ノ者ハ丘疹少ナク蕁麻疹様紅疹ノ出現スルコト多シ

部位 軀幹四肢等ニ來リ殊ニ手足前肘下腿臀部ニ多シ、顔面ハ稀ナリ

經過 生後三ヶ月乃至一二年ノ間ニ始リ、二三日ニシテ一旦消失シ更ニ時日ヲ經テ同部又ハ他部ニ發生シ或ハ數週數月ニ亙ルコトアリ、又季候ト關係ヲ有シ或ハ夏期ニ或ハ冬期ニ或ハ四季同一程度ニ發疹スル者アリ、斯クシテ四五歳ニ及ビ自ラ治癒シ稀ニ痒疹ノ前驅タルコトアリ

解剖 有棘細胞ノ増殖ニ基ク

診斷 蕁麻疹様紅斑及丘疹劇烈ノ癢痒幼年ノ發病、部位不定等其他經過ニヨリ之ヲ診斷スベシ

鑑別 痒疹ハ四肢伸側ニ來リ、皮膚浸潤肥厚色素沈着甚シ、蕁麻疹ハ扁

平隆起境界明劃消失速カナリ、疥癬ハ蟲道ヲ證明スベシ、水痘ハ發熱ヲ見ルベシ

豫後 佳良ニシテ數年ヲ經バ自ラ治ス

療法 モンチ氏ハ食鹽水灌腸ヲ稱用ス、又土肥氏ハ「リゾール」浴ノ有効ナルヲ稱セラル、其他2—5%「ナフトール」軟膏、酒精、「カンフル丁幾」メントール「精」、石炭酸、亞鉛花「リ」ニメント「等」ヲ處スベシ

急性限局性水腫 *Oedema cutis*

circumscriptum acutum,

意義 身體各部ニ恰モ蕁麻疹變症ノ如ク、之ニ類スル急激ニ出沒スル梅毒實大乃至手拳大限局性腫脹ヲ發スル一種稀有症ニシテ、クキンケ氏 *Quincke* ニ依テ一般知ル所トナレリ

原因 血管擴張神經ノ刺激ニ由ルト云ヒ或ハ靜脈ノ痙攣ニ由ル(*Unna*)ト稱シ、更ニ其原因ヲ寒胃感動暴飲月經障害或ハ遺傳トナセリ、而シテ比較的酒客ノ之ニ罹ル者多キガ如シ

症候及部位經過 身體ノ何レヲ問ハズ例之ハ口唇、顔面四肢及諸粘膜(口腔、咽頭、喉頭)等ニ梅毒實大乃至手拳大ノ限局性浮腫ヲ發シ、暫時ニシテ全然消失ス、其腫脹ハ概シテ2—10仙迷直徑ヲ有シ其色ハ敢テ健皮ト異ナラザルコトアリ、或ハ僅ニ潮紅シ或ハ亦蒼白色ヲ呈スルコトアリ、自覺症トシテ皮膚緊張ノ感時トシテ癢痒灼熱ノ感ヲ有シ、其咽頭及喉頭等ニ發スルモノニアリテハ嚥下或ハ呼吸等ノ困難ヲ來シ時ニ消化障害嘔吐下痢等ヲ發スルコトアリ、此場合ハ恐ク胃腸ニ同一ノ變化ヲ起シタルモノナランカ其他同一ノ部位ニ屢々再發スル事アリ

診斷及豫後鑑別 本病固有ノ症候ニ注意セバ敢テ他症ト誤ルノ虞ナシ亦其豫後ハ可良ナリトス、鑑別スベキハ蕁麻疹ナルモ限局セズ數時間中ニ消失シ癢痒激甚ナリ、又限局性硬皮症ハ長ク存在シ消失セズ

療法 「キニ—ネ」*「アンチピリン」*「サリチール酸」、*「アトロピネ」*等ノ

内服ヲ可トシ、其局處ニハ水揚酸石鹼、ビツク氏硬膏ノ貼用其他或ハ5%
「サリチール酸ナトリウム」液ニ1%重碳酸「ナトリウム」液ノ混和電法、硼酸
水電法、清涼膏貼布等良効ヲ奏シタル者アリト云フ、亦呼吸器消化器等ノ
障害ヲ兼ネタルモノハ莫兒比涅ヲ與フル等對症療法ヲ勉ムベシ、其他電氣
ヲ試ミ冷水摩擦ヲ試ム者アリ

先天性表皮水泡症 Epidermolysis

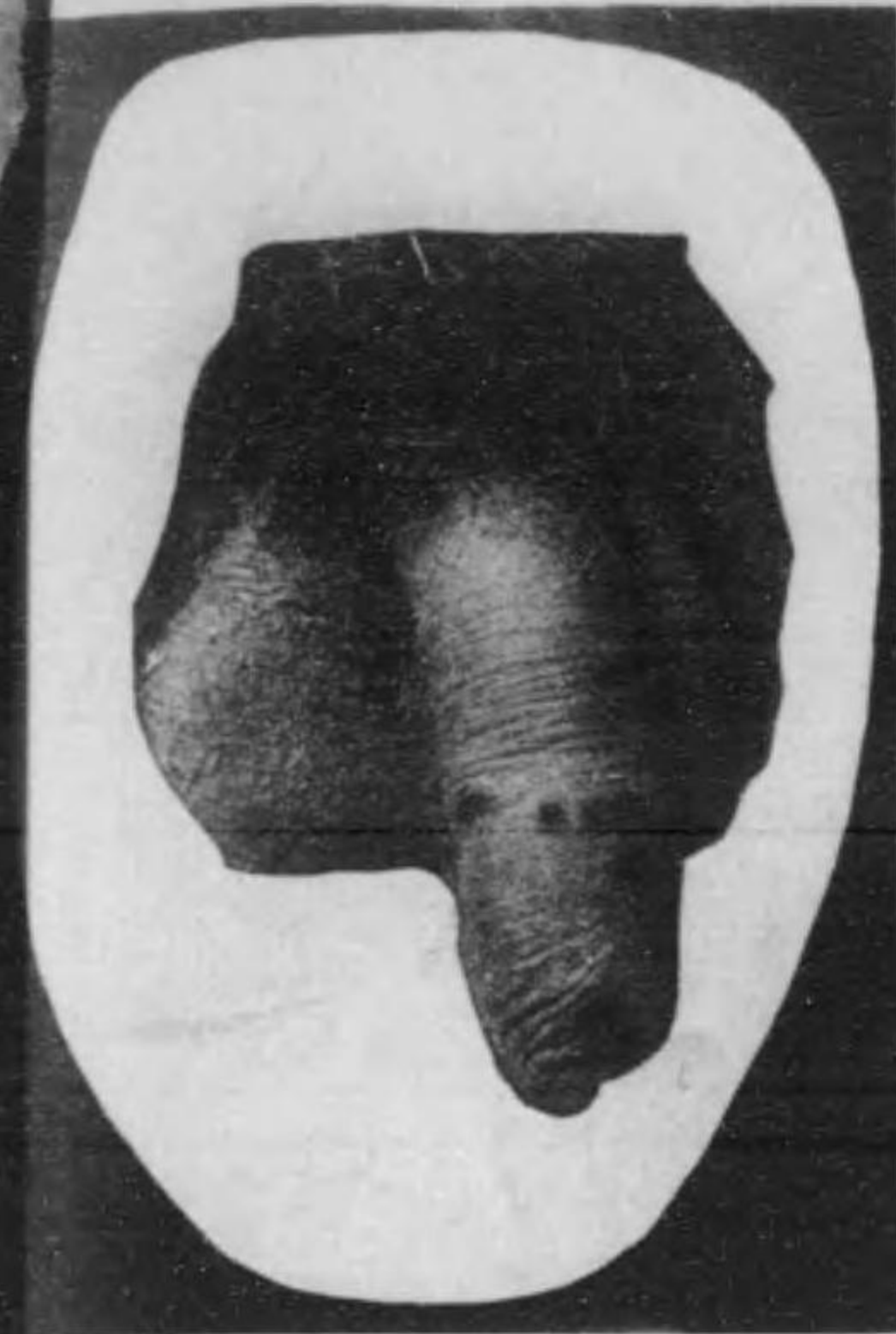
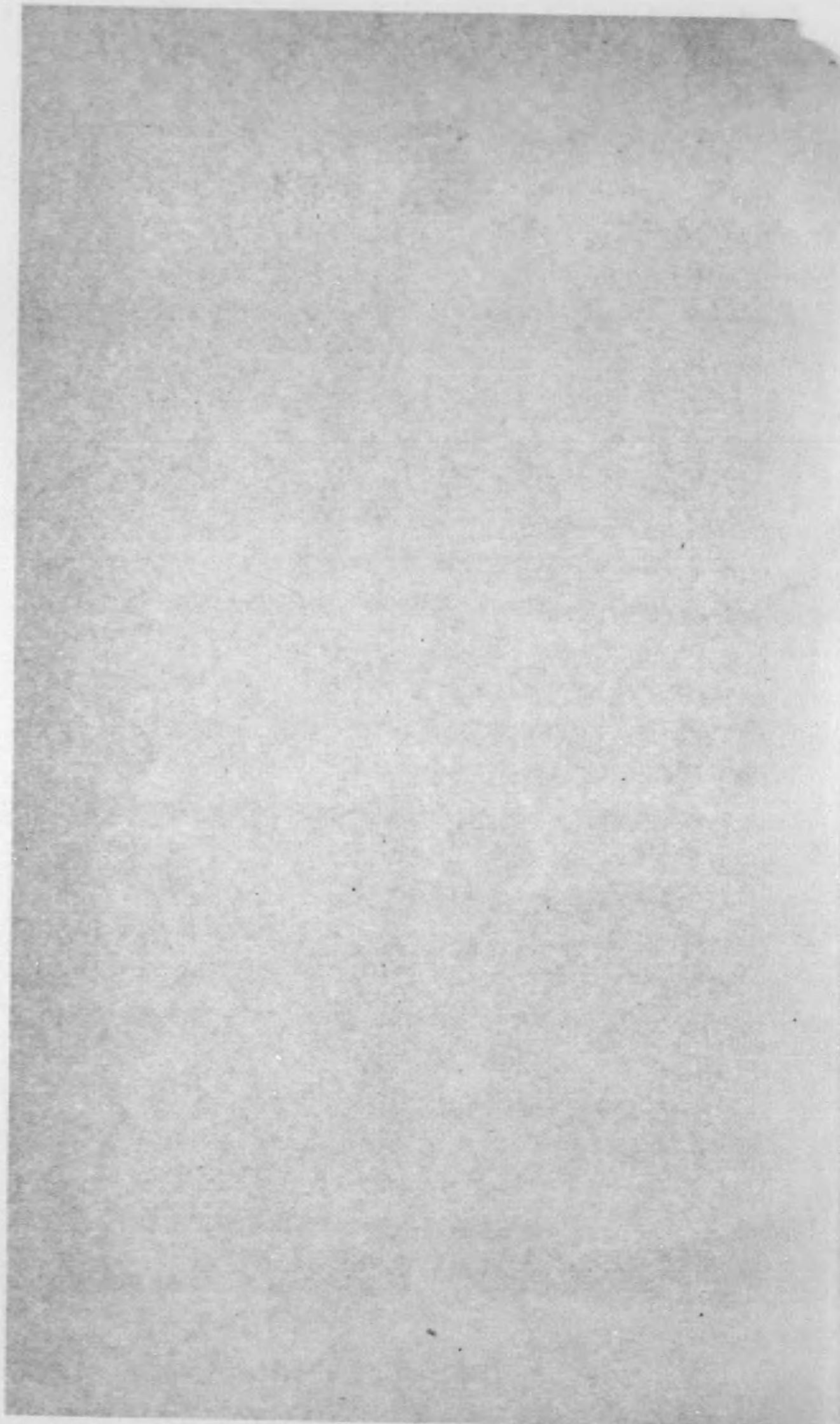
bullosa hereditaria (Köbner)

異名 先天性水疱性皮膚炎 *Dermatitis bullosa hereditaria*
(Valentin) 先天性角層水疱症又先天性角層離解症 *Keratolysis bull-*
osa hereditaria (Torok) 棘狀層水疱症又有棘層離解症 *Acantho-*
lysis bullosa (Behrend)

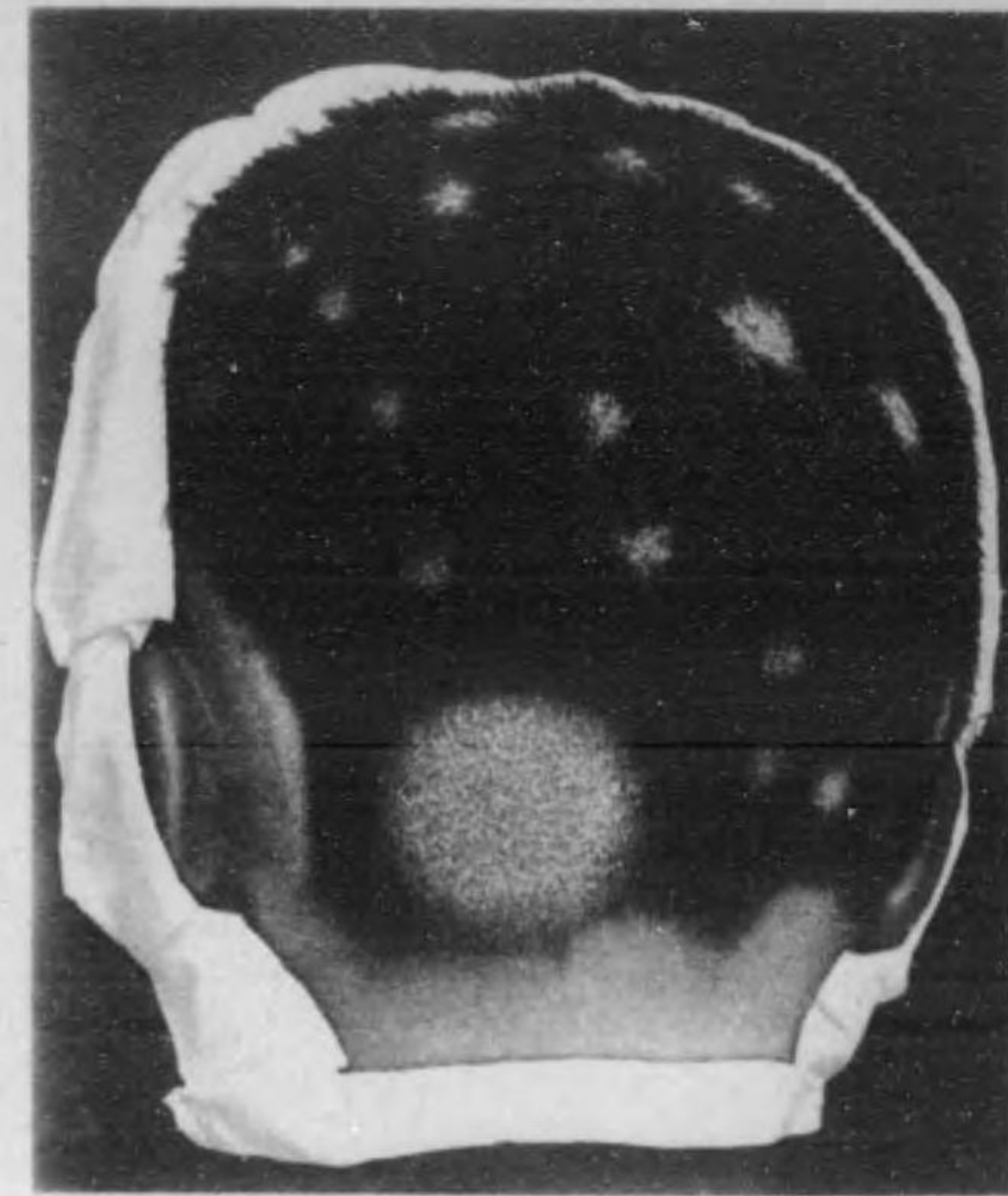
意義 先天的素因ヲ有スル者ノ外傷等ニ因リ表皮ニ水疱ヲ生ズルヲ謂ヒ
其發スルヤ發疹等ノ前驅ナク直チニ比較的緊張セル水泡ヲ形成シ炎症々狀
及癢痒ヲ有セザルモノトス、而シテ本症ハゴルドシヤイデル氏(Goldseh-
eider 1882) ノ初メテ報告シ我國ニテハ土肥氏及井澤氏ノ報告サレタル
稀有ノ症ナリ

原因 未詳ナルモ比較的兄弟ヲ犯スコト多ク、亦機械的刺戟ニ依テ水泡
ヲ形成スル先天的傾向ヲ有シ、則チ足駄ノ鼻緒「ズボン」鈎帶等ノ摩擦輕少
ノ加壓甚シキハ指壓スルモ既ニ本症ヲ發スルヲ見ル、而シテ化學的作用ニ
テハ發生セザルモノナリト云フ、其他ワーレンチン氏ハ四代ノ遺傳ヲ實驗
セリト云フ

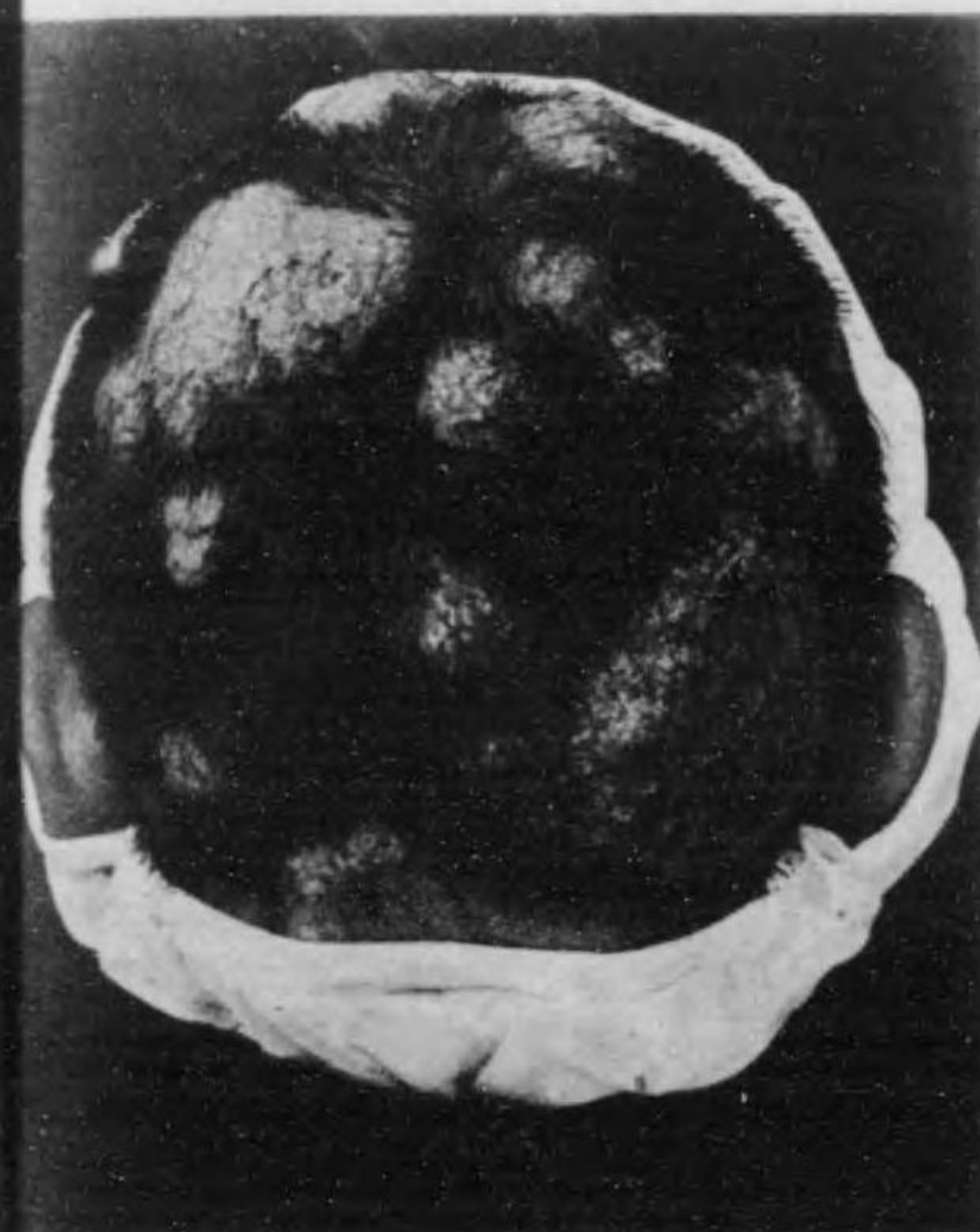
症候 小兒出生ノ際既ニ水疱ヲ有スル者アルモ通常之ヲ認メズ、多クハ
二歳ノ頃ヨリ始マリ終生治スルコトナシト雖、時ニ病症輕快シ或ハ早晚消
失スル者アリ、而シテ患者ノ歩行ヲ始メ或ハ玩具ヲ弄スル頃ニ至リテ手足
等ニ刺戟ヲ受ケ其部ニ潮紅ヲ呈シ、則チ淡紅ノ班點ヲ生ジ微痛ヲ有シ直チ
ニ大水疱ヲ形成ス、此水泡ハ比較的緊張シ炎症々狀ナク又癢痒ヲ有セズ、



Scabis
疥 癬



Trichophytia Capillitii
頭 部 白 癬



Kerion Celsi
チニルジー氏禿瘡



Scabis
疥 癬

通常透明ノ液ヲ含ムモ稀ニ血液ヲ混ジ或ハ化膿シ水泡ハ數日ニシテ吸收セラレ或ハ破ルハコトアルモ速ニ表皮ヲ生ズルヲ常トス、然レドモ時トシテ癩痕形成毛髮及爪甲ノ營養變常或ハ脱落及小囊腫ノ形成ヲ來タシ、或ハ發汗過多症 **Hyperidrosis** ヲ合併シ或ハ皮膚菲薄トナリ光澤ヲ有スルニ至ルコトアリ、殊ニ脛骨前面等ハ著明ナリト云フ、其他自覺症ハ壓迫ニヨリ微痛ヲ感ズルニ過ギズ、ハロツボウ氏 **Hallopeou** ハ自然ニ吸收セラレ亦ハ破潰スルモ速ニ表皮形成スルモノヲ單純水疱性 **Forme Simple-bulleuse** トシ、皮膚萎縮粉瘤ノ續發爪甲ノ變質脱落ヲ兼ネ、且ツ對側ニ生ズルヲ營養變常性又ハ障礙性 **Forme dystrophique** 亦ハ廢滅性 **Forme frust** ニ區別セリ、然シテ後者ハ皮膚色素沈着殊ニ著シク亦永續スルモノナリ、前者モ多少變質シ往々蠟殼狀ヲ呈ス

經過 ハ慢性ニシテ終身發疹シ、時ニ疾病ノ輕快ヲ來シ或ハ稀ニ後年ニ至リ消失スルコトアリ、亦夏季ハ冬季ニ比シテ水疱ヲ生ジ易シ

部位 ハ刺戟ヲ被ムリ易キ部分ニシテ通常手足及項部間々粘膜ニ生ズルコトアリ

解剖 水泡部位ハ棘狀層中又ハ眞皮ト表皮ノ間ニ發生シ角質ニ來ル事稀ナリ、其水泡中ニ表皮細胞及「エオジン」細胞ヲ存シ間々圓形細胞ヲ混ジ、亦眞皮ノ炎症浸潤極メテ僅微ナリトス (井澤氏)

診斷 本症ハ自然ニ發スルコトナク必ズ多少ノ加壓ニ依テ生ジ、人工的水泡、家族的素因、及營養障礙性ノ者、對側性發疹、爪甲變化、色素沈着及脫失等其他本病固有ノ症狀ニ注意スベシ

鑑別 (一) 天疱瘡ハ水泡圓形ニシテ頗ル大ニ又卒然發生シ決シテ外傷ニ因ラズ、亦家族的素因ヲ有セズ全身症狀ヲ有シ衰弱著シク豫後不良ナルヲ常トス (二) 濕疹ハ水泡微小ニシテ潮紅著シク且ツ癢痒アリ、亦健全皮膚ヲ摩擦シ水泡ヲ發スル事ナシ

豫後 生命ニ關セザルモ往々職業的障礙アリトス

療法 外傷ヲ豫防シ、皮膚ニ塗油シテ水泡ヲ擁護吸收ヲ促シ、又ハ破開

シテ硼酸軟膏ヲ貼用シ、亞砒酸劑ノ内服或ハ注射ヲ試ムベシ

紅斑 Erythem

意義 所謂皮膚ノ充血ニシテ真皮ノ最上乳嘴層内ノ毛細血管過量ノ動脈血液ヲ有シ、皮膚鮮紅色ヲ呈シ且ツ浮腫ナク組織ノ變化ヲ發生シアラザル爪甲大以上ノ者ヲ單純紅斑 (Erythemasimplex) ト云ヒ、其粟粒大乃至小斑點狀ノ者ハ特ニ薔薇疹 (Roseola) ト稱ス (Kromayer)

原因 種々ニシテ下ニ列擧スベシ

(一) 器械的刺戟 例之バ打撲撞突壓迫搔爬摩擦等ニテ限局シタル所謂外傷性紅斑 (Erythema traumaticum) ヲ生ズ、其他緊迫セル帶ヲ解キタル際之ヲ認ム

(二) 溫熱的刺戟 由テ溫熱性紅斑 Erythema Galoricum ヲ生ズ、例之バ太陽、電氣、光線、越紫光線、X光線ニ由テ起ル太陽紅斑 Erythema Solare ノ如キ之ナリ、此太陽紅斑ハ往々濕疹及水泡形成ニ移行スル事多シ、而シテ彼ノ溫熱若クハ寒冷ナル空氣運動ニ觸レテ發スル者ハ、始メ鮮赤色後チ稍ヤ紫色ヲ帶ビ尙ホ充血ノ持續スル時ハ赤色ノ色素沈着ヲ見ルニ到ル、之レ血管壁ヲ通過シテ血色素ノ沈着ヲ生ズル者ナルベシト云フ例之バ往々炭火ニテ採暖スル者ノ手足ニ生ズモノ則チ之レナリ

(三) 精神ノ感動及神經系ノ疾患損傷ニ因ル者 則チ羞耻、慚愧、憤怒ニ因テ生ズル精神的紅斑 (Erythema psychicum) アリ、此者ハ忽チ發シ忽チ消退スルヲ以テ飛散性紅斑 Erythema Fugax トモ名ケ、普通顔面ニ來ルヲ常トス、而シテ神經痛末梢神經ノ損傷皮ビ神經中樞ノ局處疾患ニ於テ紅斑ヲ發スルコトアリ、又一指ノ損傷ニ依リテ他手ニ紅斑ヲ發スル等所謂反射的充血ヲ見ルコトアリ

(四) 毒物ノ直接皮膚刺戟ニ由ル者 則チ毒物性紅斑 Erythema Toxicum 例之バ芥子、芫青、植物毳毛、及毛蟲ノ毛ニ觸レテ發スル者ニシテ彼ノ規尼涅 [アンチピリン] [ベルバルサム] 等ノ内服ニ依テ生ズル藥疹

ノ如キハ之ヲ中毒性紅斑 (Erythema Venenit) ト云フ

(五) 其他諸種内臟器病ニ因ル者 則チ生殖器病及消化器病ノ容易ニ顔面ニ充血ヲ見ル等、或ハ傳染病經過中ニ發赤スル内臟病性紅斑 (Erythema morbis internis) アリ

症候 皮膚鮮紅色トナリ、表皮薄ク乳嘴體ノ血管富有ナル部ハ其色最モ鮮明ナリ、而シテ皮膚色素ノ多量ナル部ハ稍ヤ褐色ヲ帶ビ表皮ノ最モ厚キ部分ハ僅ニ黃色ヲ帶ブ、而シテ浮腫及炎症々狀ナク其大小ハ一定セズ、小斑點ノ者ハ特ニ薔薇疹ト稱シ又紅斑點密生セル時ハ猖狂熱様紅斑 (Erythema Scalatiniforme) ト云フ、彼ノ初生兒全身ニ存スル赤味ハ所謂初生兒紅斑 (Erythema neonatorum) ト名ヅケ漸次黃色ニ變ズル生理的ノ者ナリ又紅斑ハ指壓ニ由テ褪色シ指壓ノ去ルヤ忽チ潮紅ス、溫度ハ健康部ニ比シ僅ニ高ク時ニ緊張灼熱癢痒ノ感ヲ發シ或ハ稀ニ神經痛ヲ發スル者アリ、而シテ本症ハ常ニ落屑ヲ有セズ

經過 其原因ニ由テ長短一様ナラズ

診斷 單純紅斑ハ揮散性ナルト、炎症々狀ノ缺乏及落屑ナク加壓ニ依テ消退スルヲ特兆トス

療法 其原因除去ヲ勉ムベシ、則チ元因療法ヲ主トシ然シテ其症候的ノ者ニ在テハ別ニ治療ヲ要セズ、只灼熱癢痒ノ甚シキ者ハ冷水拭去、酒精或ハ二百倍石炭酸酒精ヲ塗布スベシ

結節性紅斑 Erythema nodosum

異名 打撲傷様紅斑 Erythema Contusiforme

意義 前驅症トシテ發熱全身症狀ヲ有シ皮下結節ヲ一定部位ニ發生シ常ニ關節合併症ヲ伴フ、一見多形滲出性紅斑ノ如シ

原因 恐ラク瘴氣傳染病ナルベシ、又急性「ロイマチス」ヲ原因トナス者アリ

症候 熱候弛張性ニシテ三十九度乃至四十度、時トシテ數日間ニ及ビ皮

疹ノ發生ト共ニ最高度ニ達シ次デ下降ス、發疹ハ豌豆大乃至鷄卵大硬靱ノ結節ニシテ真皮内ニ位シ表面平滑半球狀ニ皮膚面上隆起ス、其境界ハ不明ニシテ小ナルハ僅ニ觸知存在ヲ認メ大ナルハ皮膚緊張ス、數日ニシテ縮少シ硬度減退ス、其色ハ初メ鮮紅色乃至桃紅色ナルモ漸次ニ暗紅色、帶青色綠色、黃色トナリ恰モ打撲傷後ノ皮下溢血ガ褪色スルガ如シ、又其數ハ一定セズ時トシテ多數ヲ算スルコトアリ、其他自覺的大結節ハ疼痛ヲ有シ輕小ナルハ加壓時疼痛ヲ訴フベシ

部位 下腿殊ニ脛骨前面ニ發生シ又膝關節周圍、大腿、前膊、上膊等ヲ侵シ軀幹及顔面ニ來ルコトナシ

經過 通常八日乃至十四日ヲ經テ全ク吸收シ僅ニ著色ヲ留ム、而シテ新結節發生毎ニ發熱シ四肢及關節ノ重感及疼痛ヲ訴ヘ全身症狀著シク甚シキハ脱力スル者アリ、又合併症トシテ關節痛ヲ伴ヒ膝、腕、足等ノ關節殊ニ著シ或ハ時トシテ胸膜炎、肺炎、心囊炎、蛋白尿等ヲ來スコトアリ、慢性ハ數月乃至一年有餘ニ亙ル者アリ、又結節ハ決シテ化膿セズ

豫後 比較的良好ナリ

解剖 ウンナ ヤダツソン カンパーナ等ノ諸氏ハ急性炎性變化ヲ認メ浮腫充血ハ真皮深層、皮下結締織ニ及ブト云フ

診斷 結節ノ性状及其化膿セザルコト及關節痛全身症狀等

鑑別 多形滲出性紅斑ハ皮疹互ニ融合シ周圍ニ展開ノ傾向アリ、硬結性紅斑ハ經過緩慢ニシテ腺病質ニ來リ結節化膿スベシ

療法 患部ヲ高舉シ「イヒチホール」「チゲノール」汞軟膏等ヲ塗布貼用シ緊縛スベシ、内服トシテ揚曹「アスピリン」「アンチヘブリン」規尼涅等ヲ處シ慢性ニハ沃度劑ヲ投ズベシ

多形滲出性紅斑 *Erythema exsudativum-multiforme und Herpes iris*

意義 本症ハ急性ニ多少密生シテ隆起スル豌豆大赤色ノ無痛斑ナリ

原因 血管運動神經ノ疾病ニ由リ毛細血管ノ充血及麻痺ヲ生ジテ發スルモノナルベシト云フモ、其末梢神經ナリヤ將タ血管運動神經中樞ノ疾患ナルヤ未ダ疑問ニシテ、如モ亦其血管運動神經ノ疾病原因モ未ダ知ルヲ得ベカラザルナリ

近時亦其原因ヲ一種ノ細菌ニ歸スモノアリ、之レ恐ラク一定ノ時期ニ於テ流行性ノ如ク多數ノ患者ヲ出スニヨルベシ、而シテヘブラ氏 *Hebra* ハ本病ハ局處的原因ニ由テ發スル者ニ非ズト云ヒ、カボシー氏 *Kaposi* ハ水銀軟膏ノ塗擦ヨリ發シタルヲ説キ、レウイン氏 *Lewin* ハ尿道ノ刺戟ニ由テ發シタルヲ經驗シタリ、其他寄生物ヲ證明シタル者モアリキ

症候 無痛性ニシテ鮮明朱赤色ヲ呈シ、皮膚面上ニ隆起スル所ノ帽針頭大乃至豌豆大發疹ニシテ、常ニ急劇ニ手背足背及前膊ノ下部並ニ下腿ノ下部ニ多少密生シテ發スルモノナリ、亦其全身ニ蔓延スル事甚ダ稀ニシテ亞急性症モ同様ナリトス、而シテ時ニ皮膚面上ニ隆起スル事ナク或ハ僅ニ突出シ指壓ニ依テ褪色ス、周圍ハ鮮紅色ニシテ中央ハ暗赤色トナル、尙ホ下腿ニ生ゼシ者ハ殊ニ暗紅色ナリトス、亦發疹ノ硬度ハ通常ノ皮膚ノ如ク或ハ稍硬固ニシテ浮腫狀ノ感アル者アリ、斯クノ如キヲ平滑性紅斑 *Erythema laeve* ト云フ、其隆起著シク斑點小ニシテ丘疹ヲナス者ヲ丘疹性紅斑 *Erythema papulatum* ト云ヒ、更ニ大ニシテ蕁麻疹狀ニ且ツ瘙痒甚シキモノヲ蕁麻疹性紅斑 *Erythema urticatum* ト名ヅク而シテ各皮疹ノ速ニ増大シ或ハ皮疹ヲ新生シテ漸次各部ニ進行シ、數時間ノ後ニ於テ舊皮疹ノ中央部陷落シテ青赤色ヲ呈シ蔓延シタル周圍ノ部分ノ鮮紅色ノ輪廓ヲ形成シ、所謂中心治癒シテ周圍ニ蔓延スル者ヲ環狀紅斑 *Erythema annulare* ト名ヅケ、其相隣接スル所ノ皮疹互ニ融合シ鮮紅色ノ輪廓ヲナシ青赤色ノ大班ヲ形成スルモノヲ迂迴狀紅斑 *Erythema agyratum* ト云ヒ、其形地圖上ニ似タルヲ圖樣紅斑 *Erythema figuratum* ト名ヅク、又其青赤色ヲ呈スル中央部ニ再ビ紅斑ノ勃興シ來タルモノヲ虹彩斑紅 *Erythema iris* ト稱ス

彼ノ丘疹性紅斑ノ斑上ニ水泡ヲ形成スルモノアル時ハ、之ヲ水泡性紅斑 **Erythema bullosum** ト稱スルモ最モ稀有ニ屬ス、而シテ蕁麻疹性紅斑ニ二種ノ特症アリ、一ヲ虹彩膜狀匐行疹 **Herpes iris od. circinatum** 或ハ小水泡滲出性紅斑 **Erythema exsud. Vesiculorum** トモ云ヒ、一ヲ結節性紅斑 **Erythema nodosum** ト云フ、虹彩膜狀匐行疹ハ發赤セル中心ヲ繞リテ多數ノ水泡集中性ニ配列シテ環狀ヲ作り、則チ水様光澤アル水泡ハ數時ニシテ中心部青赤色トナリ此部ノ内容吸収セラレテ疹ノ周圍ニ蔓延スルモノナリ、而シテ隆起セル紅斑ヲ同時ニ發生シ手背ニ水泡環ノ占居ヲ見ル等ニ依テ本症タルヲ知り得ベシ、且ツ此水泡ハ速ニ乾固スル者ナリ、結節性紅斑ハ別種ノ疾患トシテ、則チ多形性滲出性紅斑ノ別症ト見做シ論ズル者アリ著者之ニ從フ者ナリ（前章參照）

本症ハ主トシテ少壯衰弱者亦ハ柔弱ナル婦女、哺乳兒、小兒及幼年者ヲ犯シ、春秋二期ニ甚ダ多ク恰モ流行狀態ヲナス事アリ、現今一種ノ傳染性疾病ナラントノ憶説ヲナスノ士アリ或ハ然ラン乎

當初往々甚シキ全身症狀、則チ全身違和、發熱食慾欠損稀ニハ心臟內膜炎及外膜炎ヲ以テ發シ、小豆大乃至胡桃大ノ硬固ナル結節ヲ皮膚ニ生ジ、時ニ浮腫性邊暈 **Oedematosen Hof** ヲ以テ圍マレ或ハ全ク皮膚ニ隆起セズ、單ニ中央青赤色、周縁鮮紅色ナル斑ヲ認ムルニ過ギザル事アリ、然レドモ觸診スル時ハ結節ヲ觸知シ得ベシ、而シテ多クハ下腿ニ恰モ打撲瘡 **Contusi onboule** ノ如キ多少圓形紫紅色隆起ヲ生ジ、加壓疼痛ヲ有スルモ褪色セズ、其大サ手拳大ニ達スル者アリ、亦大ナルモノハ自發生疼痛ヲ有シ隣接關節ノ疼痛ヲ發スル事アリ、其他各結節ハ發生後數日間變化ナシト雖、其後ニ於テハ中心青赤色次デ黃綠色ニ變ジ周圍又漸次同一ノ變化ヲトリ逐日浸潤減少シ十日乃至十四日ニシテ全ク消失シ褐色素ノ沈着ヲ賸スヲ見ル、而シテ化膿性炎或ハ潰瘍ニ變ズル事ナシ、又下腿ノ外足背ニ發シ軀幹顔面及粘膜ヲ襲フ事アルモ稀有ナリトス

經過 三週乃至六週ニシテ數月ニ亙ル事ナキニ非ズ、其合併症トシテ極

メテ稀ニ皮膚出血關節炎漿液膜ノ炎症ヲ起スコトアリ、尙ホ本病ニ於テ發シタル發熱ハ結節退行期ニ至レバ下降シ常溫ニ復スベシ、且ツ其豫後ハ一般ニ佳良ナルモ小兒ニ於テハ時ニ危險ナルコトアリ、斯ノ如ク多形性滲出性紅斑ハ其形狀實ニ多形ニシテ其名ノ示ス所ノ如シ、其他自覺症狀ハ全ク缺如スル者アリ或ハ輕度ノ灼熱瘙癢ヲ訴フル者アリ、全身症狀ハ通常發スル事ナシト雖モ時ニ廣キ蔓延アルモノハ輕度ノ發熱ヲ伴フ事アリトス、亦極メテ稀ニ内臟ノ重患、則チ劇甚ノ下痢、肺炎、胸膜炎等ヲ發シ終ニ死ノ轉歸ヲトルコトアリト稱スル者アリ、茲ニ於テ善性及惡性ヲ區別セザルベカラズト、**レウイン氏 Lewin** ハ論ジタルモ恐ラク紅斑獨立ノ疾病ニ非ズシテ急性傳染病ノ一症狀トシテ現ハレタルモノニシテ、眞ノ多形滲出性紅斑ニ依テ惡經過ヲ取りシモノニ非ザルベシト説ク者アリ或ハ然ラン乎

部位 好發部位ハ手背及足背之ニ亞グハ四肢ナリ、殊ニ伸展側肘部膝部及指ニシテ對側的ニ發スヲ殆ド常トセリ、其他手掌足趾軀幹及顔面ノ之ニ犯サルヲ見ル事アリ、其顔面ニ發スルハ上皮ノ軟弱ナル爲屢々水泡性ノ者ヲ發スル事多シ、亦口唇、頰、口蓋、咽頭及女子生殖器ニ於テハ上皮速ニ灰白色ヲ呈シ溷濁剝離ヲ來シ創面ヲ作り疼痛ヲ發スルコトアリ

經過 二週乃至四週間ニシテ治癒シ時ニ六週間ヲ要シ彼ノ蕁麻疹性及水泡性ノモノニアリテハ稍ヤ久シク稀ニ數月或ハ數年ニ渉ルコトアリ、而シテ手背足背等ニ生ズル皮疹ノ増大スルヤ初メ帽針頭大ニシテ數時間ノ後中央部ノ變化ヲ來シ二錢銅貨大ニ達シ數日ノ後手背ノモノハ彌蔓性青赤色ヲ呈シ、前膊顔面等ハ其際豌豆大乃至五錢白銅大ノ皮疹ヲ散發シ、軀幹ニハ漸ク帽針頭大皮疹ノ發生ヲ見ル、而シテ各紅斑ノ治癒スルニ到ルヤ褐色素沈着ヲ殘シ或ハ痂皮形成乾固落屑ヲ以テ其局ヲ結ブモノアリ

診斷 本症ハ發生及消滅ノ迅速ナルト、手背及足背等好發部ノ殆ド常ニ對側性ニ來リ、加壓消褪スル赤斑ニシテ皮膚ニ隆起セル等ハ以テ診斷ノ基礎トナスベシ

鑑別 (一) 蕁麻疹 甚シキ瘙癢ヲ有シ其色多クハ蒼白ニシテ左右對側

性ナラズ且ツ更ニ其經過迅速ナリトス (二) 痒疹 所謂痒疹横症ヲ有シ皮膚ニ小結節アリテ痒痒甚ニ且ツ幼年ヨリ慢性ニ發病スルヲ常トセリ (三) 寄生性匍行疹 顔面頸部ニ多ク中心性落屑ヲ有シ痒痒甚シク、顯微鏡的検査ニヨリテ其固有ナル寄生菌ヲ見ルヲ得ベシ (四) 丘疹性梅毒疹 加壓褪色セザル銅色疹ニシテ多ク手掌足趾ヲ犯カシ他ニ梅毒症狀アリ (五) 濕疹 固有ノ浸潤落屑或ハ結痂ヲ形成ス (六) 天疱瘡 大ナル散在性弛緩水疱トス (七) 結節或ハ護謨性梅毒 健康部トノ境界判明ニシテ加壓僅ニ疼痛ヲ有シ其他ニ梅毒症ヲ有スベシ (八) 打撲後皮下溢血 原因ヲ有シ且ツ好發部ナク本症ノ特徴ナキヲ以テ容易ニ診斷シ得ベシ

豫後 本病ハ定型の經過ヲトルモノナルヲ以テ豫後良好ナリトス

療法 對症療法トシテハ貧血者ニハ鐵劑ヲ處シ發熱スル者ニハ下熱劑ヲ投ジ、局所ニハ清涼膏ヲ貼用スル等其他全身療法トシテ沃剝規尼涅水揚酸曹達或ハ麥角「アンチピリン」等ヲ與フベシ、局所ハ可及的外來刺戟ヲ防ギ其局所療法トシテ最モ効アリト稱セラル、ハ彼ノ「イヒチオール」ナリ、亦頑固ナル症ニハ硫黃、焦性沒食子酸「クリサロビン」等ヲ可トセリ

輕症者ニハ亞鉛花、「イヒチオール」軟膏ヲ用フルモ効アリト雖、其重症ニシテ浮腫甚シキ者ハ2.0—5.0%「イヒチオール」、コロヂュームトシテ用フヲ可トス、而シテ尙ホ痒痒灼熱ノ甚シキ者ハ鉛糖水「プロウキ氏液」等ノ冷罨法ヲ施シ或ハ次ノ清涼膏ヲ處スベシ

無水ラノリン 5.0 安息香亞鉛 10.0 醋酸鉛水 15.0

又ハ無水「ラノリン」5.0 ウキルソン氏軟膏 10.0 石灰水 15.0 ヲ與フベシ 其他結節性紅斑ニハ「ビツク氏硬膏」亦有効ナリト稱ス

滲出性中毒疹 Toxische exsudative Exantheme

意義 多形滲出性紅斑ニ類スル皮疹ガ毒物ノ爲對症的ニ發生スルヲ云フ

原因 中毒疹ノ原因ハ頗ル多様ニシテ有毒物質ガ患者自己ノ體中ニ產出

スル所謂自體中毒ノ結果ト見ル可キモノアリ、則チ其源淵ハ炎症化膿、新陳代謝、異常等ニシテ例之ハ胃腸加答兒、腸管弛緩症、便秘、寄生蟲、腎臟及腎盂疾患、膀胱炎、喇叭管炎、寒性膿瘍、蜂窠膿炎、橫痃、實扶的里、糖尿病等枚舉ニ遑アラズ、又毒物ノ體外ヨリ輸入シ例之ハ血清注射後ニ來ル血清疹ノ如キモ之ニ屬シ、或ハ腐敗セル食料品ノ攝取或ハ毒物藥物等ノ嚥下ニ因テ中毒疹ノ發生ヲ見ルベシ

症候 一定セズ或ハ限局性ニ或ハ散漫性ニ紅斑、蕁麻疹、小水疱、水疱膿疱、丘疹、結節、紫斑等アリ或ハ多形滲出性紅斑帶狀疱疹ニ酷似スル者アリ今次ニ略述スベシ

(甲) 全身病中毒疹

(一) 急性傳染病 腸窒扶斯、虎列拉、發疹窒扶斯、麻疹、風疹、猩紅熱、痘瘡、恙蟲病等ニモ薔薇疹ヲ發生ス

(二) 急性關節「ロイマチス」及淋毒性「ロイマチス」ニ於テ往々紅斑、小水疱、丘疹、紫斑等ヲ見ルベシ

(三) 糖尿病 蕁麻疹、薔薇疹様紅斑又ハ多形或ハ出血性紅斑等ヲ發ス

(四) 實扶的里咽頭炎或ハ化膿性疾患鼠咬症等ハ多形滲出性紅斑様皮疹ヲ生ズ

(五) 手術又負傷後或ハ產毒中ニ麻疹様、痘瘡様、猩紅熱様皮疹ヲ發ス (之等ヲ一括シテ敗血症疹 **Septischexantheme** ト云フ)

備考 病菌分泌物ノ血中ニ入リシ乎則チ中毒性紅斑 **Toxische erytheme** ナルヤ、或ハ細菌直接移轉則チ膿毒性轉移性紅斑 **Pyämische-od metastatische erytheme** ナルヤハ一々細菌學的検査ヲ行ヒ識別スベシ

(乙) 血清疹 **Serumexantheme**

實扶的里血清、破傷風血清、連鎖球菌血清、コレラ血清等ノ注射後ニ來ル皮疹ヲ云フ、而シテ紅斑蕁麻疹、猩紅熱様疹、風疹様或ハ粟粒疹様、疱疹様、紫斑様、滲出性紅斑様等ノ多形疹ヲ見ル、部位ヲ一定セズ

(丙) ツベルクリン疹 **Tuberculin exantheme**

之ハ結核体内ニ存スル或ル物質ト「ツベルクリン」ノ相呼應シ作ルモノナラント云フ、紅斑丘疹、猩紅熱様、水疱様、蕁麻疹様ノ發疹ヲ生ズ

(丁) 牛痘疹 **Postvaccinale exantheme**

痘苗毒ノ爲ニ發スル者ニシテ、軀幹四肢ニ大小種々ノ紅斑蕁麻疹滲出性紅斑等ヲ來ス、之ハ種痘直後ニ發疹ス、又八日乃至十四日ヲ經テ發生スル者アリ、之ハ藥疹ト比スベク小結節性或ハ小水疱性汎發性皮膚疹ヲ生ジ時ニ粘膜面上淺キ糜爛ヲ現スベシ、二三日ヲ經テ乾燥シ枇糠狀落屑ス、其他化膿菌ガ附着シ膿痂疹 **Impetigo** ヲ生シ蔓延スルコトアリ

豫後 原因ニ從フベシ

療法 原因療法及對症療法ヲ施スベシ

藥疹 Arzeneiexantheme,

意義 普通藥物ノ内服ニ由リ或ハ皮下注射ニ依テ發スル皮膚疹ヲ總稱スルモノナリ、然リト雖或藥物ヲ皮膚ニ貼用シテ其部ニ生ズル皮膚疹モ恐ラク此藥疹中ニ屬スベキ者タルヲ信ズ

藥疹發生ノ經路 次ニ二ツニ區別シテ論ズベシト雖、要スルニ各人ノ特異性アリテ其用量ノ多少ニ關セズ發疹ヲ來スモノナルハ明カナリ

(一) 血中ニ攝取セラレタル藥物ノ全身作用ヲ發スルニ由ルモノ、(血管運動神經中樞ヲ刺戟スルニ由テ血管運動神經ノ機能障害ニ因スルモノト云フ)

(二) 皮脂腺ニ由リ再ビ血中ヨリ體外ニ排出セラレタル藥物ノ局處刺戟ニ由テ發疹スルモノ (多クハ藥物ノ特長其因ヲナスト云フ)

症候 常ニ同一ナルモノニ非ズ、往々著シキ發熱及全身障害、惡心嘔吐ヲ以テ發疹スルモノアリ、或ハ同一ノ藥物ニシテ時ニ副作用ヲ發シ時ニ發セザル事アリ、又其形狀必シモ一様ナラズ、而シテ其發疹ノ種類形狀ハ藥物ニ因テ差アリト雖、凡ソ次ノ状態ヲ爲スモノト見做セバ庶幾ラン、紅斑

狀或ハ蕁麻疹、水腫様腫脹、大小水泡性又ハ皮膚溢血紫斑様ノ皮膚疹或ハ色素沈着ヲ殘ス者アリ、然シテ亦瀰蔓性或ハ限局性ニ發スルモノニシテ多數ノ藥物ハ其治療用ト否トヲ論ズ發疹ヲ來スモノナリ、**レウイン氏 Lewin** ハ四百二種ノ藥物中皮膚ニ變化ヲ起ス者二百四種ヲ數ヘ其 50.7% ニ相當スルヲ報告シタリ、**ブロック氏 Brocq** ハ之ヲ藥疹小表トシテ示セリ、今次ニ普通多ク使用セラレタル藥物ノ發疹形狀ニ依テ綜合シ記憶ニ便セン

(一) 紅斑 「アンチピリン」水揚酸、「ミグレニン」單寧酸、「ザリピリン」安那、石炭酸、硝酸銀、砒石、安息香酸、「サリチル」酸、同「ナトリウム」吐酒石、「ペラドナ」**「アトロピネ」** 臭素劑、沃度劑、抱水「クロラール」規尼涅、「コバイバルサム」實荳答利吐根、水銀「ホミカ」劑、「ストリキニーネ」阿片、「モルヒネ」沃度「ホルム」硼酸、硼酸「ナトリウム」**「クペバ」** 白檀油、「ゴノサン」甘汞、「ボロヘルチン」等

(二) 蕁麻疹様發疹 石炭酸、水揚酸、同「ナトリウム」苦扁桃、吐酒石「アンチピリン」砒石臭素劑、規尼涅、「ヂキタリス」阿片、モルビネ「サントニーネ」沃度劑、臭素劑、「バルサム」等

(三) 猩紅熱様發疹 規尼涅、「ズルホナール」水劑 (内服) 「ザロール」水揚酸、同「ナトリウム」**「クロ、ホルム」** 沃度劑、水銀等

(四) 瘡癤様疹 石炭酸、阿片、「モルビネ」肝油、「サントニーネ」臭素劑、沃度劑等

(五) 紫斑 「クロ、ホルム」水揚酸、同「ナトリウム」安知必林、沃度劑、規尼涅、「ザロール」**「ズルホナール」**「フエナセチン」等

(六) 大水泡様疹 水揚酸、同「ナトリウム」砒石、安息香酸、吐酒石規尼涅、安知必林、沃度劑等

(七) 小水泡様疹 砒石、吐酒石、安息香酸、同「ナトリウム」水揚酸臭素劑、規尼涅、肝油、「サントニーネ」沃度劑等

(八) 膿疱疹様發疹 吐酒石、砒石、硝酸、水揚酸、同「ナトリウム」沃度劑「パラオキシ、デ、フェレンヂアミン」等

- (九) 麻疹様發疹 安知比林、水揚酸、同「ナトリウム」等
 (十) 落屑 規尼涅等
 (十一) 丹毒狀發疹 沃度劑、バラオキシ、デ、フェレンチアミン」等
 (十二) 天疱瘡様疹 安知比林、「フェナセチン」等
 (十三) 溢血斑 「フェナセチン」等
 (十四) 丘疹 「アトロピネ」「ペラドナ」臭素劑、「ボロフェルチン」硼酸同「ナトリウム」等
 (十五) 濕疹狀發疹 石炭酸、水銀等

經過 藥物ノ使用ヲ廢スルヤ速ニ治ニ就クヲ常トスルモ其蔓延セル者ハ一週間乃至其以上ヲ要ス事アリ、然シテ治ニ就クヤ或ハ表皮剝離ヲ起シ或ハ間々葉狀落屑ヲナシ或ハ色素沈着ヲ殘ス者アリ

診斷 必ズシモ容易ナリト云フ可カラズ、然リト雖發疹ノ藥用廢止ト共ニ消退治癒シ或ハ試験的服用セシムル事ニ依テ症狀ノ増進シ或ハ再發スルヲ以テ其確證トナスベシ、亦檢尿法モ診斷補助ノ一ナル事アリ

豫後 良好ナリ

療法 其原因タル藥物ノ應用ヲ廢止シ局部ニハ對症療法ヲ施スベシ、例之ハ撒布藥軟膏油劑等ヲ處シ時ニ入湯ヲ試ミ新陳代謝ヲ盛ナラシメ、藥物ノ排泄ヲ速カナラシム事ニ留意シ、重症ノ臭素瘡等ニ在テハ硫黃劑或ハ水銀軟膏貼用ヲ施スベシ

安知必林疹 Antipyrin, exanthem,

意義 安知必林ノ内服又ハ外用ニ由リ偶然發生スル藥疹トス

原因 一種ノ特異質ヨリ發スル者ニシテ突然ニ起リ爾後其性質ハ時日ヲ經ルト共ニ増激シ或ハ減少シ或ハ不定ナルアリテ、其増激スルノ傾キヲ存スル者ハ他ノ下熱劑ヲ使用シ或ハ單ニ發熱スルノミニシテ既ニ舊疹部ニ灼熱紅腫スルト云フ、亦其一定部ニ再發スルモノハ局處特異質ヲ有スルナルベシト云フ

症候 發疹ハ多様ニシテ紅斑、蕁麻疹、浮腫、水泡、紫斑等ヲ生ジ、就中紅斑最モ多シトス、而シテ藥用後數分時ヨリ一日ニシテ單ニ灼熱癢痒ヲ感ジ稀ニ惡寒、戰慄、惡心、頭痛、高熱等ヲ發スル者アリ

紅斑ハ圓形及橢圓形ヲ成シ或ハ不正形ノ者アリ、當初鮮紅ニシテ數日後褪色シ來リ黃褐色ヨリ遂ニ消失ス、彼ノ所謂固定紅斑 **Fixe Erythème** ハ大抵藥用毎ニ同一部ニ反復發生シ着色漸次濃厚トナリ終ニ色素沈着ヲホク胎スニ到ル者ナリ、而シテ此色素斑ハ發疹毎ニ發赤紅暈ヲ帶ベリ、又時トシテ紅斑身體ノ廣面ニ涉リ散點シテ麻疹ノ如ク或ハ融合シテ猩紅熱ノ如ク葉狀ノ落屑ヲナス者アリ、蕁麻疹及浮腫狀ヲナス者ハ稀ナルモ其粘膜ヲ侵シ咽喉水腫ヲ來ス事アリ、亦水疱性ノ者ハ天疱瘡ニ酷似セリ

診斷 本症ノ疑アル者ハ試服ヲ命ズル事ニ依テ新ニ癢痒潮紅等ヲ發シ或ハ増症スルヲ以テ診斷シ得ベシ

鑑別 (一) 多發性滲出性紅斑 其紅斑ハ周縁鮮紅中心暗紫色ヲ帶ビ、左右ノ手甲及足背ヨリ始マルヲ常トス (二) アデソン氏病 全身皮膚粘膜徐々トシテ褐黑色ニ變ジ或ハ斑狀ニ來ルモ必ズ白斑ヲ合シ安知必林ニ反應セズ (三) 猩紅熱及麻疹 安知必林反應疹ナキト熱性ノ異ニスルニ由リ知り得ベシ (四) 肝黃斑 境界不明ノ黃褐色斑ニシテ潮紅落屑等ヲ有セズ

豫後 藥用ヲ廢スレバ自然ニ治癒スルモ色素沈着ハ往々數年ノ久シキ治セザル事アリ

療法 安知比林ノ使用ヲ廢シ、癢痒甚シキ者ハ曹達浴ヲ命ジ、水泡アル者ハ破開シ水揚酸軟膏ヲ貼シ、色素沈着者ニハ十倍水揚酸酒精ヲ塗布スベシ

臭素疹 Bromexanthem

異名 臭剝疹 **Eruptions de bromure de potassium** 臭素瘡瘡 **Acnebromica** 臭素皮疹 **Bromoderma**

意義 臭素劑ノ使用ニ依テ生ズル藥疹ナリ

原因 臭剝ノ使用ニ依テ發生ス、然シテカボシイ氏 **Kaposi** ハ間々母

乳ヲ介シテ乳兒ニ著明ノ發疹ヲ來スヲ見ルト云フ

症候 紅褐色粉刺狀ノ丘疹又ハ膿疱(臭素痤瘡)ヲ生ジ或ハ膿疱密生シテ厘銅乃至二錢銅貨大ニ及ビ浸潤深ク固痂皮ヲ有シ外觀黒褐色ヲ呈シ試ミニ痂皮ヲ剝離セバ乳頭ノ露出ヲ見ル、其他單ニ結節ニ止マルアリ、形狀ハ圓形或ハ不正ニシテ大小亦一定セズ、稀ニ中心吸收セラレ輪狀梅毒疹ニ類スル事アリト云フ、亦稀ニ紅斑、蕁麻疹、水疱疹等ヲ生ズルヲ見ル事アリ自覺症ハ殆ド缺除セリト雖土肥氏ハ瘙痒アル濕疹様皮疹ヲ實見セラレタリ

經過 藥用廢止ト共ニ減退シ數週ニシテ吸收セラルヲ常トスルモ、一時色素沈着或ハ永ク癍痕ヲ遺ス

部位 頭髮部、顔面、肩胛部其他上下肢ニ來リ其伸側ニ多シ

解剖 土肥氏、ノイマン氏 Neumann 森安氏、江馬氏等ハ毛囊脂腺及其周圍ニ著シキ炎症ヲ認メ、シイ、フオツクス氏 G. Fox ジブベス氏 Gibbes 等ハ脂腺及毛囊ニ關係ナク真皮中ニ炎症竈ヲ見タリト云フ、其他炎症ノ著シキ者ハ表皮壞死ヲ來シ黑痂ヲ作ル

診斷 痂皮黒褐色ニシテ容易ニ剝離シ難ク肉芽暗紅色ニシテ熟榴ノ如ク又蜂巢ノ如シ、發疹ハ粟粒大乃至「クルミ」大ニ至ル大小混淆セルヲ見ル、而シテ往々膿疱中ヨリ臭素ノ化學的反應ヲ證シ得ベシ

鑑別 (一) 濕疹 痂皮黄褐色ニシテ剝離シ易ク瘙痒著シ、亦潰瘍ヲ作ラズ (二) 尋常性痤瘡 黑痂ヲ作ラズ豆大ニシテ其部位亦顔面及胸背ノ上部ニ局限セリ (三) 膿疱性梅毒 主トシテ屈側ヲ犯シ加壓疼痛アリ亦潰瘍縁ハ堤防狀浸潤ヲ見ル

豫後 可良

療法 該使用ヲ廢シ對症療法ヲ施ス則チ潰瘍面ニ硼酸軟膏、結節上ニ水揚酸石鹼硬膏貼用炎症著シキ時ハ硼酸水ブロウキ氏液ノ冷器法ヲ試ムベシ

水銀疹 Quecksilberexantheme

症候 外用ニ因テ往々毛囊ニ一致セル粟粒大赤色ノ丘疹ヲ生ズルヲ見ル

ハ吾人ノ屢々遇スル所ニシテ、時トシテ尖端ニ膿疱ヲ有スル事アリ甚シキハ小水疱ヲ續發シ濕潤シ或ハ皮膚潮紅シ多形滲出紅斑ノ狀ヲ呈シ、重症ニハ天疱瘡様疹ヲ見ル事アリ、其治スルヤ葉狀落屑ヲ以テシ水疱膿疱ハ乾燥シ痂皮ヲ成シ落屑痂皮ヲ剝離スレバ底面潮紅光澤ヲ見ルベシ、又極メテ稀ニ紫斑狀ヲ呈スルモノアリ、全身症狀ハ一定セザルモ概ネ皮膚變化ニ應ジ重症者ニ在テハ高熱ヲ發シ食慾無ク頭痛倦怠ヲ訴フ、局所ハ灼熱瘙痒ヲ訴フ者多シ、著者曾テ汞軟膏ヲ塗布シ下腹部ヨリ大腿中央ニ到ル猩赤熱様紅斑ヲ經驗シタルコトアリ

診斷 汞劑使用ノ既往症ヲ有シ藥用毎ニ反覆發疹スベシ而シテ皮膚ノ外ニ口腔及咽喉粘膜ニ口内炎ト稍異ナレル一種ノ紅斑或ハ小水疱ヲ認メ或ハ紫斑ヲ發スルコトアルベシ

沃度疹 Jodexantheme

症候 多クハ沃度劑ノ内服ニ依テ發スルモ時ニ沃度劑外用ニテモ所謂沃度疹ヲ見ルコトアリ、丘疹又ハ結節則チ沃度「アクネ」ニシテ粟粒大乃至大豌豆大稀ニ其以上ニ達シ圓錐形或ハ球形ノ紅色小結節ニシテ基底ニ浸潤アリ周圍ハ鮮紅暈翳ヲ有シ尖頂微隆ヲ含ム、時ニ多數ノ小結節密集シ癬瘍ノ如ク基底ノ浸潤著明トナリ周圍紅暈明ニシテ假生波動ヲ呈スルニ至リ加壓排膿ヲ見ルニ至ル者アリ、或ハ重症ニ在テハ蕁麻疹様疹又ハ天疱瘡様疹等ヲ生ジ顔面及眼瞼ニ浮腫ヲ伴フコトアリ、其他自覺症ハ輕微ニシテ藥用ノ廢止ト共ニ發疹消褪スベシ然リト雖時トシテ永時治癒セズ癍痕形成色素沈着ヲ貽ス者アリ、著者曾テ天疱瘡様疹ヲ發セル者ヲ經驗セリ

診斷 顔面、胸部、頭部、前膊等ニ來リ鮮紅色暈アル多形疹ニシテ既往症並ニ他ノ沃度中毒症狀ヲ注意スベシ

規尼涅疹 Chininexantheme

症候 惡心、嘔吐、頭痛、惡寒、發熱等ノ全身症狀ト共ニ發疹シ往々丹

毒=類シ或ハ猩紅熱=類スル紅斑ヲ來シ、稀ニ紫斑水疱丘疹ヲ生ジ或ハ血便ヲ漏シ痲痛ヲ訴フ者アリ、岡村氏ハ大小ノ紅斑ヲ兼發シ安知必林疹ノ如キヲ經見シタリト云フ、自覺的灼熱癢痒ヲ有シ時トシテ咽喉部ニ覺ユコトアリ又耳鳴ヲ訴フ者アリ、著者又其一例ヲ有ス

經過 速ニシテ使用ヲ止ムレハ數日以内ニ體溫下降シ紅斑褪色枯葉狀落屑ヲ始ム

部位 顔面、頸部、背面等ニ多ク其他一定ノ好發部位ナシ粘膜ハ侵サレズ

診斷 經過短ク規尼涅ト相關聯スルヲ見ルベシ

拔爾撒謨疹 *Balsamexantheme*

症候 僅カニ隆起セル豆大紅斑ノ密集或ハ猩紅熱ノ如キ或ハ斑邊鋸齒狀ヲナシテ麻疹ノ如キアリト雖、其色直チニ暗赤色或ハ褐色トナリ癢痒又ハ灼熱ヲ有シ時トシテ蕁麻疹様紅斑或ハ天疱瘡様紅斑ヲ現ス者アリ

經過及部位 急速ニ經過シ藥用ヲ止ムレバ自ラ治スベシ四肢及背部等外壓ヲ受ケ易キ部ニ來ル

銀 症 *Argyrie*

意義 結締織内ニ銀分子沈着シ皮膚ノ著色スルヲ云フ

原因 銀化合物例之ハ硝酸銀等ノ内服又ハ外用ニヨリ化學的ニ還元セル銀分子ガ全身或ハ一局部ニ沈着シ發スル者ナリ、コーペルト氏ハ日光曝露面ニ著シト云フ

症候 皮膚及粘膜ニ灰色又ハ暗灰色或ハ帶青灰色ヲ呈シ顔色宛モ能面ノ般若ニ似タリ、著者一婦人ノ之ニ犯サレタルヲ經驗シタリ

部位 内用ニ因スル者ハ多ク汎發性銀症 *Allgemeine prgyrie* ニシテ皮膚及内臓ニ沈着シ、外用ニ因スルハ局所性銀症 *Localisierte Argyrie* ニシテ結膜、口粘膜、舌、尿道、膾等ニ發シ其銀細工人ノ手前膊、顔面等ニ發スルヲ工業的銀症 *Gewerbeargyrie* ト云フ

解剖 上皮ニ變化ナク銀分子ハ眞皮殊ニ乳頭層ト深層ノ界ニ存シ又汗腺種彈力組織中ニ占位ス、又恩師土肥章司氏ハ皮膚ノ外大網膜、腎臟、卵巢等ニ多ク正聲帶、心臟、大血管等之ニ次ギ肝脾副腎等ハ其沈着少ナシト云ヘリ

診斷 砒素黑皮症ハ其色淡ク色素發生ニ因リ、肝斑ハ淡褐色ヲ呈シアヂソン氏病ハ濃褐色ニシテ、黑色表皮腫ハ疣贅狀腫瘍ヲ併發スベシ

療法 生理的食鹽水靜脈注射ヲ持續スベシト雖銀分子吸收ニ容易ナラズ

亞砒酸疹 *Arsenikexantheme*

症候 外用ニ因ルハ汎發性皮膚炎ノ如ク又紅斑水疱潰瘍等ヲ發スベシ、内用ニ因ルハ之ヲ急性及慢性ニ分ツ、急性疹ハ少量ニテモ發スルコトアリ麻疹様或ハ猩紅熱様ノ紅斑ヲ生ジ、或ハ蕁麻疹、水疱、膿疱、瘰癧、紫斑等ヲ發シ炎症々狀消退スルヤ葉狀落屑ヲ起ス、往々落屑部肥厚シ邊縁紅暈スルコトアリ、自覺症ハ灼熱ヲ訴フ、而シテ特異ノ疹形ハ帶狀疱疹ニシテ之ヲ亞砒酸性帶狀疱疹 *Zoster arseni'colis* ト稱シ、神經分佈域殊ニ背胸部ニ多ク來ル

慢性疹ハ二種ノ疹形アリ

(甲)ヲ亞砒酸黑皮症 *Arsenmelanose* ト稱シ、皮膚鼠色トナリ全身平等ニ蔓延シ尙藥用持續スレバ幾ト黒灰色トナリ境界明瞭ナラズ、然レ雖時トシテ稍々明カナル斑紋ヲナシ又斑紋内ニ白色斑ヲ混ズルモノアリ、又色素斑ニ先チ紅斑ヲ發スルモノアリ

(乙)ハ亞砒酸角化症 *Arsenkeratose* ニシテ單獨ニ或ハ他ノ副作用ト合併シ現ハル、角質平面ニ肥厚シ數々紅暈ヲ繞ラシ、散在又ハ集合シ患部皮膚乾燥粗糙トナリ光澤ヲ失シ或ハ針頭大乃至豌豆大尖圭、或ハ扁平ノ角様雞眼様隆起所謂ハツチンソン氏雞眼ヲ生ジ帶黃褐色乃至暗褐色ヲ呈ス自覺症ハ多ク缺如スルモ角化症ニ在テハ其發疹前明カニ知覺異常又ハ脫失ヲ認ムル事アリ、甚シキハ瘦削下痢結膜炎、膀胱知覺過敏等ヲ來ス者アリ、

而シテハツチンソン氏ハ角化症數月數年ニ至リ、所謂亞砒酸瘡 **Arsenic-concer** ヲ發スル事アリト云フ

經過 藥用ヲ廢スルト共ニ減退スルモ頑固慢性ノ者ニ至リテハ數月或ハ數年ニ達ス

部位 急性ハ全身ニ來ルモ殊ニ手掌、足蹠ヲ侵シ顔面、頸部、肩胛、上肢下肢又ハ肘、腋窩、膝關、肛圍、股間等ニ來ル、角化症ハ手掌、足蹠ニ好發シ胸腹、肩胛等又全身ニ來ル、黒皮症モ全身ニ發スト雖色素ニ富メル部分ハ其好發部ナリトス

解剖 黒皮症色素ハ表皮及真皮中ニ増殖シ特ニ基底細胞内ニ集積ス、又多少淋巴腔ニモ存スベシ、角化症隆起ハ汗腺孔ニ發スト云フ、ハツチンソン氏ハ其特徴ト稱セリ

診斷 毛孔性紅色糠疹角化ハ薄ク同時ニ毛孔ニ一致セル尖圭角化ヲ認ム、疣狀結核ハ結核菌ヲ證明シ疣贅狀ヲナシ扁平ニシテ瀰漫性ナラズ、尋常性鱗屑疹ハ容易ニ剝離シ出血點ヲ認ムベシ、疥癬腫ハ表面平滑ニシテ粗糙ナラズ

療法 藥用ヲ廢シ自然消退ヲ待チ其容易ニ消失セザル時ハ、〔サリチル〕酸、〔レゾルチン〕甘扁桃油、各 5.0 亞鉛花 20.0 豚脂 25.0 刺納林 40.0 ヲ軟膏トナシ塗布シ、又ハ X 光線放射ヲ試ミ或ハ生理的食鹽水靜脈注射等ヲ試ムベシ

蜀黍紅斑 Pellagra,

意義 伊太利、西班牙、佛蘭西ノ南部〔ルーメニエン〕等ニ在スル風土病ニシテ、其名ノ如ク蜀黍ヲ常食亦ハ過食スルヨリ起ルモノニシテ、專ラ貧困者ヲ襲フモノニシテ前世紀ノ初メニ發見セラレタルモノナリトス

原因 前述ノ如ク蜀黍粉内ニ發生スル固有ノ毒物ニシテロムプロソ氏 **Lombroso** (1860) ノ發見ニ據ルモノナリ、而シテ此毒物ハ玉蜀黍菌 **Bacterium Maltis** ニ非ズ亦タ普通ノ細菌ニモ非ザルモノトス

症候及部位 頭痛、眩暈、胃腸障害、倦怠及背部ヨリ四肢ニ放散スル所ノ灼熱感等ノ前驅症ヲ以テ本症第一期タル紅斑期ニ入ルモノニシテ、部位ハ日光ニ曝露セル所特ニ手足等ニ多ク、亦顔面其他ニ發スル事アリ、而シテ時ニ皮膚膨脹シ緊張及灼熱ヲ感ズルモノアリ、後チ數週ニシテ紅斑消失輕度ノ落屑ヲ認メ數日ニシテ何等ノ痕跡ヲ殘サズ諸症消失ス、然シテ翌年春季ニ至リ再ビ前症ヲ發シ嘔吐下痢時ニ高熱煩渴ヲ來シ氣管枝炎、結膜炎等ヲ發ス之レヲ第二期トス、斯クノ如ク連年諸症増悪シ鬱憂、貪眠、四肢震顫等主トシテ神經及精神變常ヲ來ス此ヲ第三期トナス、而シテ其精神障害ヲ來スヤ痴愚トナリ遂ニ羸瘦シテ斃ルモノトス

經過及豫後 十年乃至十五年ニシテ其以上ニ亙ル事アリ 豫後ハ其精神障害ヲ發スルモノニアリテハ不良トス

療法 轉地療養ヲ試ミ滋養的食物及鐵劑等ヲ與へ、或ハ冷水療法ヲ爲サシメ亦ハ亞砒酸劑ノ内服ヲ二、三ヶ月間持續スル等ニシテ其他看護ニ注意スルアルノミ

流行性紅斑 Erythema endemicum

本症ハ巴里ニ於テ (1828, 1829, 1833) 流行シタル一種ノ疾病ナリトス

原因 穀物ノ腐敗セルヲ飲食ニ供スルニ基クト云フ **Ghomel und Recomier**

症候 手足等ニ紅斑ヲ生ジ次デ落屑シ、或ハ水疱ヲ生ジ上皮ヲ剝離ス、其胸部及下腹部等ノ皮膚ニ於テハ殆ド黒色ヲ呈シ時ニ四肢ノ蟻走感或ハ麻痺、或ハ疼痛ヲ來シ亦嘔吐下痢尿閉ヲ發シテ斃ル者アリ

經過及豫後 一週乃至二週或ハ數月ヲ要スルモノアルモ皮膚變色ノ褪消落屑等相次ギ以テ治癒スルヲ常トス

赤色肢痛症 Erythromelalgie

意義 皮膚紅痛症トモ稱シミツチエル氏 **Weiel, Mitchel** (1872) ノ初

メテ記載シタル皮膚潮紅疼痛ヲ併發スル慢性ノ發作的ニ來ル疾患ニシテ主ニ肢節ノ末梢ヲ犯ス

原因 不明ニシテ特發性ニ來ルコトアリ、或ハ中樞機能的疾患ノ併發症例令バ神經衰弱、比斯的里等ニ來リ或ハ解剖的變化例之バ脊髓炎、脊髓腔洞症、脊髓勞等ニ本症ヲ發スルコトアリ、然シテ特發性ニ比シ遙ニ多キヲ以テ本症ヲ單ニ血管運動神經系及榮養神經系ノ複雜微候トナス者アリ、男子ハ女子ニ比シ多ク又晩年ノ者ニ多シト云フ、其他特發性ノ者ニハ赤血球増加症ヲ證明シタル者アリ

症候 手足、指趾等ノ發作的疼痛及皮膚潮紅ヲ主徴トシ初メハ夕刻又ハ夜間ニ發シ病症増進スレバ晝間ニモ來ル、卒然一指趾又ハ數指趾ヨリ手掌若クハ跟部ニ局限シ或ハ上肢ニ放散ス、患部ノ溫度ハ多少上昇シ動脈搏動著明トナリ且ツ患部腫脹シ漸ク虛性充血ニ轉ズベシ、時ニ知覺異常ヲ合併スルコトアリ、稀ニ患部出血シ易ク或ハ肥大又ハ萎縮シ或ハ壞疽ヲ來スコトアリ

經過 數週乃至數月、時ニ數年ニ亙リ發作ト休止期交代シ荏苒治セズ殊ニ夏季ニ憎惡スルト云フ

診斷 肢端ノ發作的疼痛潮紅休止期皮膚ノ常態經過等ニ注意スベシ

鑑別 (一) 凍瘡ハ搔痒ヲ有スベシ (二) 硬皮症ハ皮膚及下層組織緊縮シ疼痛ナシ (三) レノー氏病疼痛發作的ナラス

豫後 生命ニ危險ナキ如モ治癒困難ナリ原因ニ關係ス

療法 對症的ニシテ冷器法「アンチピリン」「ピラミドン」ノ内服沃度劑ノ服用其他電氣「ラジウム」浴等試ムベシ

局處假死及對側性壞疽 *Locale Asphyxie und Gangraena Symmetrica.*

異名 レノー氏病 *Raynaudsche Krankheit*

意義 本症ハレノー氏 (1862) ノ發見ニ罹リ、四肢末梢ニ於ケル皮膚ノ

發作性血行障礙ニシテ、初メ貧血次デ鬱血次ニ假死最後ニ壞疽ヲ來シ左右對側的ニ來ル

原因及病理 第一期ハ細小動脈及小動脈ノ痙攣、第二期ハ靜脈ノ痙攣ニ由ルハ明カナルモ壞疽發生ハ多說アリ、然シテ交感神經刺戟說或ハ神經障礙殊ニ中樞性變常說等アリ、之レ血管壁細胞浸潤、血管内膜肥厚、管腔閉塞ヲ證明セラレ、或ハ一方ニ於テ脊髓癆腫瘍、脊髓空洞症ニ本症ヲ合併スルヲ以テ其一部原因トシテ稱セラルモ謂レナシトセズ、其他全身衰弱狀態亦誘因ト目セラレ

症候 前驅症トシテ知覺鈍麻、蟻走感、刺痛等知覺異狀アリ、又往々劇痛ヲ伴ヒ或ハ眩暈、不眠、間欠性蛋白尿ヲ來シ、或ハ紅斑又ハ濕疹ヲ見ルコトアリ、然ル後指趾、鼻端等相對的ニ局處失神則チ假死 *Locale synkope* 又局處血虛 *Regionäre ischämie Weiss* ヲ起シ、小血管痙攣性收縮ノ爲皮膚蠟色、知覺異常、寒冷等ヲ感ジ暫時ニシ其症狀消失ス、時ヲ經テ反覆發作シ治癒スル事アルモ、重症ハ漸次局所壞死 *Umschriebene nekrose* ノ狀ヲ呈スルニ到ル、皮膚濃藍色又ハ青赤色則チ處所絶脈又ハ局處紫藍斑 *Locale Asphyxie od. regionäre Gyanose* ヲヨリ鉛黑色ニ變ジ腫脹ヲ發シ遂ニ運動自由ナラズ知覺鈍麻シ、而モ之ニ觸レバ疼痛アリ斯クシテ發作減少治癒スルモノアルモ、遂ニ一部壞疽ニ陥ルモノトス、今レノー氏ニ從テ次ノ三期ニ區別スベシ

(第一期) 消化器ノ障礙、精神悵鬱、手指又ハ足趾等ニ紫藍色ヲ呈シ、局處ノ貧血、蟻走感或ハ時トシテ浮腫ヲ發スル等ニシテ、四肢厥冷シー二ヶ月依然トシテ病症動カズ或ハ一定時ノ後消散ス

(第二期) 患部ニ劇痛ヲ感ジ皮膚青赤色ヨリ黑色ヲ呈シ皮膚ノ壞疽ヲ來タス時トシテ指節ヲ襲ス事アリ

(第三期) 壞疽部剝離シ癩痕形成ヲ以テ治ニ就ク

部位 指趾ニ來リ殊ニ指腹爪牀ヲ侵シ易ク、間々指甲、手掌、足趾、足外緣等ニ來ル其他耳朶、鼻頭、頬邊ニ見ルコトアリ、稀ニ四肢ノ或部分軀

幹=來ル

診斷 對側的發作性=來ル血虛及鬱血、壞疽ノ發生及部位=注意スベシ
又心臟病、血管系疾患ヲ檢シ異狀ヲ認メザレバ本症ヲ疑フベシ

鑑別 (一) 凍傷ハ發作性ヲ欠ク (二) 結節性紅斑ハ疼痛殆ド感ゼズ慢性ニシテ發作性ナラズ (三) 慢性麥角中毒連續性ニシテ中毒症狀アリ

豫後 生命=關シテハ良好ナリト雖、其原因=依テ例之バ「ヒステリー」症ノ如キハ再發シ來リ全身狀態ヲ不良ナラシメ死ノ轉歸ヲトル事無ニ非ズ

療法 原因=留意シ第一強壯劑ヲ與ヘ營養ヲ可良ナラシメン事ヲ勉メ、精神的及身體的攝養ヲ命ジ假死ニ在テハ電氣療法「マツサージ」乾性溫包療法ヲ試ムベシ、其壞疽=陥リタル者ハ分界線ノ生ズルヲ待テ外科的手術ヲ施スベシ、其他既往症中梅毒アル者ハ必ズ驅梅毒療法ヲ施スベシ

紫 斑 Purpura

(A) 儂麻質斯性紫斑 *Purpura rheumatica* 單純性紫斑 *Purpura simplex*

(B) 出血性紫斑一名ウエルホヒー氏紫斑 *Morbus maculosus Werlhofii*

紫斑 トハ皮下溢血ヲ意味ス、殆ド常ニ下肢ヲ犯シ加壓褪色セザル帽針頭大乃至小豆大若クハ手掌大以上ニ達スル暗紫色乃至紫紅色ノ出血斑ニシテ、其出血ニ伴ヒ或ハ急性ニ發熱シ或ハ身體倦怠ヲ感ジ亦症狀ノ劇甚ナルアリ、普通ノ經過ハ約數週ナリト雖、時ニ再發シ或ハ内臟出血、心臟疾患等ノ危險ヲ來ス者アリ、通常之ヲ儂麻質斯性及出血性紫斑ニ分ツモ、更ニ亦單純性紫斑ナルモノヲ區別シテ論ズル者アリ、本症ハ出血些少ニシテ關節症狀無ク又ハ全身症狀少ナク或ハ全ク發セザルモノトス、然シテ或ルー派ハ之レ誤謬ノ見ナリト論ジ其單純ナル者ト雖、儂麻質斯性ニ屬ス可キモノナリト稱セリ、然レドモ著者ハ暫ク單純性紫斑ナル名稱ヲ存スベシ

(A) 儂麻質斯性紫斑 *Purpura rheumatica*

原因 急性關節儂麻質斯ト親密ノ關係ヲ有スル急性傳染病ニシテ三十歳未滿ノ少壯男子ヲ犯スヲ殊ニ多シトス

症候 帽針頭大乃至豌豆大若クハ「レンス」大ノ圓形皮膚溢血斑ニシテ暗紅色乃至紫赤色ヲ呈シ加壓褪色セズ、亦屢々毛囊部ニ一致シ中央ニ毛髮ヲ認ム事アリ、或ハ甲乙融合シテ手掌大ノ不正形斑ヲ形成シ而シテ常ニ其周圍ニ孤立性溢血ヲ見ルアリ、亦溢血ト同時ニ諸關節痛ヲ起シ腫脹ヲ來シ輕度ノ發熱血尿或ハ蛋白尿ヲ起ス者アリ、或ハ下腿ニ本症ヲ發シ同時ニ他部ニ紅斑性若クハ蕁麻疹様疹 *Purpura Urticatus Willan* ヲ發シ亞テ溢血性ノ者ニ變ズルモノアリ

部位 下腿ヲ其好發部トナシ前膊上腿之ニ次ギ軀幹顔面等ハ最モ稀ナリ

經過 發病後一乃至二週日ハ多數ノ發疹ヲ來シ其後漸次血色素ノ變化ニ從ヒ變色シ全ク吸收セラルモノトス

診斷 皮下溢血ナルヲ以テ容易ニ診斷シ得ベシ

鑑別 (一) 諸内服藥ニ因スル紫斑様藥疹 紫斑ニハ一定ノ好發部ヲ有シ其他關節症狀アリ、藥疹ハ其藥用廢止ト共ニ消退シ或ハ試驗的服用ニ由テ再發シ亦ハ症狀ノ増進ヲ見ルベシ (二) 急性傳染病ノ症候的發疹 傳染病ノ如ク全身症狀著明ナラザルト其好發部位ノ各々異ニセルヲ以テ鑑別シ得ベシ (三) 蚤刺性紫斑 中央ニ溢血部ヲ有シ、周圍ニ所謂充血性暈アリ (四) ウエルホヒー氏病 全皮膚面ニ散在シ一定ノ好發部ヲ有セズ、且ツ粘膜炎ノ出血ヲ見ルベシ

豫後 可良ナリ

解剖 本病ノ溢血ハ皮膚血管網ノ乳嘴部ヨリ生ジタル者ノ如ク則チ乳嘴體ニ溢血最モ多ク、亦眞皮ノ深在腺及毛囊周圍ニモ溢血ノ存在ヲ認ムベシ

療法 生活法及滋養療法ニ注意シ身體安靜臥褥ヲ命ジ精神慰安、睡眠等ヲ充分ナラシメ刺激性食物ヲ避ケ、而シテ脉膊充實者ニハ酒精劑ヲ絶對ニ

禁忌シ反對者ニハ投與スベシ

内服トシテハ水揚酸_{ナトリウム}、_{ザリピリン}、_{アスピリン}等ヲ處シ
其他對症療法ヲ施ス可シ

(B) ウルホヒー氏病

Morbus maculosus Werlhofii

異名 出血性紫斑 *Purpura haemorrhagica*

原因 コルブ氏 *Kolb* 及 _{レツツエリツヒ氏} *Letzerech* ハ各々異ナル處ノ桿菌ヲ證明シ動物試験ヲ施シ、其出血ヲ惹起シ得タリト稱スルモ尙ホ今後ノ研究ヲ要ス、而シテコルブハ内臓殊ニ脾臓及腺ヨリ發見シ其長サ一乃至二_{ミクロン}ヲ算スト云フ、亦_{レツツエリヒ}ハ毛細血管ヲ栓塞スル硝子様血栓内ニ發見セリト云ヘリ

症候 食氣不振、頭痛、倦怠等ノ前驅症ヲ發スル者アリ或ハ前驅症ナキ者アリ、而シテ皮膚及粘膜ニ出血ヲ來スヲ以テ特徴トナシ其他發熱スル者アリ、亦出血斑ハ融合シテ手掌大以上ニ達シ數時乃至數日間ニテ全身一般斑紋ヲ呈シ口腔、咽頭、眼等ニ出血斑ヲ見ルベシ、亦本症ハ再發シ易ク呼吸器、消化器及腎臓等ヨリ多量ノ内臓出血ヲ見、或ハ心臟疾患ヲ起ス等危險少ナカラズ

經過 輕症ニ在テハ十日乃至十四日ニシテ恢復治ニ就クト雖、稍重症者ニ在テハ數ヶ月ヲ要シ時ニ危險症ヲ發シテ死亡ヲ來ス事アリ

診斷 全身症狀高度ニシテ出血多量好發部ナクシテ全身皮膚ニ散在シ粘膜出血ヲ伴ヘリ、而シテ_{儂麻質斯性紫斑}ノ如ク關節症狀ヲ發セズ、又壞血病ハ高度ノ出血性炎症ヲ齒齦ニ認メ衰弱甚シトス

豫後 疑ハシトス則チ大部分ハ治癒スト雖、腦溢血及高度ノ貧血又ハ内臓出血或ハ心臟疾患ヲ起シテ死亡スル者亦少ナカラザレバナリ

療法 _{儂麻質斯性紫斑}ニ於ケルト同ジク更ニ嚴重ナル就褥安靜ヲ命ジ、新鮮空氣療法、滋養療法等ヲ施シ刺戟性飲食物ヲ禁ジ輕度ノ外傷モ豫防ス

ベシ

内服トシテハ_{麥角} 1—2.0 一日量トシテ服用セシメ或ハ_{ホーレル}水ヲ與フベシ、其他心臟衰弱等ニ酒精劑_{カムフル}、_{エーテル}等ノ大量ヲ以テ對症療法ヲ施シ亦出血全ク止ミタル際ハ鐵劑ヲ試ムベシ

其他中間健康時ニハ法列兒水、沃劑、規那鐵劑ヲ處シ山間搥泉、炭酸泉ニ浴セシムベシ、著者曾テ_{アルゼンブルトーゼ}ヲ試ミ良好ナルヲ見タリ

皮膚貧血 *Anaemia cutis,*

意義 皮膚内ニ存スル細小脈管内血量ノ少キ者ヲ云フ

原因 種々ニシテ多量ノ失血及他部ノ急劇ナル充血並ニ皮膚血管ノ壓迫及栓塞血栓、寒冷及電氣ノ刺戟其他萎黃病、惡性貧血、驚愕、恐怖、憤怒等ノ感情皮膚神經及内臓神經ノ刺戟ニ因スル反射的作用等ナリ

症候 皮膚蒼白ヲ呈シ寒冷ヲ感ズルヲ以テ特徴トナス、然レ雖皮膚色素ニ富メル部分或ハ黑人種ノ皮膚ノ如キハ反ツテ其色ヲ濃厚トナス、之レ蓋シ上皮及真皮液質ノ減少ニ由テ皺襞ヲ作り色素細胞相密着スルニ由ルナラント云ヘリ、其他自覺症トシテ蟻走様感、知覺麻痺、惡寒ヲ常トスルモ稀ニ劇痛ヲ訴ヘ、亦慢性貧血ノ一種ニ體溫昇騰ヲ來ス者アルヲ見ル事アリ

療法 原因療法ヲ主トシ其局處血行障礙ニ因スル者ハ_{マツサージ}療法ヲ施ス可シ

ライル氏死指 *Reil to ter Finger*

意義 _{ライル氏}ノ報告シタル手指稀ニ_{前膊皮膚}ニ發作性ニ高度ノ貧血ヲ呈スル症ヲ云フ

原因 神經性及歇斯的里性ノ婦人ニ來リ手工、針工、洗濯婦等ニ多く、又寒冷ニ長ク接觸スルヨリ發現ス

症候 手指ノ知覺、鈍麻、蟻走感ヲ以テ始リ該部血行障礙ヲ來シ皮膚蒼白乃至鉛黑色トナリ、針刺スルモ出血セズ厥冷甚シク劇痛ヲ訴ヘ、屢々全

肢節ニ及シ觸神溫神減弱スルモ運動ニ障礙ヲ來サズ

經過 發作時々發現シ再發性ヲ有ス豫後ハ佳良ナリ

診斷 一乃至數箇ノ手指ニ於ケル發作性貧血及疼痛ニシテ凍瘡ハ暗紅色ニシテ痒癢アリ微ニ痛ミアリテ發作性ナラズ

療法 加溫ヲ主トシ摩擦按摩及感傳電氣ヲ施シ強壯療法ヲ試ムベシ

惡液質性多發皮膚壞疽 *Gangraena multiplex cachectica*

意義 本病ハオ、ジモン氏 *O. Simon* ノ始メテ記載シタル一二歳ノ惡液質性ノ小兒皮膚ニ發スル大小種々ノ壞疽ニシテ稀有ノ疾病ナリ

原因 ジモン氏ハ血塞ヲ以其原因ナリト稱シアイヒホッフ氏 *Eichhoff* ハ細菌ニ因スルモノナリト云フ

症候 皮膚ニ水疱ヲ發生シ膨隆シ次デ痂皮ヲ作り其痂皮下ノ組織壞疽ニ陥ルヲ以テ特徴トナス、而シテ其淺キハ皮膚ニ止ルモ深キハ骨表面ニ達スル事アリ、或ハ化膿シテ境界線ヲ生ジ脱落スルモノアリ、而シテ其發生スルヤ同時ニ多數ヲ生ジ或ハ漸次ニ發スル事アリ

豫後 適當ノ處置ヲ早く執ル時ハ豫後可良ナリ

療法 全身營養療法ヲ施シ局部ハ制腐的處置ヲ施スベシ

蛇行性水疱性壞疽 *Gangraena bullosa serpigiosa*

意義 本病ハカボシー氏 *Kaposi* ノ記載シタルモノニシテ其原因ハ糖尿病ナリト云ヘリ

症候 ハ左下腿ニ散在性水疱ヲ發シ次デ壞疽ヲ來シ之ヲ中心トシテ蛇行狀蔓延シ數月ニシテ治シタルニ、更ニ足關節上ニ蔓延シ來リシ際不幸患者ハ遂ニ斃レタリト云フ



Epidermolysis bullosa hereditaria (Dohi)
先天性表皮水疱症



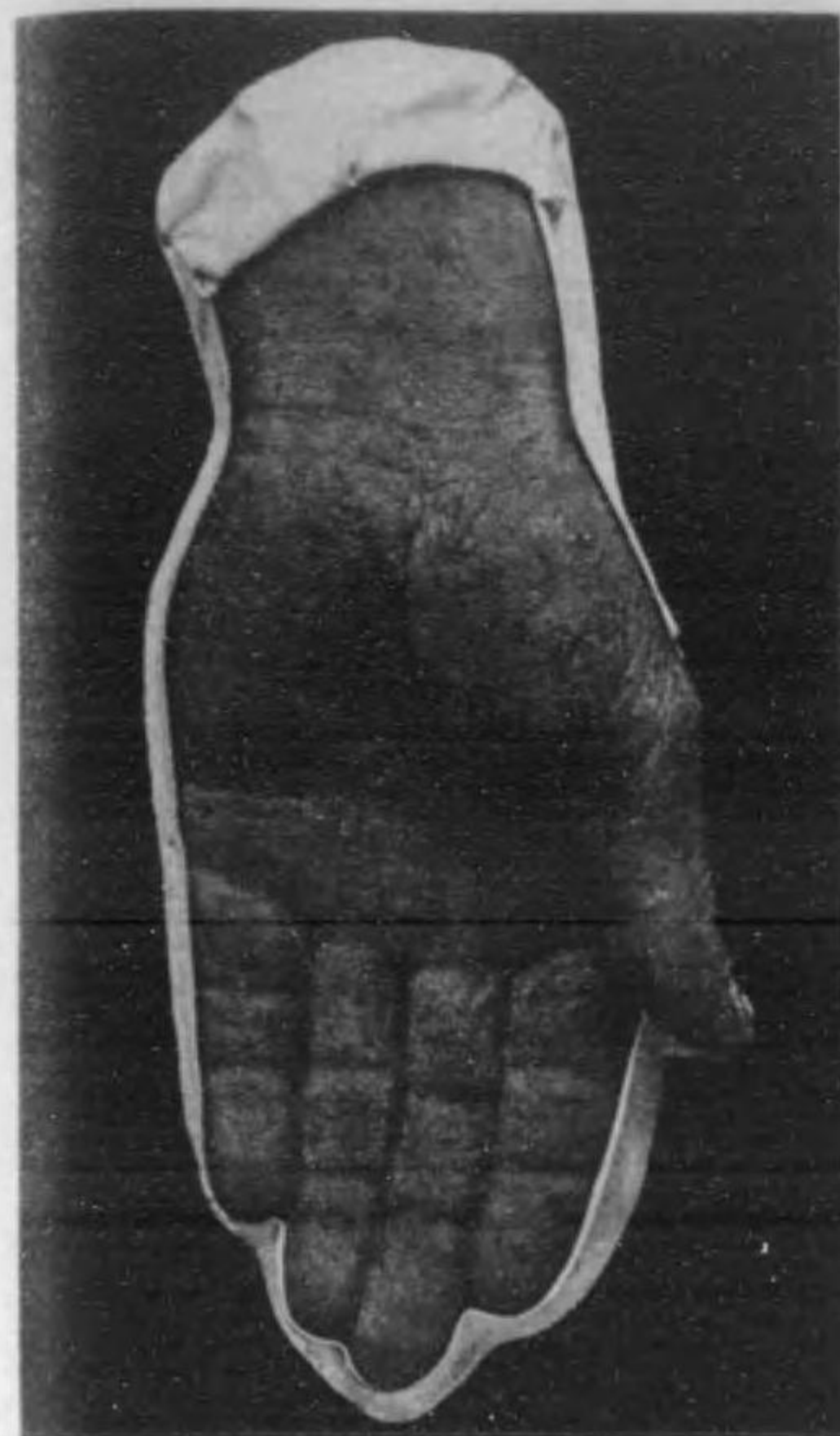
Trichophytia annularis
輪狀白癬



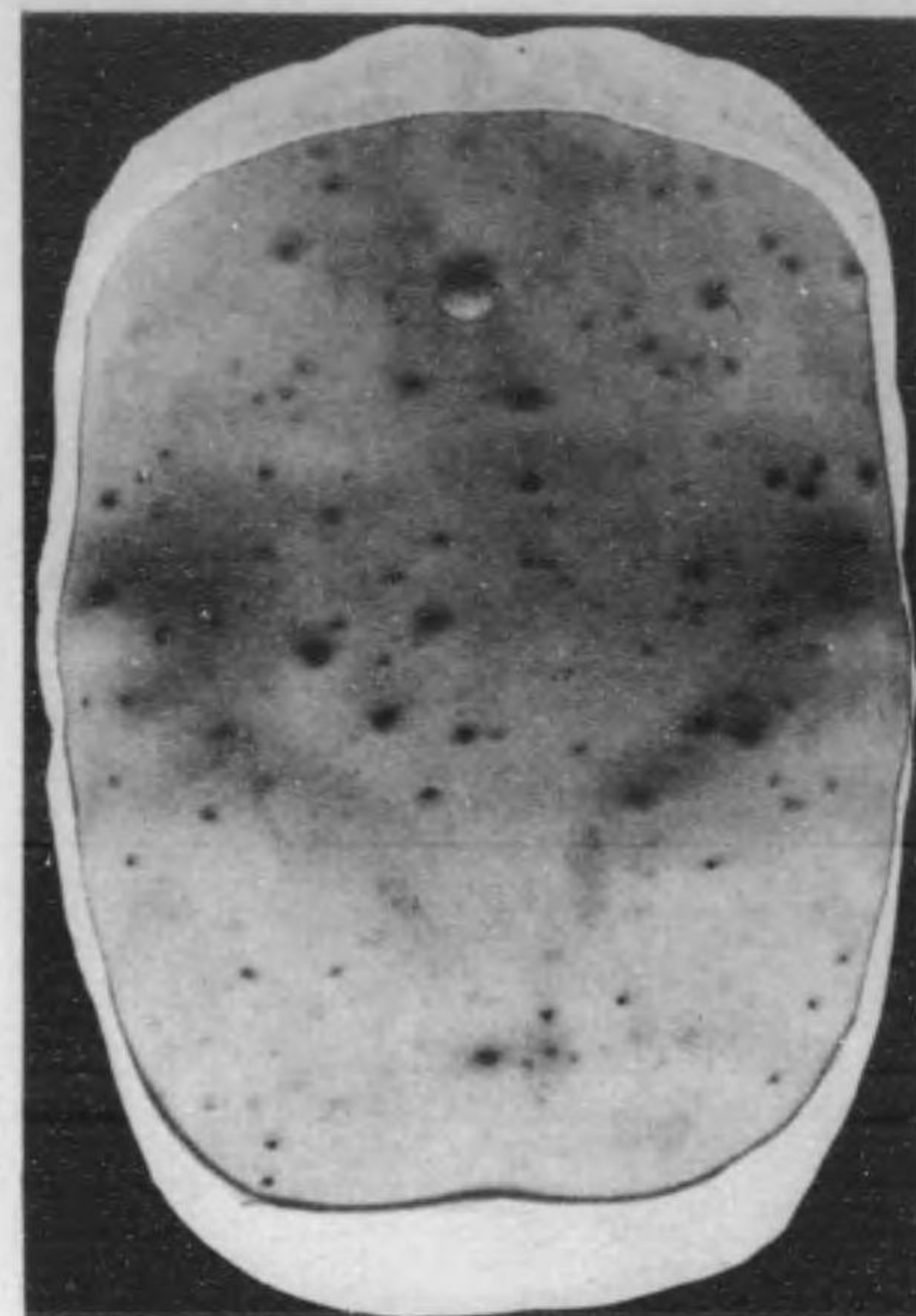
Erythema multiforme
多形紅斑



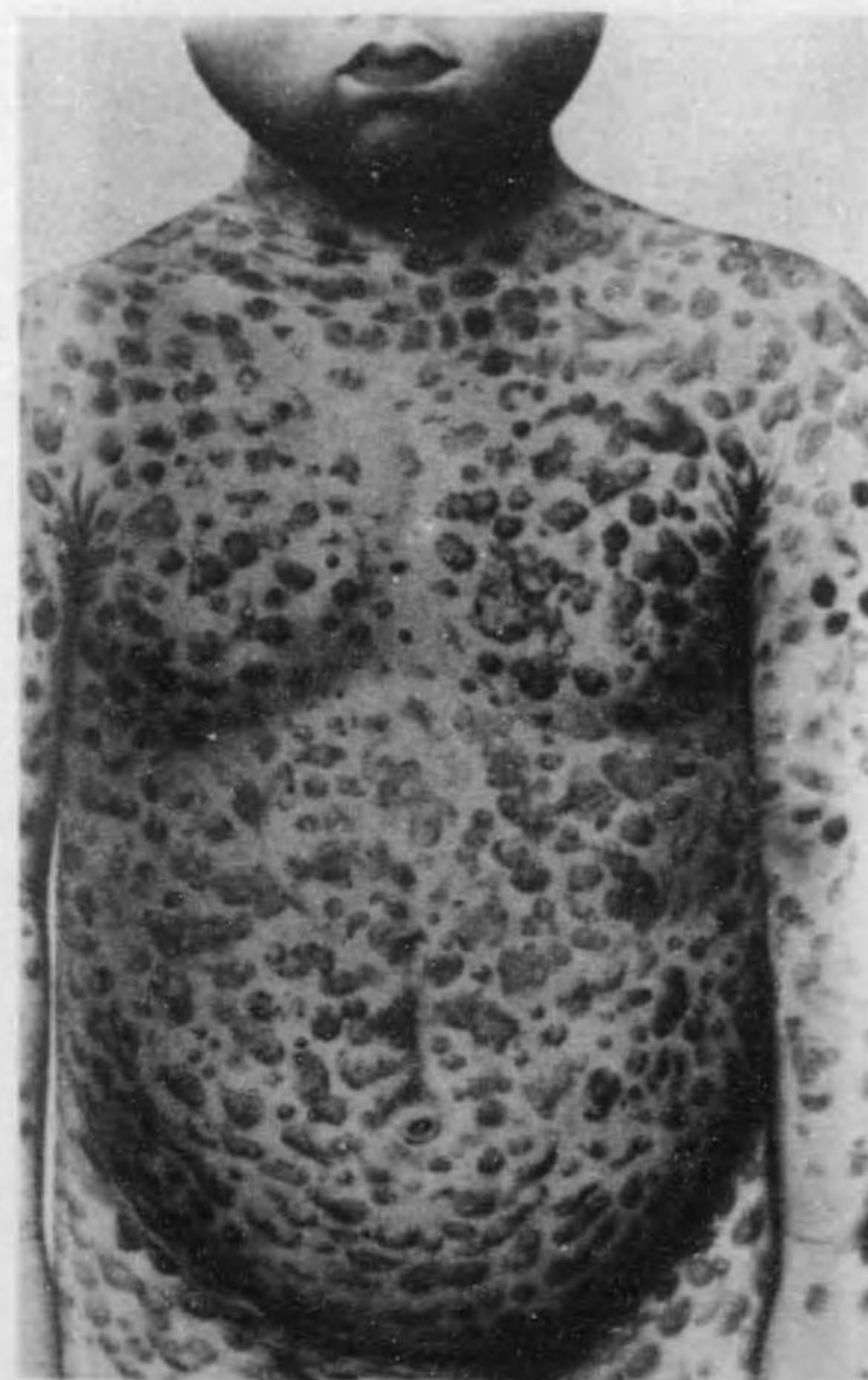
Erythema exudativum multi forme
多形滲出性紅斑



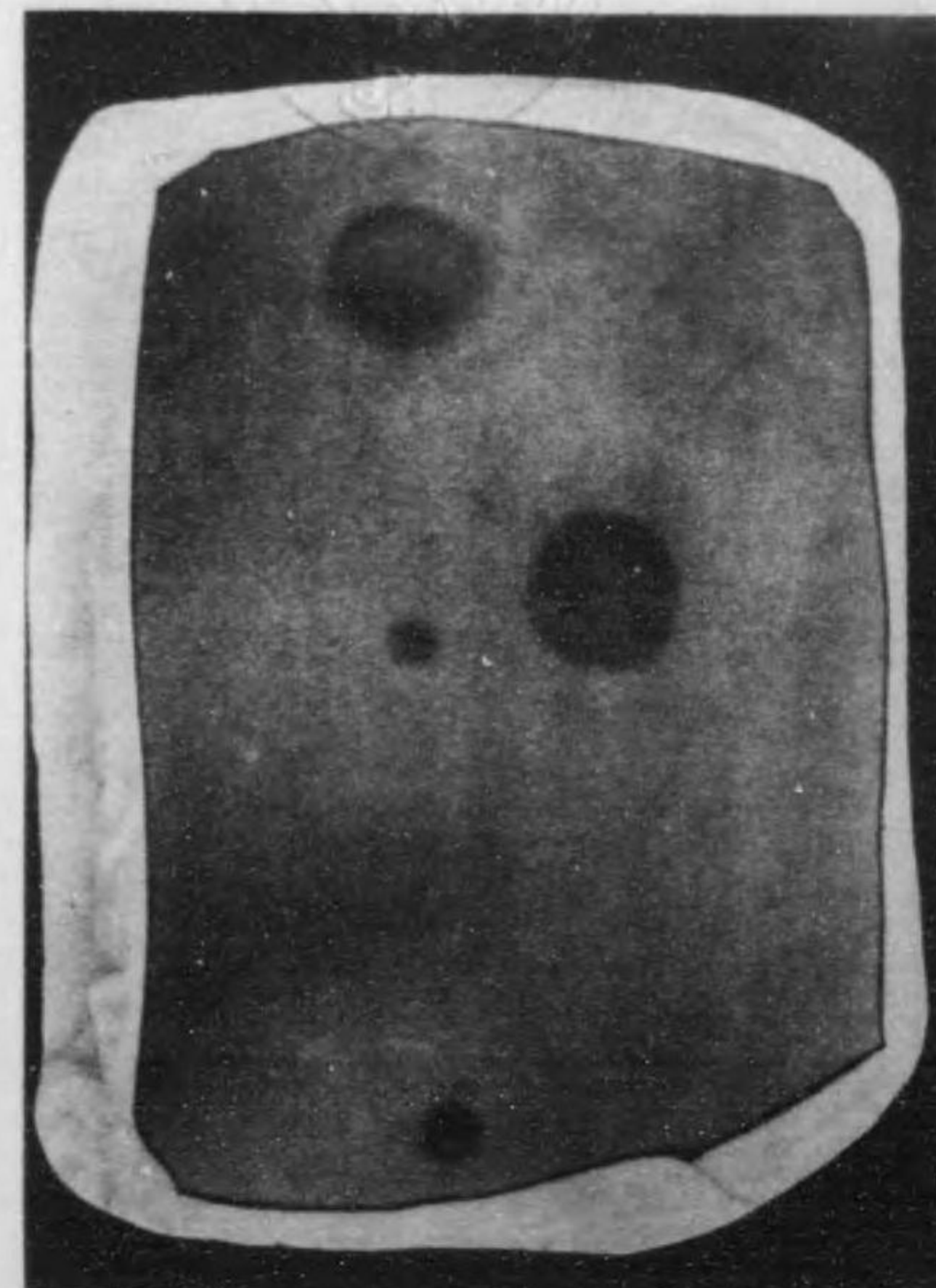
Toxicodermia ex usu
Arsenii
亞砒酸角質症



Urticaria chrouica Infantum
小兒ストロフルス



Urticaria Pigmentosa
(Dohi)
色素性蕁麻疹



Antipyrin exantheme
安知比林疹

毒物性皮膚炎 Dermatitis

Venenatas, Toxica

意義 刺戟性腐蝕性又ハ辛辣性物質ノ爲皮膚ニ炎症ヲ來スヲ云フ

原因 動物性及植物性化學的等頗ル多シ、例之ハ毒草、漆、南京蟲、毛蟲、蜂、蟻、蜈蚣、肥料、藥物殊ニ昇汞石炭酸、苛性亞爾加里、沃度仿留謨等一々例舉スベカラズ

症候 毒物ノ性質及作用時間、又ハ強弱等ニ依テ一様ナラザルモ一般的ニ云ヘバ、一時潮紅スルニ止マリ或ハ發赤腫脹シ或ハ小水疱又ハ水疱ヲ形成シ又ハ毛囊炎ヲ來スコトアリ、要スルニ毒物觸接部ニ局限シタル炎症性變化ト見ルベシ

療法 原因除去ヲ勉メ、硼酸軟膏、硼酸電法等臨機ノ處置ヲ執ルベシ

膿毒性滲出性紅斑又轉移性滲出性紅斑

Pyämische (Metastatische)

exsudative erytheme

意義 ヤーリツシュ氏ハ真正細菌性皮疹ノ存在ヲ主張シ亦ノイハウス氏ジンゲル氏等ハ膿瘻扶斯、薔薇疹及毛囊炎中ヨリ瘻扶斯菌ヲ培養シタリ、又之ヨリ先キハウスハルテル氏ハ多形滲出性紅斑ノ二例ニ於テ水疱並ニ尿中ニ非化膿性連鎖狀菌ヲ培養シ得タリ、然シテノワーク氏ハ心臟內膜炎、肝臟腫脾腫並腎臟炎ノ一例ニ於テ敗血性猩紅熱様苔癬ニ似タル敗血性皮疹ヲ目撃セリト云フ

第三章 炎症性皮膚病

Entzündliche dermatosem.

濕疹 Eczema

皮膚發疹病中最モ多ク吾人ノ遭遇シ且ツ實地上最モ緊要ナルモノハ濕疹ナリトス、而シテ往時ハ其學說紛議ノ渦中ニ存セシト雖、ヘブラ氏 Hebra ハ巴豆油ヲ健皮ニ塗布シ、臨床的ニ之ヲ觀察セシヨリ各種濕疹狀態ノ關係ヲ明ニシ漸ク學說ノ統一ヲ歸スルヲ得ルニ到レリ

意義 濕疹トハ表皮ノ所謂加多兒ニシテアウスビツツ氏 Auspitz ハ皮膚ノ表在性加多兒ニシテ、漿液性若クハ膿性滲出物ヲ有スルモノナリト云ヘリ

原因 本病ノ原因ハ甚ダ多様ニシテ其研究ハ頗ル重要ナリトス、之レ管ニ其再發ヲ防ギ得ルノミナラズ治療上大ニ關係ヲ有スレバナリ、而シテ原因ヲ内外ノ二因ニ分ツ

(甲) 外因ハ則チ器械的、化學的及ビ溫熱的刺戟並ニ細菌トナス

(一) 器械的刺戟 例之ハ癢爬及衣服特ニ莫大小、絨布類ノ摩擦並ニ加壓等ニシテ殊ニ彼ノ搔爬性濕疹 **Kratzekzema** ノ如キハハ微體侵入ノ門戸ヲ開キ、或ハ其他有害物移殖ノ關係アリトス

(二) 化學的刺戟 例之ハ汗脂、糞尿ノ汚染、水及石鹼ノ濫用、漆、ペンキ、硫黃泉並ニ藥品類、化學的材料等ニシテ、其他彼ノ職業的濕疹 **Gewerbeekzema** ニ屬スル洗濯業者ノ洗滌濕疹 **Eczema Loricum** 及彼ノ發汗ノ爲ニ生ズル汗疹 **Sudamen** 及熱性病者ノ汗液溜滯ヨリ生スル結晶粟粒疹 **Miliaria crystallina** モ之ニ屬ス

(三) 溫熱的刺戟 日光及レントゲン光線、火熱並ニ寒風等ニシテ溫熱的濕疹 **Eczema Galoricum** 及日光濕疹 **Eczema Solare** 太陽

紅斑 **Erythema Solare** 則チ之レナリ、然シテ日光濕疹ハ太陽ノ高熱ノミナラズ其光線作用及化學的作用ニヨリテ發スルモノナルベシ、其他又電氣ノ刺戟ニ由テ生ズル電氣紅斑 **Erythema photoelectricum** モ之ニ配列スベキモノトス

(四) 細菌 未ダ一定ノ細菌ヲ證認セズト雖、彼ノ化膿菌及絲狀菌ノ類ハ本病ノ發生ヲ助成スベシト云フ、嘗テウンナ氏 **Unna** ハ皮脂漏性濕疹ヨリーツノ「コツケン」**Gokken** ヲ發見シタリト雖未ダ認定セラル、ニ到ラズ、シヨルツ氏 **Gcholtz** 及ラーブ氏 **Raab** ハ急性及亞急性ノ濕疹ニ於テ常ニ黃金色葡萄狀菌ヲ發見セリト稱シ、亦エスネル氏 **Esner** ハ皮脂漏ヲ有シ或ハ明劃ナル環狀ヲ以テ邊緣ノ境サル、者ハ寄生性ノ者ト見做スベシト云ヘリ

(乙) 内因ハ則チ内部疾患ノ附屬現象所謂症候的タルニ過ギズ主トシテ其素因ヲナス

濕疹ノ素因 腺病淋巴質、貧血、消化不良、肝臟病、便秘、神經系ノ疾患、糖尿病、慢性尿毒症、腎臟炎其他月經異常、妊娠、氣管枝、喘息等ハ何レモ本病ノ素因ヲナス或ハ續發的ニ本症ノ發生ヲ見ル事アリ

症候 急性及慢性ニ分チ急性症ハ慢性症ニ變シ慢性症復タ幾タビカ急性症ニ變ズルコトアリ、從テ徵候極メテ複雜ナリト雖今其發生ノ順序ニ從ヒ其症狀ヲ論述スベシ

(一期) 紅斑期又紅斑性濕疹 **Stadium S E, erythematosum** 先ヅ癢痒ヲ發シ、皮膚潮溼性或ハ斑點狀潮紅シ充血ヲ呈シ境界明劃ナラズ且ツ僅ニ腫脹スルモノトス、次デ

(二期) 丘疹期又丘疹性濕疹 **St. S. E. Papulosum** トナリ皮膚ニ紅疹ヲ生ジ帽針頭大ヨリ小豆大ニ及ビ一定ノ配列ナク細胞浸潤ヲ生ズ、而シテ往々丘疹ノ汗腺口及ビ毛囊口ニ一致スルモノアリ (毛囊性濕疹 **E. Folliculore**) 次デ第三期ニ移行ス

(三期) 水疱期又水疱性濕疹 **St. S. E. Vesiculosum** 此期ニ於テ

ハ丘疹ハ水泡ニ化シ或ハ丘疹期ニ於ケル細胞浸潤ニ兼ヌルニ血漿浸出を以テシ、液質ハ角質層下ニ滯留シテ爲メニ角質層隆起セラレ大水疱ヲ形成スルモノトス、而シテ其水泡被蓋ヲ取ル時ハ濕潤セル表皮細胞層ヲ現出スベシ夫レヨリ漸次進行シテ水泡中ニ膿球ノ遊出スルヲ見ルニ到ル、之レ第四期ニ移行スルノ徴ナリトス

(四期) 膿疱期又膿疱性濕疹 **St. S. E. Pustulosum S. impitiginosum** 此期ニ於テハ水泡中ニ膿球ノ遊出益々増加シ遂ニ膿疱ニ變ス

(五期) 濕潤期又ハ濕潤性濕疹 **St. S. E. madidum** 此期ニ於テハ水泡或ハ膿疱ハ外來ノ刺戟(例之ハ衣服ノ摩擦又ハ搔爬ノ類)或ハ内容充溢ノ爲破潰シテ表皮ノ深層ヲ露出シ以テ其濕潤面ヲ呈スルモノトス、而シテ一名之ヲ赤色濕疹 **E. Rubra** ト稱ス

(六期) 結痂期又ハ結痂性濕疹 **St. S. E. Crustosum** 此期ニ於テハ水泡又ハ膿疱ノ濕潤期ヲ經過セズシテ直チニ其内容乾燥シテ汚穢黃褐色ノ痂皮ヲ被ムリ以テ本期ニ移行スルコトアリ、要スルニ分泌液乾燥シテ痂皮ヲ作りシ者ニシテ其痂皮ヲ除去スレバ濕潤セル唯乳頭狀ニ高マリシ面ヲ呈スル者ナリトス、而シテ痂皮ノ色ハ分泌物ノ種類ニ因テ差アリ則チ漿液性或ハ膿汁性又ハ血液ノ多少混合スルアリ、或ハ脂肪分泌ノ多寡ニ依リ或ハ附着セル污垢物等ニ因テ其色ヲ異ニス

(七期) 落屑期或ハ鱗屑期又ハ落屑性濕疹 **St. S. E. Squamosum** 則チ此期ニ於テハ潮紅腫脹漸ク減退シ痂皮脱落シテ濕潤止ムト共ニ表皮ノ落屑ヲ來シ終ニ完全治癒ヲ營ムモノトス、而シテ一時色素沈著ヲ遺スコトアルモ決シテ癩痕ヲ形成セザルモノナリ

以上記載セン諸症ハ必シモ逐次ニ發生スルモノニ非ズ、或ハ進行ノ半途ニ休止シ、或ハ獨リ或期ノ症狀ヲ顯シ他期諸症ノ明カナラザルコトアリ、是レ濕疹ノ症狀多様ヲ致ス所以ナリトス

而シテ急性濕疹其落屑期ニ於テ原因未ダ除去セラレザル時ハ、症狀反覆シ或ハ更ニ憎惡シ皮膚ノ濕潤肥厚益々加ハリ落屑ヲ斷タズ之レ慢性濕疹ト

ナス、故ニ慢性トハ其經過ノ長短ヨリ命名セラレシニ非ズシテ、皮膚ニアル變化則チ硬韌ナル浸潤或ハ皸裂等ノ存スル時ヲ云フ、亦此慢性症モ外來刺戟ノ新ニ加ハル事ニ由テ俄ニ急性症ヲ續發シ甚シキハ再三反覆スル事アリ亦急性症ニ於テ前記諸症ノ經過消退共ニ迅速ニシテ恰モ蕁麻疹ノ如キ症ヲ呈シ且ツ同時ニ他部ニ於テ蕁麻疹ヲ發見スル事アリ、然ル時ハ之ヲ蕁麻疹性濕疹 **Urticarielles Eczema** ト稱ス、其他急性及慢性症ハ共ニ身體諸部ヲ侵シ從テ其症狀ヲ異ニス、今次ニ各部ニ就キ一般症狀ヲ詳記スベシ

頭部濕疹 **Ekz. capilliti**

頭部濕疹ハ他部ノ濕疹ニ比シ慢性ニ移行シ易ク多クハ濕潤性膿疱性或ハ落屑性ノ者ニシテ、其濕潤性甚シキモノニ到ツテハ多量ノ分泌液及皮脂漏 **Seborhoe** ヲ認メ或ハ該液乾燥シ脂肪性結痂ヲ生ジ毛髮膠着シテ一塊トナリ、彼ノ糾髮病 **Pulicapolonica** ヲ來スヲ見ル、其他或ハ皮脂ト濕疹分泌液ノ相混ジテ腐敗分解ヲ起シ脂酸ヲ遊離シテ厭フ可キ穢惡臭ヲ放ツニ至ルモノアリ、亦痂皮ヲ剝離セバ皮膚濕潤シテ紅色ヲ呈シ或ハ往々膿汁沈着ノ爲メニ淺表ノ剝離又ハ乳頭狀増殖ヲ起スヲ見ルコトアリ、而シテ虱ノ附着セル時ハ殆ド此症狀ヲ呈スルヲ常トセリ、亦虱ノ存在ハ毛髮ニ附着セル虱卵ニ由テ明ニスルヲ得ベシ、其他項部、耳後顛顛部、頸部等ノ淋巴腺ニ腫脹ヲ來スヲ見ルモ化膿スルニ至ルコト稀ナリトス、宜シク腺病ノ兆トナサザルノ注意ヲナスベシ、然シテ膿疱性或ハ皮脂漏性濕疹ハ一タビ脫毛スルト雖再發シテ醜貌ヲ遺ス事ナシトス、亦濾泡性ノモノニシテ鬚髯ニ來ル彼ノ尋常性鬚瘡 **Sycosis Vulgaris** ノ如キハ頭部ニ來タル事稀ナリ、其他落屑性ノ濕疹ハ往々瀰漫性ニ全頭ヲ侵シ、頭皮紅色ヲ呈シ白色脂性鬆疎ナル鱗屑ヲ被ムルヲ見ルベシ

顔面濕疹 **Ekz. Faciei**

本症ハ顔面ニ原發スルヲ普通トナス、然リト雖モ或ハ反射的脈管變常ニ

ヨリ他ノ部分ヨリ續發スルコトアリ、多クハ經過急性ニシテ或ハ惡寒ヲ以テ初マリ、顔面一般ニ潮紅腫起シ眼瞼浮腫ヲ來シ或ハ口唇隆起紅色ヲ呈シテ開口困難ヲ來シ其外見頗ル顔面丹毒ニ類ス、然レ共其全身症狀僅微ニシテ小丘疹ヲ發シ、或ハ小水疱疹ヲ發生スルヲ以テ鑑別シ得ベシ、然シテ顔面濕疹ハ最モ多ク小兒ヲ襲ヒ慢性ニシテ好メテ額、額、耳部ニ來リ小膿疱期或ハ鱗屑期ニ在ルモノ多ク、殆ド常ニ痂皮ヲ作ルヲ例トセリ、フオルクスムント氏ハ之ヲ乳汁結痂 **Crustalactea** ト稱ス

(イ) 耳ノ濕疹 耳ハ腫脹シテ耳輪前方ニ向ヒ次デ耳介肥厚シテ耳溝ニ蟬裂ヲ生ジ、或ハ痂皮ヲ呈シテ外聽道ノ一部ハ鱗屑若クハ痂皮ノ爲メ閉塞セラレテ終ニ難聽ヲ發スル者アリ、或ハ時ニ癰腫ヲ合併スルヲ見ルベシ

(ロ) 鼻孔濕疹 本症ハ腺病性小兒ニ多ク鼻孔ハ往々痂皮ヲ以テ壅塞セラレ見ルベシ、而シテ大人ハ常ニ鼻加多兒尋常性鬚瘡等ニ併發シテ結痂ト蟬裂ヲ生ジ之ニ苦ム事甚ダ多シ、而シテ遂ニ頤及頰部ニ蔓延シ或ハ癰腫丹毒等ノ續發ヲ見ル事アリ

(ハ) 口唇濕疹 多クハ口唇縁ヲ侵シ爲メニ口唇ノ肥厚ヲ起シ、開口時蟬裂ヲ生ジテ暗黒色ノ痂皮ヲ被ムルヲ見ルベシ、中年ノ女子ニ多ク癢甚シトス

(ニ) 眼瞼濕疹 眼瞼炎ヲ併發シ高度ノ浮腫ヲ起シ眼背ニ頰裂ヲ生ジテ上眼瞼肥厚ヲ來シ且ツ腫脹シテ瞼裂爲メニ狹小セルヲ觀ルベシ

(ホ) 鬚瘡性濕疹 本症ハ鬚眉等顔面ノ毛髮盛ナル部ニ發シ鬚瘡ヲ續發スルヲ見ルベシ

(ヘ) 頸部濕疹 多クハ肥滿シタル小兒或ハ大人ノ皮膚皺襞間ニ發生スルヲ見ル

乳房濕疹 Ekz Mammal

多ク初産婦ノ授乳中ニ發シ或ハ疥癬ニ併發スルヲ見ルベシ、初メ乳嘴ニ淺キ小創ヲ生ジ少量ノ分泌液ヲ認メ次テ乾燥シテ薄痂ヲ形成ス、而シテ哺

乳ノ爲メ常刺戟ヲ受ケ乳嘴ハ漸次赤色糜爛ヲ呈シ乳暈腫起シテ痂皮ヲ以テ被覆セラレ著シキ蟬裂ヲ認メ疼痛ヲ感ズベシ、乳房炎ノ原因トナルコト尠ナカラズ、亦乳房ノ所謂バヂユツト氏濕疹ハ往々癰ヲ誘發スト雖畢竟表面性蔓延セル表皮癩ニ外ナラズト云フ、亦肋骨部濕疹ハ多ク皮脂漏ヲ併發ス

臍濕疹 Ekz. umbilici

皮脂腺分泌物ノ臍窩中ニ於テ分解スルノ結果ニシテ肥滿家ニ多ク其形圓板ヲ呈シ臭氣甚シトス

陰部會陰肛門濕疹 Ekz Genitalium et Perinaci et ani

陰部濕疹ハ吾人ノ屢々遭遇スルモノニシテ陰股皺襞則チ大腿皮膚ト陰囊ノ接觸部ヨリ發生シ、次デ陰囊ヲ侵シ稀ニ鱗屑性ニ來ルモノアリト雖多クハ濕潤性ニシテ癢甚シク次デ象皮様肥厚ヲ來シ慢性ニ移行シ、延ヒテ會陰、陰莖及肛圍ニ及ブモノトス、陰莖ニ於テハ主トシテ其下面則チ陰囊接觸部ニ近ク之ヲ認メ分泌多量ニシテ常ニ濕潤ス、然レ其他部ハ乾燥シテ蟬裂ヲ有スルコトアリ、女子ニ於テハ大陰唇ニ水疱性濕疹ヲ生ジ陰唇腫脹シテ癢甚ダシク爲メニ搔爬シテ直チニ濕潤期ニ轉ズル者アリ、亦肛門濕疹ハ甚ダ頑固ニシテ皮膚肥厚シ蟬裂及裂痕ヲ生ジ且ツ疼痛性ニシテ脱糞困難ヲ來ス者アリトス、其他陰股皺襞ノ濕疹ハ第一期紅斑性濕疹ニシテ肛門截痕部ト同ジク皺間濕疹 **Ekz. intertriga** ノ本トナルモノナリ

關節屈曲面濕疹 Ekz Gelenkbeugen

上下肢ニ來タル關節濕疹ハ屈曲面ヲ侵スヲ常トシ、且ツ濕潤性ニシテ癢甚シク痂皮及蟬裂ヲ生ジ出血スルヲ見ル、而シテ關節部ヲ強ク伸展スル時ハ劇痛ヲ感ズルヲ以テ患肢ノ機能ヲ制限セラル、モノトス、又左右均等ノ部位ニ發シ最モ多ク肘窩及膝膕ヲ犯スモノニシテ、其膝膕部濕疹ハ時ニ

歩行運動ヲ障害セラル、コトアリ

手足濕疹 Ekz. Manus et pedis

特種ノ職業ハ往々其影響ヲ被ムリ爲ニ手及前膊並ニ足趾ニ濕疹ヲ來ス、**Ekz. Gewerbe**、而シテ老人ニ在リテハ手背ヨリ或ハ上肢ノ伸展側ニ發スルヲ見ルコトアリ、其他有害感作ノ結果トシテ皮膚漸ク鬆粗トナリ手ニ浮爛ヲ來タス時ハ原狀ノ回復已ニ望ム可カラザルヲ常トセリ、而シテ輕症ハ紅斑性、小疱性或ハ膿疱性若クハ鮮屑性濕疹ヲ見ルニ過ギザル者ナリ、其小水疱疹ヲ生ズル者ハ兩指若クハ兩趾ノ相對部ニ發シテ之ヲ破ル時ハ粘潤ナル液ヲ漏シ、手掌ニ在テハ之ヲ放置スルコトニ依テ内容液乾燥シ爲メニ被膜ハ破開シテ小淺窩ヲ形成スルモノトス、其他手掌濕疹ハ多ク乾性、鱗屑性ノモノニシテ胼胝ヲ形成シ（胼胝性濕疹 **Ekz. Tyloiticum**）其伸縮運動ノ爲メニ皸裂ヲ生ジ（裂瘡濕疹 **Ekz. Rhogadiforme**）疼痛ヲ感ズルモノアリ、此種ノ濕疹ハ洗濯業者、泥工、電氣工、家具洗淨工、鍍金匠等ニ多シトス

下腿濕疹 Ekz. Gruris

濕潤性ニシテ浸潤甚シク彼ノ靜脈瘤ニ併發スル事多シ、故ニ此際ハ鬱血皮膚症トシテ來タルモノナルヲ記憶スベシ、甚ダ頑固ニシテ象皮病様皮膚肥厚及浮腫ヲ起シ往々疣狀或ハ胼胝狀ヲ形成スルニ到ルモノアリ、又皮膚ハ稍紫蒼色ヲ呈シ下腿潰瘍ヲ來ス事アリトス、其他治癒後一定時暗色斑ヲ其部ニ止ムヲ常トセリ

間擦濕疹 Ekz. intertrigo

皮膚ノ兩面相接觸摩擦シテ汗液及皮脂腺ノ分泌物ヲ分解スルノ機會ヲ與フベキ部位ハ悉ク濕疹ヲ形成スルノ素因ヲ有スルモノニシテ、其症狀ヲ糜爛性濕疹又ハ間擦濕疹或ハ摩擦疹 **E. intertriginosum** ト名ケ腋窩、

鼠蹊部、乳房下部、臀部等皮膚兩面ノ相接觸シ得ベキ所ニ發現スルモノナリ、而シテ小兒及肥滿家ニ多ク、殊ニ小兒ハ頸部股間ニ發シ大人ハ夏期ニ於テ兩股間ニ本症ヲ見ルコト吾人ノ日常經驗スル所ナリ

爪甲濕疹 Ekz. Nagel

稀ニ侵サルヲ見ル所ノモノニシテ他部ノ疾患永續シタル後始メテ爪甲皸裂ヲ呈シ其營養障害ノ結果トシテ剝脫スルニ至ルヲ見ル、然レ共慢性疾患ノ治スルト共ニ再生スルヲ常トセリ

全身濕疹 Ekz. universale

頭部ヨリ足尖ニ至ル凡テ濕疹ノ侵襲ヲ蒙ラザルナク全身ニ蔓延シ（汎發性濕疹 **E. universalis**）濕潤性、水疱性、丘疹性、結痂性、落屑性、相混ジテ全身ニ發疹シ、濕疹ト衣服ハ互ニ相膠着シテ其運動時痂皮剝離ノ爲疼痛ヲ感ジ、或ハ其慢性ニ移行シテ皮膚肥厚シ且ツ赤色皸裂ヲ來シ往々頭髮脫落シテ密ナラザルニ至ル者アリ、其他眼瞼外翻症ニ罹リ或ハ爪甲變質シ、或ハ全身症則チ惡寒、發熱、癢痒、食欲缺損、不眠ヲ續發シテ困腦スルヲ見ル者アリ、然レ共通常難治症ニ非ズ治方其直シキヲ得バ可ナリトス

經過 初期ニ於テ處置宜キヲ得バ數日ニシテ治スベシト雖、概ネ數週數月ヲ要シ或ハ數回再發シテ數年間ニ渉ルヲ見ル

部位 全身各部ヲ侵シ殊ニ頭部顔面好シデ肘窩、膝關節等屈面ニ生ジ屢々全身ニ蔓延ス

合併症 結膜炎、鼻加多兒、外聽道炎、淋巴腺炎、癰腫丹毒等ヲ來シ易シトス

解剖 レロアル氏 **Lelair** ニ從ヘバ急性濕疹ニ於ケル解剖的變化ハ眞皮乳頭層ノ血管怒張シテ多數ノ遊走細胞ヲ有スル粘液層ノ浸潤ヲ認メ、漿液滲出シテ表皮細胞間ノ水腫及ビエレイヂン並ニ顯粒層ノ消失或ハ減退ニ由リテ示サル、如ク、角質細胞ノ凝集力減少ニ因スル落屑ノ傾向ヲ見ル等

ナリ、而シテ亦眞皮ニ於ケル變化ハ比較的僅少ニシテ、只浮腫性充血ヲ以テ其主要ナルモノトセリ

シュレジンゲル氏ハ亦濕潤甚シキ全身濕疹ハ間斷ナク蛋白質ヲ消亡シ爲メニ血漿中蛋白質ノ缺乏ヲ來スト云ヘリ

慢性濕疹ニ於テハ表皮ノ諸層肥厚シ眞皮中ニ於ケル圓形細胞ノ浸潤加ハリ結締織肥大ス、其他皮脂腺及汗腺ノ萎縮スル時ハ之ト共ニ結締織ノ萎縮ヲ見ルベシウナ氏ニ從ヘバ三個ノ特徴アリトナセリ、即チ(一)角質變化ニシテ顆粒層ノ消失及角質層内核ノ保存ニシテ臨床上鱗屑ノ形成ナリ、次ハ(二)上皮ノ贅殖ニシテ臨床上丘疹ノ發生アリ、亦(三)ハ棘層ノ海綿狀變化則チ臨床上水疱ノ形成是レナリト云ヘリ

診斷 皮膚散慢性潮紅ヲ呈シ濕潤面アリ、外觀多様ニシテ(則チ紅疹、小水疱疹、膿疱、痂皮、落屑等ヲ認メ)常ニ瘙痒ヲ伴ヒ、其慢性症ニアリテハ皮膚浸潤肥厚ヲ來シ蔓延再發シ易シトス

鑑別

(一) 丹毒 惡寒發熱ヲ伴ヒ紅斑ノ境界明劃ニシテ其表面ハ浸潤セズ且ツ平等ニシテ疼痛アリ、往々水疱或ハ丘疹ノ發生ヲ見ルコトアリ

(二) 傳染性膿痂疹 澄明ノ水疱ヲ散點シ周圍ノ皮膚潮紅ヲ缺キ瘙痒ヲ有セズ、其他白色葡萄狀菌ヲ證明スベシ

(三) 連鎖狀菌性膿痂疹 土肥氏及栗田氏ノ記載ニ係ハリ藥黃色圓形ノ痂皮健常ノ皮膚面ニ孤立散點シ、散蔓性潮紅ヲ缺キ瘙痒ヲ有セズ且ツ細菌ノ證明ヲ得ベシ

(四) 尋常性鱗屑疹(又乾癬) 銀白色鱗屑ヲ有シ濕潤セズ、之ヲ剝離セバ點狀出血性底面ヲ認メ發疹ハ明劃ニ局限シ部位ハ伸展側ヲ侵スヲ常トス

(五) 圓癬(又頑癬) 境界隆起シ明劃ナリ而シテ孤線狀暗褐色ノ邊緣ヲ有シ中心淡ク周圍ニ濃シ、其中心部ハ病勢退行若クハ治癒セル如ク或ハ再發疹ヲ認ムベシ

(六) 尋常性毛瘡 毛囊口ニ生スル紅疹ニシテ癒合セズ周圍ノ皮膚ハ健

全ニシテ瘙痒ヲ有セズ

(七) 尋常性天疱瘡 水疱大ニシテ弛緩性ナリ而シテ周圍ノ皮膚ニ炎症狀ナク又瘙痒ヲ有セズ

(八) 白癬 圓キ輪形ヲ呈シ境界明劃ニシテ且ツ其邊緣ハ鋸齒狀ヲ呈ス亦落屑アリ、然レ共濕潤ナク發疹ノ中央治癒シテ健康ノ觀ヲ呈スベシ、其他糸狀菌ヲ證明シ得

(九) 帶狀疱疹 水疱ハ攢簇シテ集團ヲ作り且ツ一定神經ノ分岐ニ沿フテ發生シ瘙痒ヲ缺徐シ疼痛ヲ有ス

(十) 汗疱 常ニ手足ニ局限シ多クハ指趾、掌蹠ニ始マリ水疱又ハ膿疱ヲ作り瘙痒ヲ有スト雖、周圍ノ皮膚ニ散蔓性潮紅ヲ認メザルベシ

(十一) 疥癬 蟲道ノ痕跡則チ斜メナル黑點丘疹上ニアリ、常ニ一定部位ニ發シ該蟲ヲ證明シ得ベシ

(十二) 痒疹 多ク小兒ヲ襲ヒ壯年ニ至ル迄治セザルヲ常トス、亦主トシテ伸側ヲ侵スベシ

(十三) 紅色苔癬 濕潤化膿ヲ來サルヲ常トス

(十四) 梅毒疹 多クハ孤立若クハ攢簇シテ相融合スルコト、稀ニ境界亦明劃ニシテ數々潰瘍ヲ作り瘙痒ヲ有セズ

(十五) 紅斑性狼瘡 圓形或ハ不定形ニシテ邊緣ハ紅線ヲ劃シ皮脂漏性沈着物ヲ認メ、中心癩痕狀萎縮ヲ來シ病症經過慢性ニシテ瘙痒甚シカラズ

(十六) 尋常性狼瘡 癩痕ト潰瘍ヲ混ズルヲ見ル此症狀ハ濕疹ニ有セザル症狀ナリ

豫後 適當ノ療法ヲ施ストキハ必ず治癒ス、然レドモ常ニ再發ノ虞アルヲ忘ルベカラズ、亦療法適當ナラザルカ或ハ持續シ能ハザルトキハ其治癒頗ル困難ナリ

療法 本病ノ療法ハ其症狀多形ナルト原因ノ多様ナルニ從ヒ皮膚病中最ニ複雑ナルモノ、一ニ屬ス、左レハ其療法ノ當ヲ得ルト得ザルトハ醫家其人ノ手腕ニ存シ、若シ夫レ處置ノ宜シキヲ得ザラン乎、病形増惡シ不測ノ

失敗ヲ招キ或ハ其經過ヲ長クスルコトアリ、而シテ治療法ノ第一義ハ原因除去ニ存ス、其他更ニ時機ト患者ノ状態ニ鑑ミ大ニ其處置ヲ異ニセザルベカラズ、要スルニ紅斑期ニ於テハ撒布劑又ハ褌法劑ヲ使用シ、丘疹期及小水疱期ハ共ニ擦劑或ハ泥膏ヲ用ヒ、膿疱及結痂並ニ濕潤ノ諸期ニ對シテハ軟膏ヲ處シ、落屑期並ニ慢性濕疹ニ對シテハ參兒劑最モ適當セル如シ、則チ此大體ニ通シ然後機ニ臨ミ變ニ應ズルノ酌量ヲナストキハ庶クハ大過無キヲ得ン乎

原因ニ對シテハ總テ身體ノ機能的及體質的障害ヲ索メテ之ヲ除去セザルベカラズ、則チ食餌療法、水浴療法、氣候療法、溫泉療法及藥餌療法等ヲ兼用スベシ、又食餌ハ淡白ナルモノヲ用ヒ膏膩ノ食料藥味類ヲ禁ジ、其他茶、珈琲、酒類ノ飲用ヲ節シ、常ニ便通ニ注意スベシ、内服藥トシテハ内臟疾病ニ對應スル藥劑例之ハ肝油、燐劑、亞砒酸、[イヒチオール]及麥角等ヲ處スベシ

處	方
(亞細亞丸)	
亞砒酸	0.05
黑胡椒末	2.0
アラビヤゴム	適宜
甘草越幾斯及末	適宜
爲丸六十粒一日二三回一丸宛食後服用漸次增量一日十粒迄トス	
ホーレル水	5.0
複方キナ丁	25.0
毎日三回十二乃至十五滴	
ホーレル水	1.0
蒸留水	4.0
爲滴劑毎日三回六滴宛	
イヒチオール	12.0

甘草越幾斯及末 適宜

爲丸百粒一日三回二三粒宛食後服用

(註) 亞砒酸劑ハ慢性濕疹ニ適シ「イヒチオール」ハ硫黃ノ含有セル點ガ有効ナル如ク、其稀濃厚度ニテハ角質形成ノ働キヲ有シテ濕疹劑トナリ、濃厚度ニ於テハ防脂漏劑トナリ血管收縮作用及殺蟲ノ効アルモノトス

急性濕疹局所療法

先ヅ第一義トシテ外因障害ヲ除キ手ヲ附ケザルヲ可トスベシ、之レ外因療法ニ依テ自治スルモノナレバナリ、而シテ其療法開始ニ當テハ已ニ反覆注意セル如ク何レノ時期ニ在ルヤヲ診斷シ、以テ各期ノ状態ニ應ジテ處置スベシ

(一) 紅斑期ニ於テハ患者衣服類ノ摩擦、壓迫等其他外來ノ刺戟ニ對シテ注意ヲ施シ、患部ノ安靜ヲ要求シ無刺戟性撒布劑、酒精性洗滌劑及褌法劑若クハ熱浴等ヲ單用シ或ハ併用スベシ、例エバ癢痒甚シキ時酒精性洗滌劑ヲ使用シ後チ同一部ニ撒布劑ヲ用フルガ如シ、其他屢々急性症ニ在テハ所謂皮膚炎ヲ發スルヲ見ルベシ、此際ハプロウキ氏褌法等ヲ施シ或ハ水褌法ヲ試ミ或ハ熱湯ヲ以テ濕褌法ヲ行フベシ

撒布劑 澱粉(米粉、麥粉)滑石、炭酸[マグネシア]白堊、亞鉛花、次硝酸蒼鉛、[デルマトール][キセロホルム][タンノホルム][ライグホルム][プロモコール][ピオホルム]等ヲ純末又ハ甲乙調合シ使用スベシ

處	方
亞鉛花	45.0
澱粉	45.0
撒布用	
亞粉花澱粉等分	90.0
プロモコール	10.0
撒布用	

土陶土	1.0
澱粉	100.0
撒布料	
デルマトール	10.0
滑石	100.0
撒布料	
亜鉛花	2.0
炭酸マグネシア	3.0
白陶土	3.0
土陶土	2.0
米澱粉	10.0

撒布料(顔面及手ニ用ユ)

罨法劑 3%—5% 硼酸水 5—10% ブロウキ氏液 1—3% レゾルチン 水 0.2% ピクリン 酸水

處方

鉛糖	1.0
粗製明礬	5.0
水	100.0

(ブロウキ氏液) 罨法料

鉛糖	20.0
蒸留水	500.0

罨法料

酒精性洗滌劑 2% 石炭酸、2—0.5—1% チモール 1—5% メントール 10% カンフル 1% ナフトール 1—2% 水揚酸、2—10—30% 木蓼兒

處方

石炭酸	0.5—2.0
グリセリン	10.0

酒精 90.0

外用搔痒時塗布

石炭酸 2.0

酒精 各 45.0

溜水

グリセリン 10.0

石炭酸精(土肥氏)搔痒時塗布

サリチル酸 1.—2.0

比麻子油又ハグリセリン 100.0

酒精 90.0

外用

メントール 13.0

酒精 100.0

外用

木蓼兒 10.0

酒精 10.0—20.0

依的兒 10.0

外用(浴前塗布用)

(二) 丘疹及小水疱期ニ於テハ撒布劑及罨法ヲ用ヒ、亦ハ擦劑及泥膏ヲ用フベシ、而シテ多少炎症濕潤アル際ハ撒布劑ノミヲ使用セズ消炎法即チ罨法ヲ用フルヲ可トス

(三) 膿疱結痂並ニ濕潤期ニアリテハ軟膏ヲ用フベシ、但シ軟膏使用ノ際ハ繃帶ヲ施スヲ常トスト雖固縛スベカラズ、而シテ其濕潤期ニ於テハ常ニ水類或ハ液體ヨリナル藥物ヲ塗布スルヲ禁忌スベシ、之レ水質ノ爲刺戟ヲ被ムリ憎惡スレバナリ、故ニ亞鉛花^レ油或ハ亞鉛花椿油ノ類ヲ使用スベシ、之レ皮膚剝離ヲ閉ザシ亞鉛花ニテ刺戟ヲ防ギ治癒セシムベケレバナリ、其他尙其上ニブロウキ氏液或ハ硼酸罨法ヲ施セバ可ナリトス、然

シテ濕潤面治癒スル時ハ泥膏ヲ使用スベシ、亦濕潤ノ最モ輕度ナルモノニ在テハ撒布劑ヲ用ヒテ奏効ヲ見ルコトアリ、此ノ場合ニ於テハ「デルマトール」2.0 亞鉛花10.0 澱粉40.0 ヲ可トス、エンゲルハルド氏ハ防腐性鉛性撒布藥ヲ賞用シ、ブルハルト氏ハ3%硝酸銀液ヲ以テ腐蝕シ其上ニ撒布藥又ハ軟膏ヲ使用スト云ヘリ、其他濕潤期ニ於テ直チニ軟膏療法ニ移ルモ不可ナシ、普通此場合ニ在テハヘブラ氏軟膏又ハウイルソン軟膏ツメノール軟膏ヲ用フ、又近時2%「ピチロールラツサ」ヲ稱用スル者アリ、結痂ノ存在スルキハ之ヲ除去セザレバ藥物ノ効力薄シ、故ニ油劑或ハ軟膏ヲ以テ之ヲ除クベシ、亦癢痒甚シキ時ハ酒精洗滌劑ヲ用ヒテ之ヲ拭フモ可ナリトス(5%薄荷水、1%水揚酸、0.5%石炭酸酒精等)

油劑擦劑

處 方

亞鉛華	等分
椿 油	
亞 鉛 華 油	
サリチル酸	2.0
ヒマシ油	8.0
オレフ油	100.0
爲 油 劑	
滑 石	50.0
澱 粉	50.0
グリスリン	20.0
1%鉛糖水	50.0
1%硼酸水	50.0

ベツク氏擦劑

トラガントゴム	5.0
グリセリン	2.0

溜 水	100.0
ビツク氏擦劑	
ビツク氏擦劑	100.0
亞鉛華	10.0
石炭酸	1.—2.0
爲擦劑(石炭酸亞鉛花擦劑)	
石炭酸亞鉛華擦劑	100.0
プロモコール	10.0
土 肥 氏 擦 劑	
ツメノール	3.0
亞鉛華	25.0
グリセリン	15.0
澱 粉	25.0
蒸溜水	100.0

塗 布 料

イヒチオール	5.0—10.0
亞鉛華	25.0
滑 石	25.0
グリスリン	25.0
蒸溜水	25.0

塗 布 料

デルマトール	5.0
亞鉛華	5.0
白 膠	30.0
グリセリン	30.0
蒸溜水	30.0

爲 外 用

(註) 膠質等ニテ製シタル藥物使用ハ先ヅ該藥ヲ盛リタル器ヲ温メ毛筆ヲ以テ患部ニ塗布シ、其乾燥スルノ際紙片若クハ綿花薄層ヲ以テ之ヲ被フベシ亦之ヲ交換スルニハ微温湯ヲ以テ軟化シ後ニ之ヲ除去スベシ

泥膏及軟膏

處 方

亞鉛華	25.0
澱粉	25.0
黃色ワセリン	50.0
ラッサル氏泥膏	
安息香酸	1.0
亞鉛華	5.0
豚脂	30.0
ウイルソン氏泥膏	
水揚酸	2.0
黃色ワセリン	50.0
イヒチオール	2.0
亞鉛華	25.0
澱粉	25.0
爲 外 用	
硼酸	5.0
亞鉛華	25.0
澱粉	25.0
ワセリン	50.0
爲外用(硼酸バスター)	
デルマトール	2.0
亞鉛華	25.0
澱粉	25.0

ワセリン	30.0
爲 泥 膏	
水揚酸	1.0
薄荷	1.—2.0
ラノリン	
ワセリン	各 10.0
澱粉	
亞鉛華	
爲外用(水揚酸薄荷バスター)	
單鉛硬膏	100.0
オレフ油	400.0
ラーベンデル油	5.0
爲外用改良ヘブラ氏軟膏	
單鉛硬膏	50.0
亞麻仁油	50.0
ヘベラ氏軟膏	
亞鉛華	5.0
次硝酸蒼鉛	5.0
單軟膏	90.0
蒼鉛軟膏	
亞鉛華	5.0—20.0
ラノリン	80.0—90.0
爲軟膏(亞鉛華軟膏)	
硼酸	3.0
黃色ワセリン(又ハラノリン)	30.0
爲外用(硼酸軟膏)	
チオノール	10.0

硝 蒼	5.0
單軟膏	100.0
爲外用(チオノール軟膏)	
ツメノール	3.0—10.0
亞鉛華泥膏	100.0
ツメノール軟膏(ナイセル氏)	
チゲノール	10.0
亞鉛華	20.0
豚 脂	100.0
爲外用(チゲノール軟膏)	
單鉛硬膏	10.0
ワセリン	10.0
爲軟膏(カボジー鉛ワセリン軟膏)	

(註) 軟膏類ヲ用ヒ反テ炎症憎惡セバ、軟膏中ノ脂肪ニ代ユルニ「グリセリン」軟膏ヲ以テシ、若クハ諸種ノ器法ヲ施シ或ハ澱粉劑撒布ヲ試ムベシ、亦泥膏劑交換ノ際ハ之ヲ除去スルニ石鹼劑ヲ用ヒズ油類例之ハ「オレフ」油ヲ綿ニ浸シ以テ徐々ニ之ヲ除却スベシ

(四) 落屑期ニ於テハ參兒劑最モ効アリト雖其使用ニ當テハ常ニ注意ヲ要ス、之レ使用ノ爲炎症ヲ再燃セシム事アレバナリ、故ニ參兒劑使用時ハ先ヅ一局部ニ試ミ翌日其成績ヲ檢シ奏効ヲ認ムルトキハ漸次他ノ部ニ使用スベシ、而シテ疑ハシキトキハ一時使用ヲ中止シ時期ノ至ルヲ俟ツベシ、亦初メ「グリセリン」40.0 澱粉 10.0 或ハ白降汞 0.5 ラノリン 20.0 ヲ試ミ、或ハ亞鉛華軟膏、「ウキルソン」軟膏、硼酸軟膏等ノ使用ニ依リ治スルコトアリ

參兒劑

處 方	
木參兒	40.0

硫黃華	40.0
加里石鹼	80.0
豚 脂	80.0
白 堇	5.0

ウイキルソン氏軟膏

木參兒	5.0
硫黃華	5.0
亞鉛華	5.0
豚 脂	15.0

土肥氏參兒軟膏

木參兒	15.0
酒 精	15.0

爲 外 用

木タール	25.0
酒 精	25.0
迷迭香油	1.0
エーテル	1.0
丁香油	1.0
ベルガモツト油	1.0

調和外用(ヘブラタール丁幾)

木參兒	0.3—3.0
亞鉛華バスタ	30.0

爲軟膏外用

石炭タール	30.0
酒 精	20.0
エーテル	10.0

混和濾過後塗布料トス(ライスチコー氏)

慢性濕疹局處療法

慢性濕疹ニシテ痂皮アル者ハ油劑或ハ加里石鹼ヲ用ヒ、或ハ泥膏及軟膏若クハ硬膏劑ヲ用ヒテ其除去ヲ勉メ痂皮ノ形成ヲ制スベシ、軟膏及硬膏ハ一日一回若クハ二回交換スベシ、其交換ノ際ハ綿花ヲ以テ充分拭淨シ或ハ加里石鹼精等ヲ用ヒ温湯ニテ洗滌シ其水分ヲ去リ然ル後處置スベシ、亦其濕潤セル者ニ於テハ灑法或ハ撒布劑、泥膏劑等ニテ處置シ其濕潤或ハ痂皮等ノ治癒スルト共ニ則チ落屑期ニ移行スベシ、爰ニ於テ初メテ參兒劑ヲ使用スルヲ可トス、然レモ刺戟症狀ヲ起スノ恐アレバピツク氏硬膏ヲ貼用スベシ、之レ慢性濕疹ニ參兒劑ヲ適應トナスト雖炎症アル者ニハ禁忌トナスヲ以テナリ、而シテ弛鈍性頑固ノ慢性症ニハウキルキンソン氏軟膏ヲ可トシ一日一二回宛八日間持續シ其間入浴及洗滌等ヲ禁ジ使用スベシ、皮膚ハ必ズ多少ノ刺戟剝離ヲ來スト雖ウキルソン氏軟膏又ハ水揚酸泥膏ニテ治癒スベシ、其他癢痒甚シキ者ハ軟膏ニ2%ノ石炭酸若クハ2-5%「コカイン」ヲ加フモ差支ヘナク且ツ疼痛アルモノニハ「コカイン」最モ有効ナリトス

硬膏劑

水揚酸石鹼硬膏(ピツク氏) 亞鉛華「グツタペルカ」硬膏、十倍水揚酸「グツタペルカ」硬膏、亞鉛花「パラプラスト」最モ可ナリ

處	方
單鉛硬膏	70.0
水揚酸	10.0
藥用石鹼	5.0
カンフル	1.0
オレフ油	1.0
白蠟又ハ黃蠟	10.0

水揚酸石鹼硬膏

(註) 水揚酸石鹼硬膏ピツク硬膏ハ土肥氏ノ調製ニ依テ小林藥劑士ノ調製廣ク

我國ニ應用セラレツ、アルモノナリ、濕疹ニ對シ殊ニ丘疹性限局性、肝脈性、慢性ノモノニ最モ適セリ、又水揚酸ノ10.-20.0%ノ如キ濃度ノモノハ角質剝離ノ効ヲ有シ其稀薄ノモノハ角質形成ノ働キチナスモノトス

尙ホ「テール」浴ニ就テ一言スベシ、此浴法ハヘブラ氏ノ創意ニ係リラツサル氏ノ賞用セルモノニシテ、「テール」劑ヲ塗リシ後直ニ半時間局所又ハ全身浴ヲ爲スモノニシテ、溫度ハ攝氏二十七度乃至二十九度ヲ可トセリ、而シテ後泥膏又ハ撒布劑ヲ使用スルモノトス(總論參照)

其他脂漏性濕疹ニアリテハ5-10%硫黃軟膏5%「レゾルチン」軟膏ヲ有効ナリトス

各部位ノ特異療法

頭部濕疹ハ鱗屑ノ著明ナルハ硫黃花ヲ用ヒ刺戟症狀アレハ之ニ亞鉛花ヲ混ズルモ可ナリ、而シテ病因學上ノ要件タル頭虱ニ注意シ第一ニ之ヲ除去セザルベカラズ、則チ石油、三百倍昇汞醋酸等ヲ以テ洗滌シ其髮ニ固着セル卵ハ「ヴェラトリン」酸ニ浸シタル櫛ニテ梳クベシ(其詳細ニ到テハ當該條下參照スベシ)

頭部結痂ヲ除去スルニハ慢性ニ在テハ10%硫黃軟膏、參兒劑ヲ可トシ或ハ「オレフ」油、百倍石炭酸「オレフ」油、百倍「ナフトールオレフ」油等ヲ以テ軟化シ毎日乃至五日加里石鹼精ヲ以テ洗淨シ其急性濕疹ニ在テハ水揚酸安息香酸軟膏特效ヲ奏スコトアリ、而シテ亦落屑期ニ達シタルモノハ二百倍「ナフトール」酒精ヲ塗布シ後チ石炭酸酒精及白降汞軟膏ヲ用ヒ、炎症劇甚ナル時ハ「プロウキ」氏液或ハ硼酸水灑法ヲ用フベシ、又タ慢性濕疹ノ痂皮軟化除去シタル後チ朱軟膏ヲ賞用スル者アリ、其他ブルハルド氏ハ結痂除去ニ3%硝酸銀液ヲ塗布シ後チ「テール」劑ヲ賞用スト云ヘリ

處	方
水揚酸	1.0

(129)

安息香酸丁幾	2.0
ワセリン	47.0
爲外用軟膏	
赤色硫化汞	1.0
昇華硫黄	24.0
ワセリン	100.0
ベルガモツト油	二十五滴

爲軟膏

緑石鹼	50.0
酒精	100.0

加温溶解シ濾過後

ラベンデル油	3.0
ベルガモツト油	3.0

ヲ加ヘ再ビ濾過ス

洗滌料ヘブラ氏加里石鹼精

顔面濕疹ニ於テ耳ノ頑固ナル落屑性濕疹ハタル劑ヲ用ヒ蟬裂ニハ2%硝酸銀水ヲ塗布ス、其他白降汞軟膏ヲ貼用シ鼻孔ニハ栓塞ヲ行ヒ或ハ「ガラス」棒ニテ泥膏及ビ軟膏ヲ塗り粘膜蟬裂ニハ硝酸銀ヲ以テ腐蝕スベシ、而シテ顔面ニハ軟膏ヲ「リント」布ニ伸ベ假面狀ヲ爲スベシ、然レモ小兒ハ時トシテ不安ヲ來ス事アリ此際ハ直チニ除去スルヲ可トス、眼瞼ニ於テハ黄降汞軟膏或ハ白降汞軟膏ヲ可トシ、上唇蟬裂ニハ「トラウマチ、ン」ヲ塗布シ又ハ口唇濕疹ニハ硝酸銀塗布後軟膏ヲ用ヒテ齒磨其他刺戟ヲ除クベシ

處方

白降汞	0.1
黄色ワセリン	10.0
爲軟膏	
グツタベルカ	1.0
クロ、ホルム	10.0

(130)

振盪シテ用フ (トラウマチ、ン)

レゾルチン	4.0
水揚酸	4.0
硫黄花	4.0
澱粉	4.0
亞鉛花	4.0
ワセリン	20.0

爲軟膏 (剝離膏又ハ硫黄レゾルチン泥膏)

慢性乳房濕疹ハ屢々潰瘍蟬裂ヲ生ス依テ此際ハ硝酸銀塗布シ或ハ10%昇汞「コロヂウム」ヲ用ヒ「デルマトール」ヲ撒布スベシ、其疼痛甚シキ時ハ2%「ココイン」水ヲ塗布シ或ハ「オルトホルム」ヲ試ムベシ

陰囊濕疹ノ慢性ナルハ撒布劑、泥膏及軟膏類ヲ以テ痂皮ヲ除キ浸潤甚シキ部ハ之ヲ硝酸銀腐蝕シ相互ノ接觸面ヲ隔離シ一日二回石鹼洗滌ヲ行フベシ、其浸潤ナキニ至リ「タル」劑ヲ用フベシ、又2—20%「イヒチオール」軟膏亦ハウイルソン軟膏、硼酸軟膏ニ「イヒチオール」ヲ加ヘタルモノ或ハ白降汞軟膏「タンニン」7.5—10%軟膏モ有効ナリ、其他乾性症ニハ3—5%硼酸酒精、霏散ヲ可トスルモノアリ

肛門及會陰濕疹ハ泥膏及軟膏ヲ貼用シ十字帶ヲ施スベシ、肛門ニ皸裂ヲ生ジ疼痛アルモノハ軟膏又ハ坐藥ヲ用ヒ、其濕疹頗ル重症ナル時ハ0.5%苛性加里ノ腐蝕ヲ試ミ其後亞鉛花泥膏ヲ持續シ、亦其瘙癢ニ對シテハ3—5%石炭酸或ハ熱湯ヲ以テ洗滌スベシ、其他痔疾ヨリ來ル濕疹ニハウンナ氏ニ從ヒ10%「クリサロピン」黄色「ワセリン」ヲ使用スベシ

處方

亞鉛花	0.15
ペラドナ越幾斯	0.02 (若クハ「ココイン」 0.015)
カ、オ脂	1.5

爲座藥

(131)

カ、オ脂	1.5
亞鉛花	0.15
水製阿片越幾斯	0.02

爲 座 藥

手指濕疹ハ職業的ニ起因スル者ハ其療法困難ナルモノトス、其濕疹久シキニ亙ル者ハ皮膚乾燥シ裂瘡ヲ生ジ浸潤頑固ナルモノアリ、初メ軟膏、硬膏等ヲ用ヒ膿疱瘰癧ヲ治シ落屑期ニ至レハ「ウキルキンソン」軟膏等「ター」劑ヲ用フ、而シテ胼胝狀肥厚ヲ來ス者ハ該部ヲ5%苛性加里ニテ腐蝕スベシ、亦カボシー氏ハ手部水泡性濕疹ニハ昇汞浴ヲ試ミ然ル後軟膏劑ヲ使用セリ

臍部濕疹ハ毎日入浴セシメ洗滌後ニ軟膏ヲ以テ栓塞シ輕ク固定シ落屑期ニ至レハ參兒劑ヲ用フベシ

(所謂内攻説ニ就テ)

濕疹療法最後ニ附言スベキハ内攻説ニシテ、古來濕疹ヲ治療スレハ内攻スト稱スル迷信ハ俗間ニ確信傳説セラレ醫師モ往々之ニ附會スル者アリ、然レモ決シテ濕疹ヲ治療シ内攻死ヲ致ス者ニ非ズ、反テ長ク濕疹ヲ放置シ又ハ適當ノ處置ヲ加ヘザリシ結果、例令ハ濕疹中ニ葡萄狀球菌ノ多數ヲ有シ濕潤面ヨリ細菌ヲ轉移セシメ所謂濕疹死 **Ekzematod** ヲ來シタル者ト認ム可ク、寧ロ治療ノ早期開始ヲ稱導ス可キ者ナリト云フ可シ

脂 漏 性 濕 疹 **Eczema. Seborrhoicum**

意義 本症ハウンナ氏始メテ濕疹ヨリ分離シ一種ノ症トナシタリト雖未ダ疑ナキ能ハザル所ナリ、慢性ノ癢痒性、限局性皮膚炎ニシテ被髮部ニ始リ次第ニ下行スルヲ常トス

症候 鱗屑ヲ形成シ漸次黄色或ハ褐色亦ハ黒褐色トナリテ痂皮狀ヲ呈シ境界明劃ナリト雖、時ニ濕潤性ニ移行スルモノアリ殊ニ顔面及耳部ニ於テ然リトナス、其他一局部ニ限局スルコトテリ或ハ蔓延シテ廣大ナル浸潤ヲ

來スモノアリ、病竈ハ徐々ニ下行ス

部位 其好發部位ハ頭部ニシテ被髮部ヨリ始マリ顔面、前頭部、額部、耳及鼻唇溝之ニ次ギ、胸部、腋窩、鼠頭部、膝膕部等ニ亦之ヲ見ル事アリ稀ニ全身ニ蔓延ス

診斷 前記症狀ニ依テ診斷容易ナリ又圓癬ニ類スルコトアルモ彼レハ環狀ヲ呈スルヲ以テ鑑別シ得ベシ、濕疹ハ境界明瞭ナラズ徐々ニ健康部ニ移行ス、尋常性鱗屑疹輕症ト區別シ難キ事アルモ鱗屑ニ注意ス可シ

豫後 再發シ易シト雖豫後良好ナリ

療法 硫黃劑或ハ0.5-10.0%「クリサロピンバスター」或ハ硫黃浴ヲ用ヒ浴後拭乾セシメラツサル氏「バスター」ヲ用フベシ

處 方

硫黃乳	5.0
亞鉛花	2.0
安息香酸脂	50.0
爲塗擦料(頭部ニ用フ)	
レゾルチン	10.0
グリセリン	10.0
酒精	180.0

混和四倍ノ水ニ混ジ塗法料

以上ハ一般使用セラル、所ナルモ土肥氏參兒膏ハ極メテ有効ニシテ、著者ハ常ニ之ヲ賞用シ目的ヲ達セリ、則チ參兒膏ヲ極メテ薄ク塗擦シ更ニ其上ニ亞澱散ヲ撒布ス、而シテ頭部濕潤性、結痂性ノ者ハ先ヅ硫黃軟膏ヲ用ヒ其乾燥スル後チ參兒膏ヲ使用ス。

傳 染 性 膿 疱 疹 **Impetigo contagiosa**

本症ハチルブリー、フオックス氏 **Tilbury.fox** (1864) ノ始メテ之ヲ唱道シタルモノニシテ、ウンナ氏ハ解剖上此疾患ヲ天疱瘡ナリト云ヒボン

トツビダン氏ハ良性急性天疱瘡ナリト唱へ、クヌド、フアーベル氏ハ初生
兒急性天疱瘡ニ關係ヲ有スト稱セリ、而シテ土肥氏ハ其所謂初生兒急性天
疱瘡ナルモノニ就キ諸家記スル所ノ症候ヲ見ルニ本症ト同一ノ症候ヲ呈ス
ルヲ覺ユト、蓋シ其水疱間々卵大ニ及ブ時宛モ天疱瘡ニ髣髴タルニ依テ誤
テ別症ト看做スニ至リシモノナラント信ズト云ヘリ、而シテ亦ウンナ氏ノ
所謂尋常性膿痂疹ヲ本症ト混同スルノ士アルモ、寧ロ土肥氏ノ所謂連鎖菌
性膿痂疹ニ類スト云ヘリ

異名 初生兒急性天疱瘡 *Penphingus acutum neonatorum*
白色葡萄狀球菌性膿痂疹 *Impetigo albostaphyloenes (Dohi)*

意義 澄明白色ノ薄キ被膜ヲ有スル淺在性水疱疹ニシテ觸接傳染性ヲ有
シ時ニ流行性ヲ來スコトアリ、決シテ厚キ痂皮ヲ作ラズ水疱中ニ白色葡萄
狀球菌ヲ含ム(土肥氏)小兒ヲ多ク侵スモノナリ

原因 諸説未ダ一定セズ則チ黃金色或ハ白葡萄狀菌ナリト云ヒ、或ハ連
鎖狀球菌或ハ其混合ニ因スル者ナリトナセリ、而シテ土肥氏及栗田氏ハ純
粹ノ白色葡萄狀菌ヲ以テ本病ノ原因ナリト確信ス、本病ハ小兒及幼年者ヲ
侵シ家庭及小學校等ニ於テ其流行ヲ見ルコトアリ

症候 初メ小斑點ニシテ微小ナルモ直チニ白露ノ如キ水疱ヲ形成シ薄キ
被膜ヲ有シ漸時周圍ニ擴大シ豌豆大乃至鶏卵大ニ及ブモノアリ、其疱膜ハ
小ナルモノニ在テハ頗ル緊張スルモ増大スルニ從ヒ稍々弛緩シテ中心陥没
シ(臍窩)且ツ破綻シ易ク内容ハ澄明ニシテ、漿液性或ハ纖維素性漿液ナ
ルモ漸ク濁濁シテ乳様或ハ膿様トナリ、殊ニ下垂部ニ於テ著シク、漏泄ス
ルヤ汚穢白色或ハ黃色ノ痂皮ヲ生シテ皮膚ニ膠着シ周縁ハ尙ホ疱膜ノ裂片
ヲ殘存スルモノアリ、或ハ新ニ水疱發生シテ痂皮ヲ輪狀ニ圍ムモノアリ、
而シテ一、二日ノ後チニハ痂皮脱落シ淡紅色ノ斑ヲ呈スルモ遂ニ消失シテ
更ニ痕跡ヲ止メザルニ至ル、落痂前試ミニ痂皮ヲ除去スレバ赤色ノ浸潤面
ヲ認メ決シテ潰瘍ヲ見ルコトナシ、亦水疱ハ常ニ孤立散在シテ其周邊紅暈
ヲ缺如シ或ハ僅ニ之ヲ認メ周圍ノ皮膚ハ健常ナリ、稀ニ數疱近接シテ殆ド

相融合スルコトアルモ尙ホ其單形ヲ識別シ得ベシ

輪狀傳染性膿痂疹 *Impetigo Contagiosa circinata* ハ即チ此水
疱連續相融合シテ蜿蜒蛇行シ或ハ圓輪ヲ描キ或ハ一方ニ色素沈着及痂皮ヲ
殘シテ退行シツ、他方ニ於テハ新水疹圈ヲ生ジテ進行シ一種地圖狀ヲ呈ス
ルモノアリ、然レドモ其附近必ズ獨立セル水疱ヲ認ムベシ

自覺症ハ著シカラズト雖往々發熱ヲ伴ヒ、或ハ近傍淋巴腺膨脹シテ疼痛
ヲ發スルモノアリ

部位 顔面殊ニ頰部、頤部、顎部ニ多發シ其顔面ニ生ズルモノハ往々融
合ノ傾キヲ有セリ、其他項部、手甲、足背、前臂、下腿ノ如キ露出部ニ生
ジ易シトス

經過 各水疱ハ二、三日ニシテ乾涸シ一、二週ニシテ痂皮脱落シ一時色
素沈着ヲ留ムベシ、其輪狀性ノモノハ經過稍々長シ

診斷 孤立性水疱ノ散在ヲ認メ其發生急劇ニシテ觸接傳染性ヲ有シ全身
症狀及ビ自覺症著シカラズ且ツ治癒速カナリ、其他前記症狀ヲ以テ診斷シ
得ベシ

鑑別

(一) 痘瘡 潜伏期ヲ有シ水疱周圍ニ炎症々狀甚シク、又結痂ノ時間永
クシテ全身症狀ヲ有シ結痂癢劇シク且ツ中心臍著明ナリ

(二) 濕疹膿疱期 膿疱融合シテ一面ニ痂皮ヲ作り且ツ濕潤面或ハ鱗屑
丘疹水疱等ノ存在ヲ認メ其他癢痒ヲ有シ、又原發疹ヲ認ムルニ因テ確診シ
得ベシ

(三) 尋常性膿痂疹又土肥氏ノ所謂連鎖狀菌性膿痂疹 蠟黃色ノ痂皮厚
ク重疊シ炎症紅暈較々著シク且ツ連鎖狀菌ヲ證明シ得ベシ

(四) 天疱瘡 慢性ニシテ容易ニ治癒セズ、流行性及觸接傳染性ヲ有セ
ズ、概ネ全身症狀ヲ伴ヒ衰弱著シトス

(五) 水痘ハ輕熱ト全身症狀ヲ伴ヒ水疱周圍ニ炎症紅暈アリ

豫後 多クハ佳良ナリト雖稀ニ皮膚結核狼瘡等ノ誘因ヲナスコトアリ

療法 水疱ヲ破リ内容ノ流レザル様「ガーゼ」ニ吸ヒ取り千倍昇汞水ヲ以テ消毒シ後チ軟膏ヲ貼用スベシ、又全身ニ來リシ者ハ全身昇汞浴ヲ行フヲ可トス、亦軟膏ハ「デルマトール」軟膏、硼酸軟膏、亞鉛花軟膏、次硝酸軟膏又ハ亞鉛花泥膏ヲ佳トシ、小兒ニハ黃降汞軟膏ヲ利トスルコトアリ、其他硫黃「イヒチオール」「レゾルチン」等ノ如キハ頭貼用ニ宜シトス

處 方

亞鉛花	25.0
澱粉	25.0
ワセリン	50.0

泥膏貼用

撒布劑ハ「オイグホルム」「アイロール」「キセロホルム」等ヲ使用スベシ、土肥氏ハ亞鉛花油塗布ヲ賞用ス

ボツクハルト氏膿痂疹 Impetigo Backhart

異名 葡萄狀球菌性膿痂疹 *Impetigo stachyloenes (Unna)*

原因及意義 多クハ毛嚢口ヨリ黄色葡萄狀球菌侵入シ皮膚ノ搔爬又ハ摩擦ニヨリ生ズル小膿疱ナリ

症候 米粒大乃至豆大ノ固膿疱ニシテ多ク中心ニ毛幹アリ、著明ノ紅暈ヲ有シ終ニ頂點ニ黃褐色痂皮ヲ被ムリ脱落スレハ一時色素ヲ沈着ス

部位 四肢伸側ニ來リ軀幹、顔面、頭部ニ發スル事アリ

診斷鑑別 (一) 梅毒性膿疱疹ハ結痂大小不同稍黒ク (二) 膿疱性濕疹ハ潮紅皮上ニ散在シ健皮面ニ孤立セズ

療法 ビツク氏硬膏2%「レゾルチン」水巻法、硼酸軟膏等ノ貼用ヲ試ム可シ

尋常性深膿胞 Ecthyma Vulgare

意義 尋常性膿痂疹ニ似テ而モ膿疱大ニシテ炎症性浸潤著明ナリ且ツ癩

痕ヲ遺サズ

原因 往々爪尖ニテ搔破シ連鎖狀球菌又ハ黄色葡萄狀菌ヲ移植スルヨリ發ス

症候 豌豆大乃至爪甲大扁平ノ紅色ノ固小結節ヲ原發シ炎症著シク多少疼痛アリ一、二日ニシテ其頂點ニ濁濁セル内容アル膿疱ヲ生ジ漸次増大シ炎症狀浸潤ハ周圍ニ進ミ、數月ノ後ニハ中心膿疱褐色ノ痂皮ヲ結ビ之ヲ幾多ノ膿疱堤防狀ニ圍ム、而シテ痂皮下ハ濃膿アル淺潰瘍ヲ存スベシ、其治スルヤ炎症減退シ痂皮乾涸シ次テ脱落ス、一時暗紅著色ヲ遺シ淺キ癩痕ヲ結ヒ治癒ス

部位 主トシテ下腿ニ生ズルモ身體隨處ニ發シ得ベシ

診斷及鑑別 (一) 尋常性膿痂疹ハ痂皮小ニシテ炎症少ナシ (二) 梅毒性膿疱疹ハ邊緣及底面ニ硬浸潤アリ其他梅毒症ヲ有ス

豫後 良好ナリ

療法 硼酸軟膏、ヘブラ氏軟膏其他硼酸水、「レゾルチン」水、醋酸礬土水等ノ巻法ヲ試ミ併發症例之ハ痒疹疥癬等アレバ其療法ヲ忘ルベカラズ

壞疽性惡疫性深膿胞 Ecthyma gangraenosum Gachecticorum.

異名 壞疽性深膿胞症 *Ecthyma gangraenosum (Hitsehmann-Kreibich)*

意義 惡疫質ノ小兒ニ多發スル小潰瘍ニシテ屢々死ヲ致ス

原因 クライビヒ氏ハ綠膿桿菌ヲ證明シタリ、營養不良重症傳染病及體質病等ニ起因スル惡液質小兒ニ來リ大人ニハ稀ナリ

症候 皮膚ニ深在性淡紅色ノ小結節又ハ鑷色結節散發シ出血性乾痂ヲ生ジ底面ニ固著シ邊緣銳利ニシテ硬ク浸潤ス、時トシテ附近ト相融合スルコトアリ幸ニ治セバ境界明カナル癩痕ヲ留ムベシ

部位 肛圍陰部下腹部等ヨリ始マリ又ハ頭部ニ發ス

豫後 全身状態=關シ多クハ死亡ス

療法 栄養療法=シテ鐵劑、規尼涅、亞砒酸等ヲ與ヘ藥浴ヲ命ジ防腐所置ヲ施スベシ、10%「ヘゴノン」軟膏等ヲ貼用スルモ可ナリ

連鎖状球菌性膿痂疹 Impetigo

streptogenes (Dohi et kurita.)

本症ハ土肥氏及栗田氏ノ特ニ命名セラレタルモノニシテ、其傳染性膿痂疹ト歐米専門家ノ多クハ混用セルヲ論ジ、ウナ氏ノ所謂尋常性膿痂疹ト略ボ一致スル所アルト同時ニ、又傳染性膿痂疹ノ症状ヲモ混入セルニ似タリト云ヘリ、而シテウナ氏ノ稱ヘタル膿痂菌ニ付テ疑ヒナキ能ハズト云フ、今土肥氏ニ從ヒ次ニ記述スベシ、而シテ *Impetigo* ヲ膿痂疹ト舊譯シタルモ膿痂ハ *Pustula* ニシテ痂皮ノ性質ヲ言明セズ、依テ土肥氏膿痂疹ト改譯セラル

異名 尋常性膿痂疹 *Impetigo vulgaris Unna?* 傳染性膿痂疹 *i. Contagiosa*

意義 連鎖状菌ニヨリテ發スル急性膿痂疹ニシテ常ニ蠟黄色ノ痂皮ヲ形成シ顔面手足ノ如キ露出部ニ來ル

原因 連鎖状菌ニ由テ發生シ稀ニ黄色葡萄状菌ヲ續發的混交セルヲ見ルコトアリ

症候 始メ粟粒大乃至稗粒大ノ紅疹ヲ生ジ中心忽チ膿痂ニ化シ、次テ破潰スレバ漿液様膿狀ノ内容ヲ漏泄シ直チニ蠟黄色痂皮ヲ形成ス、而シテ其漿液ノ分泌愈々多ケレバ痂皮モ愈々著シク堆積シ豆大乃至錢大ニ達スル事アリ、而シテ紅暈ハ幽ニ存シ或ハ缺如ス、此ノ黃痂ハ數個散在シ或ハ數多密生ス、而シテ其間尙ホ健皮存スルヲ見ルベシ、稀ニ相融合スル事アルモ其附近ニ於テ必ズ孤立ノ黃痂ヲ發見スベシ、其他癢痒等自覺症ヲ缺如ス

部位 顔面殊ニ頰、頤、前額、口唇ニ多シ頭部、耳輪、頸部、手足等ニモ亦發生ス

経過 稍々緩慢ニシテ數日乃至數週ニシテ黃痂脱落シ一時色素沈着ヲ遺シテ治スルモ終ニハ全く消褪ス、決シテ癩痕ヲ貽スコトナク間々濕疹ヲ續發スルコトアリ

診斷 孤立セル濕性黃痂ヲ認メ健全ノ皮膚ニ圍マレ浸潤ナク紅暈少ニシテ急性ニ發生シ痂皮脱落後一時色素沈着ヲ見亦自覺症ナシ

鑑別

(一) 傳染性膿痂疹 小斑點ヨリ鶏卵大ノ水疱ヲ作り内容澄明ニシテ痂膜破ル、モ厚キ黃痂ヲ被ムラズ、且ツ白色葡萄状菌ヲ證明シ得ベシ

(土肥氏及栗田氏)

(二) 匍行性膿痂疹 一種ノ膿毒症ニシテ産褥婦ニ多ク常ニ惡寒高熱ヲ伴ヒ一定ノ部分ニ群生シ匍行性ニ其周圍ニ蔓延ス、多クハ陰股部ヨリ漸次全身ニ廣マリ大抵死亡ス

(三) ボツクハルト氏膿痂疹 黄色葡萄状菌ニヨリ發生スル膿痂疹ニシテ身體各處ニ發シ其大サ粟粒大乃至豆大ニ過ギズ

(四) 急性膿痂性濕疹 相融合シテ濕潤シ皮膚汎ク潮紅腫脹ヲ認ム、且ツ癢痒等自覺症アリ

豫後 良ニシテ一週乃至數週ニシテ治ス間々急性淋巴腺炎、淋巴管炎、蜂窠織炎等續發スルコトアリ

療法 土肥氏ハ椿油ヲ以テ痂皮ヲ軟化シ次ニ鑷子ヲ以テ剝離シ千倍昇汞水ニテ清拭シ、後チ十倍硼酸軟膏ヲ日本紙ニ延バシ貼用ス、尙ホ蔓延ノ兆アルモノハ「アイロール」ヲ撒布シ其上ニ軟膏ヲ貼用セリ

其他「オレフ」油、亞鉛花椿油、亞鉛花軟膏、5%水揚酸軟膏、ヘブラ氏軟膏等ヲ用ヒ痂皮ヲ除ク等要スルニ前條ノ方法ヲ標準トスベシ

匍行疹様膿痂疹 *Impetigo herpetiformis*

意義 稀有ナル匍行性、蔓延性、表皮性、膿痂疹ニシテ全身症状危篤ナルヲ伴フ

(註) 本症ハヘブラ氏(1872)ノ命名シタルモノニシテ其後諸學者種々ノ説ヲナシタリト雖カボジー氏ニ至リ大ニ明瞭トナレリ、而シテノイマン氏ハ濃毒性匂行疹ノ名ヲ下セリ、又土肥氏ハ疱疹様膿痂疹トセラレタリ

原因 未ダ詳カナラズ専ラ妊婦及産婦ヲ侵スヲ以テ子宮ノ變常ト關係ヲ有スルモノトナシ、所謂神經反射的ニ發生スルモノナリト稱スルモノアリ、或ハ一種ノ傳染性疾患ナリト説クモノアリ、或ハ有毒性物質ヲ以テ其原因 **Neinan** ナリト唱フル者アリ、或ハ化膿性腹膜炎ト關係ヲ有スト云フ者アリ、然レドモ共ニ臆説ニ過ギズシテ未ダ確證ヲ得ズ

症候 豌豆大乃至五厘錢大ノ潮紅腫脹セル部ニ粟粒大乃至豌豆大ノ膿疱疹發生シ集合性ニ配列スルヲ見ルベシ、其周圍ハ更ニ數層ノ環ヲナシ所謂輪廓狀蔓延ヲナス、而シテ其膿疱ハ褐色ノ痂皮ヲ形成ス、此痂皮ヲ剝離スレバ或ハ新生セル表皮ノ存在スルコトアリ之ヲアウスビツツ氏ハ増殖性匂行疹 **Herpes Vegetans** ト云ヘリ、或ハ濕潤面ヲ呈スル事アリ然レドモ潰瘍面ヲ露出スルコトナシ、亦此痂皮形成疹ヲ中央トシテ以上記載セル如ク周圍ニ蔓延シ全身ヲ犯スニ至ル、此際全皮膚表面ハ發赤腫脹シ膿疱或ハ結痂ヲ以テ被ハレ處々ニ皸裂ヲ生ズルモ乳嘴體ヲ滅絶セシムルコトアラザレバ癩痕ヲ遺ス事ナシ、其他毎時發疹ノ際ハ惡寒、發熱ヲ伴ヒ嘔吐、臆言等ノ全身症狀ヲ發シ或ハ弛張熱型ヲ呈シテ敗血症狀ヲ以テ遂ニ死亡スベシ

部位 通常進行ハ癩爛性濕疹ニ類シ陰部ノ邊及大腿內側ニ始マリ、即チ鼠蹊部、腹部、乳房部、腋窩等ニ蔓延シ全身ヲ侵スニ至ルモノナリ、而シテ亦口腔及齒齦ニ白斑ヲ見ルベシ

經過 發疹後一、二日ニシテ痂皮形成ヲ營ミ漸次周圍ニ蔓延シテ五ニ相融合シ三、四ヶ月後ニ於テハ殆ド全身ヲ侵シ敗血症狀ヲ以テ斃ルニ至ル

診斷 膿疱疹發生ニ着目シ其匂行性蔓延狀態及一定ノ部分ニ群生シ、經過急性ニシテ惡寒發熱ヲ伴フコトニ依リ診斷シ得ベシ、然レドモ蔓延性ナラザルモノハ熱發セザルコトアリト云フ

(註) 從來本症ハ妊婦、産婦ニノミ發現スル者ナリトシ診斷ノ重要視點トナ

シタリト雖、メスネル氏及アルツクスカ氏ハ妊婦セザル婦人ニ於テ本症ヲ經驗シ、カボジー氏及バタキー氏ハ男子ニ於テ之ヲ發見シタル以來此ノ重要視點ハ打破セラレタリ

鑑別

(一) 輪廓狀天疱瘡 初メ水疱ヲ生シ且ツ紅斑アル部ニ發生ス、然レドモ此部ニ膿疱ヲ發生スル事ナシ

(二) 虹彩狀匂行疹 多形性紅斑ノ一症狀ニ外ナラズ通常水疱發現スト雖膿疹發生スル事ナシ

(三) 匂行疹狀皮膚炎 多形水疱ニシテ癢痒ヲ有シ、豫後惡性ナルヲ常トス

豫後 總テ不良ナリ、多數ノ場合ニ於テ三乃至四週ノ後斃ルヲ常トシ治療ヲ見ルハ僅少ノ場合タルニ過ギズ

療法 滋養強壯ヲ主トシ對症療法ヲ施シ體力維持ヲ勉ムベシ、局所療法トシテハウアルフ氏ハ浴法ヲ賞用シ其痂皮剝離後澱粉或ハ亞鉛花泥膏ヲ貼用スベシ、其他置法或ハ防腐劑ヲ處スベシ

大水疱性皮膚炎 Dermatitis bullosa

本症ハ次ノ三症之ヲ發スルモノニシテ其詳細ニ至テハ當該條下ニ於テ記述スベシト雖茲ニハ只本症ノ要領ヲ示スニ止ム

(一) 水疱熱 **Febris bullosa**

(二) 大人急性天疱瘡 **Pempingus acutus lei Ermachsenm**

(三) 汗疱 **Hautchinson**

水疱熱ハ小兒ニ多ク熱性前驅期ヲ有シ多數ノ水疱ヲ發生シ癢痒アリ、治療速ニシテ通常二、三週ヲ經過スベシ、熱ハ水疱發生ト共ニ消失ス、其他本症ハ流行性ニ來ルコトアリ

急性天疱瘡ハ甚ダ稀有ニシテ前驅症ナク或ハ發熱後忽チ水疱ヲ發現ス、其他消失發生常ナク諸部ニ反覆發生スルヲ見ルベシ

汗疱ハ痒痒ヲ伴ヒ手掌、足趾、指趾等ニ發生スル水疱ニシテ俗ニ水蟲ト稱スルモノ之ニ屬シ多クハ多汗ノ者ヲ犯シ夏期再發スルヲ見ル、而シテ水疱ハ破潰セズシテ乾燥スベシ、本症ハ頑固ニシテ多クハ治シ難シトス

療法 無刺激性軟膏ヲ貼用シ或ハ溫浴ヲ試ム可シ、然シ無汗症ハビツク氏硬膏蒸發器法「テール」劑ヲ可トス（當該條下參照スベシ）

癢痒性苔癬狀皮膚炎 Dermatitis lichenoides pruleiens

異名 慢性、單純性苔癬又ヴィダール氏苔癬 *Lichen Simplex chronicus, Vidar* 限局性、慢性、神經皮膚炎 *Brocq*,

意義 本症ハ痒痒ニ續發スル者ニシテ、ヴィダール氏ノ稱道ニ關ハリ濕疹様ノ變化ヲ來タシ、亦其限局性癢痒症ノ形ヲ以テ多少持續セル癢痒後ニ苔癬狀態ヲナスモノナリ

原因 屢々婦人殊ニ神經質ノ者ヲ犯シ、男子ニモ發生スルコトアリトス

症候 好發部ニ月餘或ハ歳餘ニ亙ル痒痒ヲ發シ次第漸ク乾燥肥厚セル扁平ノ汚穢赤色乃至灰白色ノ小丘疹トナリ、忽チ限局セル著明ノ圓形皮溝ニテ圍マルヲ認メ、或ハ稍ヤ隆起シ或ハ隆起スルコトナク、鱗屑ヲ形成シ中等硬度ヲ有ス、而シテ數月若クハ數年間此症狀ヲ持續シテ甚シキ痒痒ヲ有シ屢々安眠ヲ得ザルコトアリ

合併症 ブロツク氏ハ多ク神經痛、胃痛、喘息等ノ神經疾患ヲ併發スルト云フ、其他搔爬ノ爲急性炎症ヲ發シ一時普通ノ濕疹ト誤ルコトアリトス

部位 大腿内面、膝關節蹠、肛門周圍、項部、前膊、手掌、腹部ノ側面及龜頭等ニ發ス

經過 頗ル緩慢ニシテ數月乃至數年ニ亙ル

鑑別 (一) 扁平紅色苔癬 其色鮮紅或ハ黃赤色ニシテ中心臍ヲ有ス、(二) 急性濕疹原發疹ヲ認メ或ハ濕潤ヲ有シ、融合シテ一面ニ痂皮ヲ作り皮膚汎ク潮紅腫脹ヲ認ム

療法 良法ナシト雖内服ニ砒石劑、臭素劑「アンチピリン」等ヲ與ヘ硫黃浴、陶土浴ヲ用ヒ其他電氣療法ヲ稱用スルモノアリ、外用藥トシテ局所ニハ10%「クリザロビン」「トラウマチ、ン」或ハ「ウイルソン」軟膏「レゾルチン」軟膏「ツメノール」硬膏、撒酸膏、「タール」「クリザロビン」等ヲ用フ

デューリング氏疱疹狀皮膚炎又ハ匍行性皮膚炎 Dermatitis herpetiformis, Dering

異名 多形癢痒性皮膚炎 *Dermatitis polymorphe pururiginosa*

意義 稀有ノ疾患ニシテデューリング氏(1884)天疱瘡ヨリ區別シタルモノナリ、然レ共「カボシー」氏等其他ハ未ダ其獨立ヲ見做ザルナリ、頗ル多形ニシテ紅斑丘疹、蕁麻疹等ヲ伴フ痒痒甚シキ水疱性慢性皮膚炎ナリ

原因 傳染說中毒說或ハ血液ノ「エオジノフキール」細胞増加ニ因スト種々ノ說アルモ未ダ確證ナシ、中年及老年者ニ多ク小兒ニハ稀ナリトス、然レドモ年齢ニ關セズト稱スルノ士アリ

症候 發熱ヲ伴フ全身症狀ノ下ニ多形性發疹ヲ來シ、則チ斑狀及紅斑狀丘疹狀、蕁麻疹様或ハ大小水疱狀亦ハ膿疱狀ナルアリテ、共ニ疱疹狀ノ配列ヲ以テ一定ノ部位ナク、互ニ錯綜シ或ハ紅斑蕁麻疹ノ如ク或ハ水疱ヲ主トシ集簇輪狀ヲナシ或ハ其形圓板狀ヲ爲シ周圍ニ蔓延ス、其圓板ノ中央ニ色素沈着硬結等ヲ見ルノ際ハ新疹既ニ圓板周圍ニ生ゼルヲ見ルベシ、而シテ痒痒甚シク搔爬ノ爲表皮剝脫色素沈着、癢痕及硬結等ヲ生ジ一定ノ時期ヲ隔テ反覆發生ス、其他灼熱刺痛、不眠心悸兀進等ヲ訴フル者アリ、好發部ヲ有セズト雖軀幹ニ多ク稀ニ口腔腔粘膜ノ犯サルヲ見ルコトアリ

經過 慢性ニシテ屢々再發シ稀ニ再發セザルモノアリ、數年ニ亙リ發疹期中間ニ長潜伏期ヲ見ルコトアリ

診斷 皮膚ノ多形ナルト匍行疹的配列及痒痒甚シク亦再發スルコト等ニ

由テ明カナリトス、其他長期間欠期アリ

豫後 生命上ニ關シテハ良ナリ、然レドモ治癒ニ關シテハ多クハ疑ハシ之レ再發ヲ斷絶スルコト不能ナレバナリ

療法 天疱瘡ト同ジ強壯劑ヲ投ジ「アトキシール」又ハ亞砒酸曹達等ノ注射ヲ試ムベシ

初生兒剝離性皮膚炎 Dermatitis exfoliativa infantum

意義 本症ハリツテル、フオン、リツテルスハイン氏 Ritter Von Rittershain (1878) 始メテ稱道シタルモノニシテ、初生兒皮膚ノ剝脫ヲ以テ其主徴トナス

原因 リール氏 Riel ハ細長ナル繆絲ヲ形成スル菌ヲ以テ其原因トナスト雖未ダ確カナラズ、然レドモ主トシテ生後一週後ノ乳兒ヲ犯スモノトス

症候 全身赤色ヲ呈シテ糠枇狀ノ落屑ヲナシ特ニ顔面、屈曲面ニ著シク其初メ口角或ハ鼻孔、背ニ瀰蔓性紅斑ヲ發シ以テ皮膚乾燥皸裂ヲ生ジ小鱗屑ヲ來タシ、更ニ滲出液ノ爲メニ表皮高く膨隆シテ遂ニ剝離シ又ハ結痂ヲ形成シ或ハ次デ全身大小水疱ヲ生ジテ處々ニ破潰ヲ生ジ痂皮ヲ作り後チ表面ヲ再生シテ治ニ就ク事アリ、斯ノ如ク經過佳良ノ場合ハ發熱スルコトナク又全身營養ニ障礙ヲ及ボス事ナクシテ約一週間ニ終ラ告グヲ常トスト雖多數ノ場合ハ死ニ歸スルモノトス、或ハ大水疱ヲ形成シテ終ニ死ヲ免カレザルコトアリ

合併症 濕疹、癬瘡、壞疽性肺炎、下痢等ヲ續發シ豫後不良ナラシム事多シ

部位 上皮殊ニ手ヲ多シトス、胴及足之ニ亞グ

經過 生後一週乃至二週ニ於テ發シ多少流行性ニ來リ一週後ニ於テ其轉歸ヲ取ルヲ常トス

診斷 發生ノ時期及固有ノ症狀ヲ以テ診斷シ得ベシ

鑑別 (一) 丹毒 體溫高昇疼痛、皮膚發赤境界明劃ニシテ緊張シ、多少水腫様ニシテ其潮紅漸々周圍ニ擴張シ中心部却テ褪色スルヲ見ル (二) 小兒紅斑 生後直發シ滲出物ナク亦消失ス (三) 天疱瘡 水疱ヲ作り其水疱各個間ノ皮膚健全ニシテ且ツ續生スベシ (四) 瀰蔓性濕疹 濕潤、小水疱、搔痒等ヲ有ス

豫後 時トシテ佳良ナルコトアルモ50%ハ不良ニシテ死ノ轉歸ヲ免レズ然レドモ營養狀態及併發症ニ大關係ヲ有シ殊ニ口腔本症ニ罹リテ其營養攝取ノ障害ヲ來シタル場合ニ於テ然リトス

療法 營養療法ヲ第一トシ皮膚ハ塗脂或ハ撒布或ハ溫浴ヲ爲サシメ痂皮ヲ作りシ者ハ其除去法ヲ施スベシ

頭部乳頭性皮膚炎

Dermatitis papillaris capillitii.

異名 覆盆子狀毛瘡 Sycosisfram Boesiformis (Hebra) 項部硬化性毛囊炎 Folliculitis nuhe sclerotisans (Ehrman) 瘡瘡息肉 Acnekloid (Bazin) 項部息肉 Nacken keloid (Pellizzori Unna) 覆盆子狀瘡瘡 Acneframboisiformis (H. Z. Hebra, Ullmann) 項部 (頭部) 息肉様皮膚炎 Dermatitiskeloidea nuhe bezvecapillitii (Ledermann)

意義 カボジー氏 (1869) ノ始メテ特異ノ疾患タルヲ記述シタル者ニシテ、頭部殊ニ項部ニ炎性結節ヲ生ジ皮膚ノ息肉様硬變ヲ續發スル一種ノ皮膚炎ナリ

原因 ルロア氏 ヴイダール氏レーデルマン氏等又土肥氏ハ息肉性素因ニ多少關係アリト稱セリ、亦同氏ハ多ク本症ハ瘡瘡形ヲ以テ始マリ且ツ患部切除後縫合線ノ再ビ息肉狀ヲ呈スルコトアルヲ以テ、毛囊説ニ左袒セザルヲ得ズト云ヘリ、要スルニ現今未詳ナリ

症候 項部及之ニ接セル頭髮部ニ於テ多數ノ淡紅褐色ノ結節ヲ生ジ間々

外觀瘰癧=均シキモノアリ、初メ孤立シテ後集合シ其根底ハ互ニ融合シテ廣ク肥厚硬結ヲ致シ、表面隆起シテ凹凸不平多數ノ溝ヲ有シ乳頭狀ヲ呈ス時トシテ臭液ヲ分泌シテ痂皮ヲ作り壓迫スレバ膿汁間溝ヨリ漏泄シ且ツ深部ニ小膿腫ヲ證明シ得ベシ、而シテ毛髮ハ多ク脱落シテ禿ヲ生ズ、其他隆起ノ歲月ト共ニ漸ク息肉様トナリ表面滑澤ニシテ淡紅色或ハ常色ヲ帯ビ不毛ヲ來シ、處々ニ漏斗狀凹窩ヲ殘シテ數束ノ毛幹抽出ヲ見ルコトアリ、自覺症ハ輕度ノ搔痒アルノ他著シカラズ

部位 主トシテ項部ニ發シ次デ後頭、顛項ニ蔓延シ稀ニ前頭ニ發見スルコトアリ

經經 緩慢ニシテ數年ニ亘ルモノアリ

解剖 カボジエ氏ハ眞皮中ニ慢性炎症及結締織新形成ヲ發見シ乳頭腫脹及脉管増加或ハ増大ヲ惹起スト云フ、土肥氏ハ初期ハ毛囊周圍殊ニ其上方ニ於テ炎症浸潤著シク且ツ處々ニ小膿腫ヲ見ル、浸潤ハ主トシテマスト細胞ヨリ成ルモノアルモ多クハ圓形細胞ヨリ成リ、上皮様細胞結締織細胞及巨態細胞ヲ混ジ、進行病症ニ在テハ毛囊ノ周圍ニ於テ粗大ノ纖維ヨリ成ル結締織ノ漸ク新生増殖スルヲ認ムベシト云フ、又晩期ニハ結締織ノ新生増殖ヲ致シ毛囊ノ一部脂腺ト共ニ萎縮シ殘存セル者ハ牽縮セラレ位置ノ變動ヲ致シ毛幹ノ束狀ヲ致スト云フ

診斷 項部ノ占領表面ノ凹凸及息肉様硬結毛束ノ散在並ニ自覺症著シカラザル等ヲ以テ知ルヲ得ベシ

鑑別 (一) 息肉 身體各部殊ニ胸部肩胛部等ニ生ジ蟹足狀ヲ呈ス (二) チェルズース禿瘡 絲狀菌ヲ證明シ得ベク劇烈ノ搔痒及柔軟ニシテ海綿ノ如ク毛幹拔去シ易シ (三) 梅毒性覆盆子腫 肉芽増殖シテ乳頭狀ヲナスモ表皮ヲ缺ク (四) 鬚瘡 結節ノ中央毛髮ノ貫通スルヲ特兆トシ初メヨリ膿疱ヲ作り拔毛容易ナリ

療法 輕症ニハ水銀硬膏、水揚酸石鹼硬膏ヲ貼用シ又石炭酸水注射ヲ施スモノアリ、然レドモ外科的ニ切除スルヲ確實ナリトス、亦縫合線ノ再ビ

息肉狀ヲナスモノニアリテハ電氣分析法ヲ稱用スルモノアリ

硬變性項部毛囊炎 Folliculitis nuchae sclerotisans

(註) 本症ハ頭部乳頭性皮膚炎ノ異名トシテ既ニ前章テ於テ記述シタリト雖持ニ別種トシテ記載スルヲ可トストノ説アルヲ以テ次ニ略述スベシ

原因 エールマン氏ノ記述シタル疾病ニシテ、其原因ハ毛囊内ニ葡萄狀球菌ノ傳染シ來タルニ因スルモノナランカ

症候 項部ニ深在性小膿瘍ヲ形成シ皮膚表面腫脹硬變ヲ來シ多數ノ溝或ハ膿點ヲ有シ壓スレバ毛囊ヨリ膿汁ト皮脂ノ混合物ヲ漏泄シ、其毛囊口ヨリニ乃至數條ノ毛髮ノ出ヅルヲ見ル、自覺症ハ疼痛ヲ有シ運動ヲ妨グコトアリ

療法 簡單ニシテ水銀硬膏、水揚酸石鹼硬膏ヲ貼用スベシ、亦外科的切開術ヲ施ス時ハ確實ナリトス

妊娠再發性多形皮膚炎 Dermatitis poly- morphes recidivantes de la grossesse

異名 妊娠瘡疹 Herpes gestationis

原因 ミルトン氏 (1871) ノ初メテ記述セシモノニシテ原因不明ナリ、多ク妊婦及産婦ニ發生スルモノナルヲ以テ密接ノ關係ヲ有スルモノナラン手ト云フ

症候 甚ダ多形ニシテ紅斑、蕁麻疹、水疱、大水疱、膿疱等ヲ生ジ其排列ハ散在性若クハ圓形簇生ヲ爲シ周圍ニ蔓延ス、然シテ往々搔爬ノ爲表皮剝脫及色素沈着ヲ呈スルヲ見ル、自覺症ハ高度ノ搔痒ヲ有スルモノトス

部位 一定セズ又好發部ヲ有セズ

經過 多ク妊娠三、四ヶ月ニ發シ二、三週ニシテ治癒シ、或ハ分晩期迄持續シ産褥中一時病勢ヲ増シ後チ治癒ス、而シテ次回ノ妊娠ニ再ビ發生ス

ルコトアリ

診断 皮疹ノ多形ナルト高度ノ癢痒及一定ノ好發部ヲ有セズ、多ク妊婦ヲ犯スコトニ由テ診斷シ得ベシ

豫後 良ナリ

療法 内服トシテ砒石劑ヲ與ヘ局部ニハ醋酸礬土水巻法ヲ用フ

ヘブラ氏紅色糠秕疹

Pityriasis rubra Hebra

異名 慢性剝脫性皮膚炎 *Dermatitis exfoliativa chronica* 全身赤色糠秕疹 *Pityriasis Rubrauniversalis* 慢性剝離性紅皮膚 *Erythrodermia exfoliativa*

意義 全身瀰漫性發赤シ何等ノ發疹ヲ認メズシテ落屑甚シキヲ特兆トナシ終ニ皮膚萎縮ヲ來シ徐々ニ衰弱ニ陥ル、ヘブラ氏ノ始メテ記述シタル稀有ノ疾患ナリトス

原因 フライシマン氏ハ榮養神經障礙ニ因スト稱スルモ要スルニ原因不明ニシテ中年男子ニ多シト云フ

症候 全身倦怠不快及日晡發熱等ノ如キ輕キ前驅症ト共ニ關節屈曲而若クハ其他ノ部分ニ發疹シ、赤斑ヲ呈シ漸次増大シテ全身ニ蔓延ス、一、二日ニシテ多量ノ薄キ糠秕狀鱗屑若クハ大板様ノ落屑ヲ形成ス、而シテ發疹浸潤等何等ノ異常ナシト雖頭髮部ヲ侵シテ脱落ヲ來シ、又爪ノ變性ヲ發シテ光澤ヲ失シ且ツ萎縮スルニ到ルモノアリ、其他全皮乾涸著シク緊張シ爲メニ顔面部ノ如キハ恰モ假面様ノ感ヲ來スモノアリ、亦濕疹、皰裂、淺表ノ淋巴腺腫大ヲ伴フモノアリ、癢痒ハ通常僅微ナリト雖亦時トシテ甚ダシキモノアリ、而シテヤダソン氏ハ淋巴腺腫脹ニ着眼シ該腺中ニ於ケル結核性變化ヲ證明シ得タリト云フ

部位 初メ局所ノ皮膚ニ發シ次デ全身ニ蔓延ス

經過 甚ダ慢性ニシテ數月或ハ一年以上ニ達スルコトアリ、而シテ初期

ハ全身症狀著明ナラザルモ漸次時日ト共ニ増進ヲ來シ、彼ノ皰裂等ニヨリテ四肢ノ機能障害ヲ發シ起居痛楚ヲ感ズルノミナラズ脱力、羸瘦、食慾不振、不眠等ヲ來シ遂ニ死ノ轉歸ヲトルモノアリ、又屢々呼吸器或ハ消化器ノ疾患ヲ誘起シテ死ヲ一層速カナラシムニ到ルモノアリ、然レドモ本症ヲ以テ必死ノ疾患トナスハ實際ニ適合セザルノ論ナリト云フベシ、之レ本症ノ重症ニシテ治癒セシノ例無キニ非ザレバナリ

解剖 ヘブラ氏ハ小腦中ニ結核結節ヲ、フライシマン氏ハ腦ニ單獨ノ結核ヲ各發見シタリ、氏ハ亦皮膚ノ變化ヲ營養變常ニ歸シタリキ、而シテヘブラ、エルセンベルヒ、ペトリニー及バーベス等ノ諸氏ハ初期ニ於テ皮膚ノ乳嚙層及下乳嚙層ノ細脆浸潤ヲ發見セリ、始メ此浸潤ハ病竈ニ發生シテ後ニ蔓延狀況ヲ呈シ尙ホ表皮ノ脉管裝置モ閉鎖スト云フ、ヘブラ氏ハ尙ホ進ミタル病期ニ於テ乳嚙體ノ消失、汗腺皮脂腺ノ萎縮、彈力性纖維ノ多量及顆粒狀黃褐色色素ヲ發見シタリ

診斷 皮膚ノ浸潤ヲ缺キ却テ皮膚ノ萎縮ニ兼テ靜脈ヲ透明シ、其他何等ノ發疹ナク落屑ノ甚シキ等固有ノ症狀ニ依テ診斷スベシト雖モ、其初期ニ於テハ實ニ容易ナラズ

鑑別 (一) 慢性濕疹 濕潤面及丘疹、水疱結痂等ヲ認メ癢痒甚シ亦皮膚浸潤肥厚ヲ見ル (二) 尖圭紅色苔癬 皮膚浸潤及固有ノ丘疹、小結節及癢痒輕ク落屑亦著シカラズ (三) 乾癬(又鱗屑癬) 皮膚浸潤及ビ固有ノ限局性隆起並ニ表面ニ銀白色鱗屑ヲ有シ、之ヲ剝剝スレバ乳嚙體ヨリ出血スルヲ認メ特有ノ獨立セル發疹ヲ何レカニ認ムベシ (四) 葉狀天疱瘡 水疱及汚穢脂肪性痂皮ヲ認メ、必ラズ糜爛性若クハ分泌物多キ肉芽性ノ底上ニアリ (五) 良性剝脫性皮膚炎ハ落屑大ニシテ皮膚浸潤比較的強シ、其他藥疹汎發性ノ尋常性鱗屑疹、落葉狀天疱瘡、紅色苔癬ノ類ハ數々本症初期ト誤ルコトアルモ、仔細ニ檢査スレバ各固有ノ皮疹ヲ發見スベシ

豫後 概ネ不良ニシテ衰弱ヲ以テ死ヲ致スモ良ナルコトアリ

療法 營養狀態ニ注意シ滋養強壯劑ヲ與ヘ、内服藥トシテハ亞砒劑、規

尼涅、肝油等ヲ投ジカボシー氏ハ石炭酸内服ヲ用ヒタルコトアリ、外用トシテハ溫浴或ハ「テール」浴ヲ行ヒ「テール」酒精ヲ塗布シ三十分間溫水ニ入ル、浴後水揚酸、硫黃「バスタ」ヲ貼用シ常ニ皮膚ニ塗脂スルヲ可トス、其ノ他「イヒチオール」「サリチル」酸精、石炭酸精等或ハ軟膏及油劑ヲ以テ對症療法ヲ施スベシ

處	方
水揚酸	1.0
硫黃	5.0
ワセリン	10.0
亞鉛花	10.0
澱粉	10.0

軟膏トナシ貼用(テール浴後)

急性剝脫性皮膚炎

Dermatitis exfoliativa Acuto

異名 再發猩紅熱様皮膚炎 *Dermatitis scarlatiniformis Recidiva*

原因 未詳ニシテ中毒或ハ傳染或ハ自體中毒又ハ自體傳染ト稱シ末ダ確證セズ

症候 全身倦怠、不快及毎夕發熱等ノ前驅症後直チニ關節屈曲面ニ搔痒性赤斑ヲ生ジ、忽チ増大シテ全身ニ蔓延シ猩紅熱ノ如ク、二日ニシテ薄キ大ナル板狀鱗屑ヲ形成シ、亦頭髮ヲ犯シテ脱落稀疎トナリ爪甲ノ營養障害ヲ來シ其變狀ヲ發ス等ヘブラ氏紅色糠枇疹ニ異ナラズ、只彼レニ在リアハ落屑本症ニ比シ小ナリトス

經過 亞急性ニシテ三、四週ニシテ治癒シ時ニ數月或ハ一年以上ニ達スルコトアリ

診斷 本病固有ノ症狀ト經過及ヘブラ氏紅色糠枇疹ノ條下類症診斷ヲ參

照シ鑑別スベシ

豫後 多クハ良ナルモ時トシテ衰弱ヲ發シテ死ノ轉歸ヲトルモノアリ

療法 ヘブラ氏紅色糠枇疹ニ同ジ、亦單ニ硼酸軟膏、亞鉛花軟膏ヲ用ヒ亞砒酸劑ヲ試用スルモ可ナリ

剝脫性黑皮病

Melanoderma exfoliativa

意義 剝脫性皮膚炎ニ類シ只皮膚色素ノ増加シテ暗褐色若クハ黑色ヲ呈シ殆ドアチソン氏病若クハ黑變棘層病ノ皮膚ト其色ヲ同フスルニ到ルヲ異ニスルノミナリ、筒井氏(1906)初メテ之ヲ實驗セラレ一名ハ死シ一名ハ輕快シタリト云フ、今次ニ氏ノ說ヲ摘記スベシ

原因 不明ニシテ筒井氏ハ淋巴腺腫脹ヲ來シタルモノニ就キ、一個ヲ摘出シ其組織ヲ檢セシニ結核菌ニ類スルモノヲ發見シタリト云フ

症候 毎夕發熱シ身體ニ倦怠ヲ覺ヘ搔痒アル紅斑ヲ生ジ、皮膚著明ノ滲潤ヲ來シ大ナル鱗屑ヲ全身ニ附着シ搔爬摩擦ニヨリ多數脱落ス、而シテ皮膚色素漸次増加シ暗褐色乃至黑色ニ至ル、其他全身症狀倦怠、食慾不振ノ他別ニ訴フル處ナシト雖、一人ハ下痢ヲ起シ後卒中ノ如キ症狀ヲ呈シテ死シタリト云フ

豫後 疑ハシ

療法 亞砒酸及ビ炭酸「グアヤコール」ヲ試用シ局部ニハ10%硼酸「ラノリン」ヲ用ヒ搔痒甚シキトキハ「プロモコール」ヲ用フ

薔薇色糠枇疹

Pityriasis Rosea Gibert

意義 赤色或ハ帶黃色ノ落屑小斑トス

原因 ウキダル氏一種ノ菌ヲ發見シ其原因ナリト稱セシモ、ケブネル氏ハ之ヲ發見セズ且ツ諸般ノ試驗成績陰性ナリト云フ、要スルニ原因未詳

ナリトス

症候 紅色或ハ帶黃色ノ落屑小斑ニシテ其中心部ハ漸次褪色シテ其周圍ニ向テ蔓延増大ス、爲メニ隣接セルモノ互ニ合スルニ到ルベシ、亦ブロツク氏ハ該落屑斑發生前二週乃至三週日ニ於テ圓形若クハ橢圓形落屑疹ヲ前驅スト云ヘリ、自覺症ハ輕度ノ癢痒ヲ有スルノミナルモ、稀ニ激甚ノ癢痒ヲ發スルコトアリトス

部位 多ク胸部、頸部、背部ニ發生シ上肢、下肢ニ蔓延スルニ到ルモノアリ

經過 二乃至三週ニシテ其高度ニ達シ六乃至八週ニシテ治スルニ到ル

診斷 前記ノ症狀ニ注意スベシ、又寄生性匂行疹ニ類スルモ彼ハ固有ノ寄生菌ヲ證明シ得ルモ本症ハ發見セズ

鑑別 (一) 乾癬 銀白色鱗屑ヲ有ス、癢痒僅少ニシテ伸展側ニ來タル事多シ (二) 梅毒性丘疹 銅色ヲ呈シ癢痒ナシ、其他梅毒症狀ヲ有シ驅梅毒法ニ反應ヲ呈ス (三) 梅毒性薔薇疹 落屑ヲ有セズ癢痒等ノ自覺症ナシ

豫後 良ナリ

療法 二十倍白降汞軟膏、5%クリサロピン軟膏、5%設食子酸軟膏等ヲ用フベシ

慢性苔癬狀粗糙疹 Pityriasis

lichenoides chronica

意義 尋常性鱗屑疹ニ酷似シ丘疹ト斑點ヨリ成ル、其表面鱗屑ヲ被リ新舊發疹錯綜シ多形ヲナスモ、他ノ形態ニ變ズルコトナキ慢性皮膚病ニシテ播種狀ニ全身蔓延ヲナス、ナイゼル、ヤダソン兩氏ノ始メテ報告シタルモノナリ

原因 不明ニシテ血管神經障礙ト稱シ或ハエールマン氏ノ如キハ新陳代謝異常又ハ慢性中毒ニ因ルト稱ス

症候 初メ帽針頭大鮮紅色丘疹ヲ生ジ漸次麻實大乃至豆大ニ達ス、扁平

ニ隆起シ表面光澤アリ、橙黃色乃至褐紅色ヲ帶ビ搔爬スレバ鱗屑薄葉狀若クハ粗糙狀ニ剝脫シ稀ニ其跡ニ僅微ノ出血ヲ見ルコトアリ、而シテ此丘疹ハ長ク變化セズ或ハ漸ク扁平トナルニ及ビ表面鱗屑ハ増加シ銀白色ヲ呈シ遂ニ徐々剝離スベシ、又稀ニ丘疹吸收消退シ其中心皮膚面以下ニ陥沒スルコトアリ、斯ノ如ク丘疹消滅スルヤ一時紅色乃至淡黃褐色ノ斑點ヲ留ムベシ、通常斑ノ大サハ丘疹ヲ超ヘテ小爪甲大乃至其以上ニ達ス、稀ニ融合シ更ニ大局面ヲナスコトアリ、又斑ハ多少鱗屑ヲ帶ビ加壓褪色著シカラズ、自覺症ハ輕微ノ癢痒アルコトアルノミナリ

部位 軀幹四肢ニ發生シ頭部及顔面ハ甚ダ稀ナリ

經過 慢性ニシテ丘疹紅斑數月數年ニ涉リテ出沒シ新舊發疹並存シテ多形ヲナスベシ、時ニ皮膚常態ニ復シ斑點ヲ殘シ或ハ大理石斑ノ觀ヲナスコトアリ、特ニ夏期ニ於テ然リ又秋季ニ至レバ再ビ病勢旺ントナルベシ

解剖 不全角ヲ營ミ晶様色素細胞缺如シ慢性表在皮膚炎ノ徵アリ細菌ヲ證明シ得ズ

診斷 小丘疹鱗屑ヲ被リ剝離スレバ小出血點ヲ有シ新舊皮疹錯綜スルモ各疹増大ヲ認メズ、部位一定セズ頑固ニシテ自覺症ヲ缺グ

鑑別 尋常性鱗屑疹ハ好發部位ヲ有シ發疹増大屢々環狀又ハ蛇行狀ヲナシ鱗屑著明ナリ、薔薇色粗糙疹ハ癢痒ヲ有シ中心ヨリ治癒シ圓斑ヲ形成シ邊緣鋸齒狀ヲナス、梅毒性疹ハ鱗屑剝離シ難ク著色著シク驅梅毒法ニ反應スベシ、扁平紅色苔癬ハ浸潤著シク單疹上鱗屑ヲ被ラズ

豫後 殆ド不治ニシテ稀ニ消滅スル者アルニ過ギズ

療法 落屑ニ硼酸華攝林、撒里失兒酸華攝林、ヲ塗布スルノ外治療殆ド無効ニシテ、エールマン氏ハ亞砒酸連用ヲ以テ再發ヲ防ギ得タリト稱ス

毛孔性紅色粗糙疹又ハデウエルジー氏

毛孔性粗糙疹 Pityriasis Rubra

Pilaris od P. R. P. Devergie

意義 一種ノ毛孔角化症ニシテ對側ニ生ジ全身ニ蔓延ス、而シテ其多數ハ尖圭紅色苔癬 *L. ruber acuminatus* ト同症異名ニ過ギザルモ別ニ獨立同症ノ存在セラレヤ否ハ尙研究ヲ要スルヲ以テ茲ニ特別略述スベシ

原因 不明ナリトス、只男子ニ稍多キガ如シ

症候 毛囊口ニ一致セル孤立或ハ叢生スル所ノ圓錐形ノ角質増殖ヲ生ジ或ハ細小疣贅ノ如ク或ハ臍窩狀凹陷ヲ有スル隆起ヲナシ、其大サ殆ド見ルベカラザル小ナルモノヨリ高サ數耗ヲ算スルニ到ルモノアリ、其色乳白乃至灰白或ハ赤褐色ヲ呈シ初期ヨリ鱗屑ヲ形成シ其尖端ニ毳毛ヲ見ルベシ、專ラ四肢ノ伸展及屈曲面、頸部及軀幹ニ生シ毛髮ハ或ハ保全セラルモ多クハ脱落稀疎トナリ遂ニ體毛ヲ犯スニ至ル者アリ、手掌、足趾ハ早く變化ヲ來シ鱗屑疹狀トナリ龜裂ヲ生ジ肥厚セル角質ハ木葉狀ニ剝離ス、然レドモ人ニ依リ手掌、足趾ニ發スルコト少ナシト稱スル者アリ、亦頭髮部ハ其角質形成ヲ呈セズト云フ、亦肘、膝蓋、尾閭、踵等ハ往々角質鱗屑疹ノ局面ヲ作り屈側ハ往々連珠狀ヲ呈ス、其他爪甲ハ縱横ノ溝ヲ生ジ肥厚ヲ來ス其質脆クシテ變色ヲ見ルベシ、殊ニ手背及足甲ハ特異ニシテ指頭ノ末節ヲ徐キ第一、第二節ヨリ手甲ノ全面ニ亙リ厚ク連續セル硬局面ヲ作ル、其他亦鱗屑ハ頭髮部及顔面ノ被毛部ニ發シ一種白色ノ糠秕疹ヲ發ス、然シテ毛囊ノ周圍ニ於テハ紅色ヲ呈シ腫脹浸潤ヲ發シ、皮膚ハ赤色乃至赤褐色ヲ呈シ糠秕狀落屑ヲ發スルヲ見ルベシ

部位及解剖 主トシテ表皮ノ角質増殖ニシテ、初期ハ毛囊ニ於テ圓錐形ニ嵌入セル角栓ヲ見ルノミ、真皮ノ炎症性浸潤ヲ缺クモ漸次陳久トナルニ從ヒ毛根鞘肥大分岐シテ周圍ニ多少浸潤アルヲ見ル

經過 慢性ニシテ卒然某部ニ發シタル後數週數月間ハ播種狀ニ蔓延シ數年ニ亙ル、或ハ角質ノ肥厚増加シテ相隔合シ局面ヲ作ルヲ見ル、其他治癒後再發ヲ見ルコト多シ、稀ニ稍ヤ亞急性ノ蔓延ヲナスモノアリ

診斷 固有ノ症狀ニ注意スベシ、則チ毛囊ニ一致スル圓錐形角化手甲ノ變化兩側對生皮膚ノ紅褐色全身症狀ノ缺如等ニシテ、其他顔面潮紅皮膚緊

張輕度ノ眼瞼外翻症等ニ依リ診斷シ得ベシ

鑑別 (一) 乾癬 銀白色鱗屑ヲ形成シ毛囊ト一致セズ且ツ別離シ易ク底面出血點アリ、多ク伸展側ヲ犯シ癢痒少ナク毛髮脱落セズ (二) ヘブラ氏紅色糠秕疹 皮膚浸潤ヲ欠キ反ツテ萎縮シ、次デ靜脈ヲ透見シ得ベシ

(三) 扁平紅色苔癬 褐色ノ陷凹セル中心ト紅色光澤アル圍邊ノ隆起部ヲ形成シ、二錢貨大圓板ヲ生ズルニ到リ其落屑ヲ呈スル事アルモ人目ヲ惹起スルニ到ラス、癢痒輕微ナルモ間々甚シキモノアリ (四) 毛髮魚鱗癬 小圓錐狀隆起ヲナシ其質硬ク多ク四肢ノ伸展側ヲ浸ス (五) 尖圭紅色苔癬ハ主トシテ屈側ヲ犯シ多ク全身症狀ヲ伴ヒ衰弱著シク又癢痒アリ (六) 慢性濕疹ハ表皮剝離アリテ濕潤ヲ有シ癢痒甚シク屈側ヲ犯ス (七) 癩病ハ紅斑アリ脫毛アルモ角化症ナク知覺喪失スルヲ見ルベシ

豫後 極メテ慢性ニシテ再發スルコト多シト雖生命ニ關スルコトナシ

療法 ビツク氏硬膏 クリサロビン軟膏 サリチル酸軟膏等ヲ塗擦シ亞砒酸劑ノ内服ヲ試ムベシ其他持長性溫浴ヲ稱用スル者アリ

尋常性鱗屑疹 Psoriasis Vulgaris

異名 鱗屑疹又乾癬 Psoriasis

意義 銀白色ノ鱗屑堆積シテ之ヲ剝離セバ底面潮紅出血斑ヲ呈スル一種ノ慢性皮膚病ニシテ傳染性ヲ有セズ、且亦タ本病ハ一定ノ部位ニ反復發生ヲ見ル

原因 未ダ明瞭ナラズ只諸種ノ臆說ヲナスニ過ギズ、則チ

(一) 寄生性說ハエ、ラング氏ノ最モ深ク之ヲ信ズル所ノモノニシテ彼ノ寄生性匍行疹ト本病ノ臨床的症狀ノ酷似セルヨリ必ズ本病モ一種ノ寄生菌アラントナシタルニ因スルモノニシテ、千八百十九年遂ニ一種ノ菌ヲ鱗屑基礎層ヨリ發見シ之ヲ エビデルミドヒートント名ケタルモ、リース氏ノ反對ニ依リ該菌ハ恐ク ケラトヒアリンヲ誤認シタルモノナルヲ認ムルニ至レリ、蓋シ本病ノ寄生性說ハ現今全ク根據ヲ失ヒタリト云フヲ得

可シ、則チ病床實驗上ヨリスルモ又顯微鏡の檢定ニ徴スルモ之ヲ固守スル能ハザレバナリ然レモラング氏ハ尙ホ未發見菌ニ因スルナラント臆説セリ

(二) 遺傳説之レ本病ハ多ク兄弟姉妹等ノ侵サル、ト血族中未ダ本病患者ノナカリシモノニシテ本病ニ罹ルコト實ニ稀ナリト云フヲ論據トナセリ而シテカボシー氏ハ眞性ノ遺傳ニ非ズ只其素因ヲ遺傳スルニ止ムルモノナリト云ヘリ、之レ乾癬患者ノ子弟皆悉ク罹患スルニ非ズシテ其數子ノ中一人若クハ二人ノ之ニ罹リ他ハ健全ナルヲ以テナリ、其他バヂン氏ハ遺傳性體質的變調トナシワイル氏ハ皮膚ノ營養ヲ調節スベキ神經中樞ノ機能性衰弱ニシテ其衰弱ハ遺傳ニ基ケルモノトナス、蓋シ皮膚ノ形ハ一定不變ニシテ通常左右對稱部ニ發生スルヲ論據トナセリ

(三) 神經疾患説エンミングハウス氏ハ報告シテ曰ク恐怖發作ヲ以テ本病ノ原因ナリト云ヘリ、ゲルハルト氏亦屢恐怖發作ヲ訴ヘタル患者ヲ目撃セリト云フ、其他ボロテブノツフ氏ブージロン氏等ハ同ジク神經性皮膚病ノ一トシテ論ゼリ、其他本病ハ觸接傳染性ナラザレバ夫婦間ニ於テ曾テ傳染シタルノ事實ナキヲ以テ明カナリトス

以上論述スル如ク本病ノ原因ハ全ク不明ニ屬スルモノニシテ、彼ノライエル、バヂン、ヘブラ、ケブネル等ノ諸氏ニ由テ實驗セラレタル化學的或ハ器械的刺戟ヲ受ケタル部分ニ好發スルノ一事ハ吾人ノ注目ヲ要スルモノトス、則チ吸角貼用後及發泡膏使用後、芥子泥貼用後、其他咬傷衣服等ノ如キ壓迫刺戟ヲ受ケタル部位並ニ文身ノ部分ニ本病ノ發生スルヲ見ルコトニシテ、ケブネル氏ハ細針ヲ以テ擦過シ以テ其發疹スルヲ實驗シタリト云ヘリ、由是觀之器械的刺戟ハ本症ヲ誘起スルガ如シ、則チ本病ノ好發部ハ主ニ四肢ノ伸展側ノ如キ他部ニ比シ衣服其他ノ摩擦刺戟ヲ受ケル事比較的多キ部分ノ侵サル、ヲ見レバ本説ニ近キモノト云フベシ

症候 鮮紅色乃至赤褐色ノ帽針頭大原發丘疹ヲ發シ次テ數日後銀白色鱗屑ヲ被ムリ周縁僅ニ細キ紅暈ヲ周ラスヲ見ルベシ、而シテ此鱗屑ハ乾燥シテ雲母狀ヲナシ爪端ニテ搔爬スルモ容易ニ剝離シテ底面潮紅細少ナル數點

ノ出血ヲ認ムベシ、亦限界明割ニシテ多クハ圓形ニ發赤隆起シ漸次周圍ニ向ヒ輪狀ニ延大スルモノナリ、今其形狀或ハ蔓延狀態ニ依リ次ノ種類ニ區別セリ

(一) 點狀鱗屑疹 **Psoriasis punctata** ハ帽針頭大ノ初期原發疹ノ多數散生スル者ヲ云フ

(二) 滴狀鱗屑疹 **Psoriasis guttata** ハ漸次周圍ニ蔓延シテ點滴ノ大サニ到リシモノヲ云フ

(三) 貨大鱗屑疹 **Psoriasis numularis** ハ更ニ増大シテ貨幣大ノ者ヲ云フ

(四) 紆廻狀鱗屑疹 **Psoriasis gyrata** ハ數個ノ疹相融合シ一大發疹ヲナシ其形ノ紆廻セルモノヲ云フ

(五) 地圖狀鱗屑疹 **Psoriasis Geographica** ハ其融合シテ地圖ノ形ニ似タルヲ云フ

(六) 蛇行性鱗屑疹 **Psoriasis serpiginosa** ハ其形蜿蜒蛇行ノ如キモノヲ云フ

(七) 瀰漫性鱗屑疹 **Psoriasis diffusa** ハ皮膚ノ一大面ニ蔓延シタルヲ云フ

(八) 全身性鱗屑疹 **Psoriasis universalis** ハ其全身ヲ侵スニ到リシモノヲ云フ、而シテ時々剝離性皮膚炎ノ狀ヲ呈シ全身ハ瀰漫性ニ赤ク大ナル片板狀ノ鱗屑ニテ被リ輕度ノ熱及惡寒ヲ伴フコトアリ

而シテ通常皮膚ノ大サ二錢銅貨大ニ達スルヤ一時退行ノ機ヲ現ハスモノニシテ、紅暈先ヅ色澤ヲ減ジ尋テ鱗屑鬆疎トナリ專ラ圓ノ中心部ヨリ鱗屑ノ發生ヲ止メ銀白ノ鱗屑ハ自ラ剝離シ一時其部位ニ紅斑乃至褐色斑ヲ遺シ遂ニ全ク消滅シテ痕跡ヲ留メザルニ至ルベシ、而シテ其退行機ニ於テ中心部癒ユルモ周圍部未ダ鱗屑ヲ被ムル時ハ其形環狀ヲナス、之レヲ環狀鱗屑疹 **Psoriasis onnurialis** ト稱シウキレニ氏癩 **Lepra Willani** ノ名アリ、亦毫モ退行ノ狀ナク益々蔓延ノ性アルモノハ鱗屑厚ク密着シ剝離

シ難シトス

自覺症ハ通常之ヲ缺如シ或ハ輕微ノ癢痒ヲ有シ其他時ニ新疹發生前屢瘵質斯性關節痛ヲ覺ユル者アリ、又全身乾癬ニアリテハ四肢ノ關節屈曲面ニ皸裂ヲ生ジ運動時疼痛ヲ免ル能ハザルモノアリ、其他癢痒劇甚ノ爲不眠ヲ來シ發熱食慾缺損身體羸瘦ヲ來スモノアルモ殆ド危險ナシ

其他本症ハ常ニ體格強健ノ者ニ來リ且ツ少壯時代ニ多シ、又古來白哲人種ニ極メテ多シト雖邦人ニハ寧ロ稀症ニ屬セリ、土肥氏ハ大學ニ於テ四十名則チ皮膚病者全數ノ0.48%ニ相當スルノ經驗ヲ有スルノミト云ハレタリ

部位 主トシテ伸張側ヲ侵シ肘及膝蓋ヲ以テ殆ド必發ノ部位トセリ其他頭部、顔面、胸背、包皮、龜頭ノ諸部ニ發ス、又爪甲ヲ侵スモ手掌及足蹠ニハ幾ド稀ニシテ粘膜炎ニハ發スルコトナシ

經過 頗ル慢性ニシテ或ハ限局シ或ハ汎發シ一進一退反復常ナク數年ヲ經過シ或ハ晩年ニ至ル迄尙ホ治セザルコトアリ、又外來ノ刺戟ニヨリ發疹ヲ促シ忽チ其憎惡ヲ來スコトアリ、然ル時ハ之ヲ人工鱗屑疹 **Psoriasis factitia** ト云フベシ、其他數年持續セル乾癬斑ヨリ甚ダ稀ニ中途ノ變形ヲ來シ肥大性疣贅ニ變ジ更ニ上皮癌ニ轉移スルコトアリト云フ

解剖 本病ノ本體ニ付テ未ダ確然タルモノヲ見ズ、而シテカボジエ氏ハ乳嘴體ニ關係スル炎症ナリト信ジアウスビツツ氏ハマルビギー氏網叢ノ萌芽トナス、然レモ乳嘴體ニ於ケル脉管變化ハ本病ノ特性タル如シ、亦ローマイエル氏ハ此乳嘴體變化ニ際シ無數ノ遊走細胞上皮ヲ貫通シ角質細胞異常ヲ呈シ以テ疊積セル乾性鱗屑ノ發生ヲ見ルモノトナセリ

診斷 原發疹ヲ搜索シ銀白色ノ鱗屑及乾燥周邊ノ紅暈底面ノ潮紅及出血發生部位慢性ノ經過發疹ノ限局セル等ニ依リ容易ナリ

鑑別 (一) 梅毒性鱗屑疹 之レ手掌及足蹠ニ發生セル丘疹梅毒ニ外ナラス、只其形ノ似タルヨリ名命スモノニシテ鱗屑菲薄間々已ニ消失シ周邊硬キ赤褐色浸潤ヲ有シ底面ハ凹陷萎縮シ銅紅色ヲ呈ス、多ク屈側ヲ侵シ境界弧線狀ヲナセリ其他ニ梅毒症狀ヲ證明シ得ベシ (二) 鱗屑性丘疹性梅毒

鱗屑稍薄クシテ黃色ヲ帶ビ鱗屑下浸潤著シク落屑後濃厚ノ着色ヲ貽ス、亦好シテ屈側ヲ侵シ驅梅法ニ反應スベシ (三) 鱗屑性濕疹 鱗屑薄ク灰白色ヲ呈シ濕潤及癢痒ヲ有シ屈側ニ好シテ來リ既往ニ丘疹水疱ノ發生ヲ見ルベシ (四) 斑性寄生性匭行疹 急性ニシテ糠枇狀鱗屑ヲ有シ癢痒アリ頭部ニ好發ス (五) 紅色苔癬 原發疹ハ多形性蠟樣光澤ヲ有シ中心臍アリ中央ニ鱗屑ヲ來シ剝離スルモ出血ヲ見ズ (六) 薔薇色糠枇疹 鱗屑少ニシテ糠枇狀ヲナシ落屑面乾燥シ其色淡紅ヲ呈ス其他癢痒アリ (七) 紅斑性狼瘡 灰白色ニシテ周圍ニ皮脂漏ヲ認メ深ク乳頭ニ侵入シ皮膚中心性萎縮アリ顔面ニ好發ス (八) 剝離性皮膚炎 急性皮膚炎ノ消退スルヲ待ツ時ニ自ラ判明スベシ (九) 瀰漫性皮脂漏 汚穢灰白色ノ脂肪性鱗屑ニシテ特有ノ癢痒アリ (十) 白癬 固有ノ臭氣ト痂皮アリ毛髮光澤ヲ失ヒ分裂シ易シ

豫後 生命ニ關シテハ佳良ナリト雖再發ヲ防遏スル事ハ未ダ望ムベカラズ、通例皮膚疹ヲ全治セシムルモ三乃至四ヶ月或ハ晩キモ二、三年ニシテ再發ヲ見ルベシ、稀ニ十五、六年間再發ヲ免ルモノアリ之レ藥劑ヲ以テ未ダ其素質ヲ治セシム能ハザレバナリ

療法 內用療法及外用則チ局所療法ニ分ツベシ、內用トシテハ亞砒酸劑ヲ使用シ其他「カコヂツク」酸曹達(1.0隔水10.0隔日皮下注射)沃度「チリン」沃度加里劑「ヨヂピン」等ヲ使用スト雖奏効確實ナラズ其他「イヒチオール」モ亦試ムベキ價値アリト云フ

處	方
亞砒酸	0.5
黑椒子末	5.0
甘草末	適宜
アビアゴム	適宜
爲丸百粒一日三回一丸宛食後內服漸次增量スベシ(亞細亞丸)	
ホーレル水	10.0
桂皮水(薄荷水)	40.0

一日三回五滴乃至十滴宛漸次増量

亞砒酸曹達	0.2
餾水	20.0

隔日一箇皮下注射（背部皮下）

局所ニハ「クリサロビン」焦性没食子酸ハ殆ド特効ヲ有シ其他木參兒「ヲイカルロール」「オイロビン」「ナフトール」「アリストール」「アントラロビン」「ガルラノール」「サリチル」酸等ヲ用フベシ、而シテ顔面ニハ十倍白降汞軟膏ヲ用フ

茲ニ吾人ノ注意スベキハ「クリサロビン」ハ皮膚炎ヲ起シ易キヲ以テ注意シ殊ニ手甲及ビ頸部以上ニ用ユベカラズ

處方

クリサロビン	5.0—10.0
グツタペルカ	10.0
クロ、ホルム	100.0

外用塗布（一日一回）

クリサロビン	2.0—5.0—10.0
單軟膏	100.0

爲軟膏毎目一回貼用

焦性没食子酸	5.0—10.0
單軟膏	100.0

爲軟膏毎目一回貼用（ヤーツシユ氏方）

焦性没食子酸	5.0—10.0
トラガントゴム	5.0
グリスリン	3.0
餾水	100.0

毎目一回塗布（土肥氏方）

白降汞	1.5—3.0
-----	---------

次硝砒 3.0

單軟膏 25.0

爲軟膏一日一回

其他初期急性ニシテ癢痒甚シキモノハ一乃至二週間「プレミング」液ニ入浴セシメ浴後直チニ5%「サリチル」酸軟膏ヲ塗ルモ可ナリ

（註）本症ノ療法中軟弱ナル皮膚ヲ有スル者ニハ可及的「クリサロビン」ノ如キ刺激性藥物ノ使用ヲ禁ズベシ、之レ人工乾燥ヲ誘起スルコトアレバナリ

苔癬又慢性單純性苔癬

Lichen simplex chronicus

苔癬ナル意義ハウイダル氏嘗テ凡テノ丘疹 Paper ヲ指名シタルモヘブラ氏ハ原發ノ形狀ノ儘ニシテ敢テ水疱或ハ膿疱等ニ變化セザル結節ヲ云フト稱セリ、故ニ此小結節ハ他ノ特發皮疹ニ變ズル事ナク治癒傾向ヲ生ズルニ際シ却テ其消滅スルヲ見ルナリ、而シテ癢痒甚シキモ濕潤傾向ナキ慢性病ナリ、此意義ニ適合スルモノ紅色苔癬 Lichen ruber 及ビ腺病性苔癬 Lichen scrophululасorum トナス、然レ共腺病性苔癬ハ其意義嚴正ナラズ、何トナレバ小結節ト共ニ膿疱發生スレバナリ

症狀 拇指頭大乃至手掌大皮膚限局面ニ於テ菱形皮丘肥厚隆起シ殊ニ中心部ニ密集ス、周圍ニ向テ稀疎トナリ健康部ニ移行ス、其表面輕キ落屑アリ癢痒甚シク搔破ノ爲血痂ヲ見ルコトアルモ濕潤セズ其頸部ニ在ハ常色又ハ淡紅色、關節屈面、陰部等ハ多少鼠色ヲ帶ビ極メテ頑固ノ症ニシテ數年ニ渉ルモ變化著シカラズ

療法 5%「ピロガロルトラウマチ、ン」ヲ稱用シレントゲン療法一時奏効スト云フ

紅色苔癬 Lichen ruber

意義 苔癬ノ一種ニシテヘブラ氏（1860）ノ發見命名ニ係ル

原因 未ダ明割ナラズ寄生性タルヲ疑フ學者アリト雖未ダ其確證ヲ得ズケブネル氏ハ神經的疾患ニ歸セリ 其他遺傳的ノ疾患ニ非ザル如シ、而シテカボシー氏統計ニ依レバ患者ノ三分ノ二ハ男子ニシテ三分ノ一ハ女子ナリト、ウイルソン氏ハ之ニ反シテ男子二十三名女子二十七名ヲ示セリ、年齢ハ十年以上四十年以下ニ多キガ如ク亦稀ニ小兒ノ侵サルコトアリ

症候 尖圭及扁平紅色苔癬ノ二種ニ分チ此レヲ説述スベシ、然レ共此間明ラカナル區別ヲ附スルコトハ困難ニシテ亦同一患者ニ兩症ノ發生ヲ見ルコトアリ

(1) 尖圭紅色苔癬 *Lichen rubra acuminatus* ハ所謂毛孔性皰癬疹ト同症ト見ルベキモノニシテ、紅色尖圭狀丘疹ガ毛囊口ニ生ジ末端圓錐角ヲ被ムリ終始變化セズ、其原疹ハ粟粒大乃至罌粟大丘疹ニシテ播種性ニ發性シ鮮紅色又ハ赤褐色ノ圓錐狀隆起ヲ呈シ、且ツ肥厚シテ其質硬ク其尖端ニ光澤アル乾性白屑ヲ固着シ初メハ稀疎ナルモ次第ニ新生稠密トナリ終ニ散漫性局面ヲ作り皮溝從横シテ白鱗全面ヲ被ヒ附近ニ原疹ノ散點スルヲ認ムベシ、皮膚ニ觸ル、時ハ一種鱗ノ如キ感覺所謂皸膚ヲナシ且ツ雜音ヲ感ズ、而シテ此發疹ハスクノ如ク漸次増生シテ互ニ融合シ全身ニ蔓延スルニ到ル其經過ハ主トシテ慢性ナルモ或ハ急性ナルアリ、而シテ全身ニ不正散發ヲ來シ或ハ限局的發生シテ線狀或ハ圓板狀ニ配列シ亦ハ不正ニ混生シ或ハ該皮疹ノ間ニ更ニ新丘疹ヲ發生スルヲ見ルベシ、而シテ放置スル時ハ數月ニシテ健皮僅少トナリ一、二年乃至數年後ハ遂ニ全身ニ侵襲セラレ皮膚肥厚シテ之ヲ撮ミ皺襞ヲ舉上スル克ハザルニ到ル、而シテ褐赤色ヲ呈シ殆ド印度人種ノ如ク且ツ表皮ハ鱗屑ノ如シ、其蔓延シテ顔面ニ來ル時ハ眼瞼外翻、口角裂瘡、口腔及舌粘膜モ時ニ發疹ヲ認メ毛髮ハ乾燥シテ細ク脱落シ爪甲ハ菲薄脆弱トナリ光澤ヲ失シテ裂痕ヲ呈ス、其他手掌、足趾ハ汚白色表皮ノ肥厚ヲ來シ指ハ屈曲ス、患者ハ羸瘦日ニ加ハリ惡寒ヲ訴ヘ遂ニ衰弱ニ因テ斃ルニ到ル

自覺症ハ瘙癢ヲ有シ部位ハ軀幹、四肢及ビ關節屈伸側ヲ好ンデ犯シ多ク

ハ對側性ニ來ル

(2) 扁平紅色苔癬 *Lichen ruber planus* ウイルソン氏苔癬又ハ扁平苔癬 *Lichen planus wilson* ノ異名ヲ有シ、其原疹ハ最小針刺大ヨリ豌豆大ニ達スル紅色乃至紅褐色丘疹ニシテ、初メハ肉眼上見得ベカラザルモノアリ、而シテ其増大スルヤ側面ヨリ諦視スレバ蠟樣光澤ヲ有シ其形多角ナルヲ常トスルモ間々類圓ノ者アリ、平丘狀ニ隆起シ或ハ蒼白色又ハ赤褐色ノ圓錐形結節トナリ周邊細赤線ヲ呈スルアリ、亦其尖頂ハ圓滿ニシテ稍固ク頂點ニ小臍窩ヲ現シ或ハ全ク缺如シ或ハ丘疹ノ増大ト共ニ臍窩モ著明トナリ、亦臍窩底面ハ褐色若クハ帶褐灰白色ヲ呈シ遂ニ褐色ノ陷凹セル中心ト紅色ノ周邊隆起部ヲ形成ス、而シテ該周邊モ色素ヲ殘シテ徐々ニ陷凹ス、斯ノ如キ原疹軀幹又ハ關節屈面ノ一局部ヨリ發生シ、或ハ播種狀ニ散點シ、或ハ線狀ヲナシテ圈狀ヲ描キ、或ハ舊疹ノ痕跡周邊ニ更ニ新疹生ジ、或ハ遂ニ新舊相讓リテ丘疹ハ散在性色素蓄積部ヲ圍ミ、或ハ連續シテ一帯トナリ該部ヲ圍繞シ五厘乃至二錢貨大圓板ヲ生ジ、或ハ掌大以上ニ及ビ肥厚隆起シ健康部ト分界明カニシテ往々狭キ紅線ヲ繞ラシ表面暗紅色、褐色、紫色等ヲ呈シ屢々白色又ハ灰白色菲薄鱗屑ヲ固着スルモ人目ヲ惹クニ到ラズ、亦結節ハ各個孤立セズ常ニ環狀象眼樣或ハ腺條ニ集簇シ皮膚乳頭ニ相當シテ配列シ所謂ウイルソン氏輪狀扁平苔癬 *L. annulatus wilson* ヲナス、但シ中心部ヨリ吸收セラレ陷沒シテ大小種々ノ輪狀ヲ呈スル者モアリ、斯ノ如ク原疹又ハ局面ノ吸收セラル、ヤ其跡ニ一時淡褐色斑ヲ遺スベシ、自覺症ハ瘙癢ニシテ通常輕微ナルモ時トシテ劇烈安眠ヲ妨ゲ神經衰弱、營養障礙等ヲ來ス者アリ

部位 軀幹ニ最モ多ク又陰部ニ來リ四肢ハ肘、腕、手掌、手甲、膝脛、下腿、足趾、指趾等ニ來ル、稀ニ脣紅、眼瞼、頰部等ニ生ジ好ンデ刺戟部、皮膚割線方向、神經、血管經路等ニ沿テ發生ス、而シテ身體諸部ノ皮疹相密接シ汎發性扁平紅色苔癬 *L. ruber universalis* ヲナスベシ

豫後 通常良性ナリトス、但シ再發ノ傾向アリ正確治療ヲ要ス